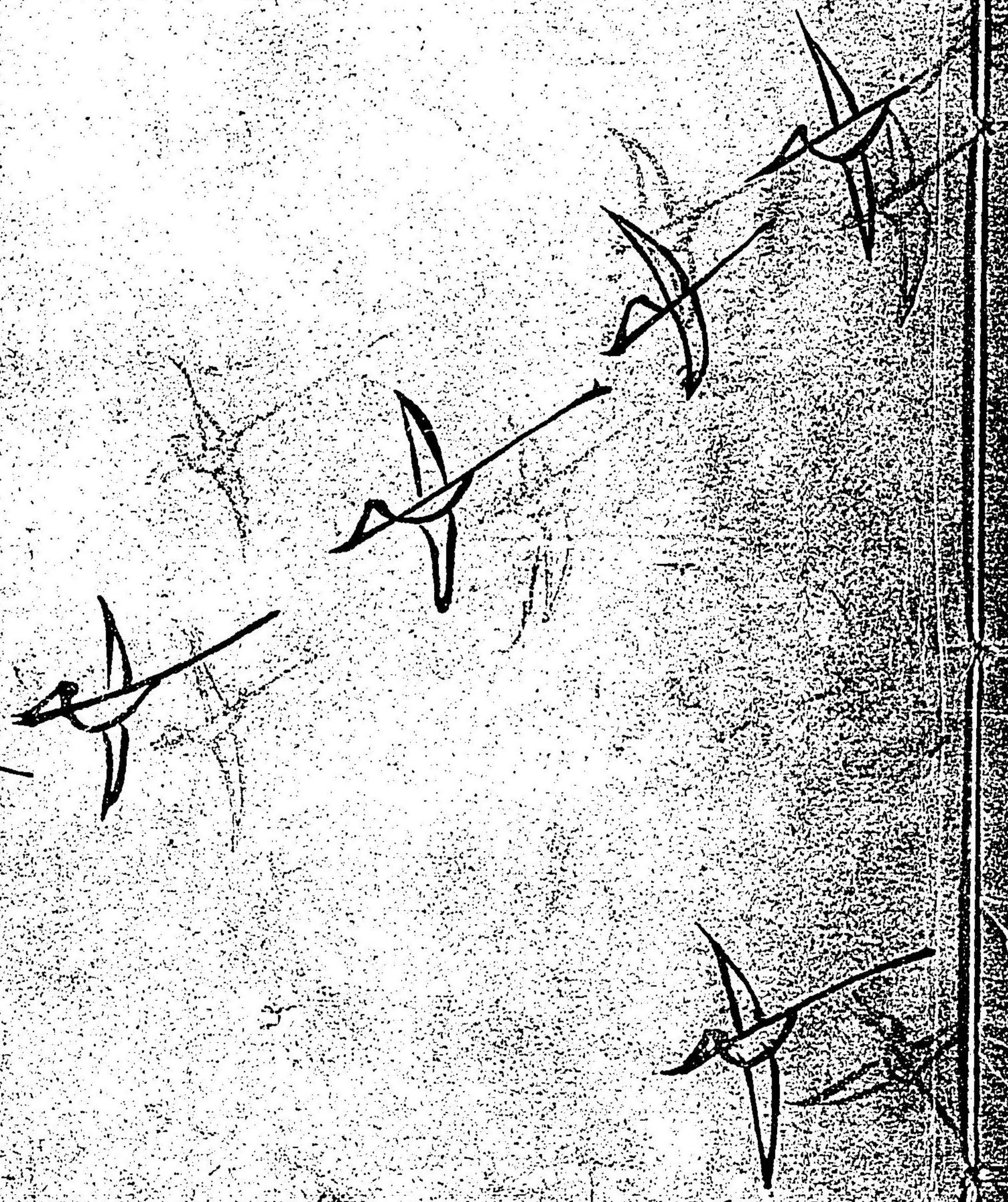


132  
55

故實  
叢書  
尚古  
鎧色  
一臨見  
上









その様ありて計りては紫緋緑標と稱するのみ

○古きころひを綴る料を懸緒と云ふすは緒通の懸言或る敵をおひやうの意あり  
とせしむ鬼の言はれり用ひしやの言をり今威の言綴の言はれり

○華草剛柔の言綴りしは草の言はれり用ひし物たし見及んぬるもの  
も言綴る言綴りしは言綴りし

○名ありて物なきは物ありて名なきは物なきは捨入る言綴りしは聊  
徒然と云ふは言綴りし

○古よりひ相傳の候家と云ふはありきと云ふはり或る古製小倣ひ新調と云ふ家  
ありてまのありり古物と云ふはありきと云ふはりその家と云ふは言綴りしは  
ありきなり

○まの圖を編輯と云ふは予固より寡識まの圖を小之りこれ疎脱多かり及  
りてはたし洋ありてまの言は速に補之り又亦々毎明きまの言のり始り關て此  
編にのせしは日嗣編小出すなり

天保四年五月

尚古鎧色一覽上

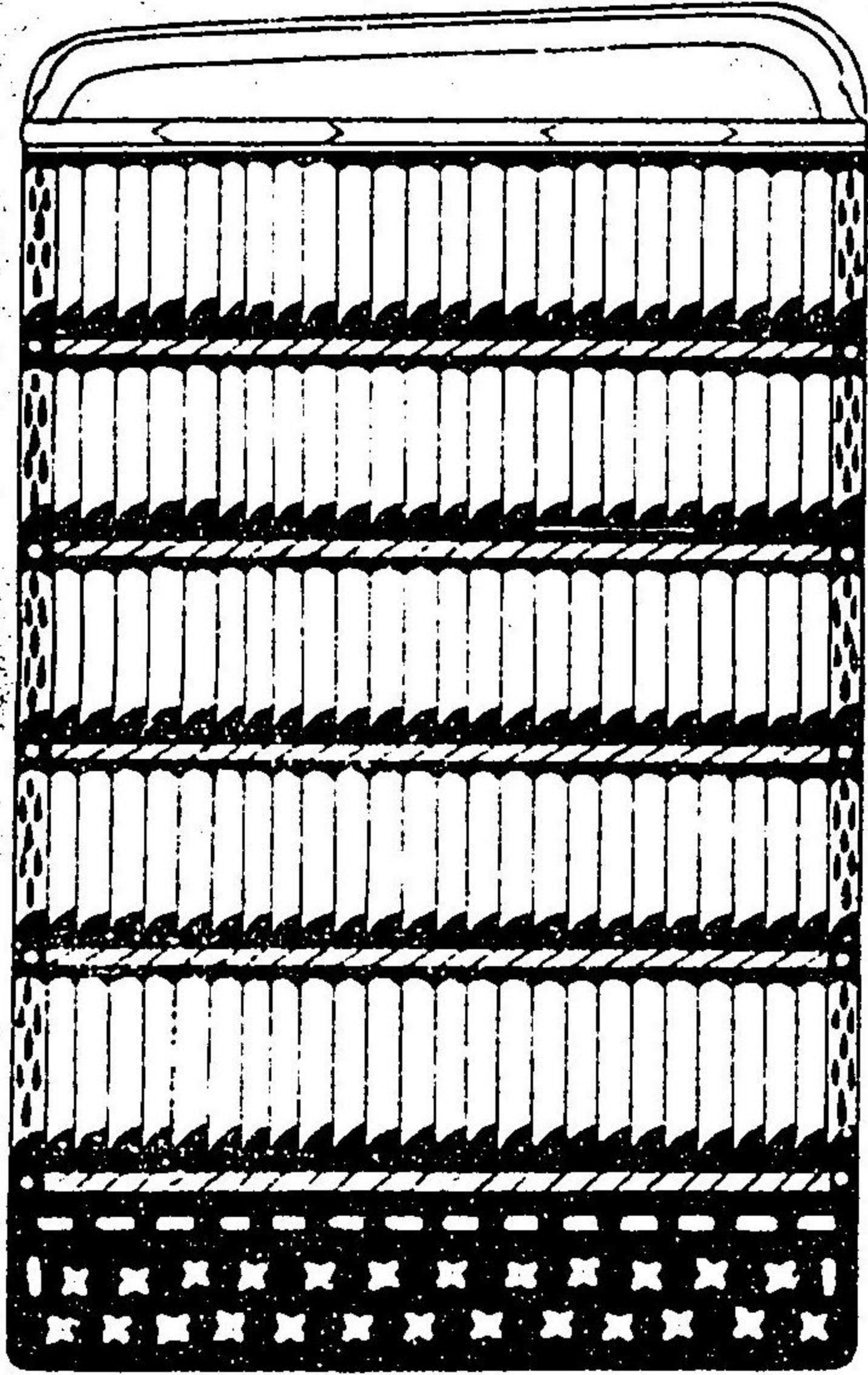
一關

本間源百里輯

白綾緋 雲州日市神社藏是也

白綾緋

白唐綾威



練緯威

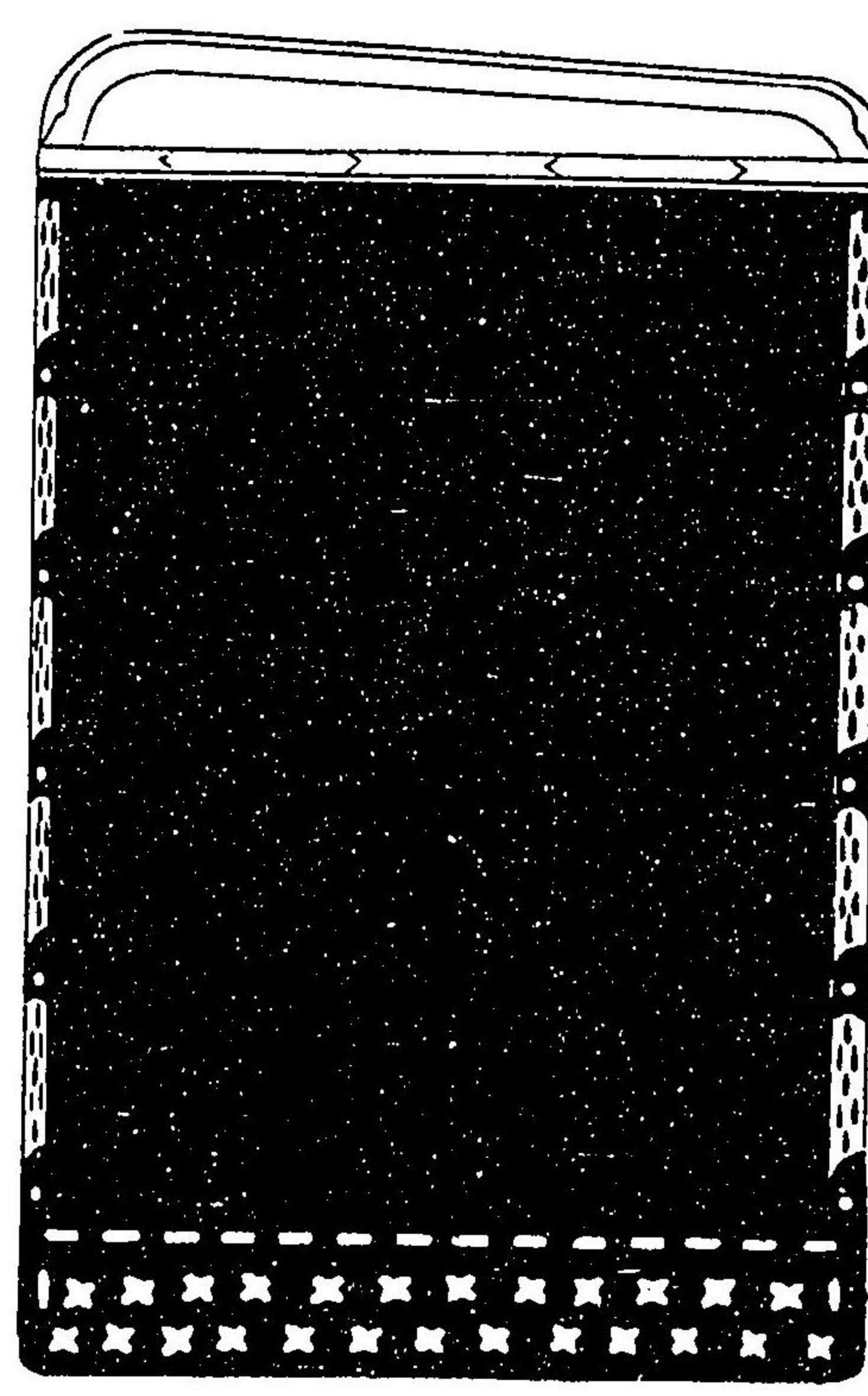
白きもろる裁福は漆ておとたるのかいろ目  
のきこえたりけきとそ練の色もあふなきなり

洗革威

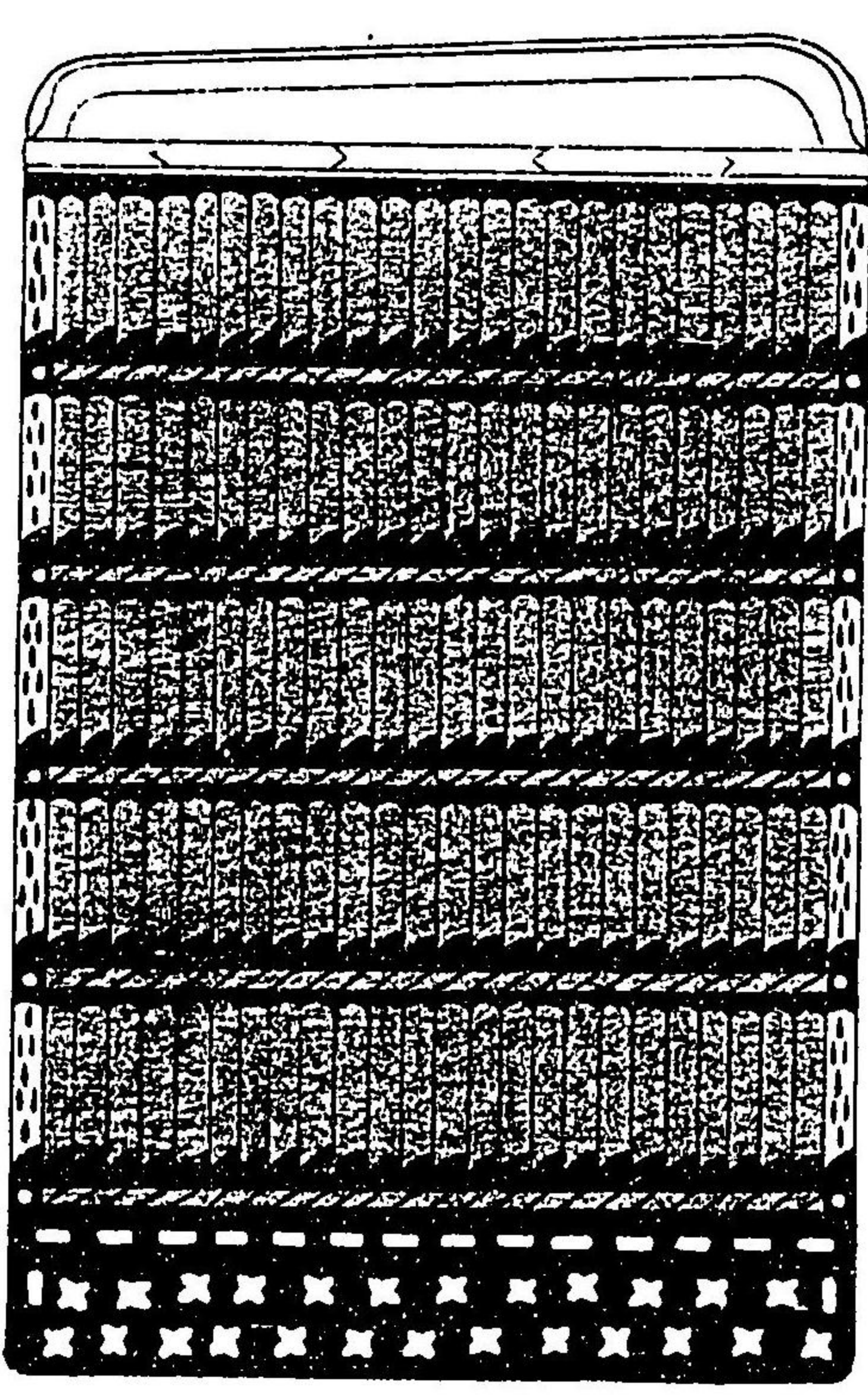
あらし革のその色白なりと云いろかゝる説未  
に出ぬ



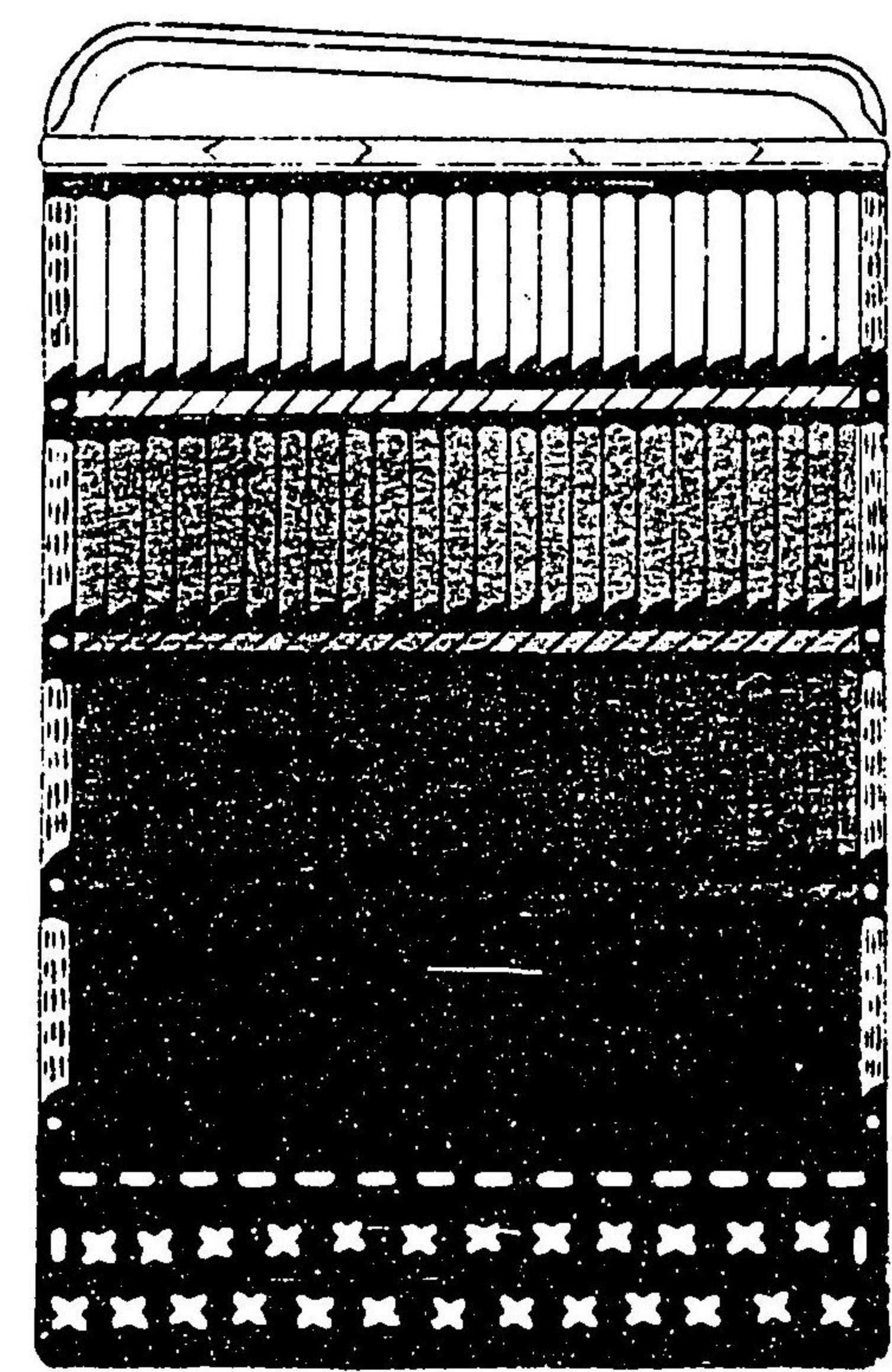
ひらき 遠く見て糸華を分かつぬ時、斯も稱すべき  
紫威 欲く目し、名をさせは下小あふれぬか  
り、是に准すべし



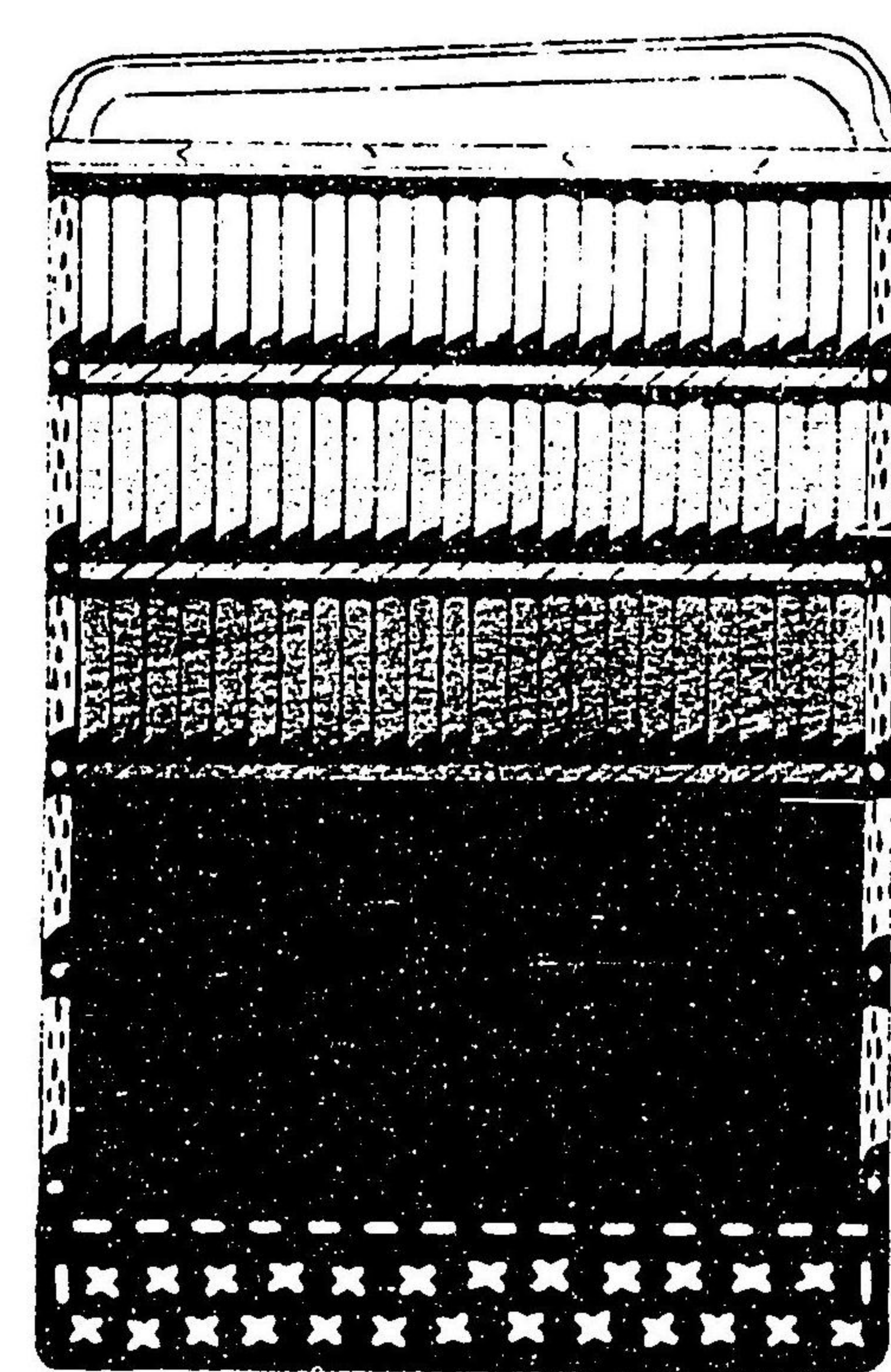
浅紫威



紫生濃著長 十界圖 後三年繪



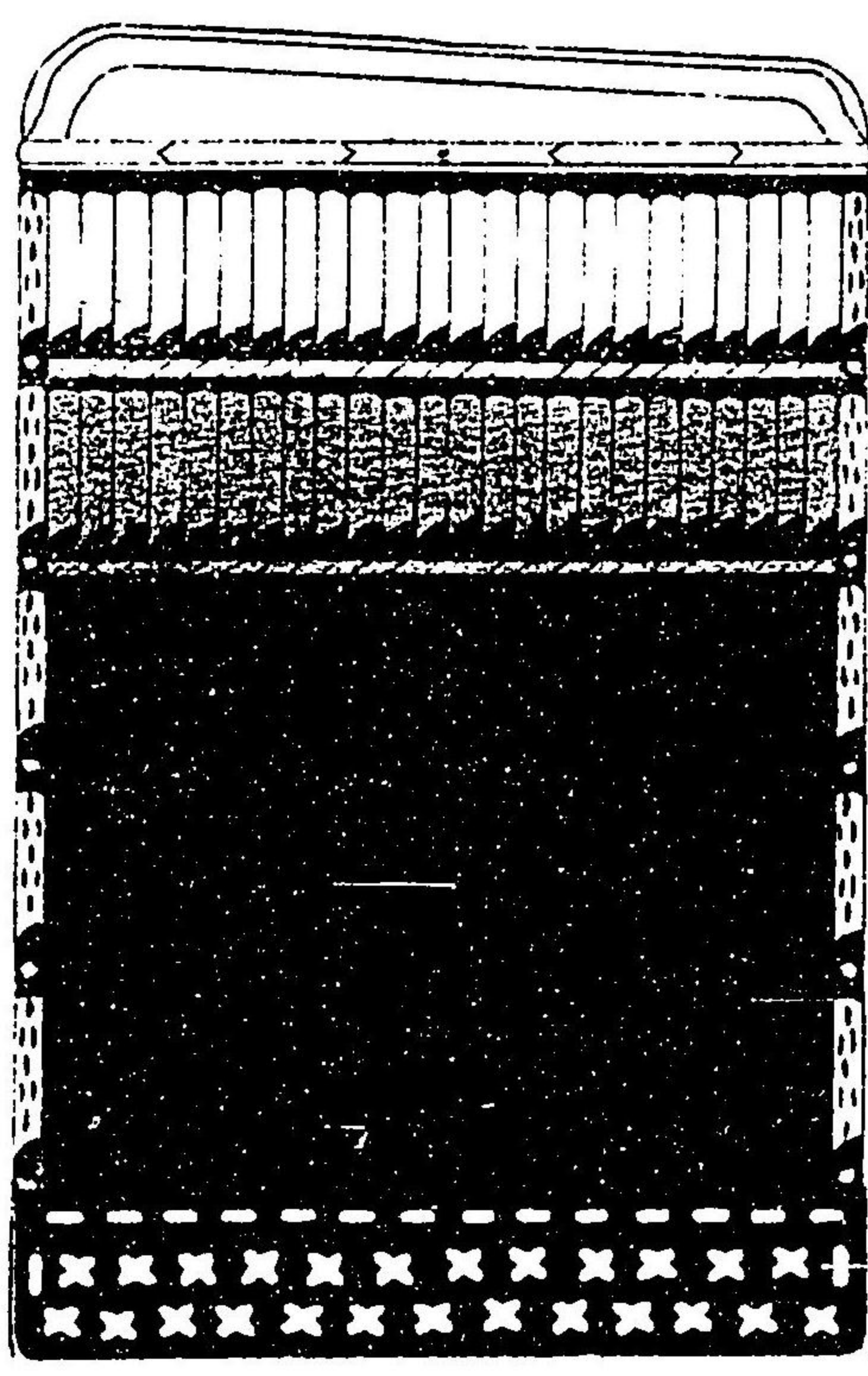
同上 武州御嶽山社藏 古鏡是也



山城藤森社藏是也  
紫糸鎧  
紫糸綴甲  
紫華鎧  
皆いろ目小異ある事やけま、その名のみを出る  
なり

藤鬼  
ふち色に淡紫絨さし、ていふか、一色を出して  
いろ目をもふきぬ  
又藤の花咲かると、さまじか、たる古き  
その語、見え、は其様あるべし

同上 清水寺縁起

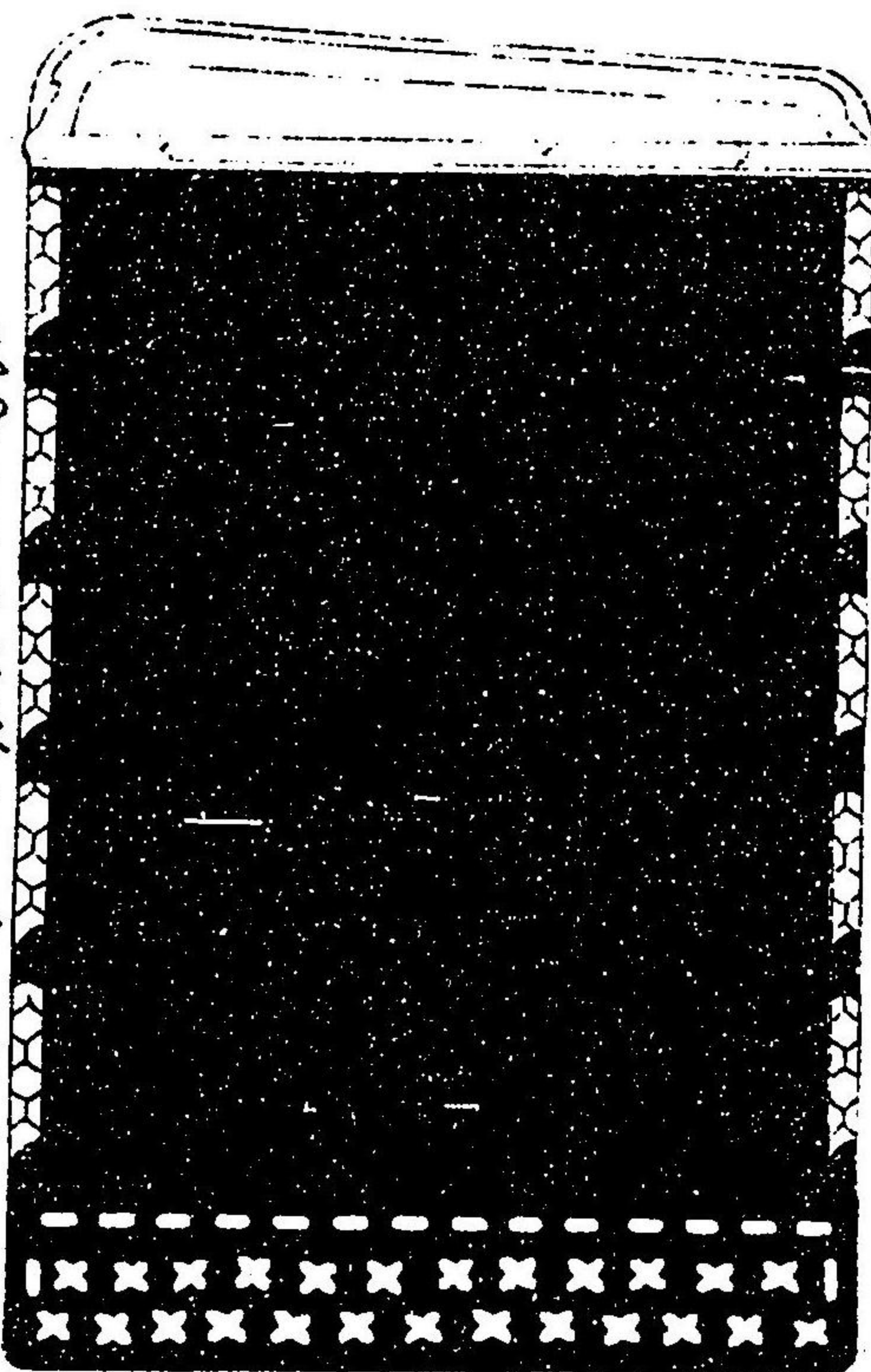


下濃は、正色より次第にてきを絨用ゆ、きの説光  
かり、紫糸は濃色の名もあき、さし、又色によりて  
正色よりゆす、厚さ、ささる、のあり、さし、ハ正色より  
次第に色絨うすく、て果、白あり、なれり、依て句  
は、是、小對、てけら、絨、た、さ、さ、り、の、か



紅威

赤革にわきしらば紅花をてそむるあけの  
總名なり



赤威  
赤かきしもの赤根をて深き色い小苗の深とて  
思ふあきとをなげていろあけつたやかき  
り又志保のなを改変せむ

緋威 緋威

只いおとと云ハ革おとりの事なりといふ説あり  
又緋の苗を深きこと本義より式の中見ゆれとされ  
やの威をさして緋おとといふこと古今の通称な  
り今改むべし

火威物具

赤かきしものあけの色よきもの威燃る火またいふ云  
成ハ巴の時斗りなるあきほむること葉あり

氷魚威 異字なり  
日威 古書に見えず

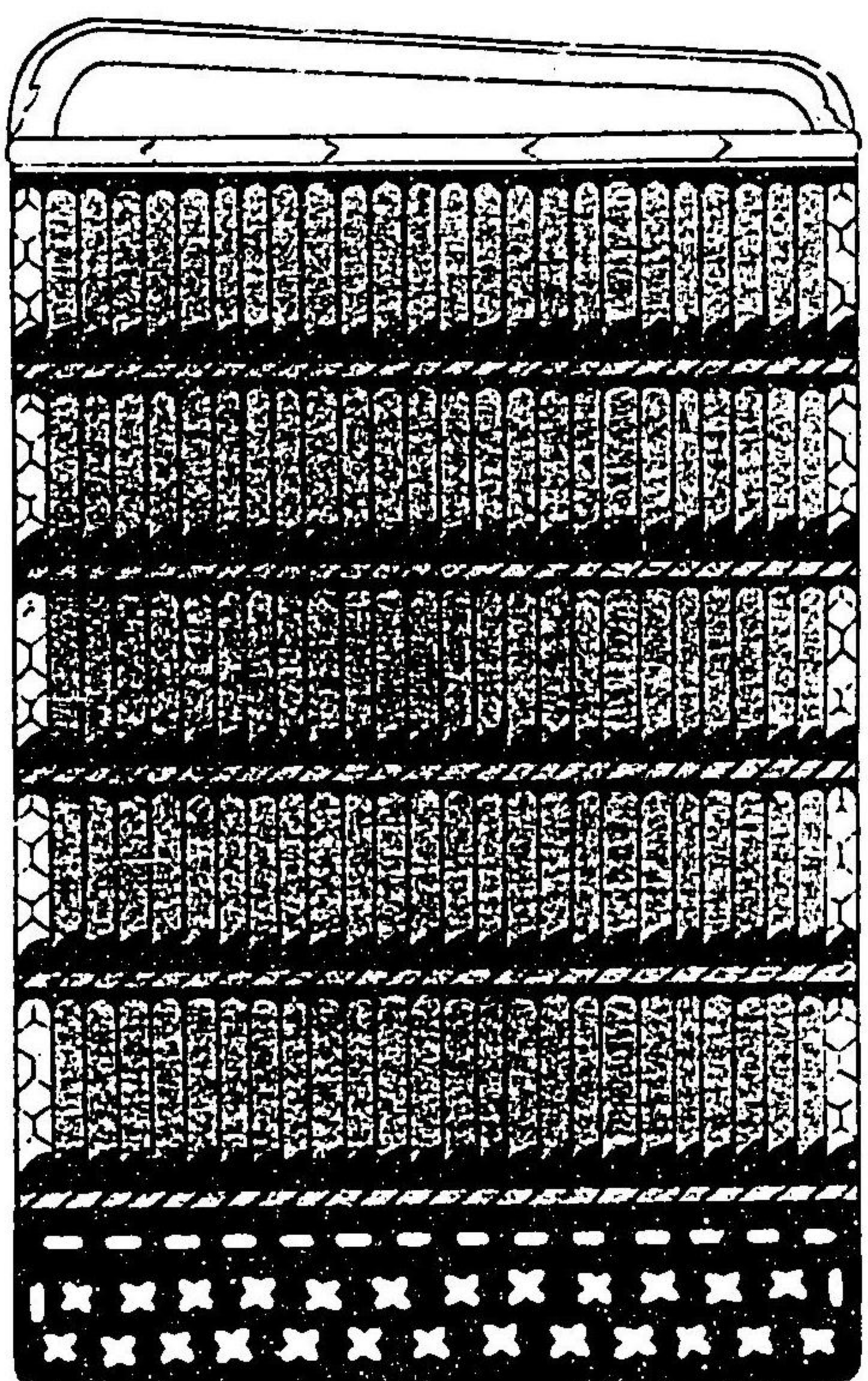
赤練威

山塚くら馬より経相臣甲冑  
南都本淡きや同前  
同春日神庫竹の雀金具同  
武州御嶽山重忠同  
是等皆苗をぬかり

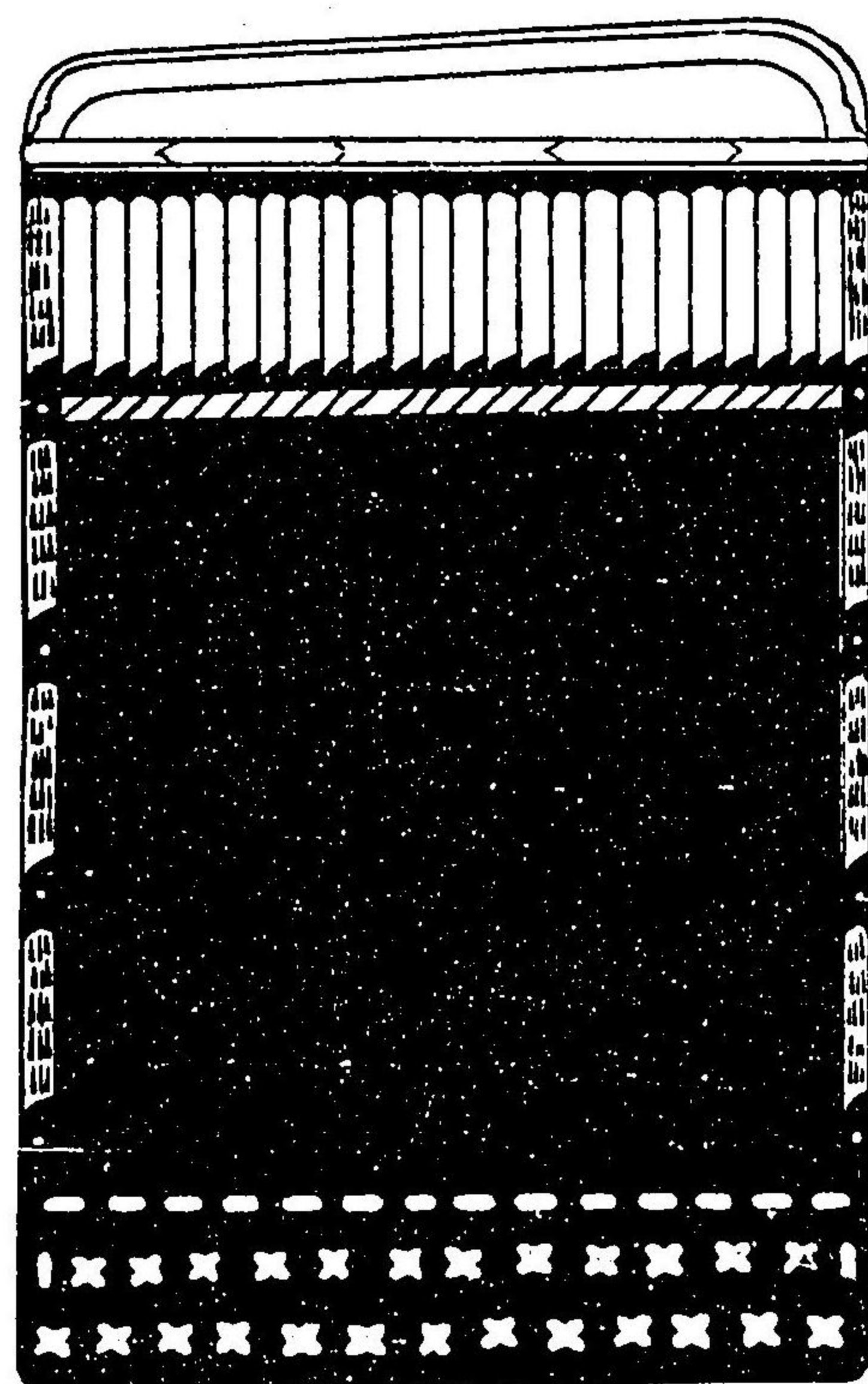
赤革威

是をあかおとといふの説あり

薄紅威



紅下濃  
十界  
三年



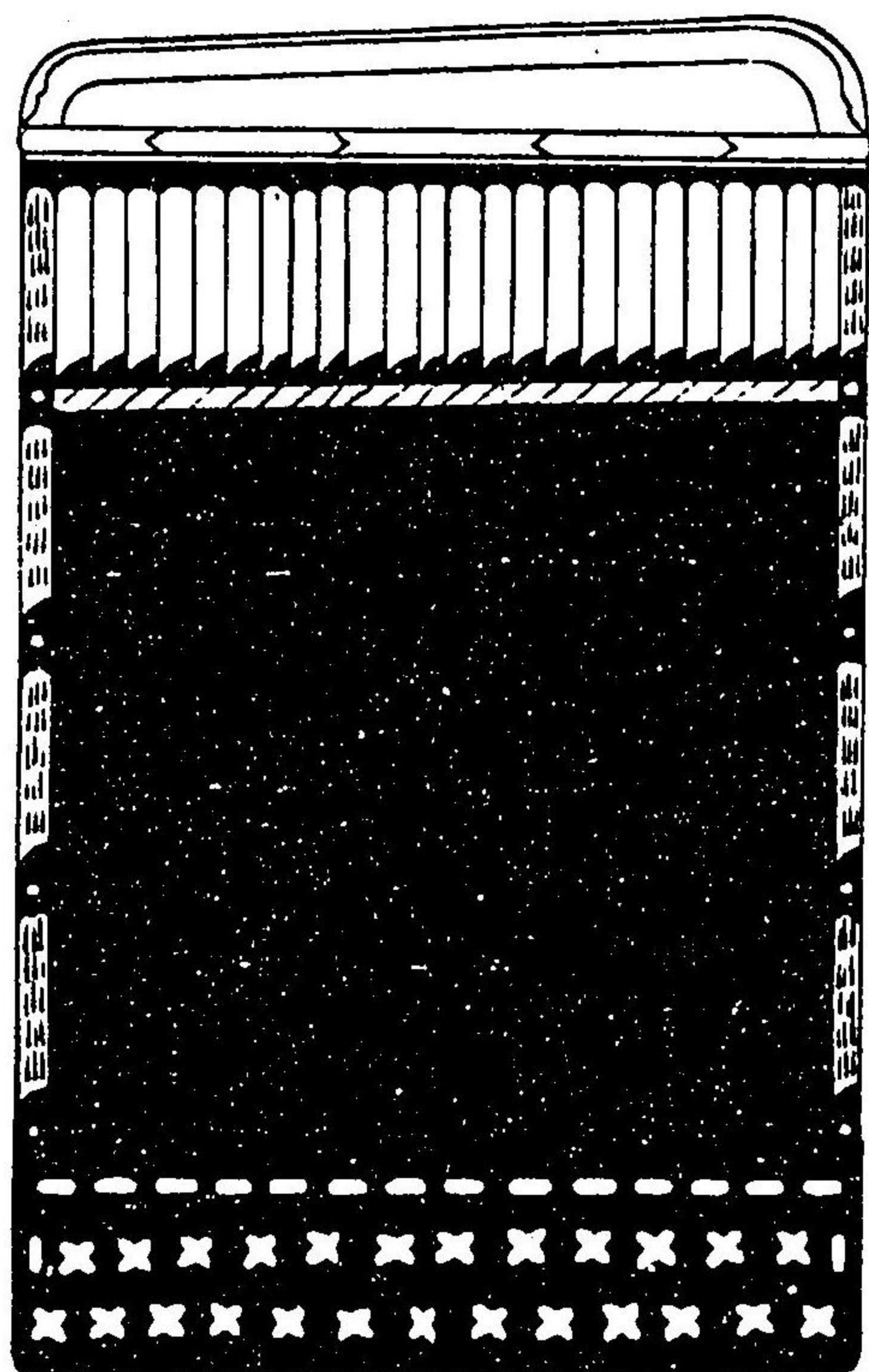
紅梅威

唐のつかりくれあわと雲美すことあか威つかり

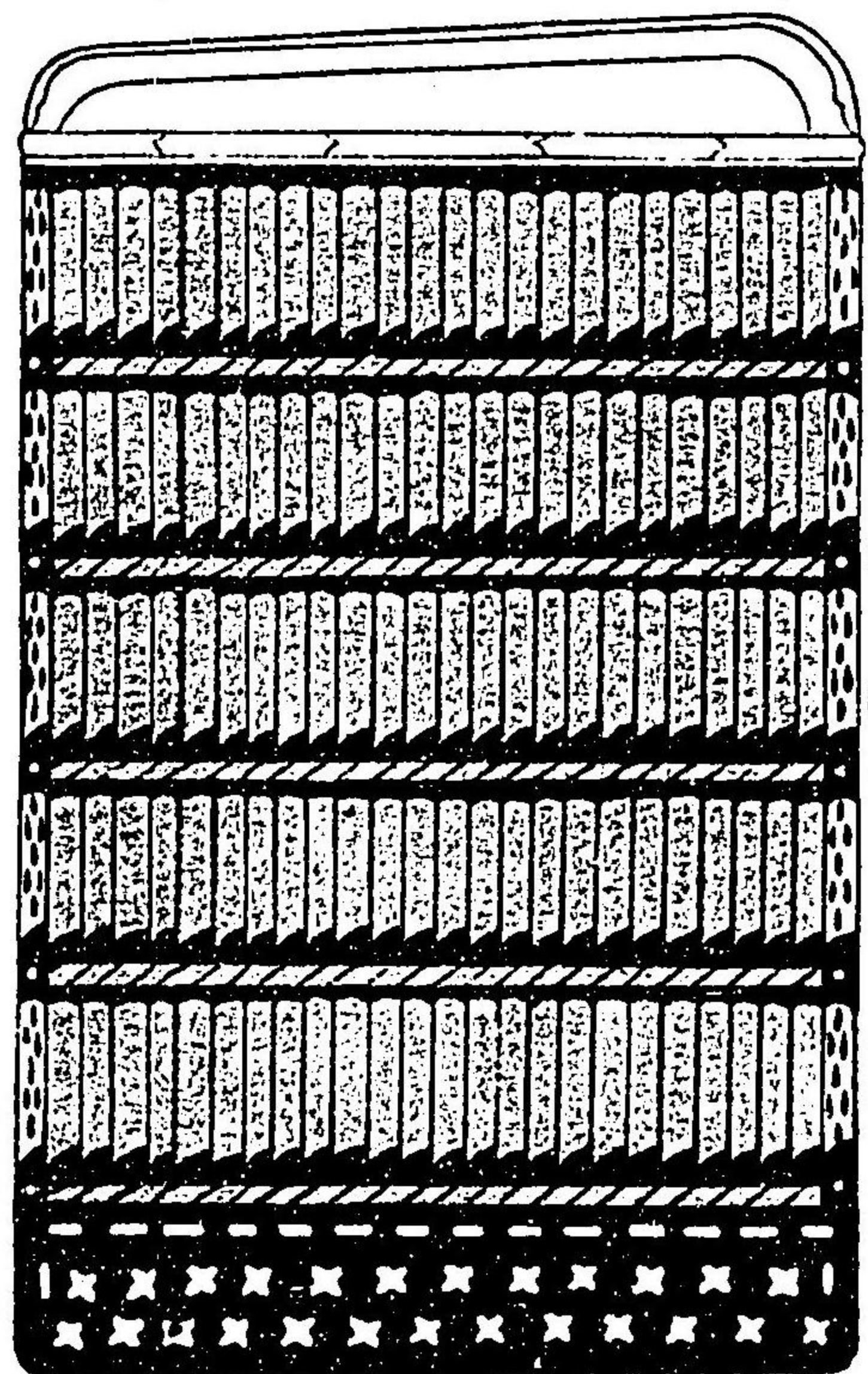
韓紅威

紅花ハ元吳國より来り吳藍といふ之に言威  
重なりつかりくれあわと云ふ

同上 大須磨三郎画





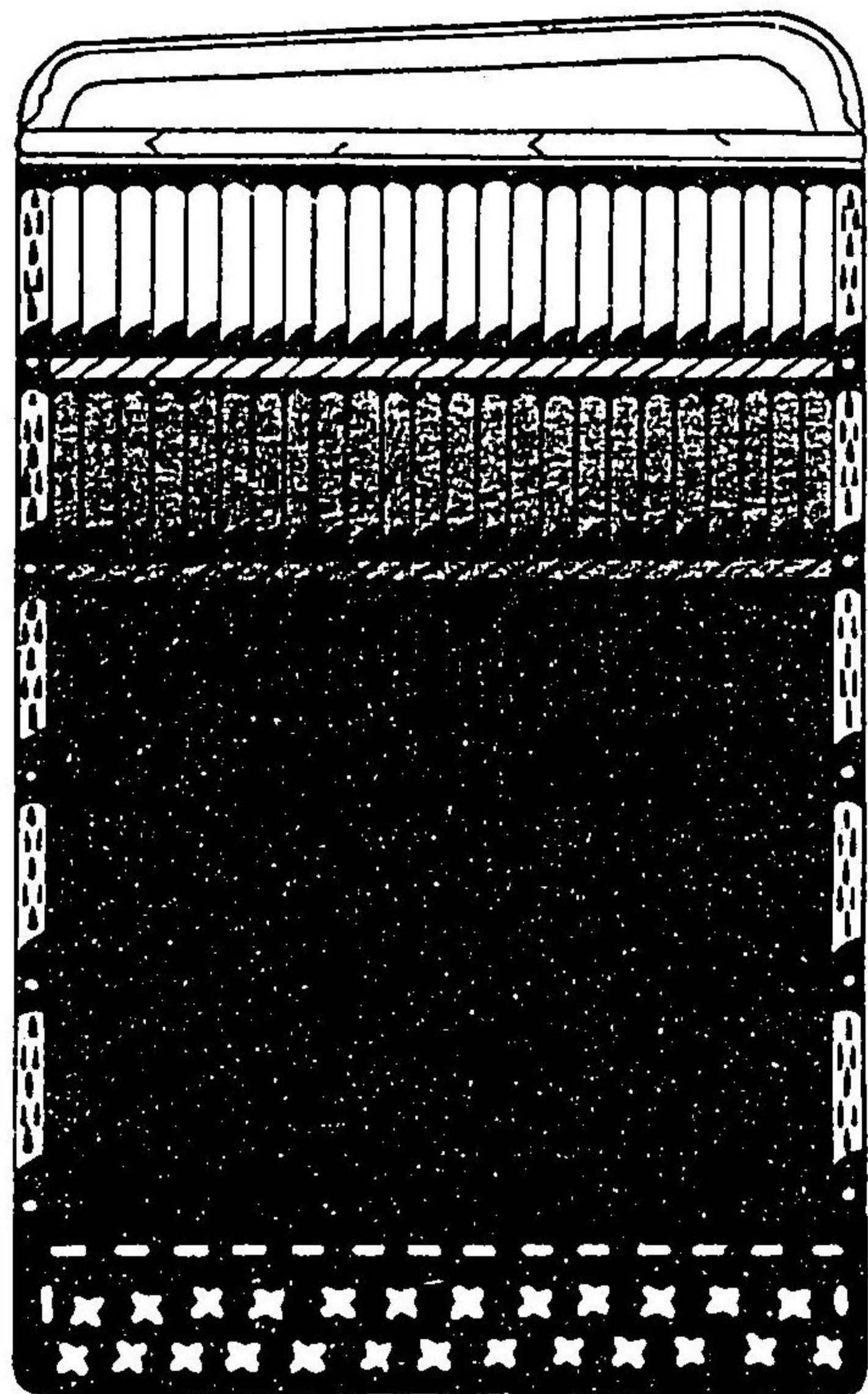


浅木威

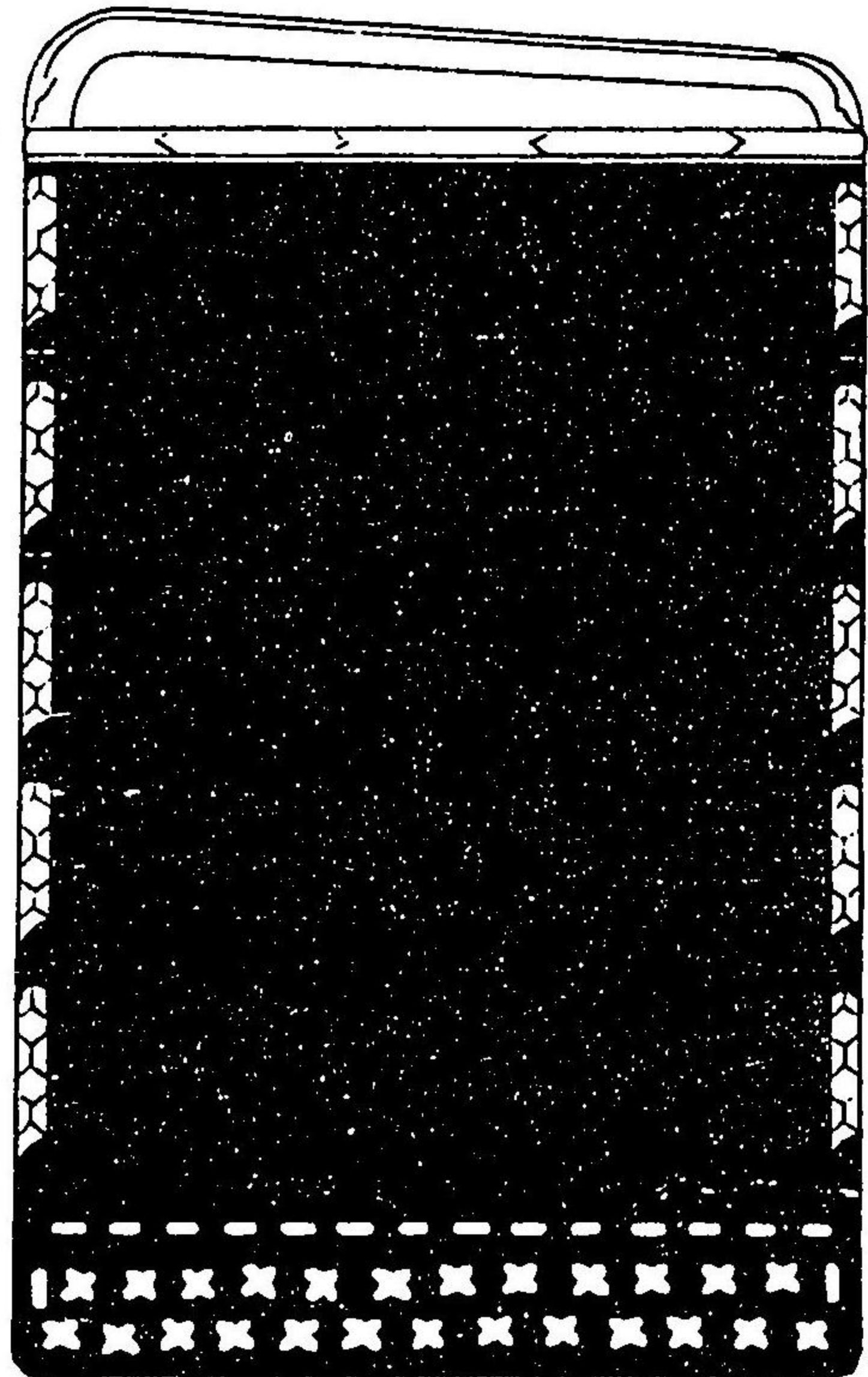
▲嚴島社藏義家將軍  
甲冑此色の統を  
たてし開之



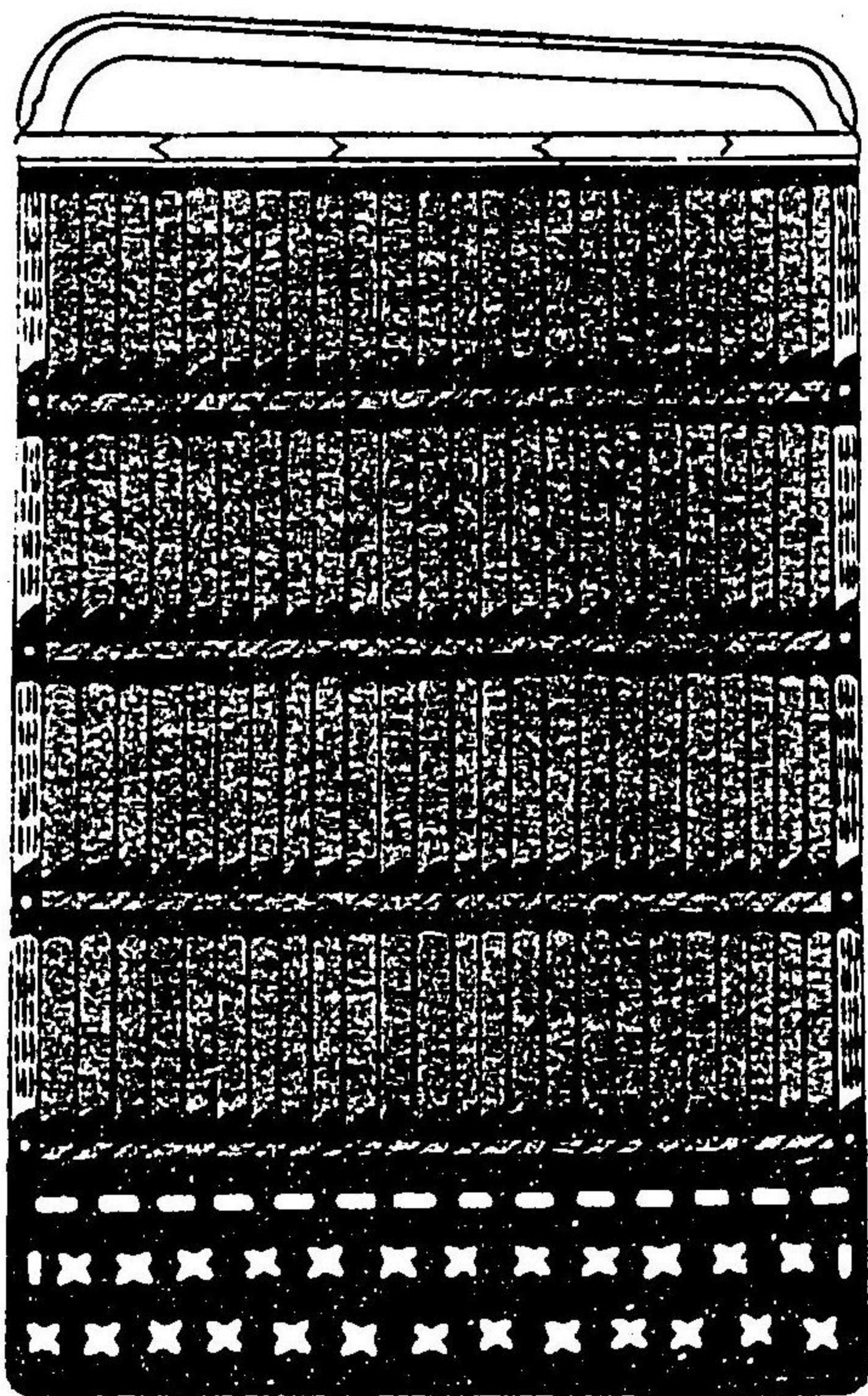
緑深鎧



同上 清水寺



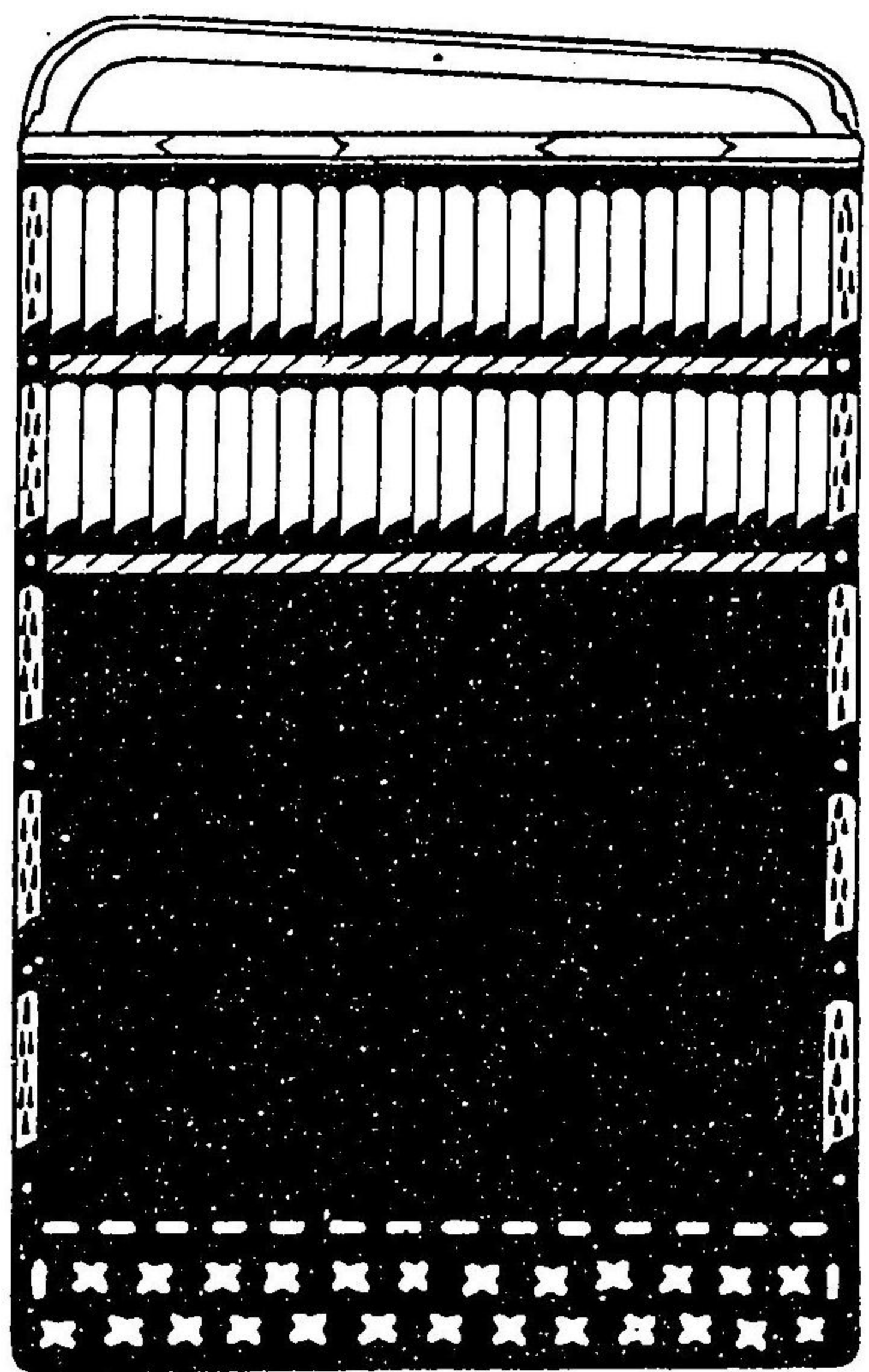
同上 同



濃浅蔥威

浅黄綾威  
縹色威 一吉野南帝御物并奈須家  
與一甲冑等是なり  
是等のいろハみりこひあさたし近きものなれば  
名のよをおけ  
藍革威  
いつく島松村羅三郎より光の甲冑をかり

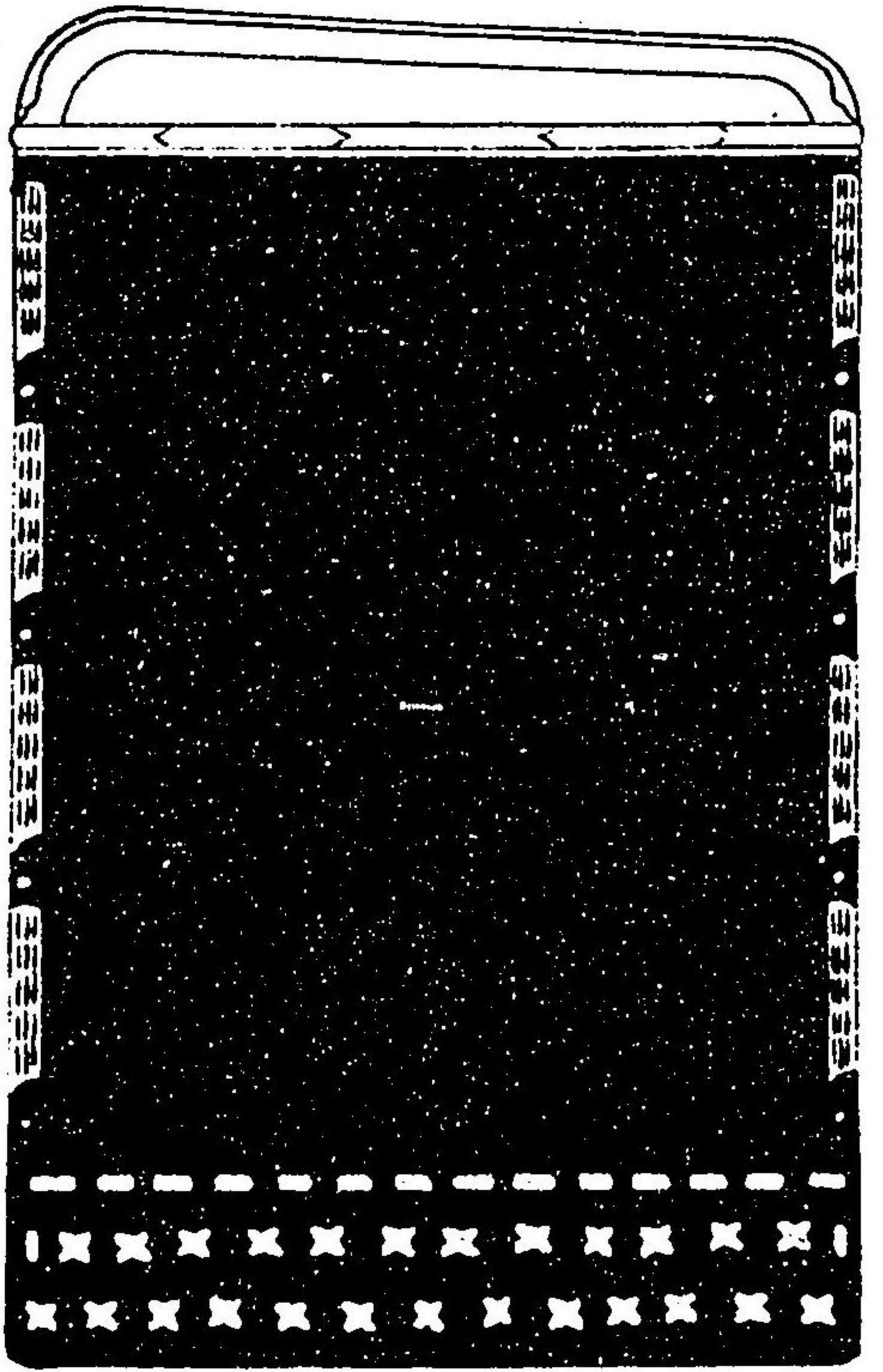
唐紅裾襦  
おらんれあのおのてなきはせき



同上 蒙古襲来



黒縁威



黒草威 南無本だんぎ屋

同多日神存松是なり

くろはだを二寸五分切一寸にたきみてかきたるふ  
とハカ量つよき楯士のちやくせーとを

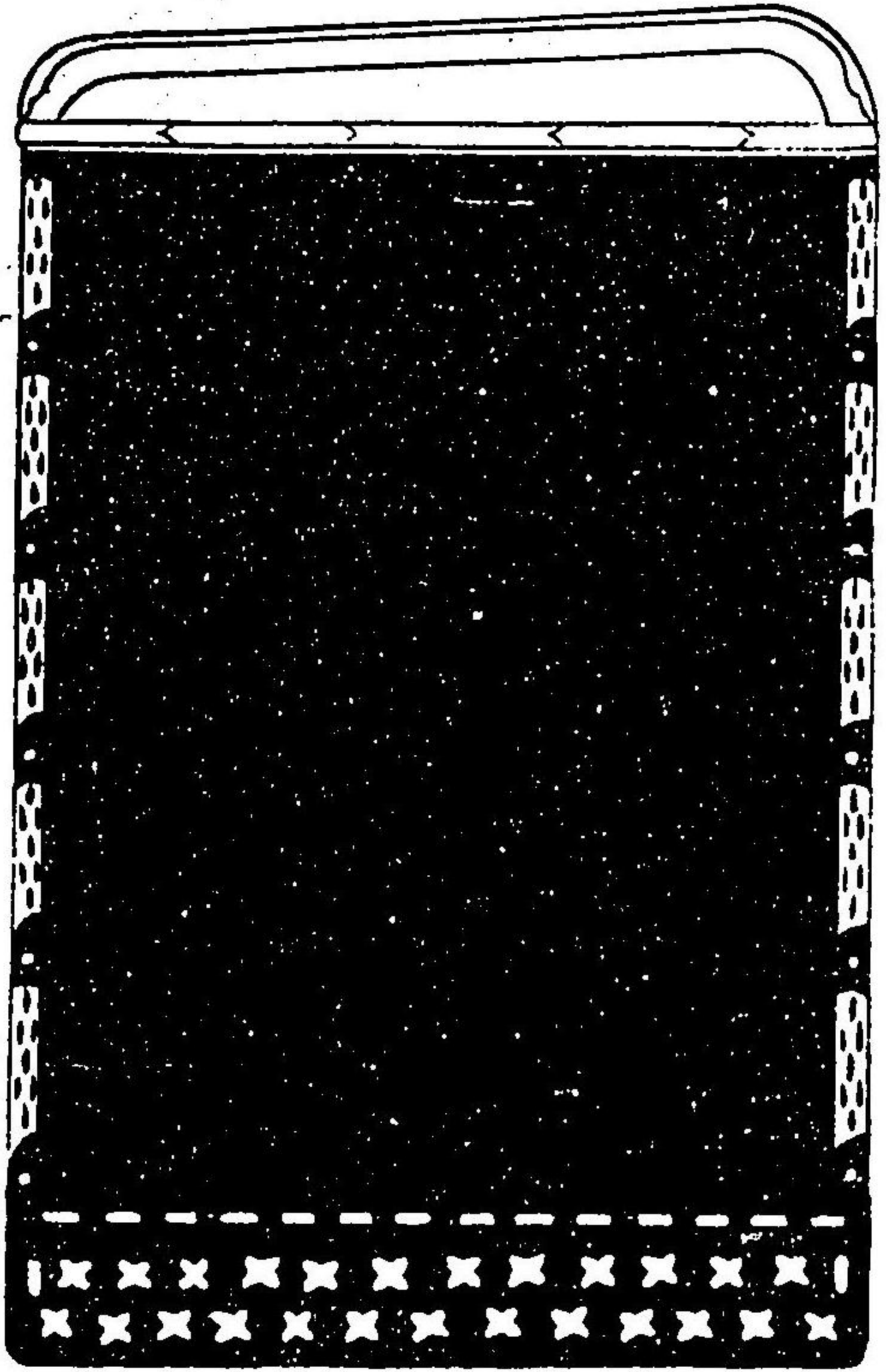
黒唐綾威

くろまきからあやをふくくきとておとーた見たり

黒唐毛よりひ

紺糸威

こんい青中して赤を  
うむ色なりといふ



紺唐綾威

異邦の製を賞玩せし故

一嚴島社藏小松内府重盛公 甲冑

一石清水同義家朝臣同

右紺糸威あり

褐練貫威

此練の色もあらんまなり

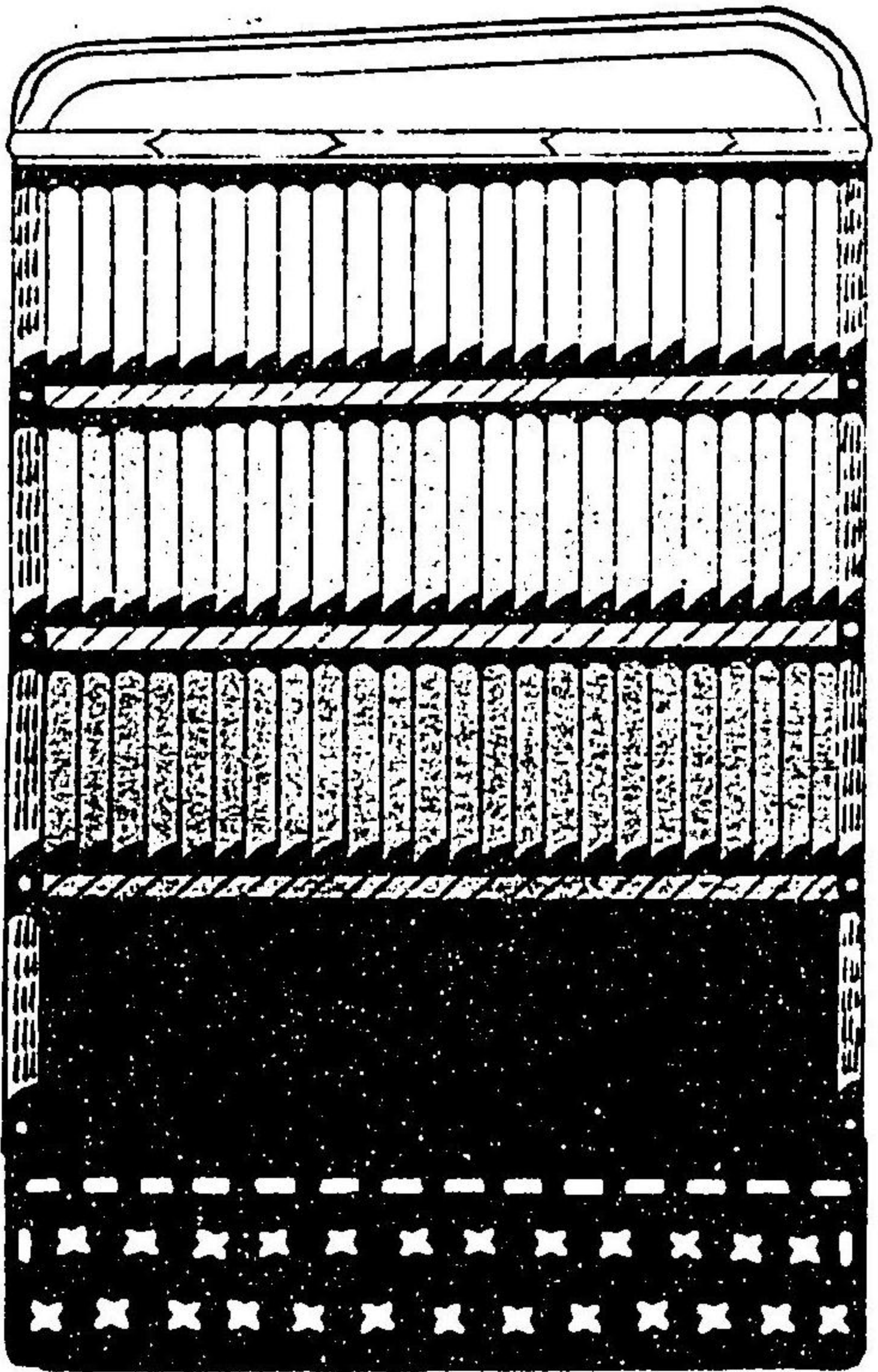
褐色威

藍深かり播州志かまのからとをたを笑美は黒  
そのはくもていろをまきしむる近世のことなる  
下みどりこんに遠のらされが各出といろを  
いださば

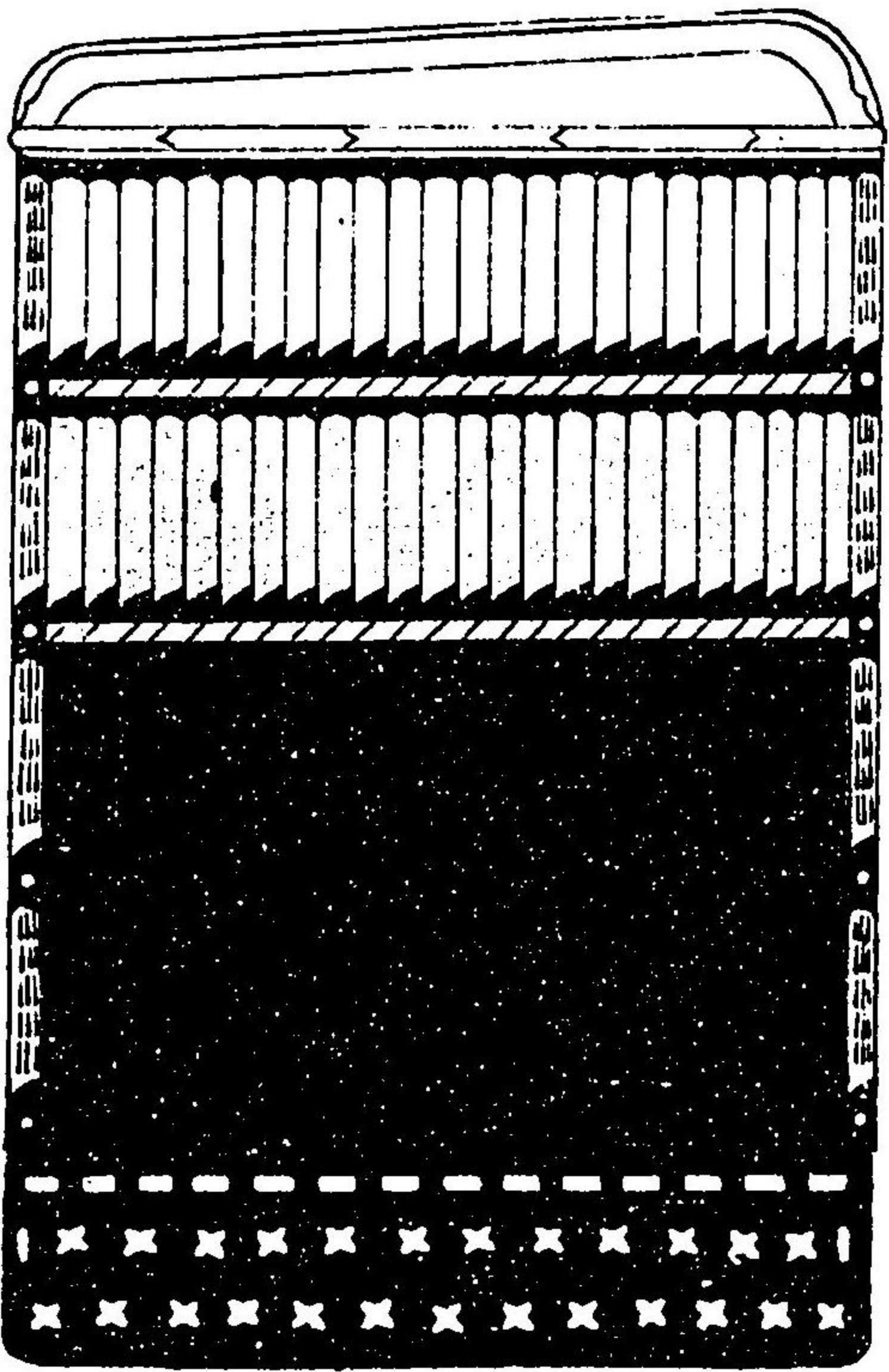
勝色威

近世搦色はかく稱して鉄桐柄多く用をた  
みを見えは  
又勝いろハ紅或はちん白をも通称するの  
説あり

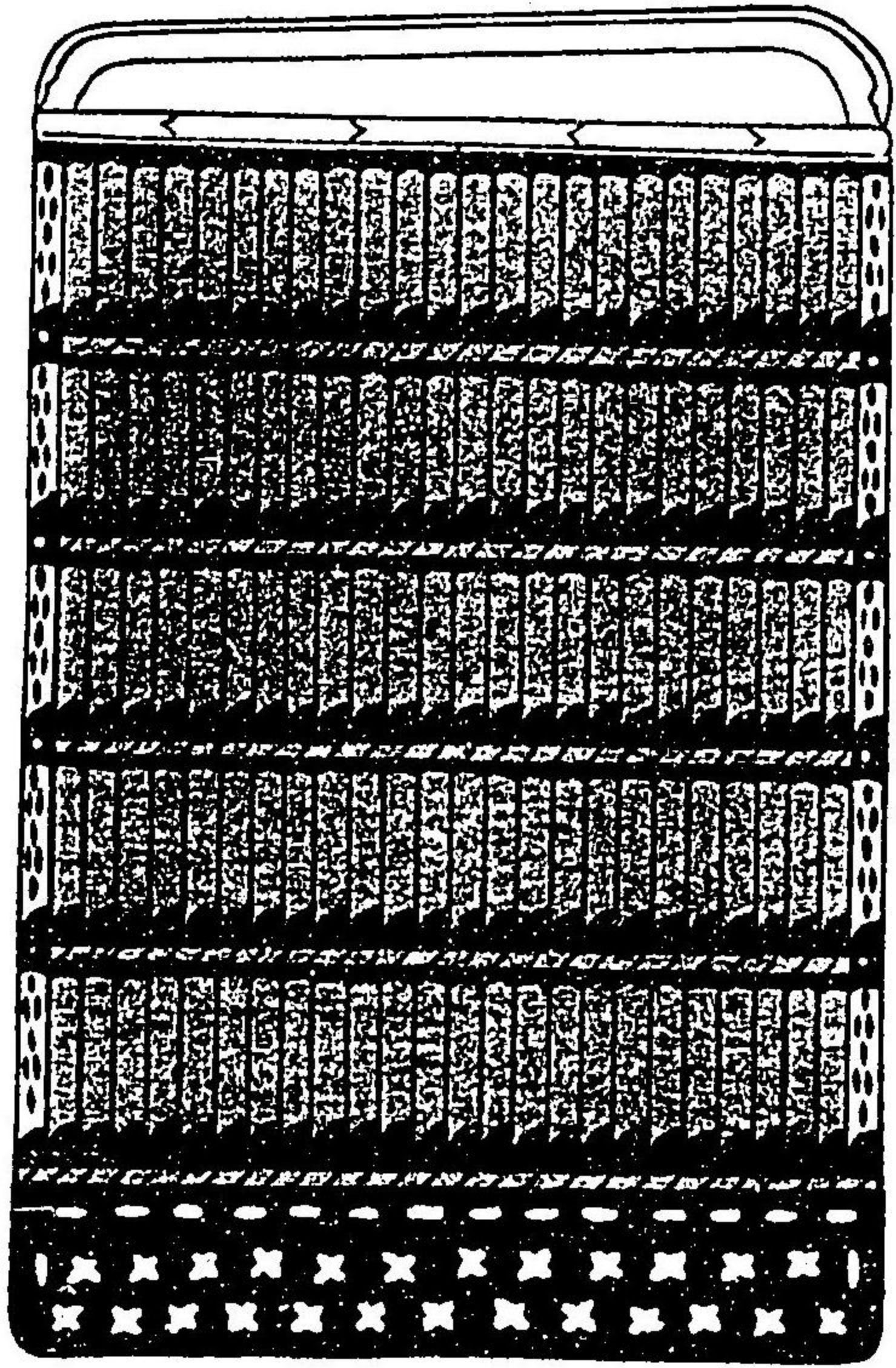
紺末濃 十界 後三年



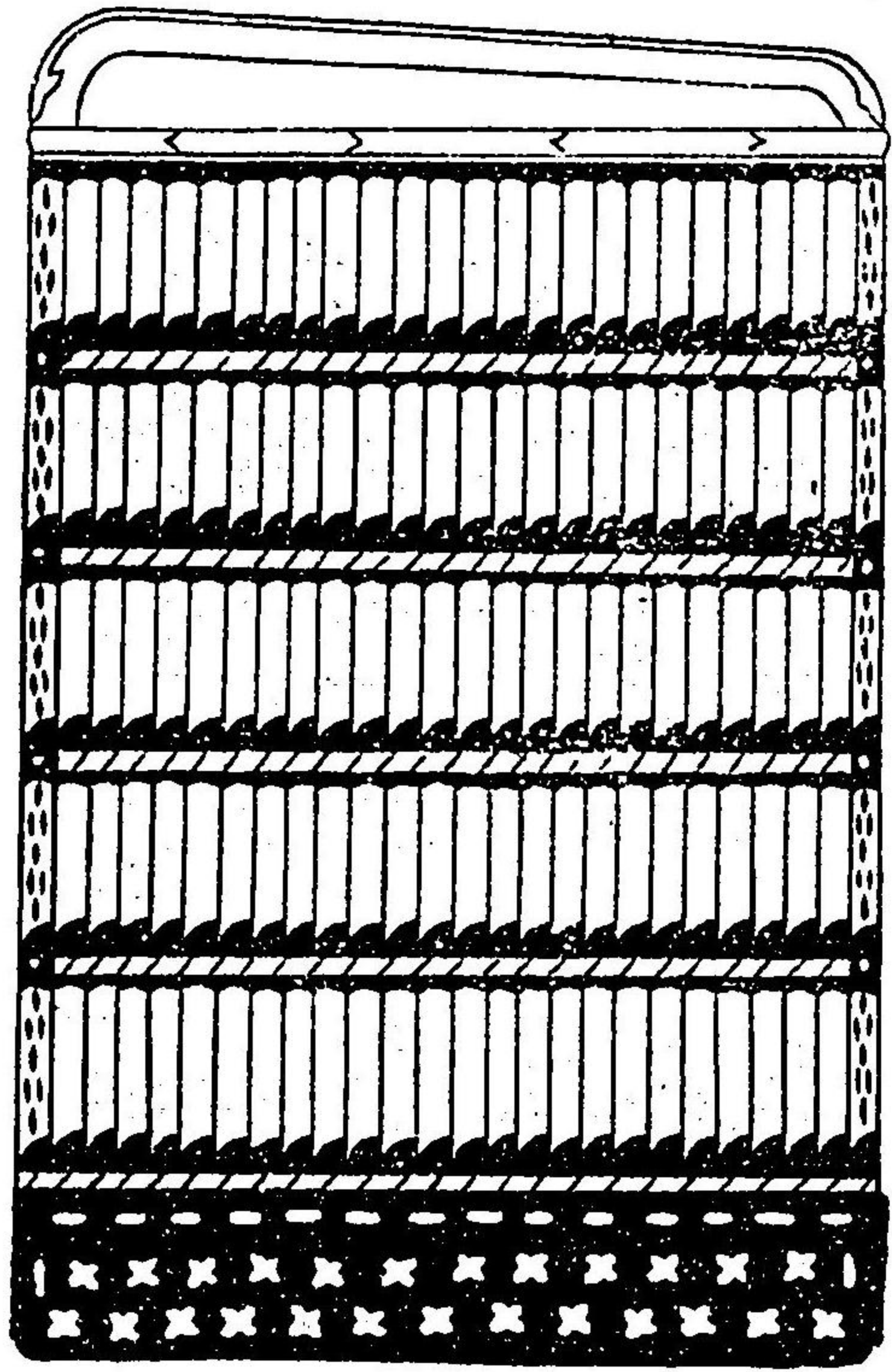
同上 春日驗記



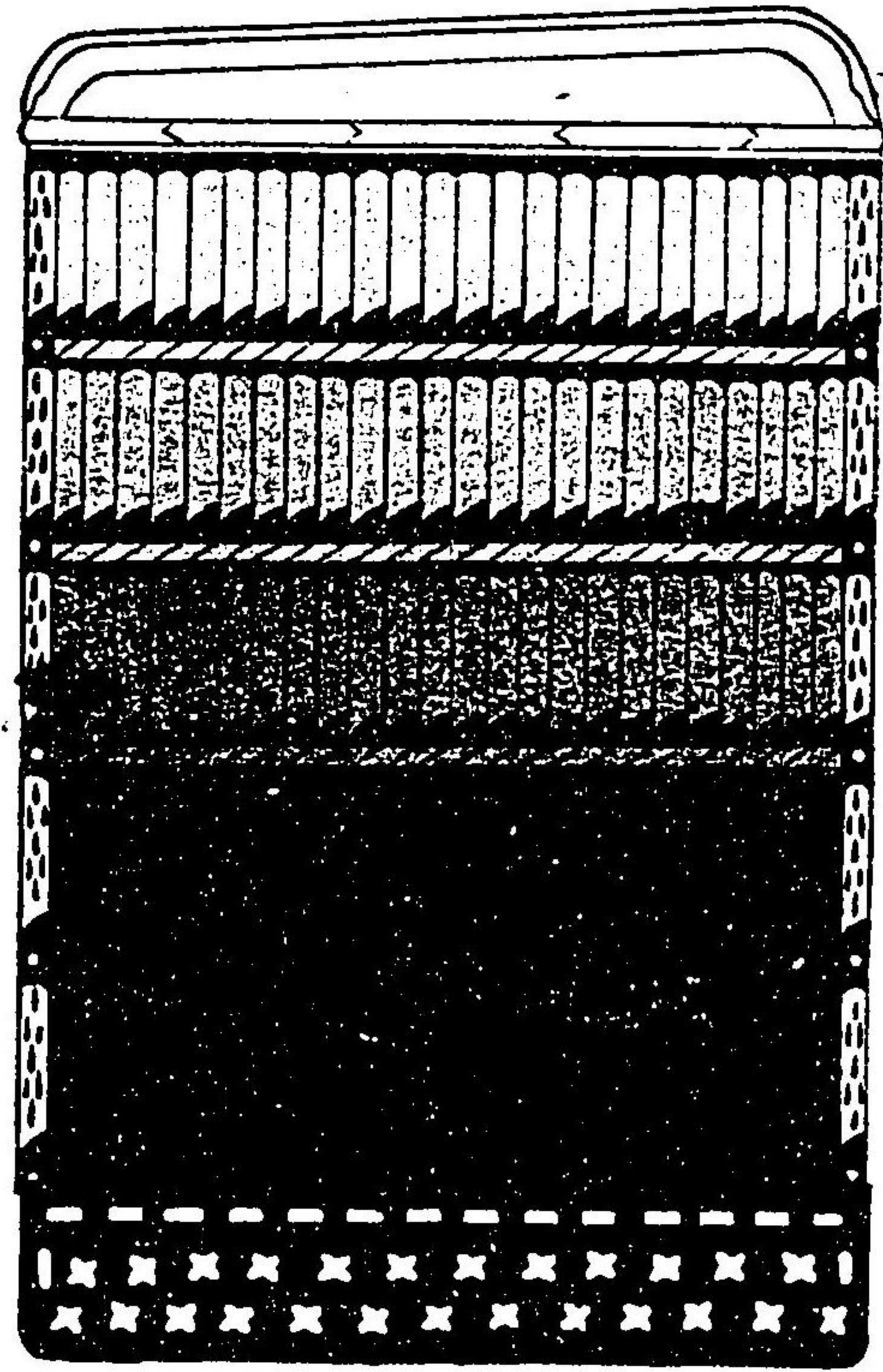




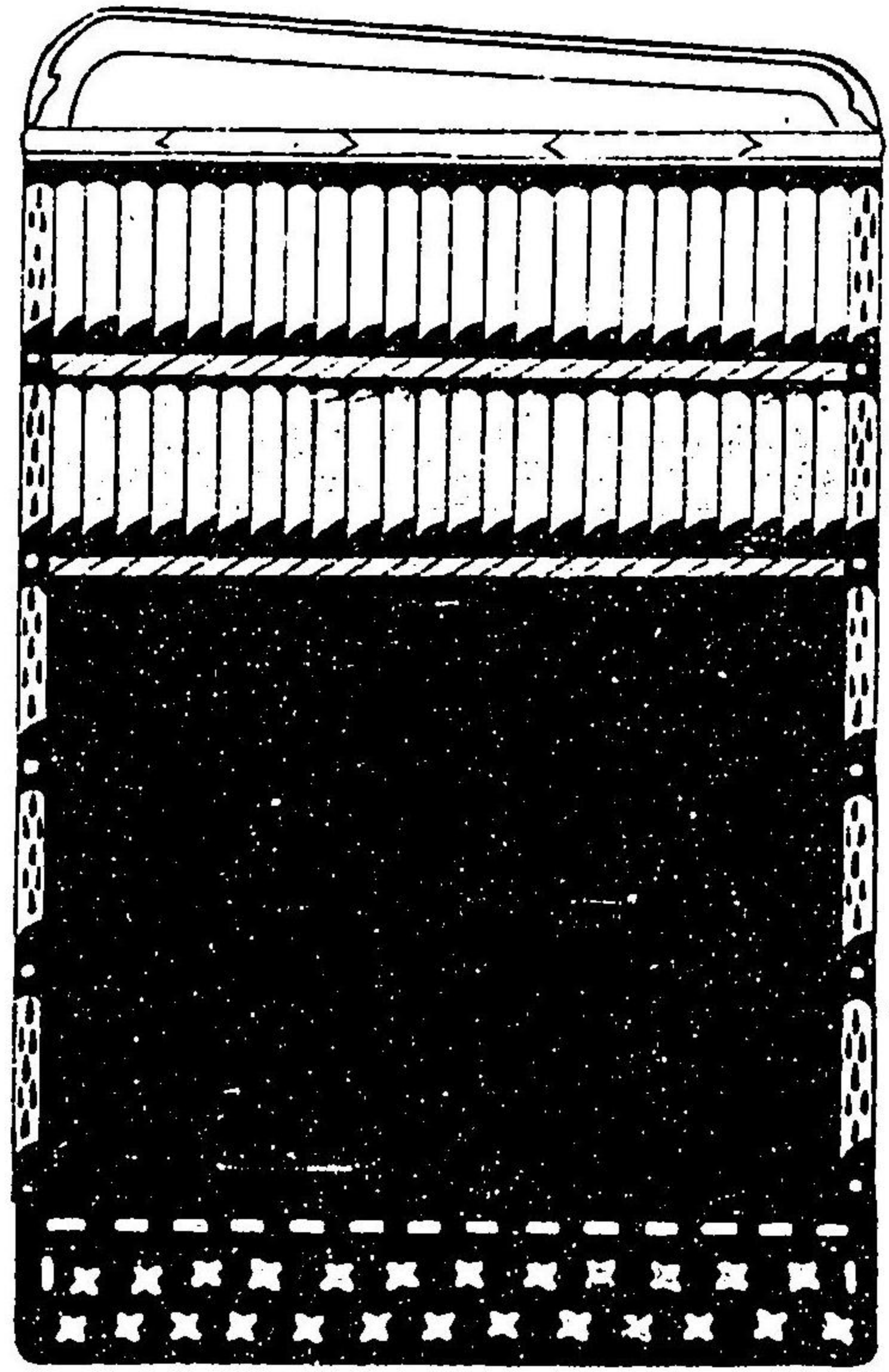
麩塵威



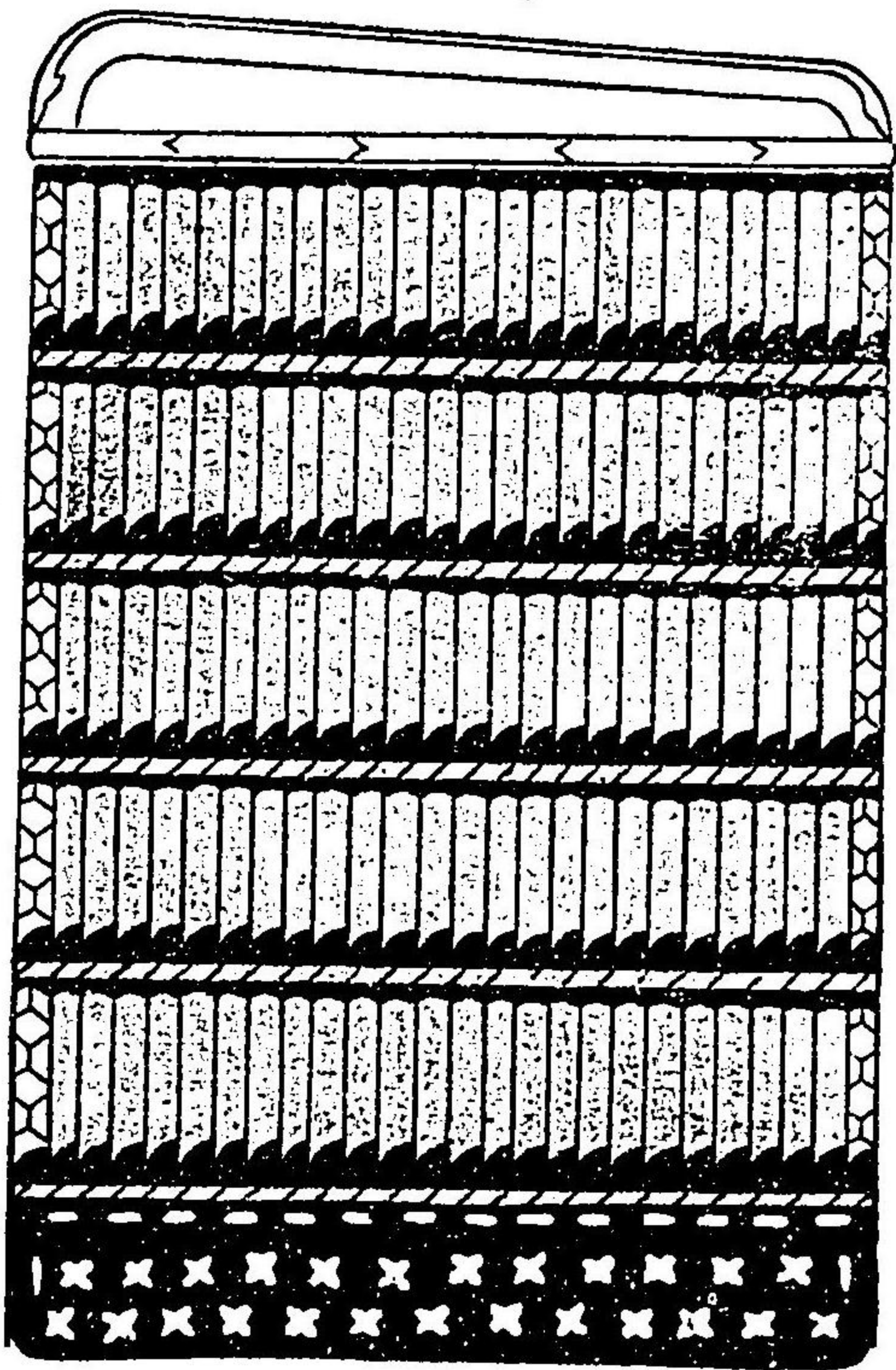
黄緑威



同上



同上 清水寺



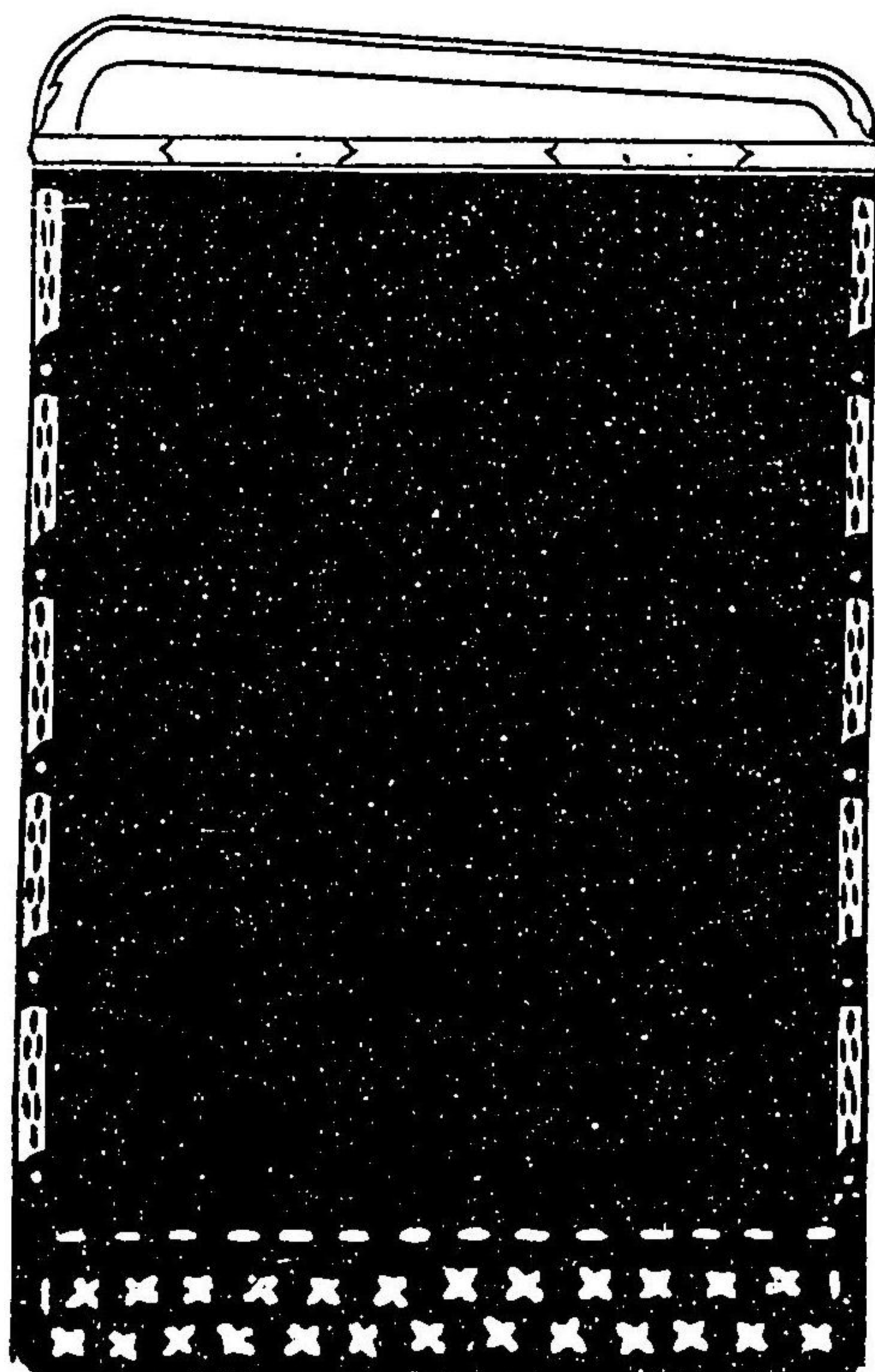
朽葉色唐綾威

此色目は青色或は白のほろろの云或は俗  
 小山鳩をともいふ  
 又織物なればたゞ糸青ぬき其糸を文様は黄  
 らしきあり

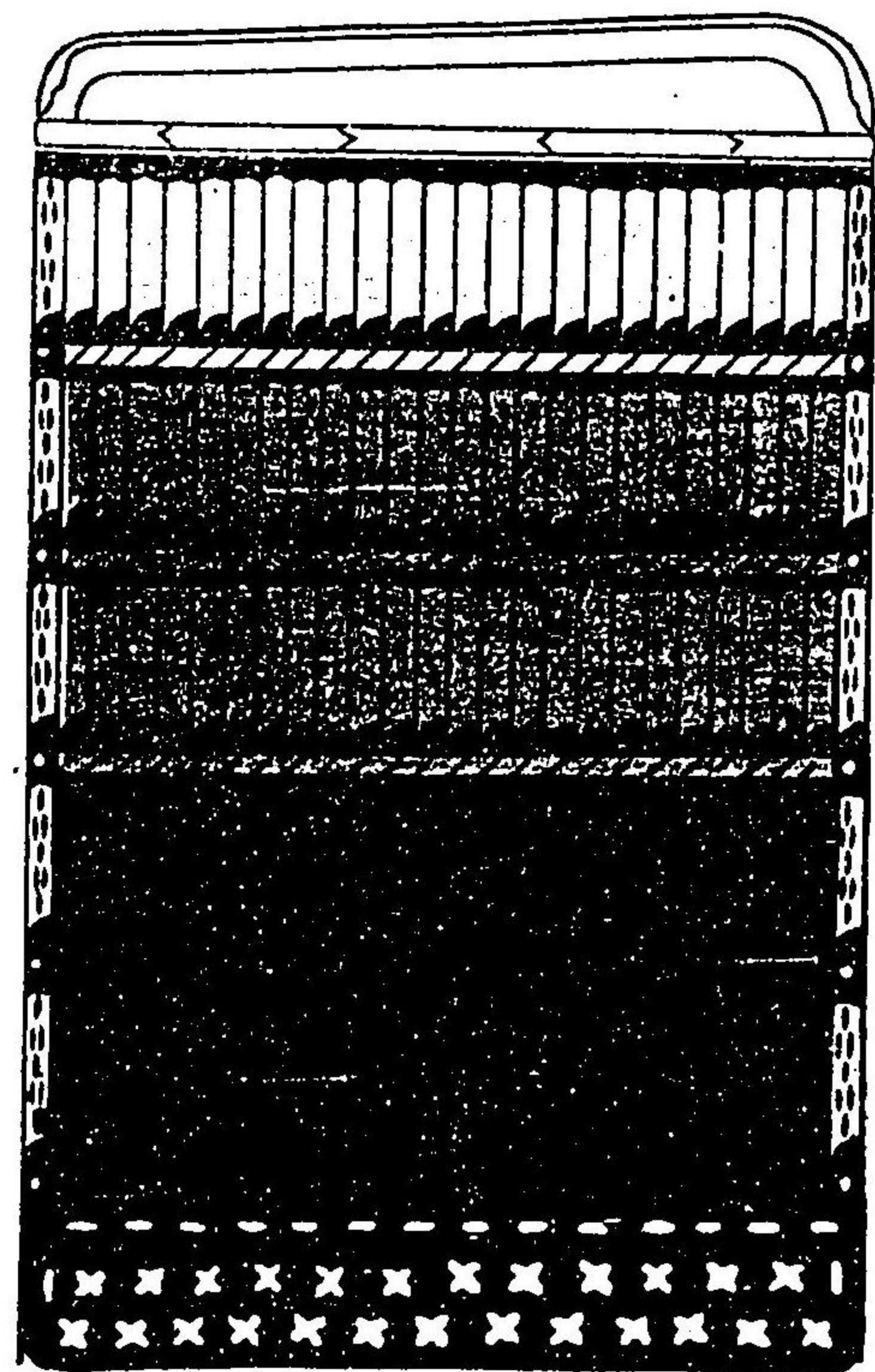
赤濃は其心色より次第にあつて人々の視たより  
 一しつゝの色のよりのまじりあつたものありは  
 きはに色域中布とやしてよりの深さを同じく  
 の板は白をくまらず裾をばちやのいさひのあつて  
 とくまらず又白おのり此赤濃のまじりあつた  
 正色よりいふとて終つて白くくまらず  
 その歟



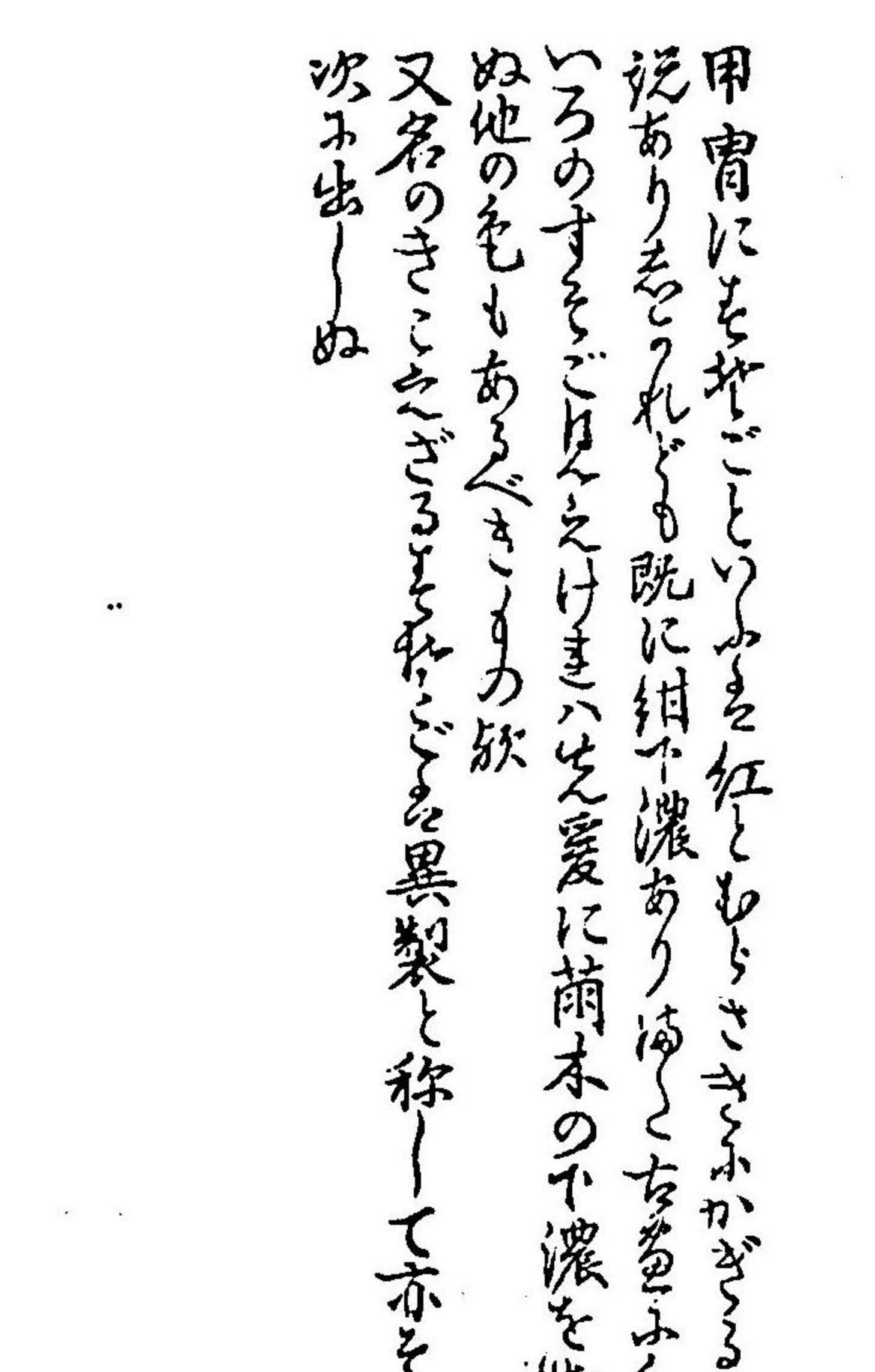
萌黄線威



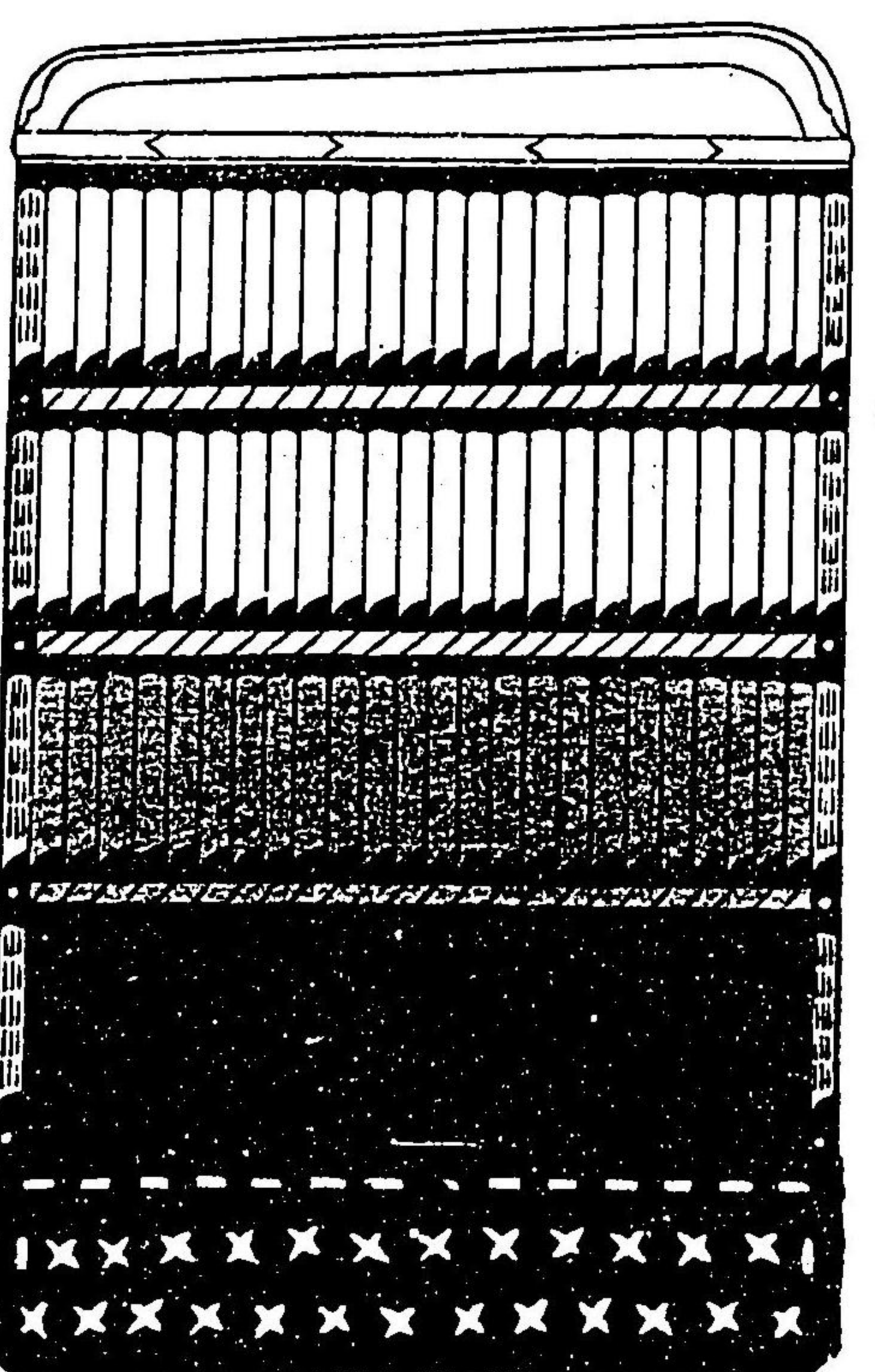
萌木裾濃、春日



同 上 清水寺

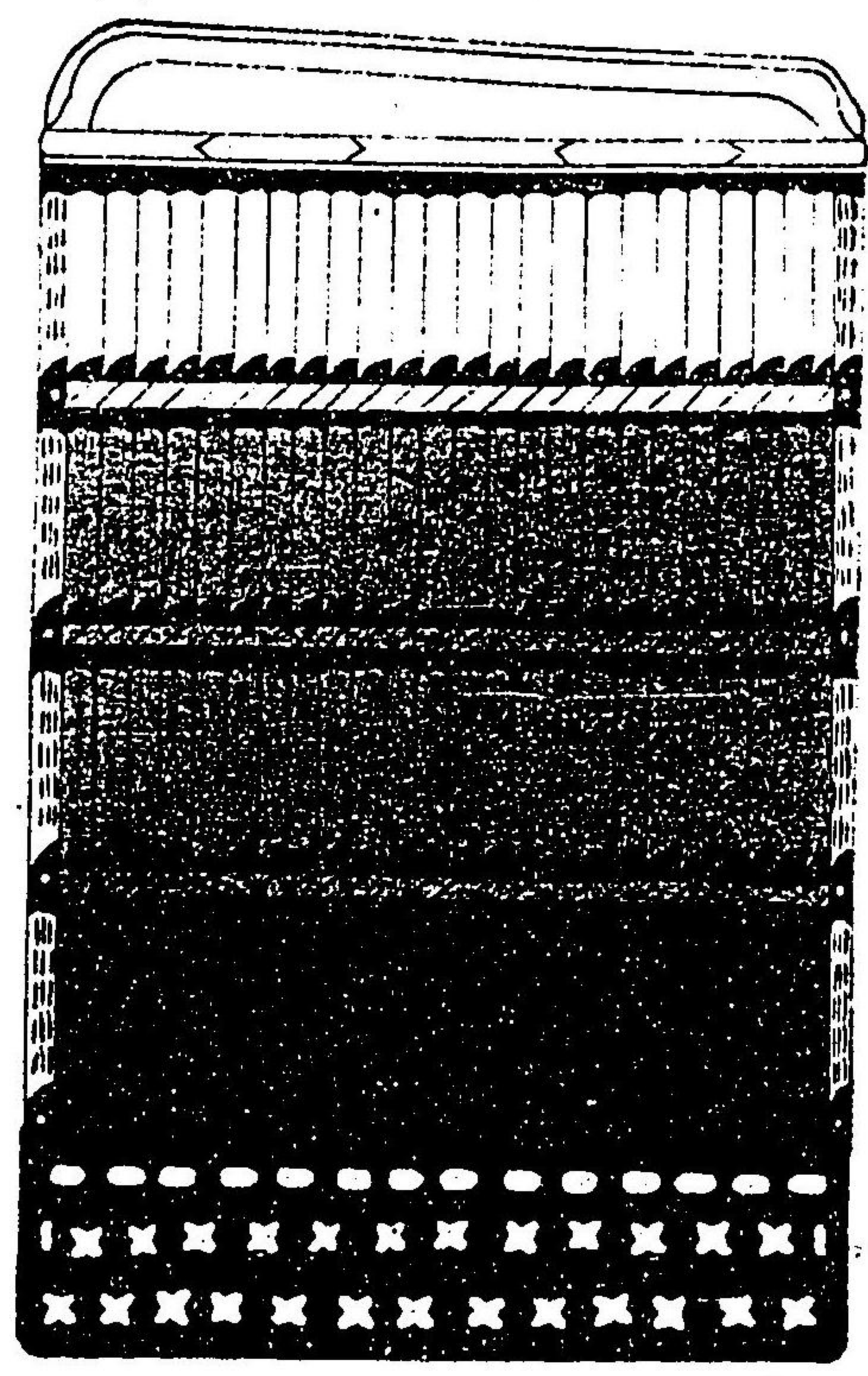


同 上 後三年 春日

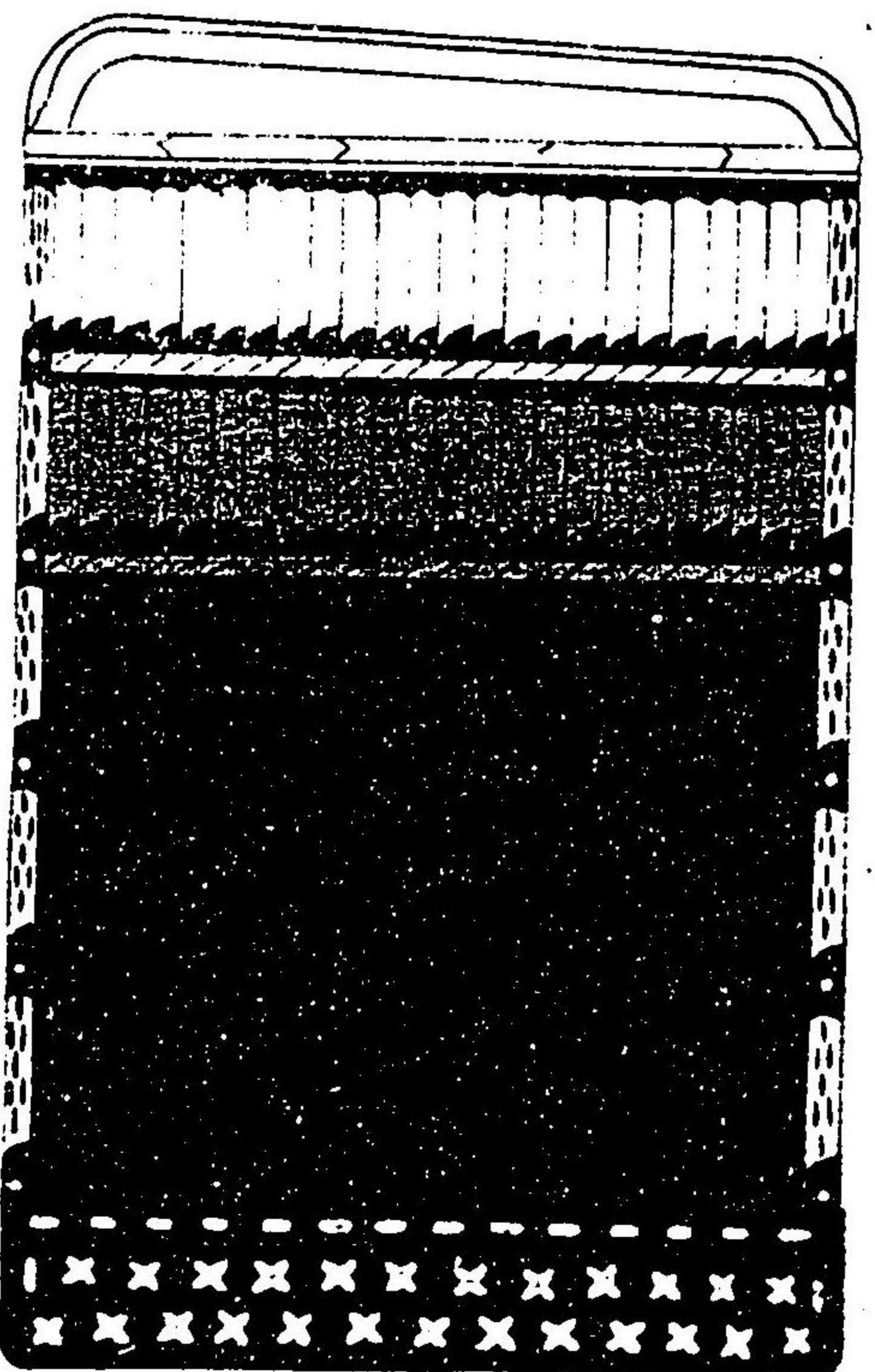


甲冑にぞやごとりやま紅ともやまきかかざるの  
説ありまこれども既に紺下濃ありはるく古きよも  
いろのすきこりんえけまはえ愛に萌木の下濃を世し  
ぬ他の色もあまふまきり力歎  
又名のきこさざるもねいとも異製と称して亦その  
次不出しぬ

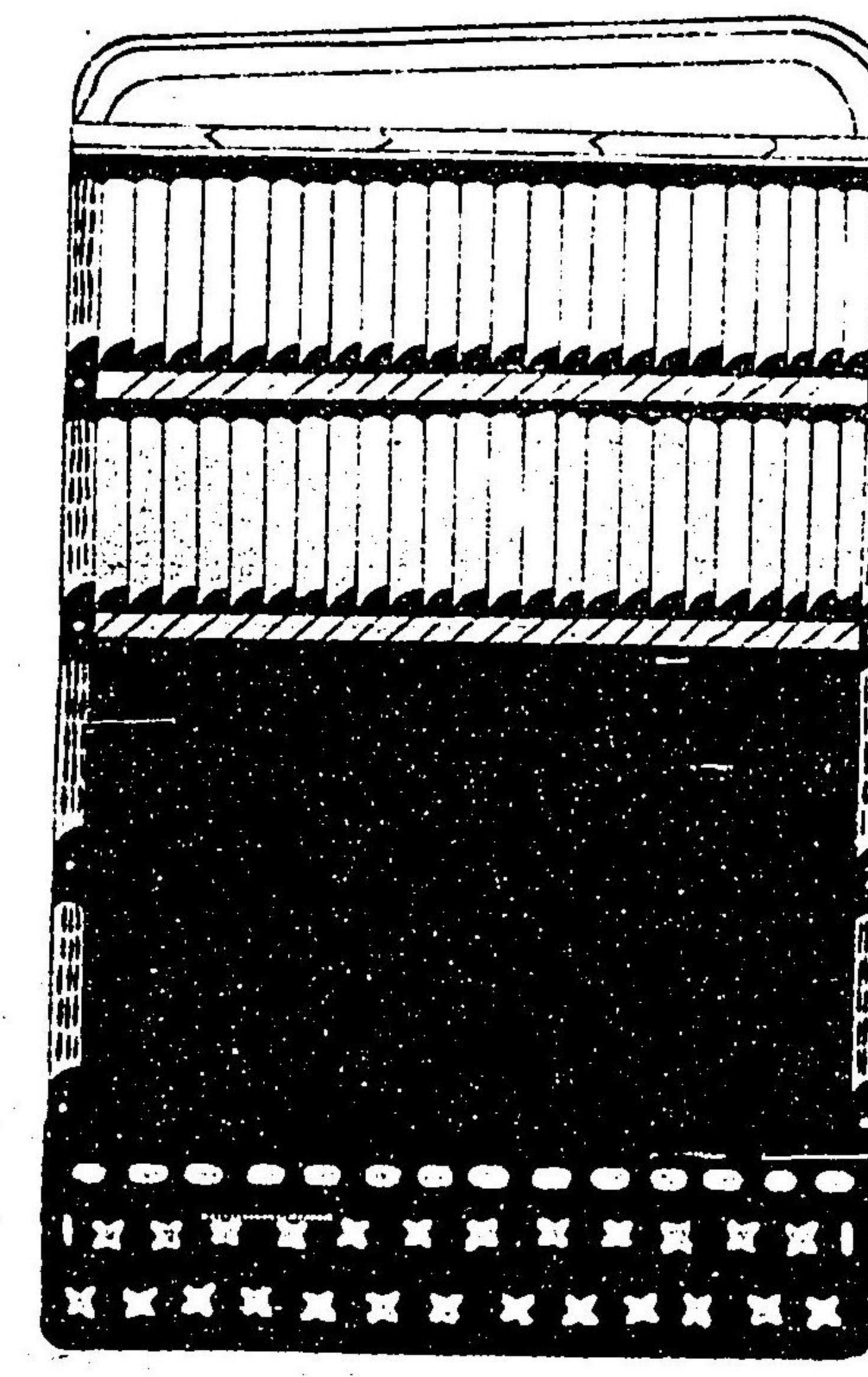
同 上 蒙古



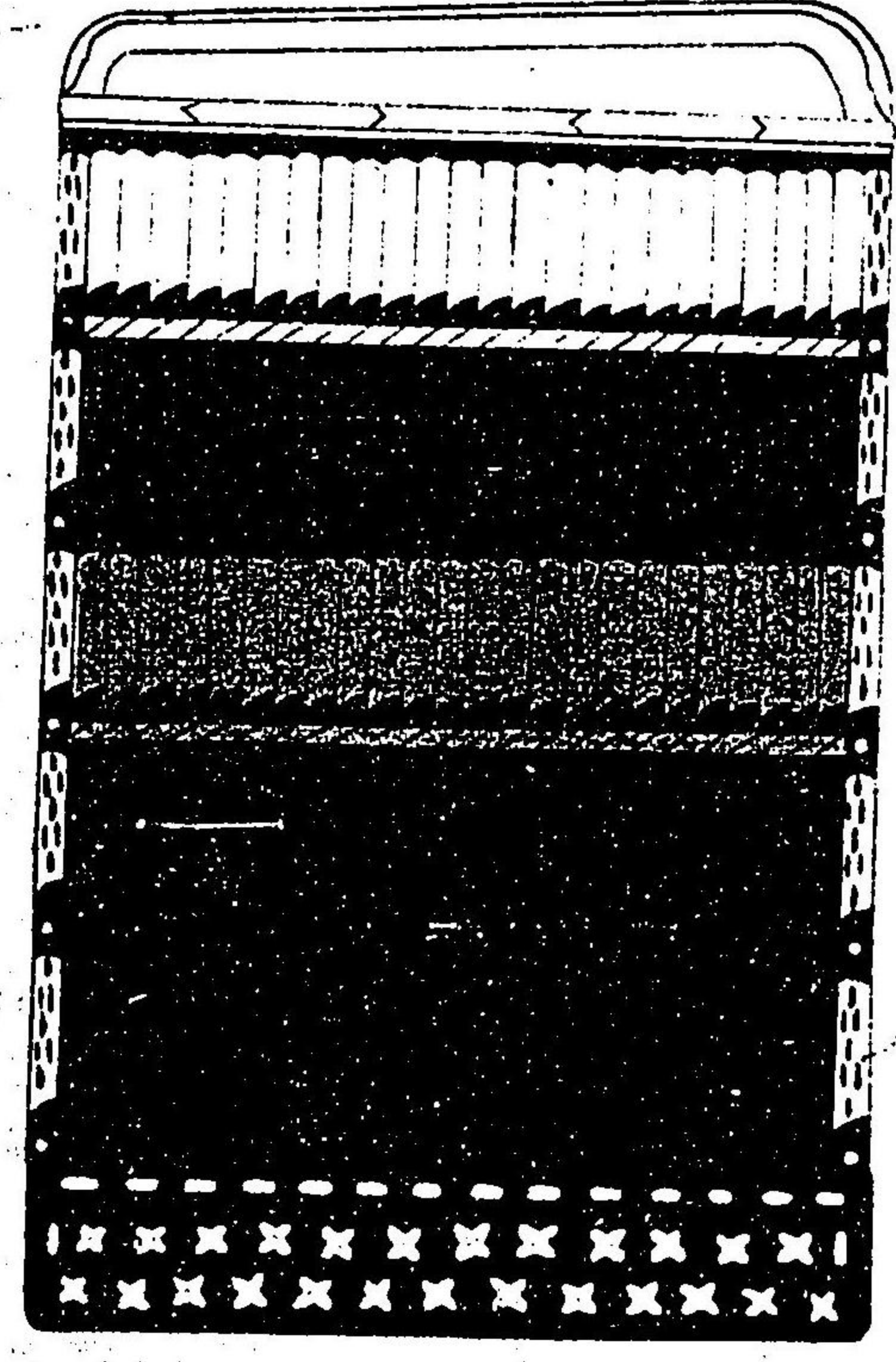
同 上 清水寺



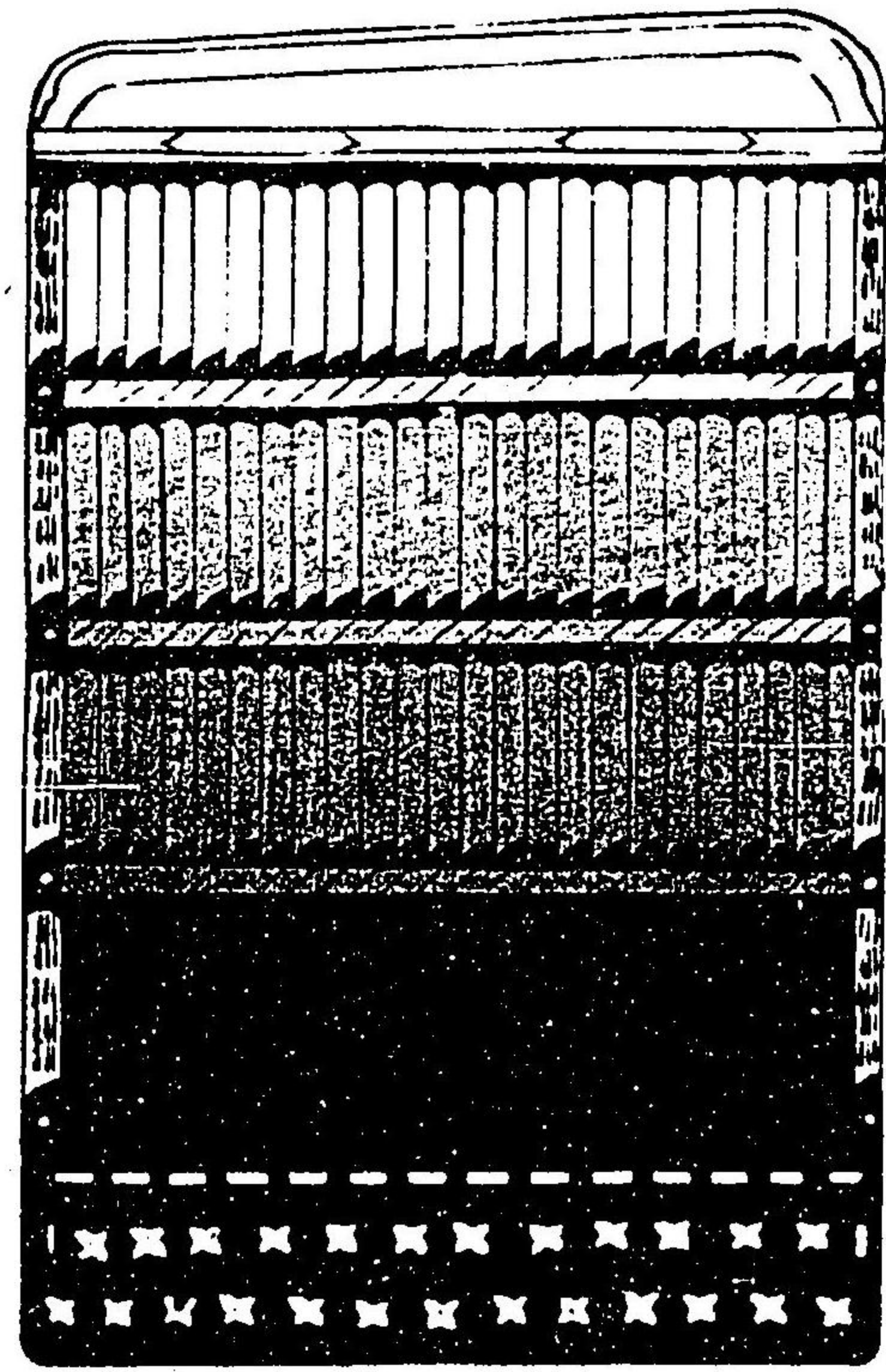
同 異 製 表日 一 遍上人画



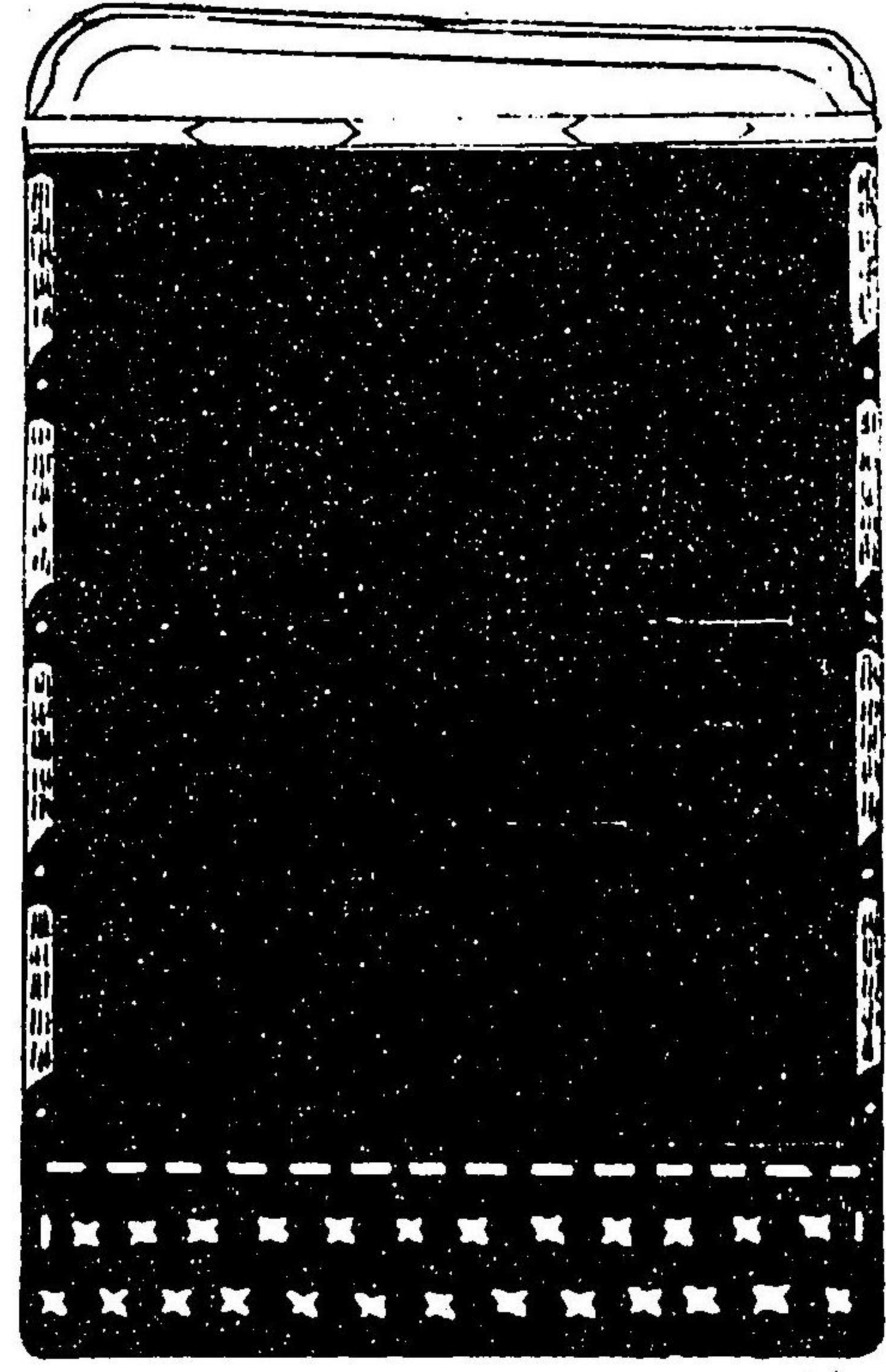
同 上 前九年画



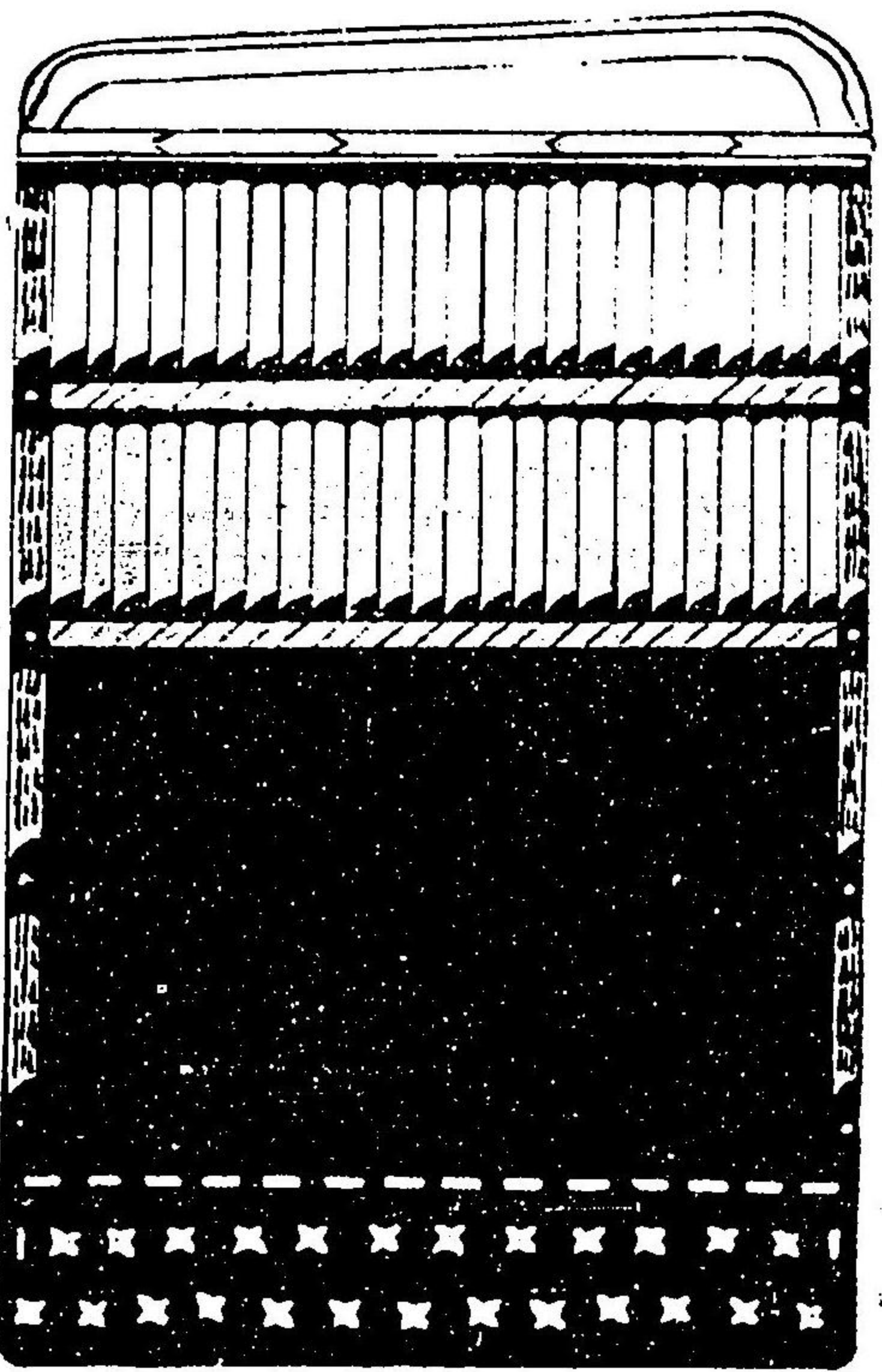




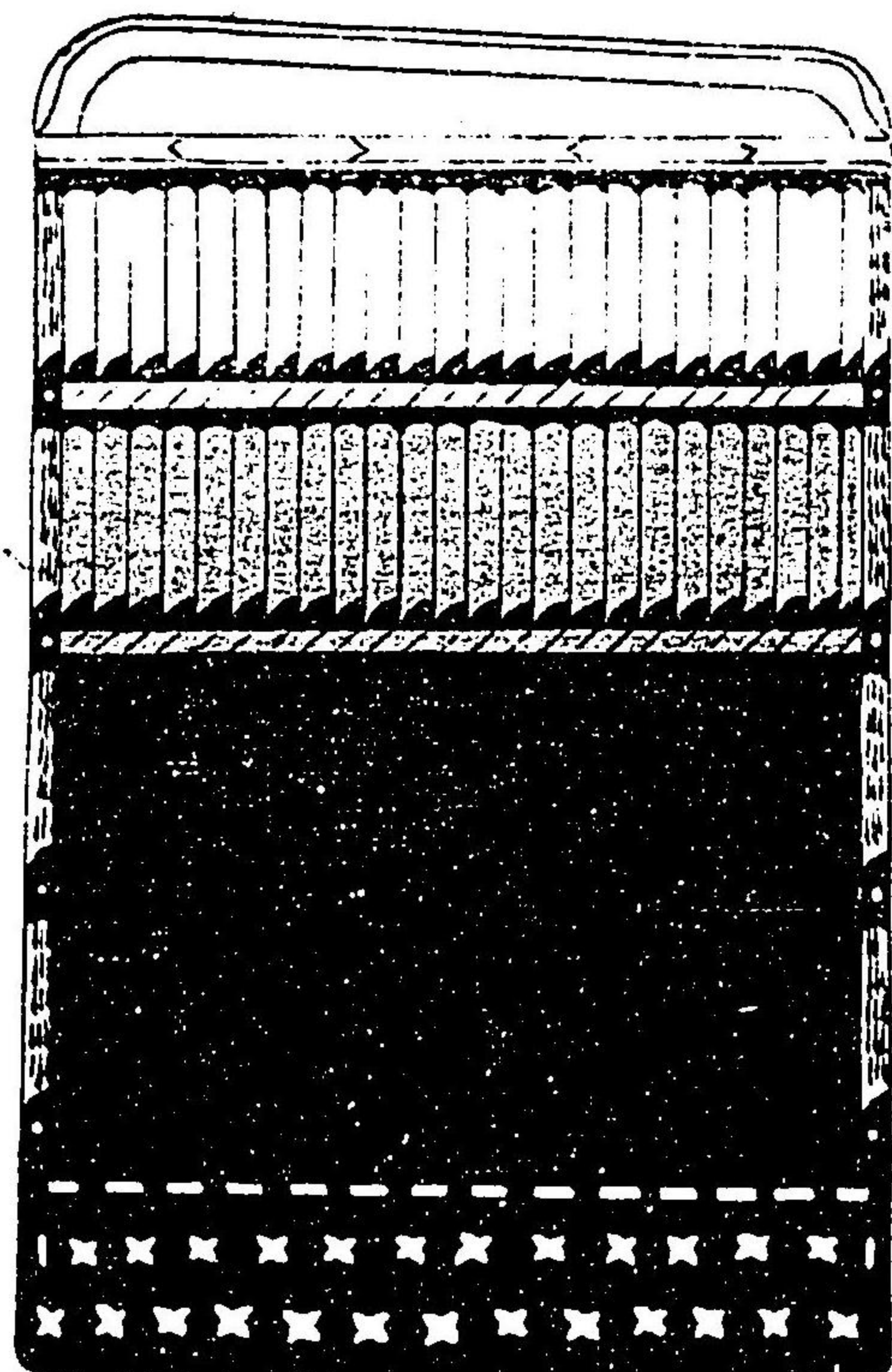
同上 / 表日



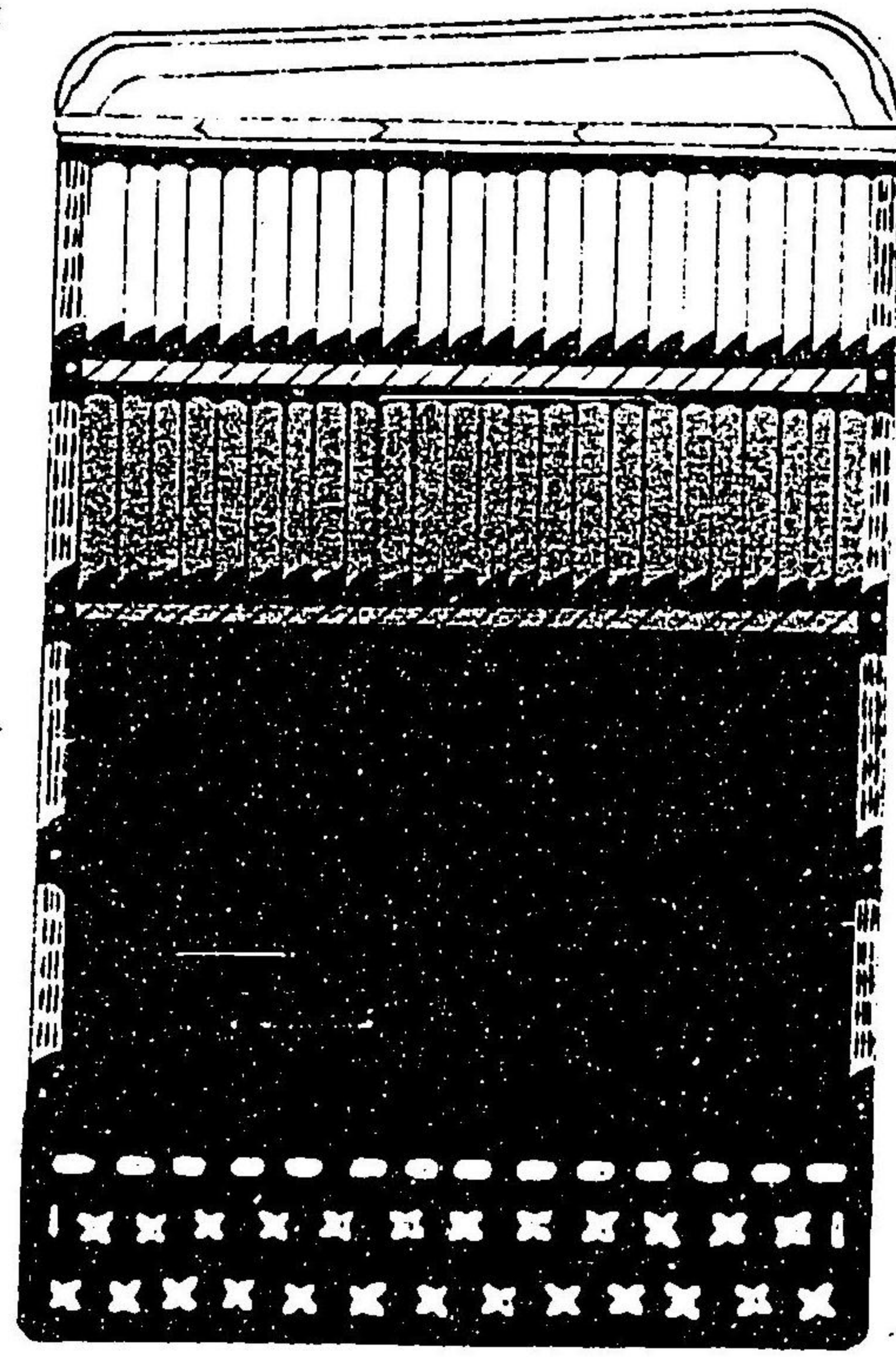
同上 / 保元平治画



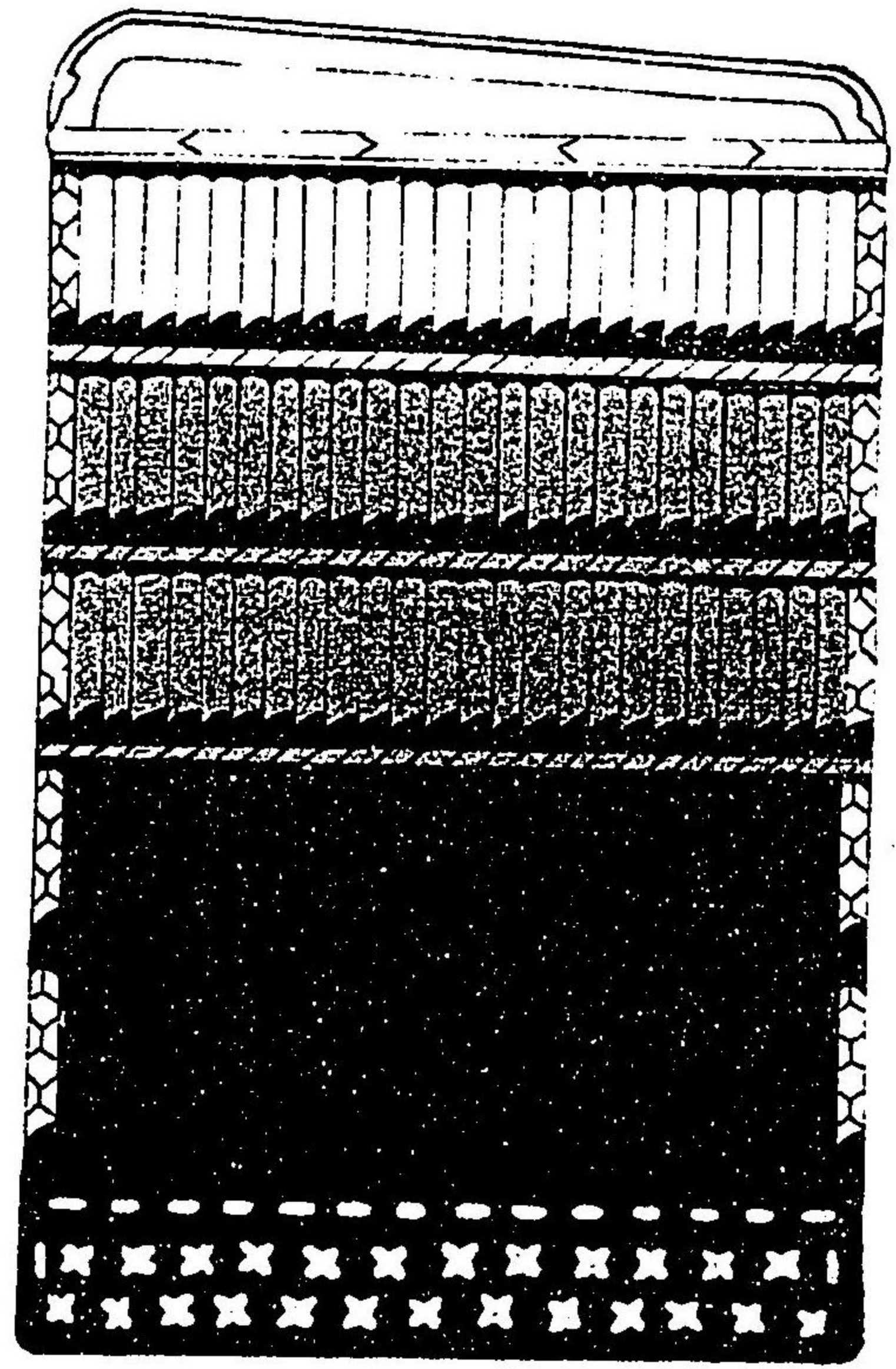
同上 / 或家平治画



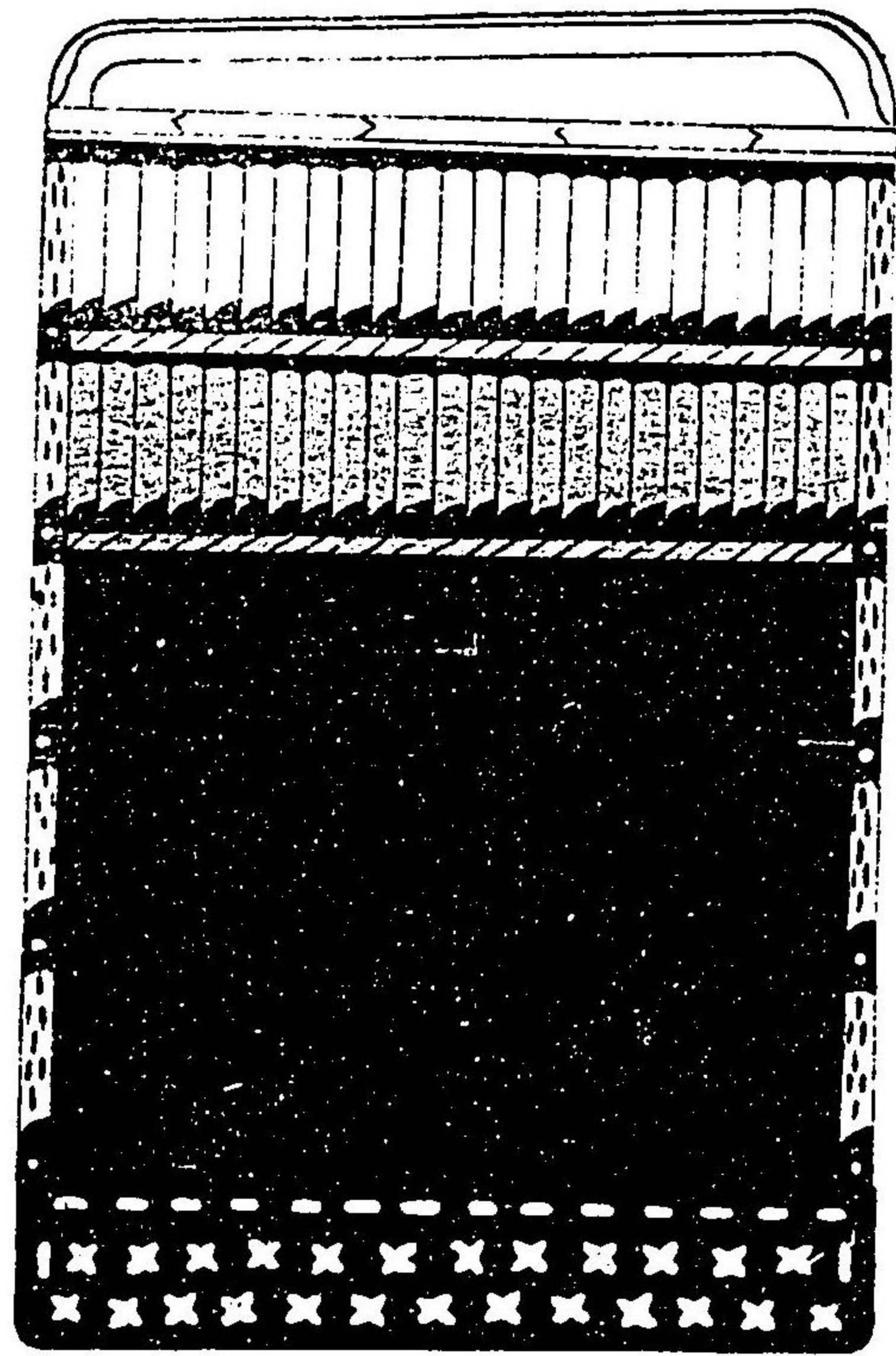
同上 / 後三年平治画



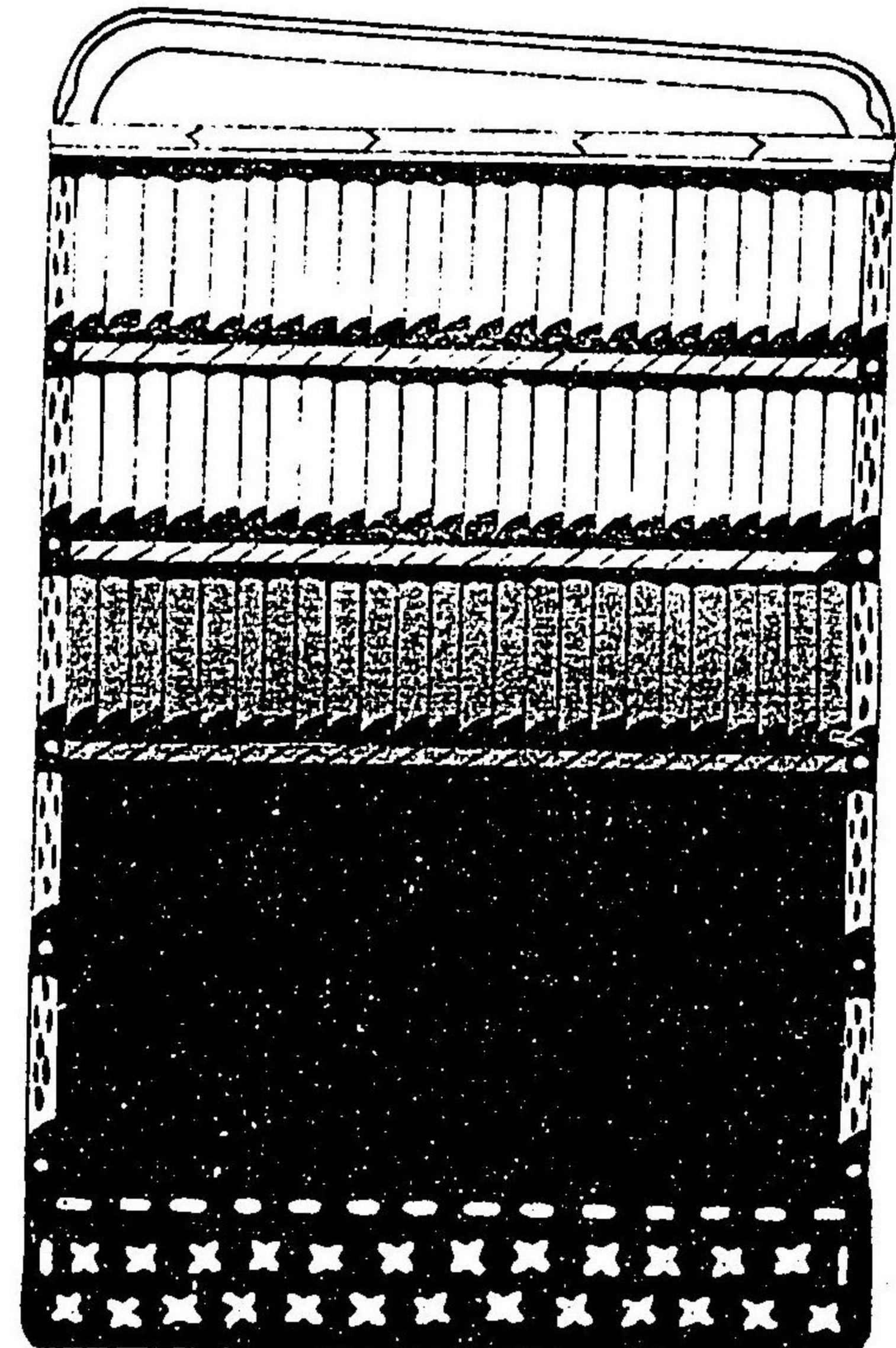
同上 / 同



同上 / 同

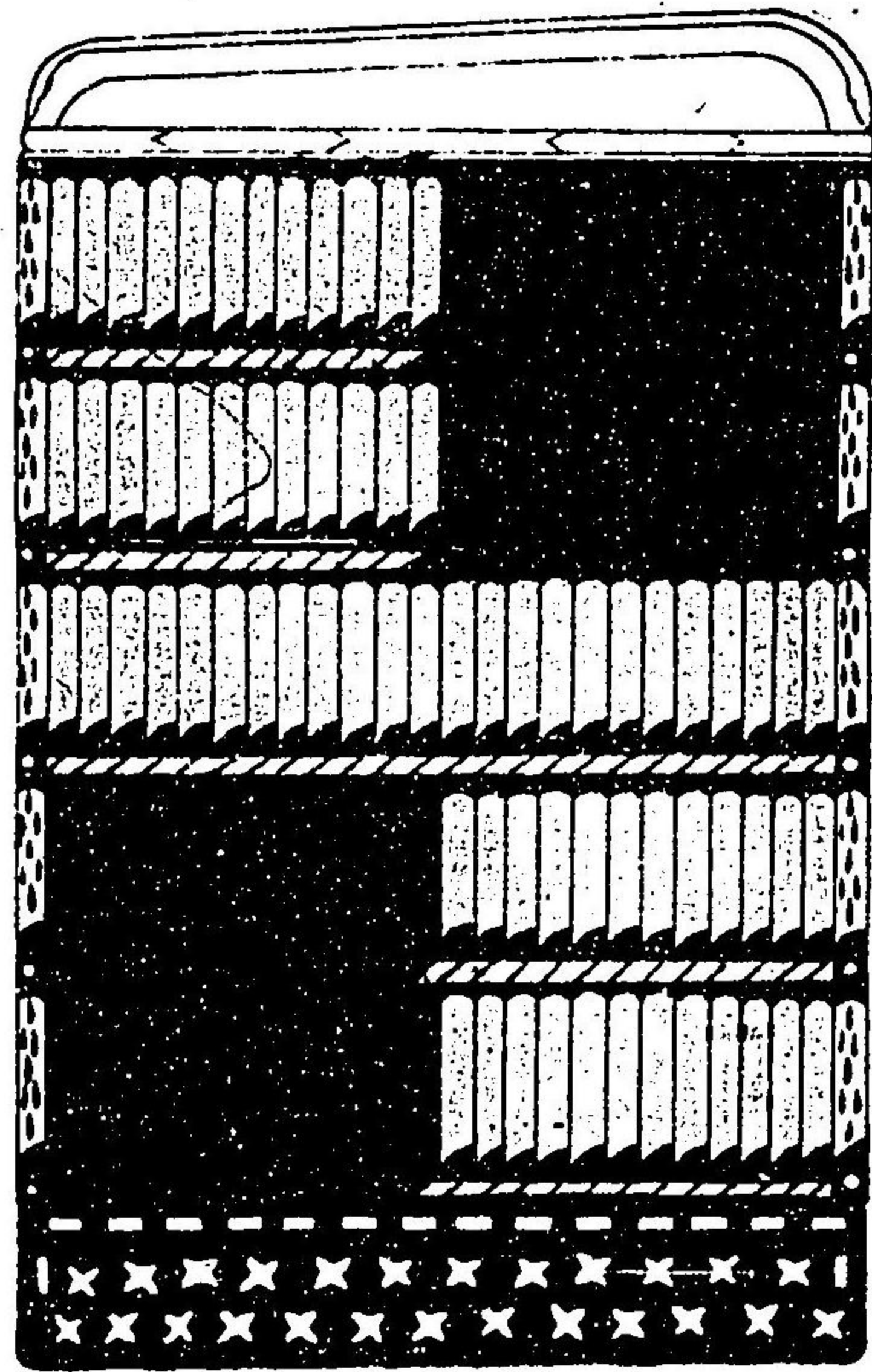


同上 / 蒙古

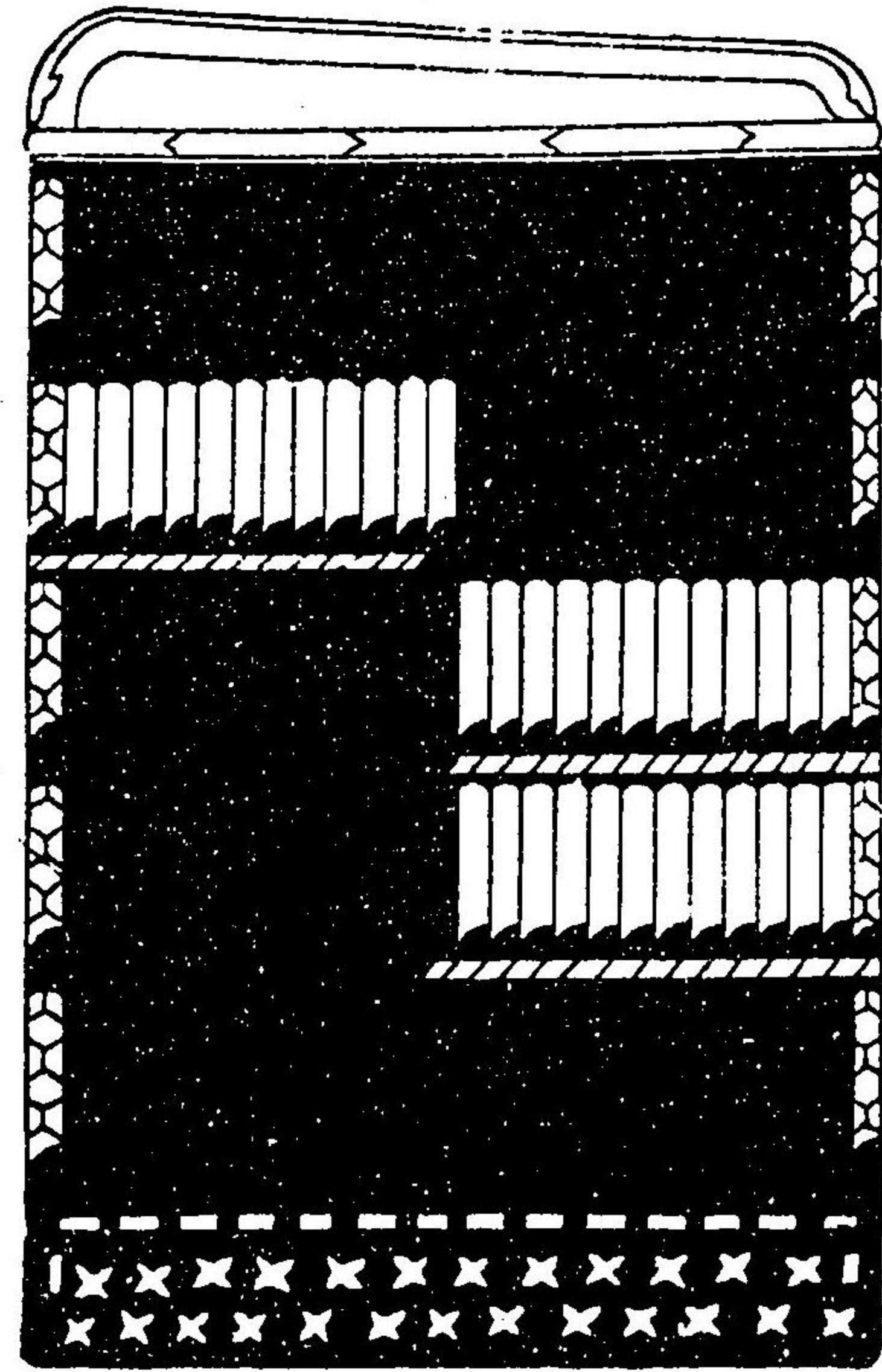


同上 / 同

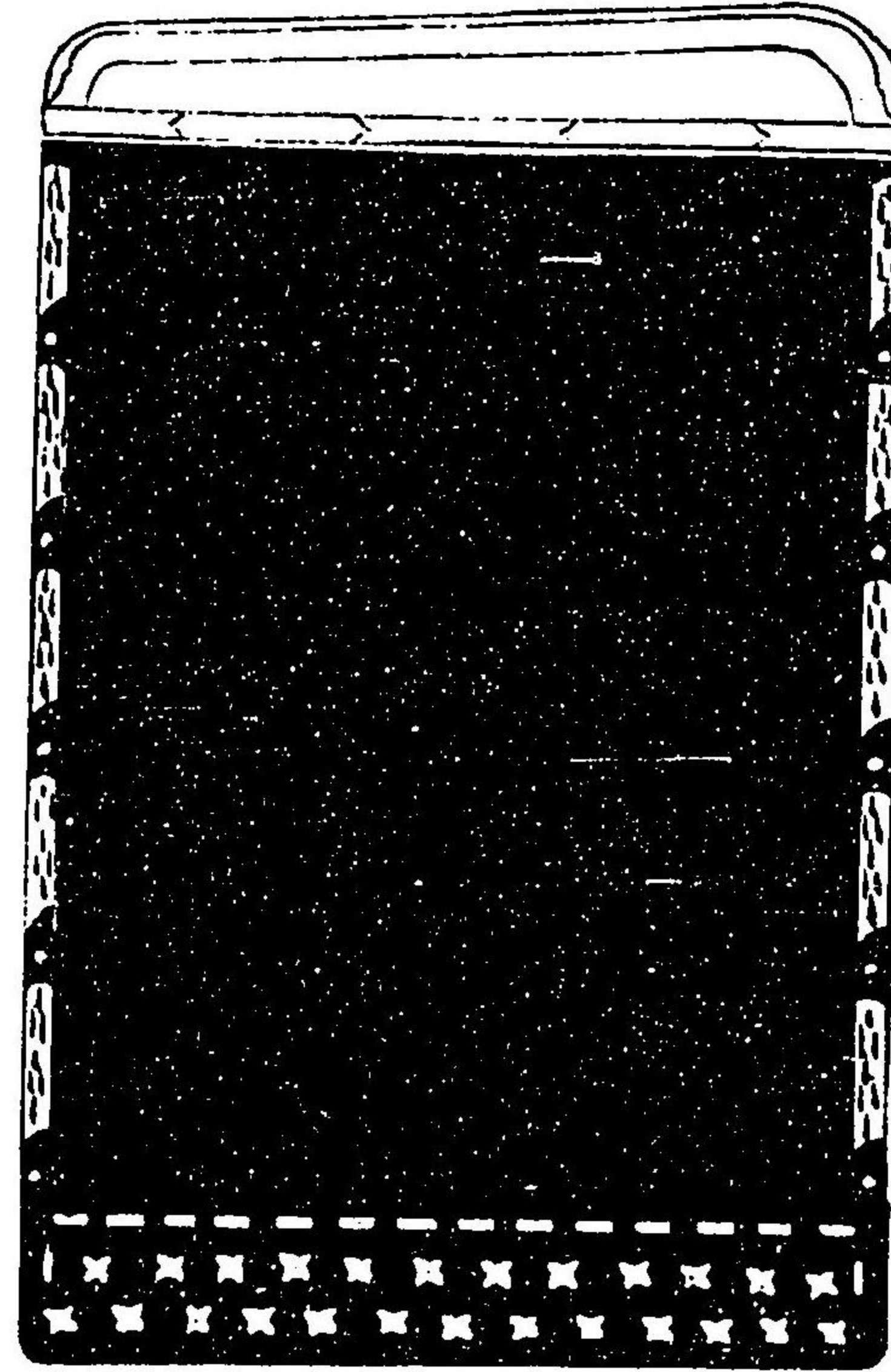




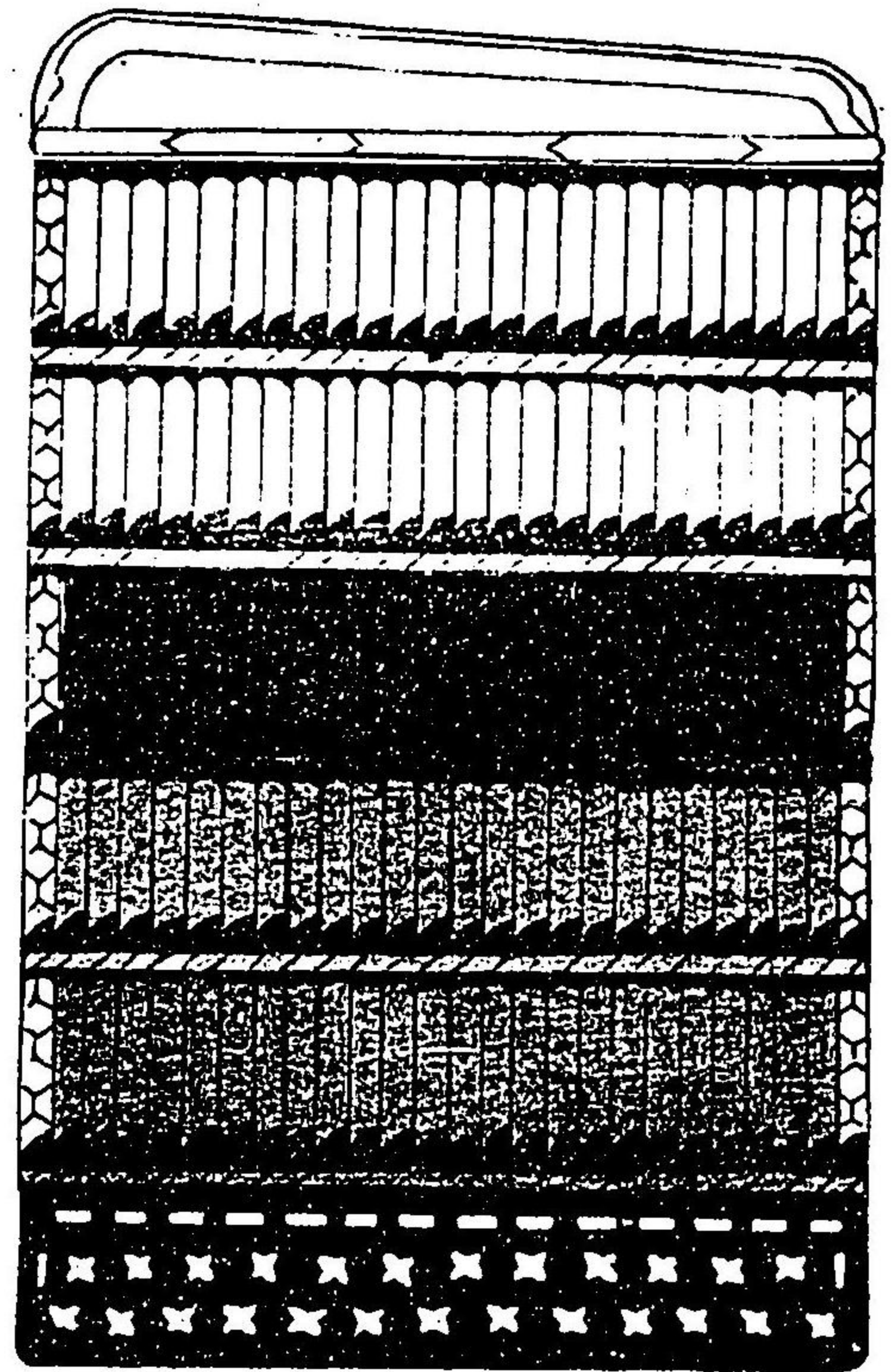
色々の村濃 伴大納言



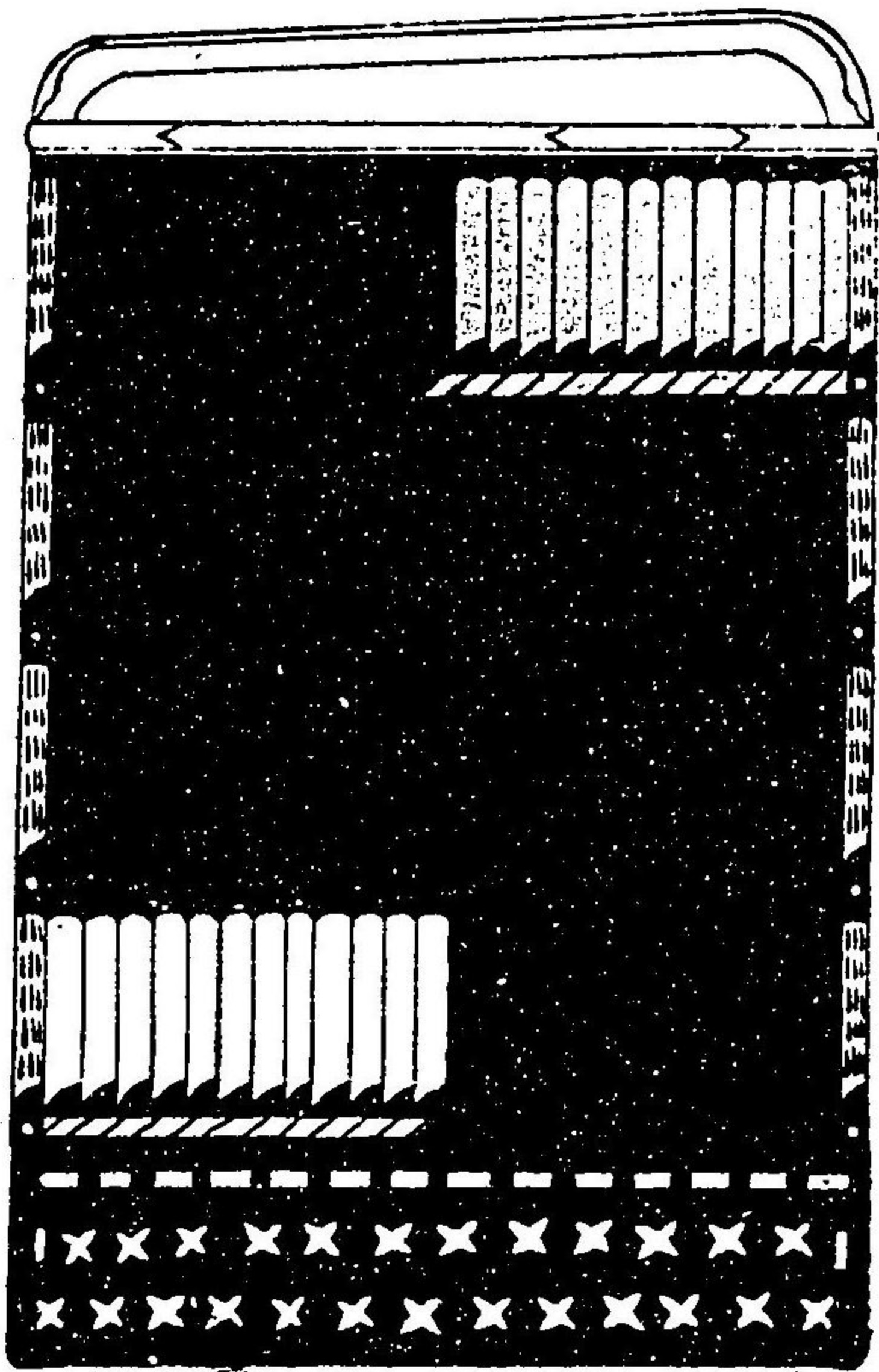
紺村濃 伴大納言画



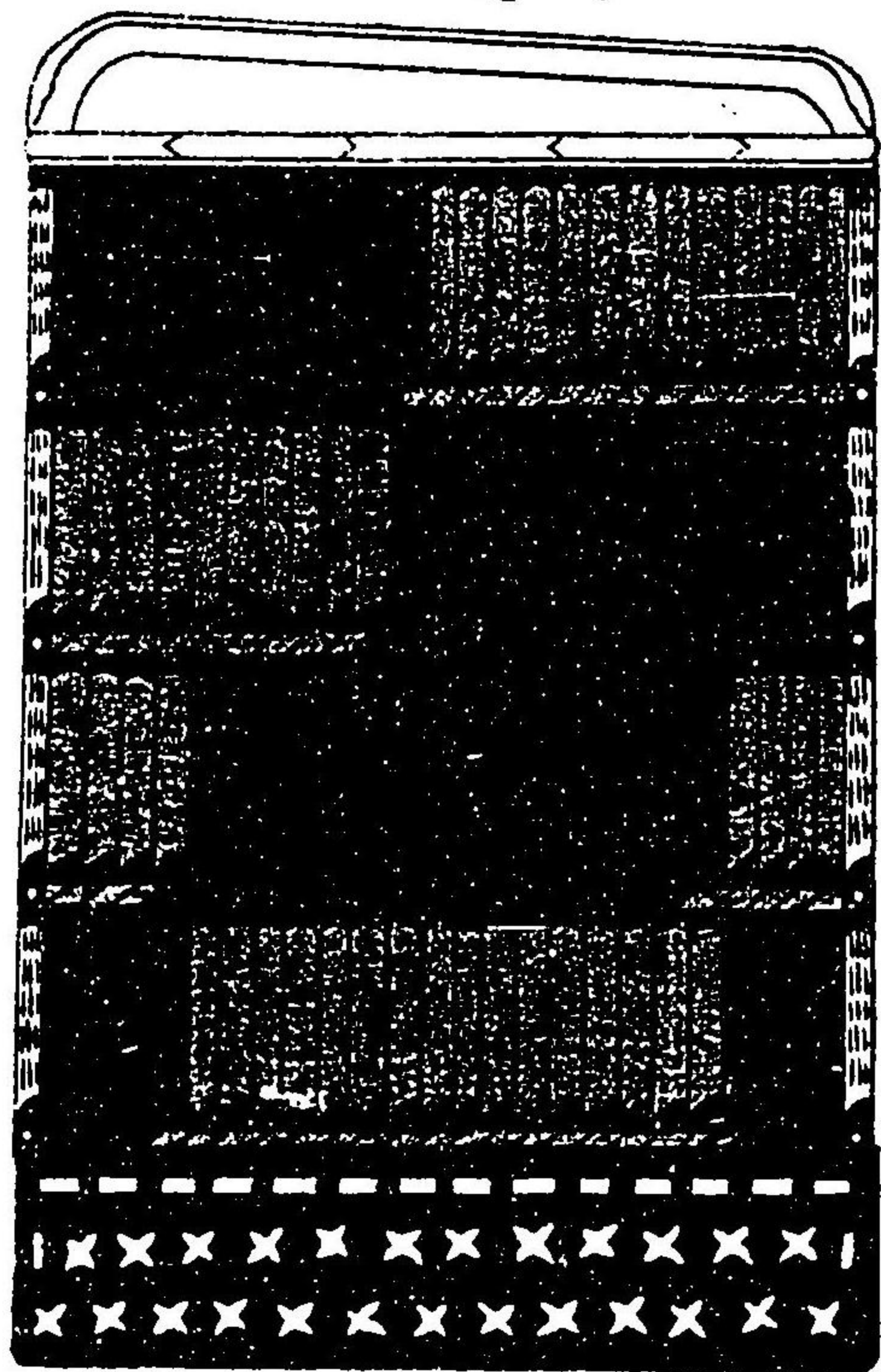
萌木唐綾坐紅



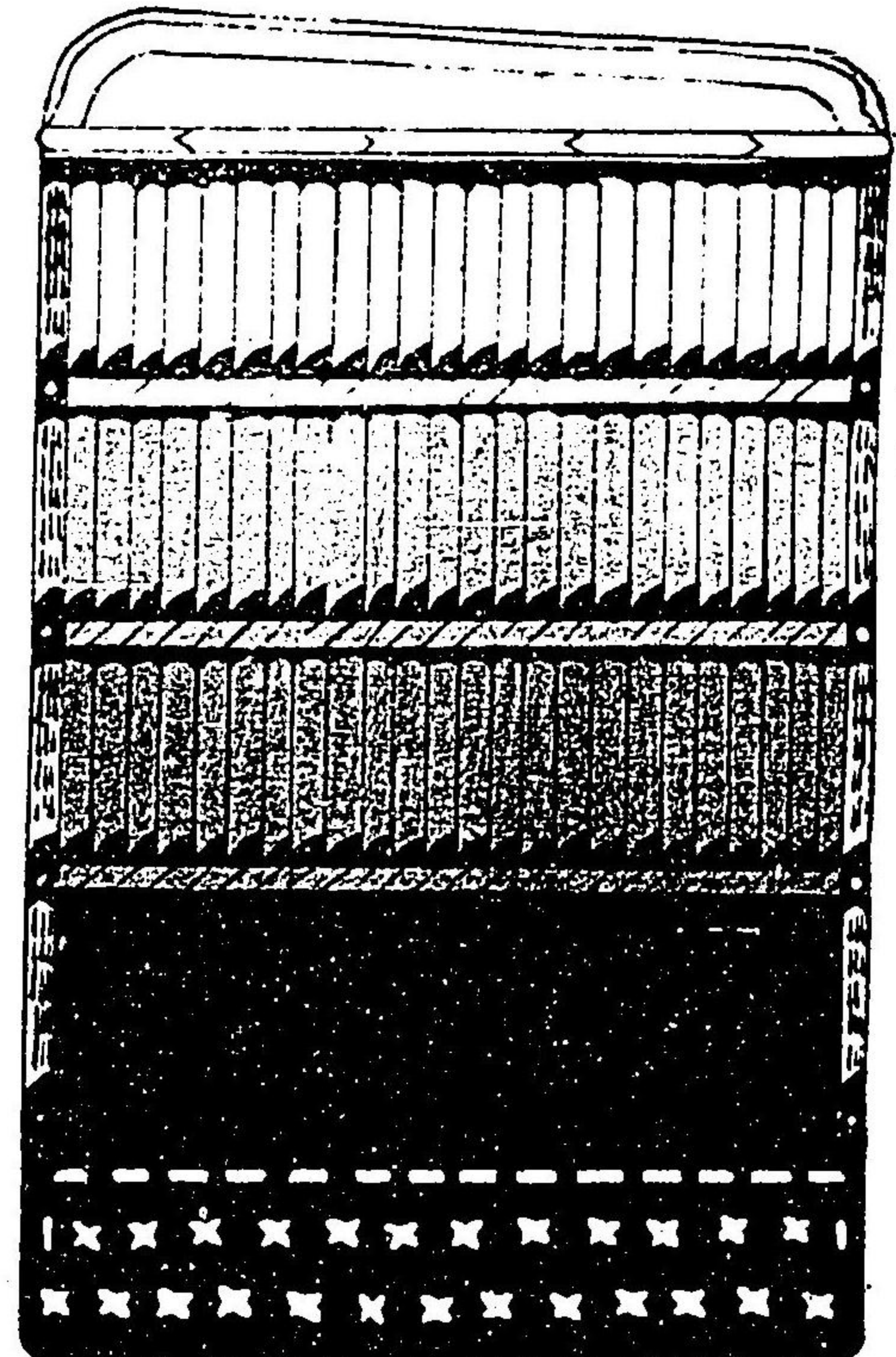
同上蒙古



同上春日

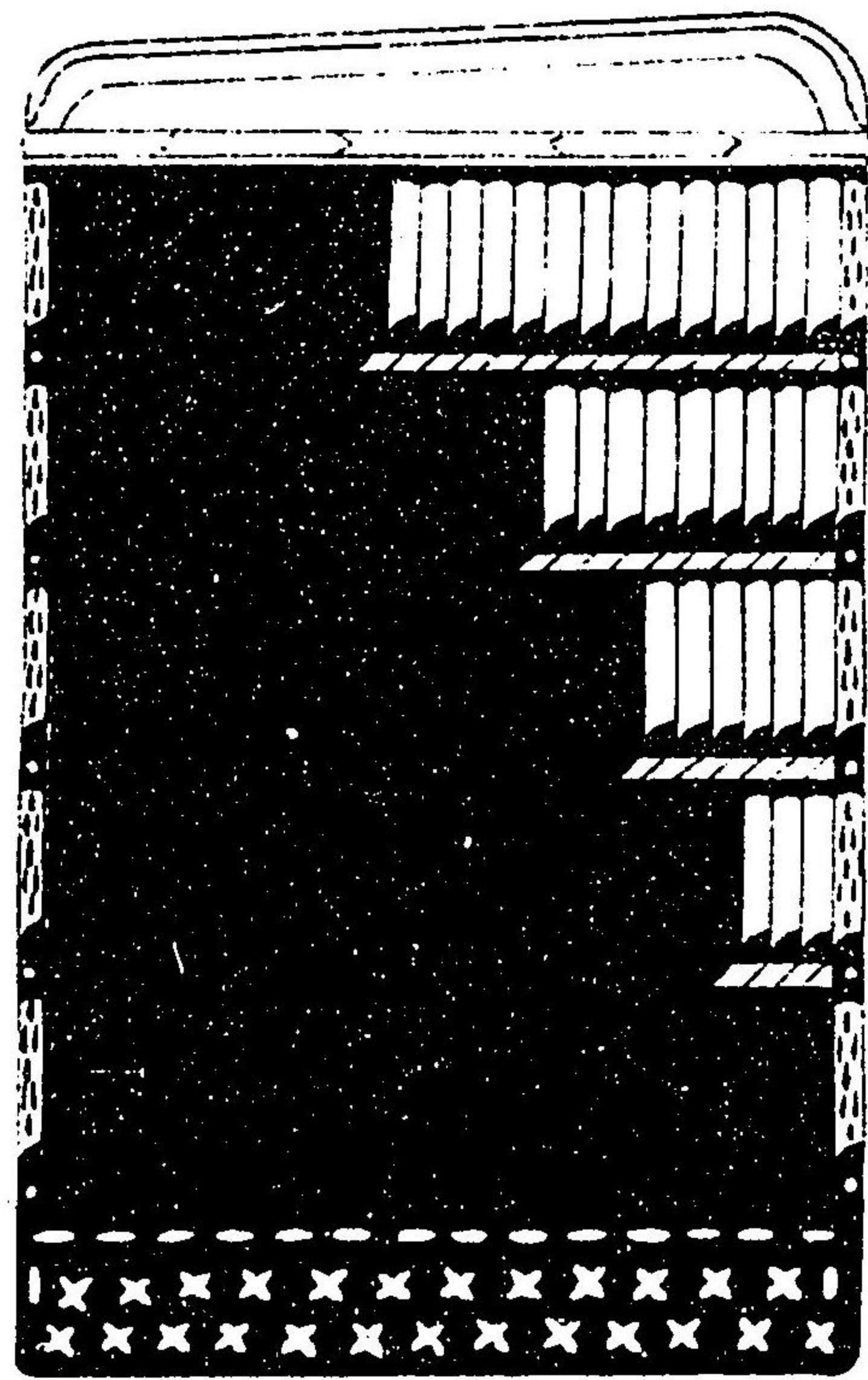


同上一説

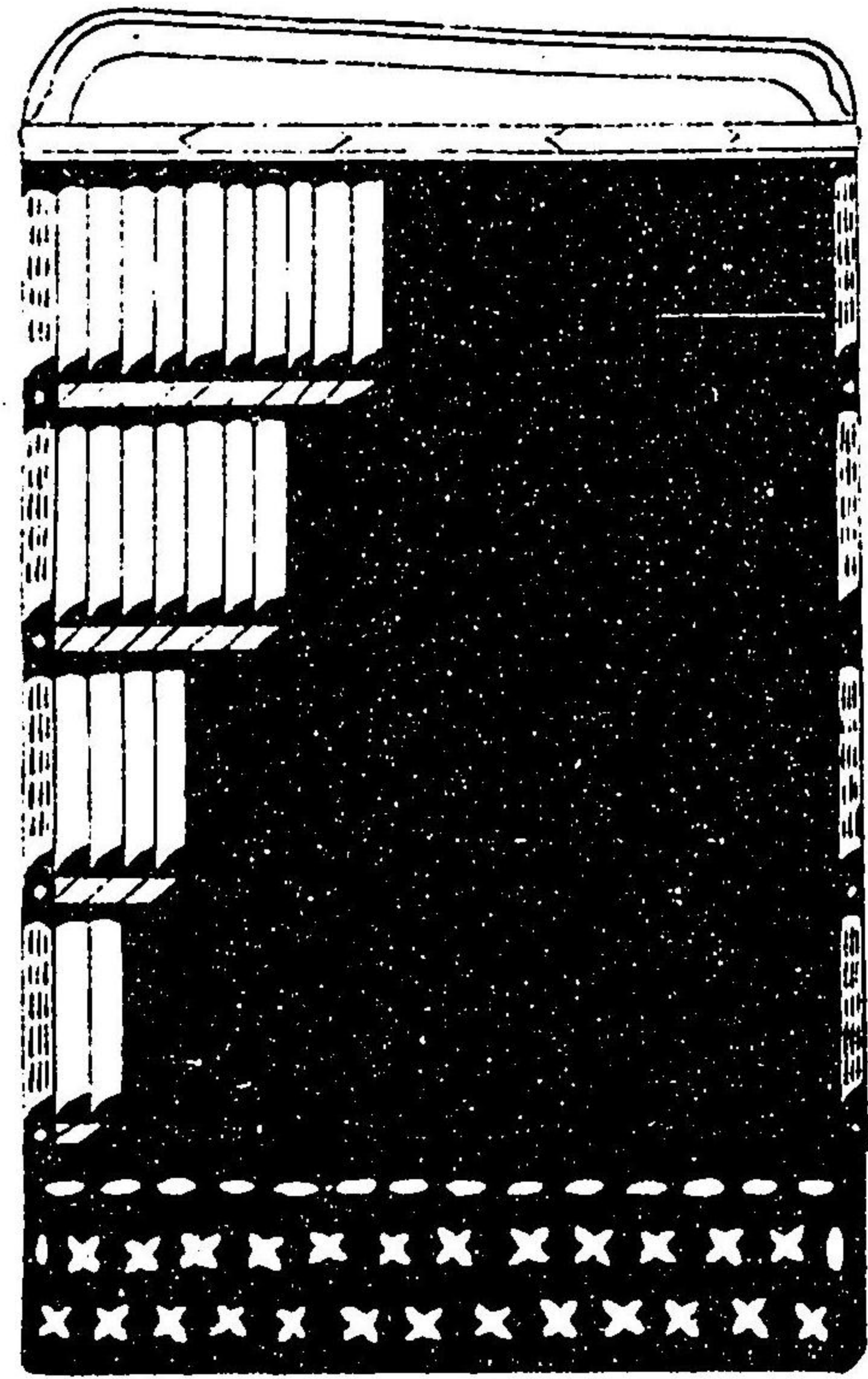


同上平妻日保元

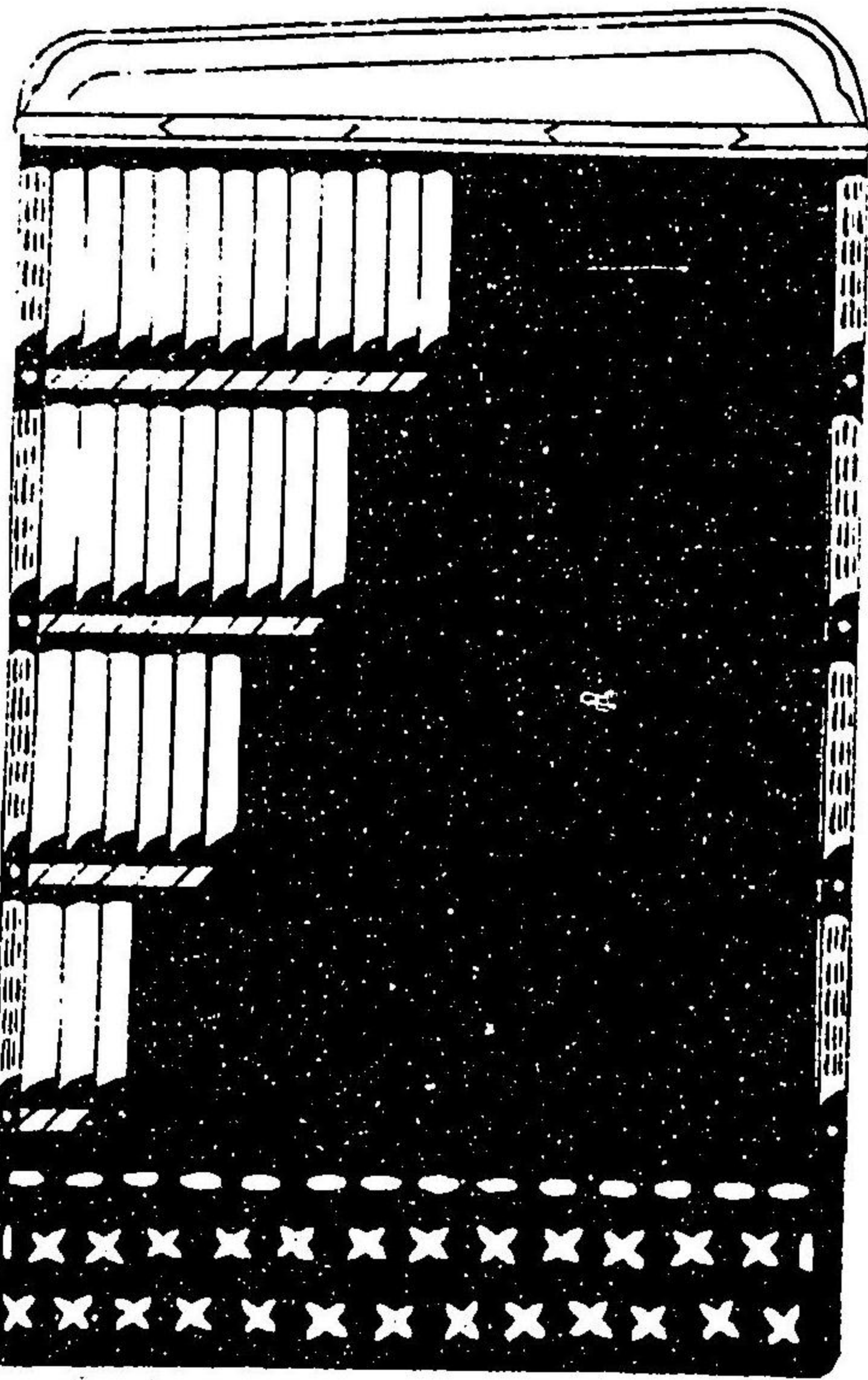




紫條肩白威

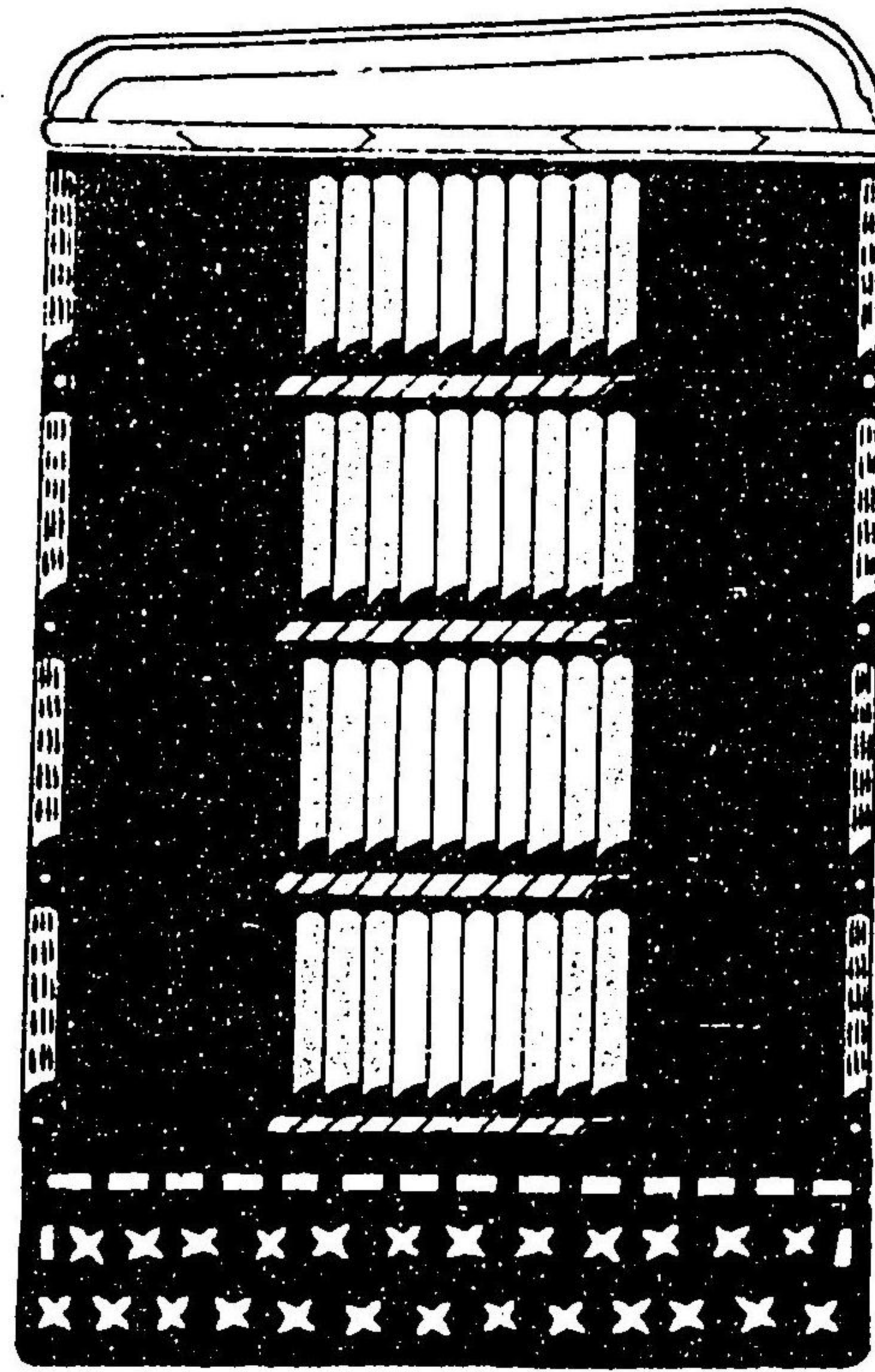


赤威肩白鏡



萌木條肩白威 平治元

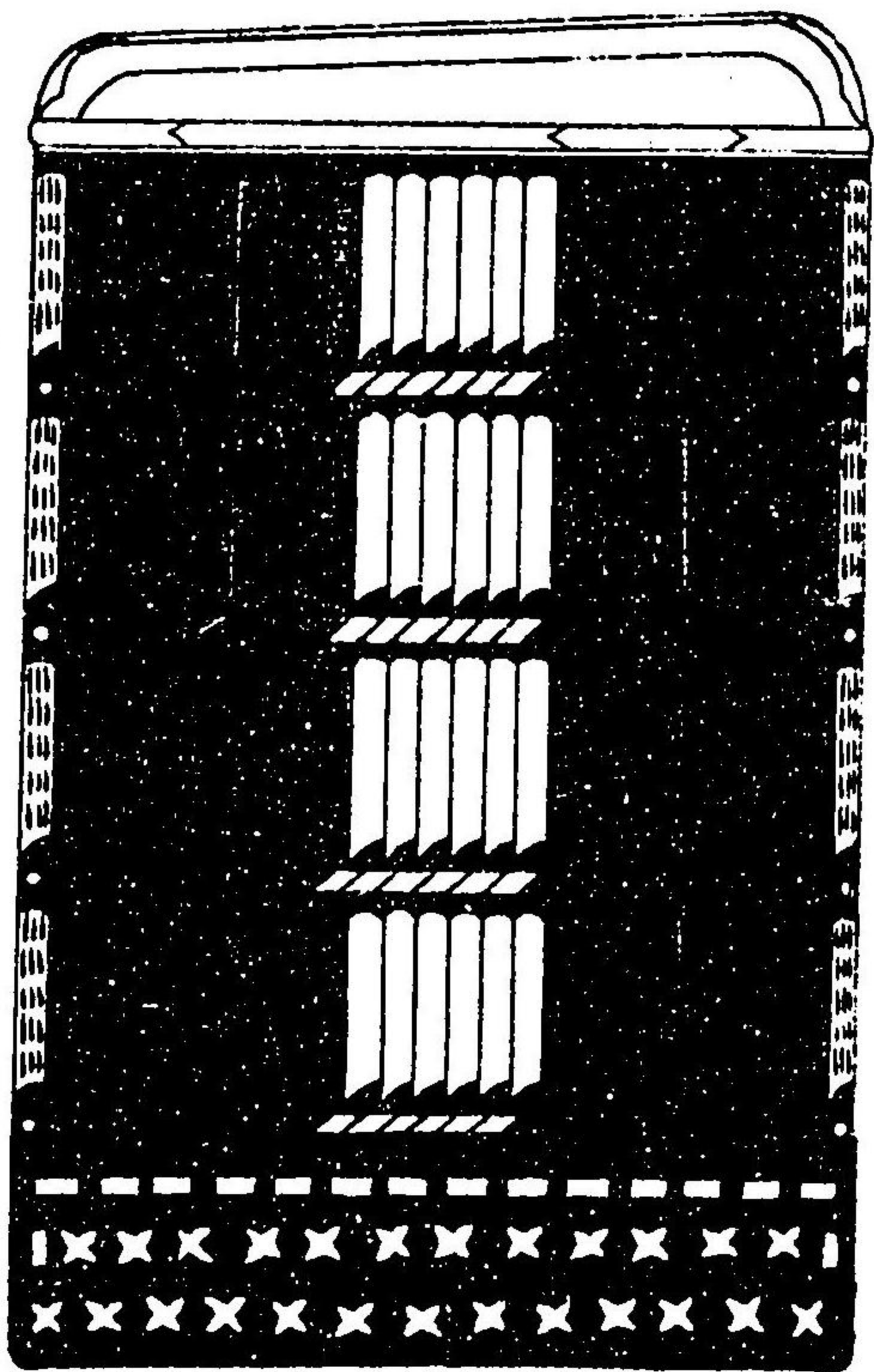
或ハ 赤華肩白  
かゝ白の袖の一二の板を白糸もてかゝりたるなり  
といふ説あり予ハ志す一とぞるものも見及まほし  
玉はあま人の説をて出さなり



耳坐滋ノ伴大納言

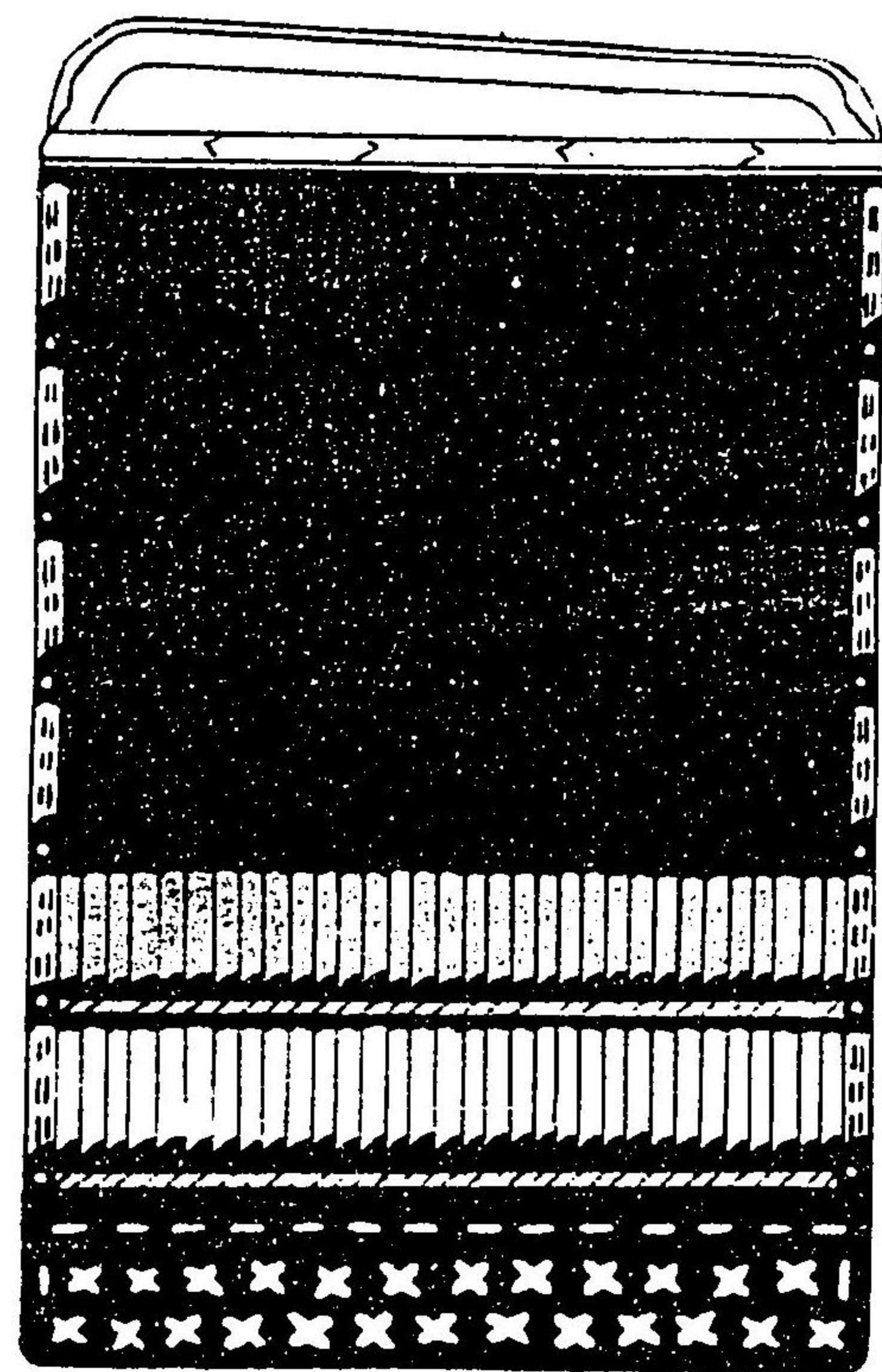


紫村濃一説

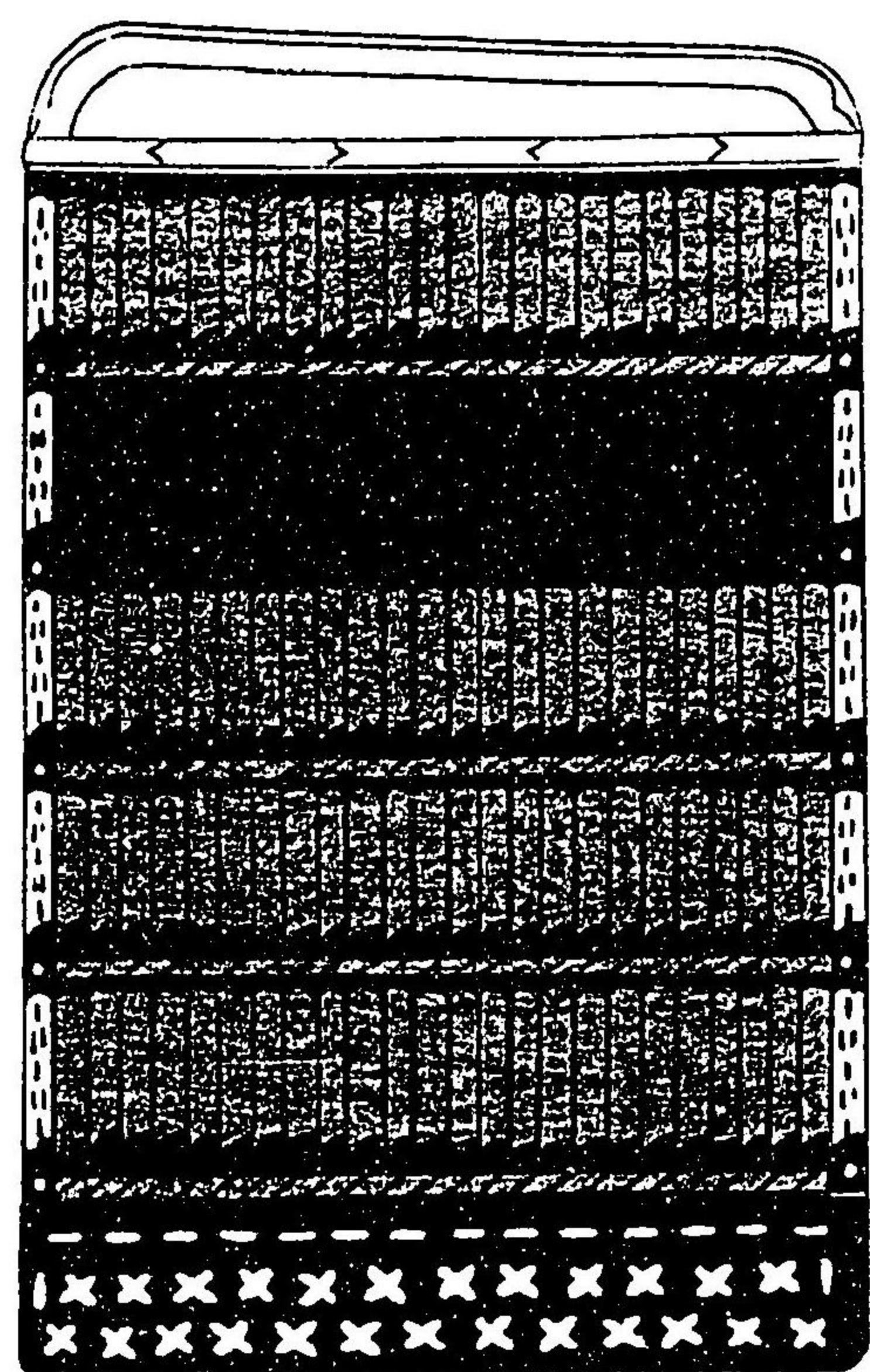


同上ノ後三年

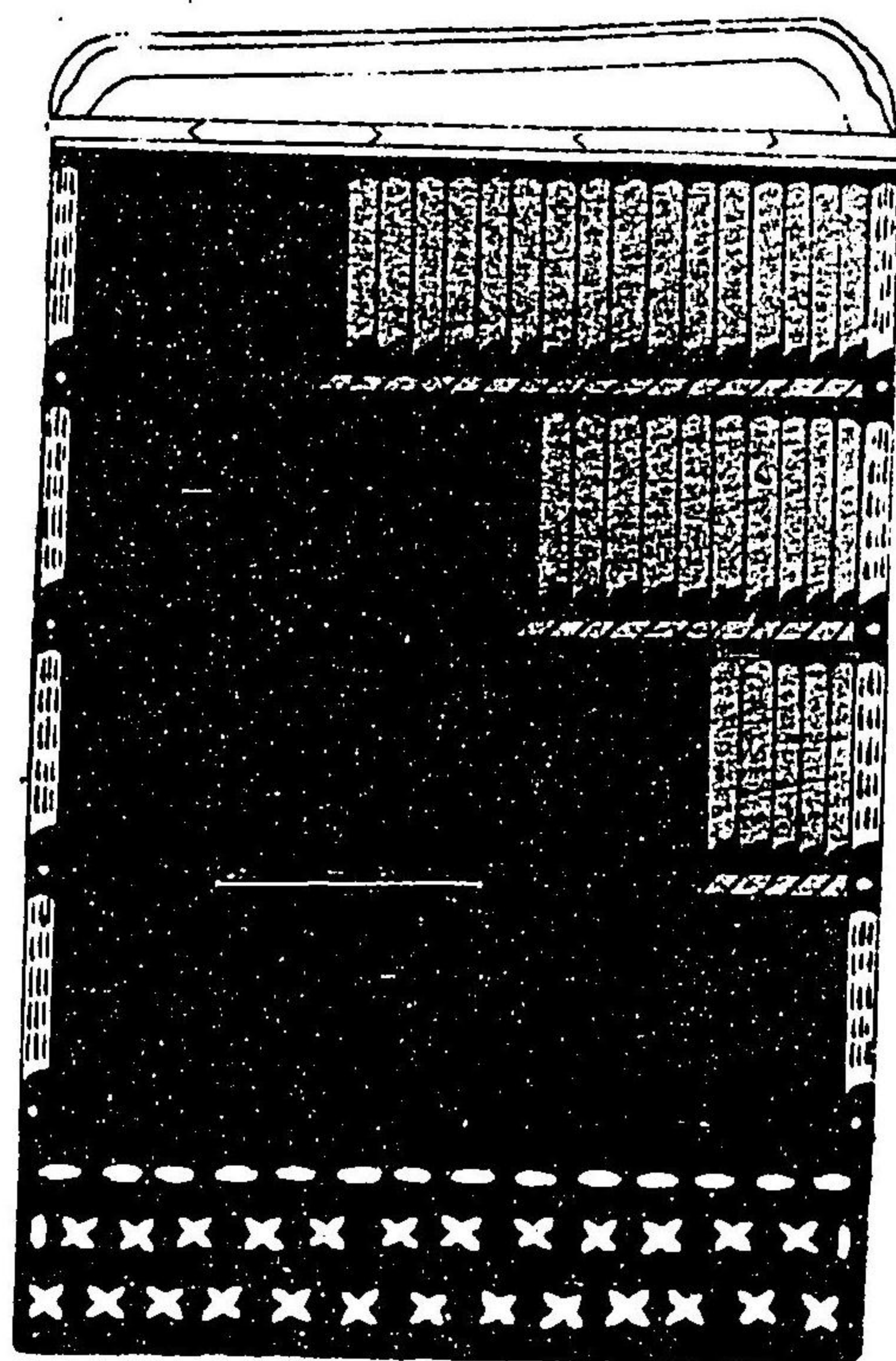




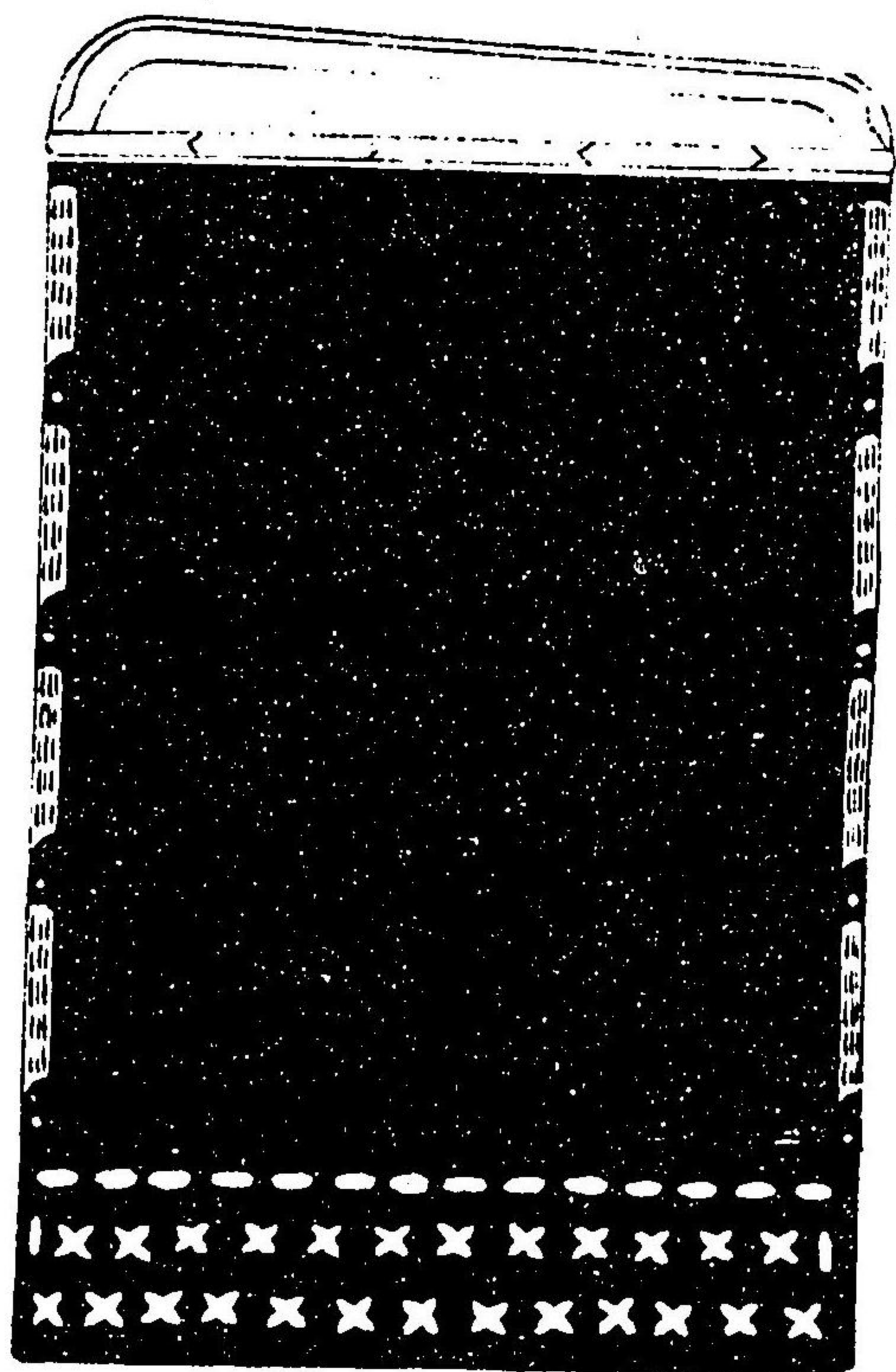
黒條威下紅端句鑑



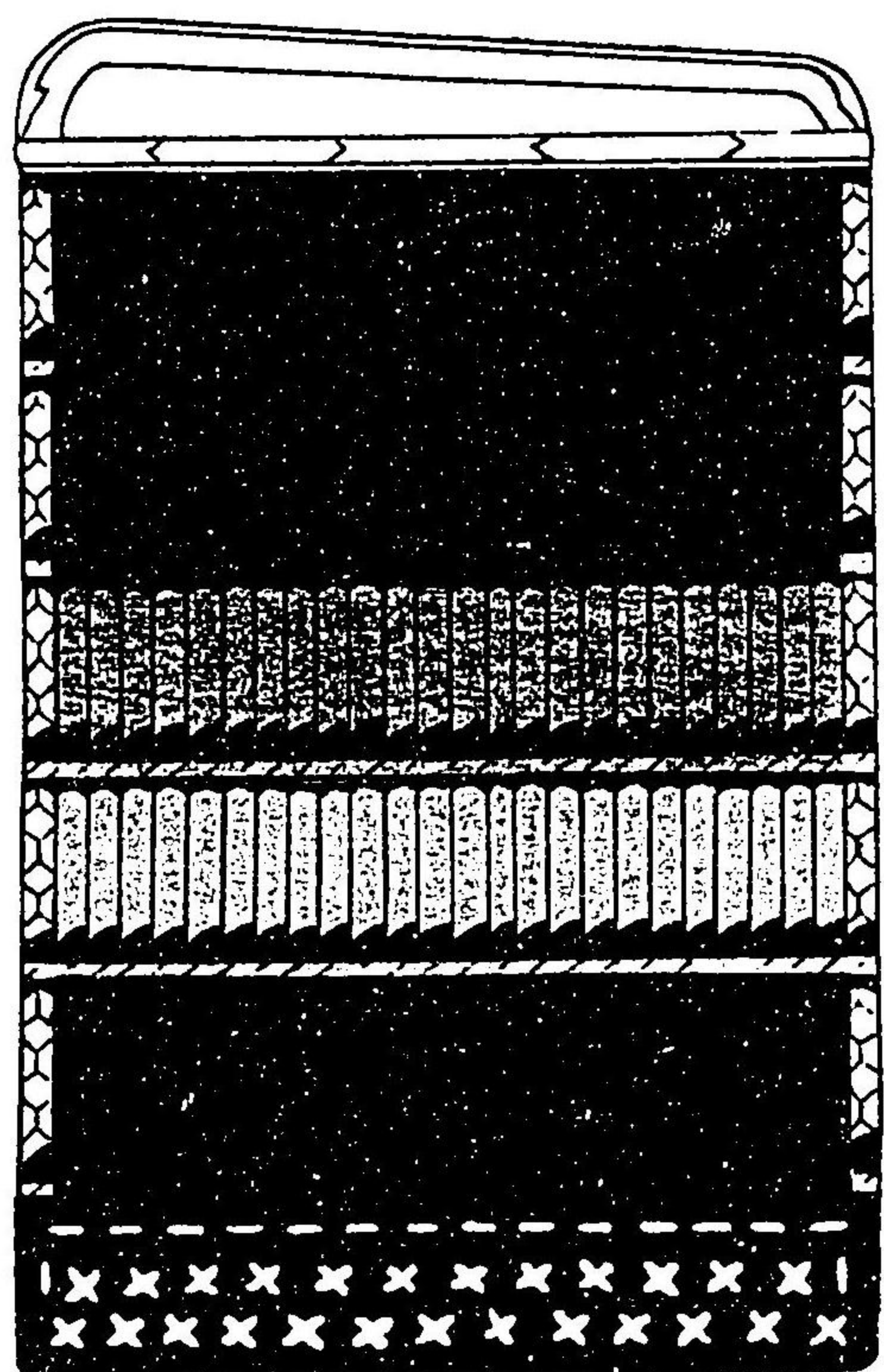
楯句威 清水寺



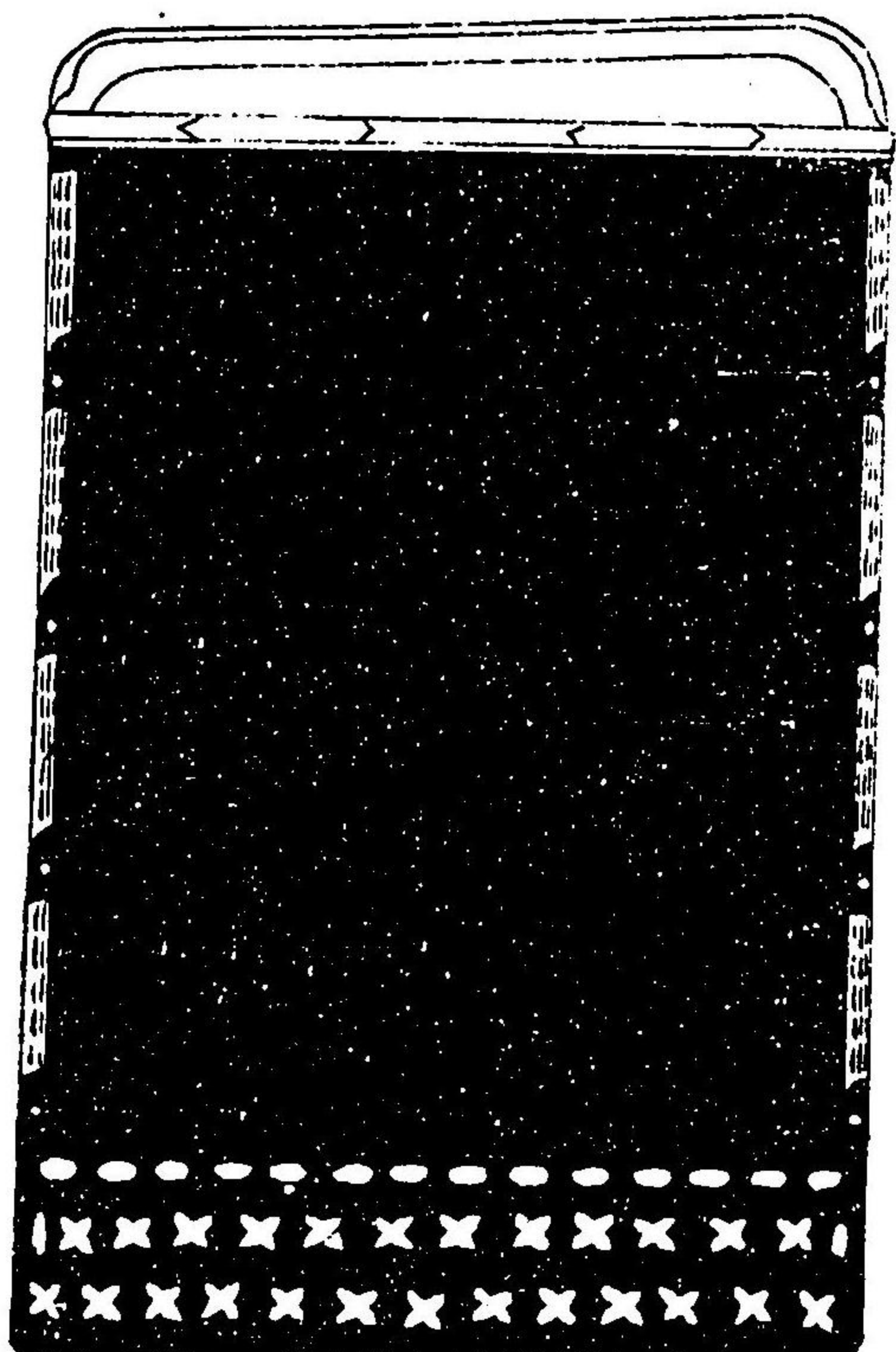
黒華肩淺木威



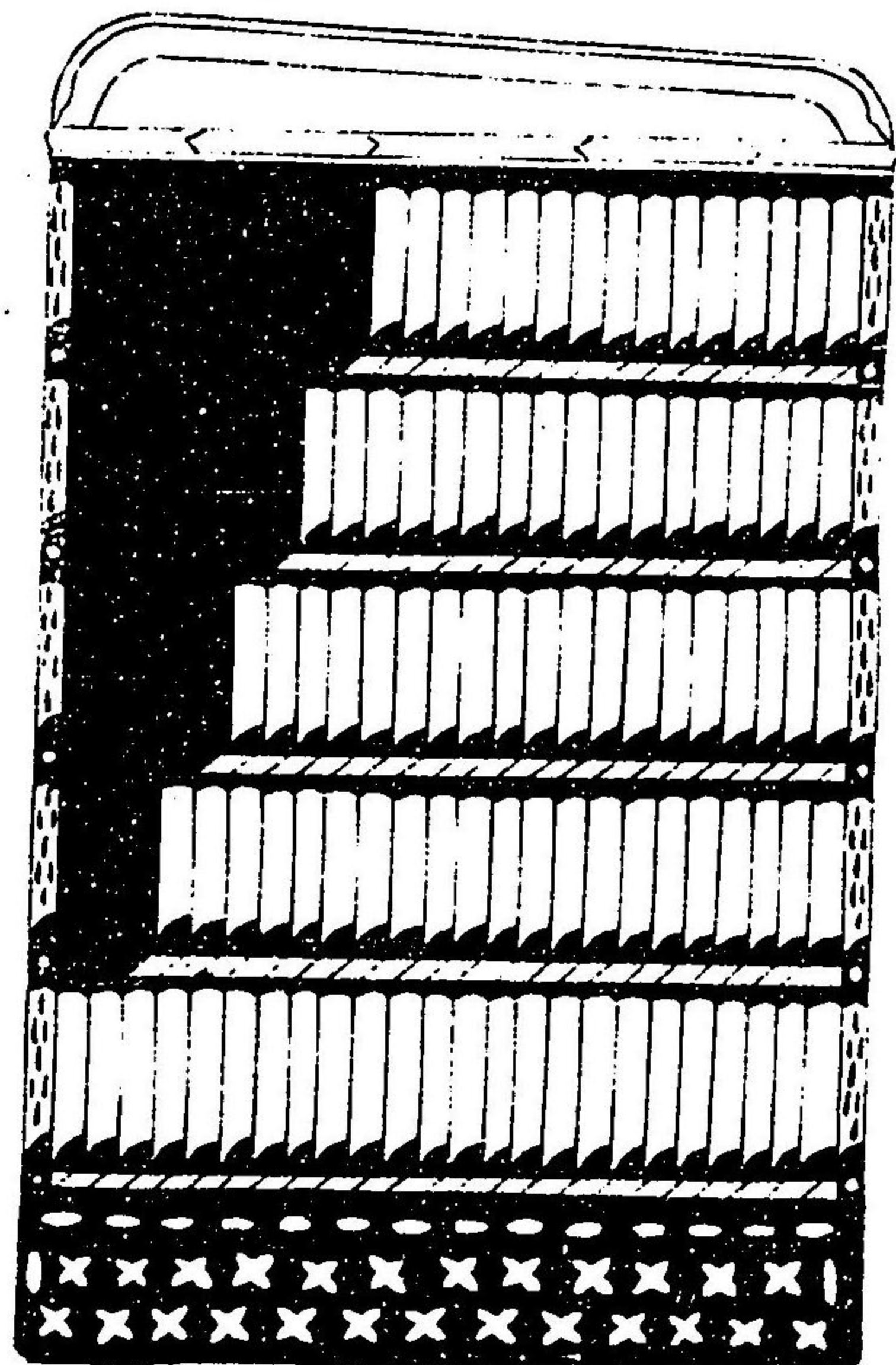
紅糸肩紫威



同三一後



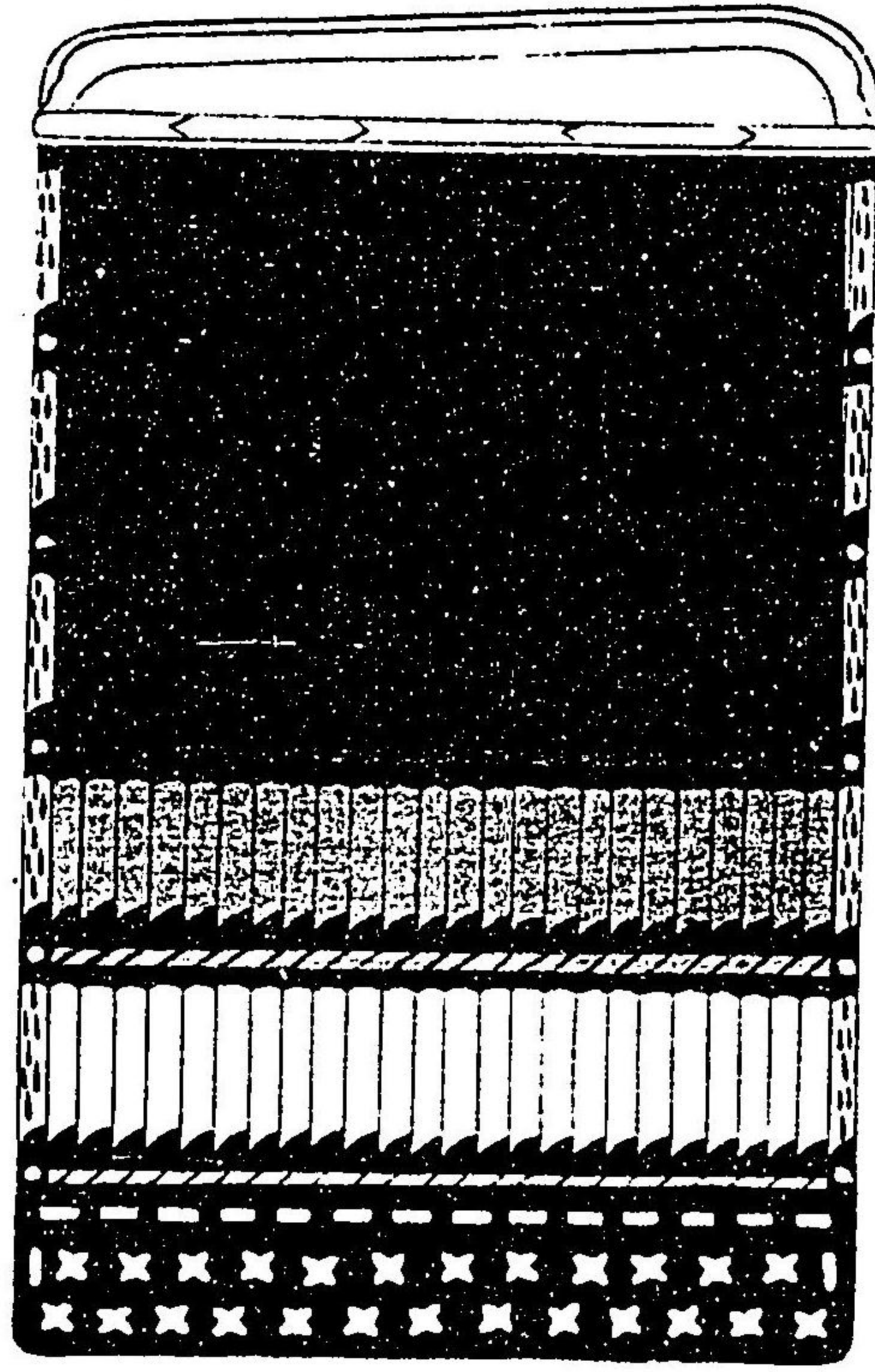
紺糸肩紫紅威



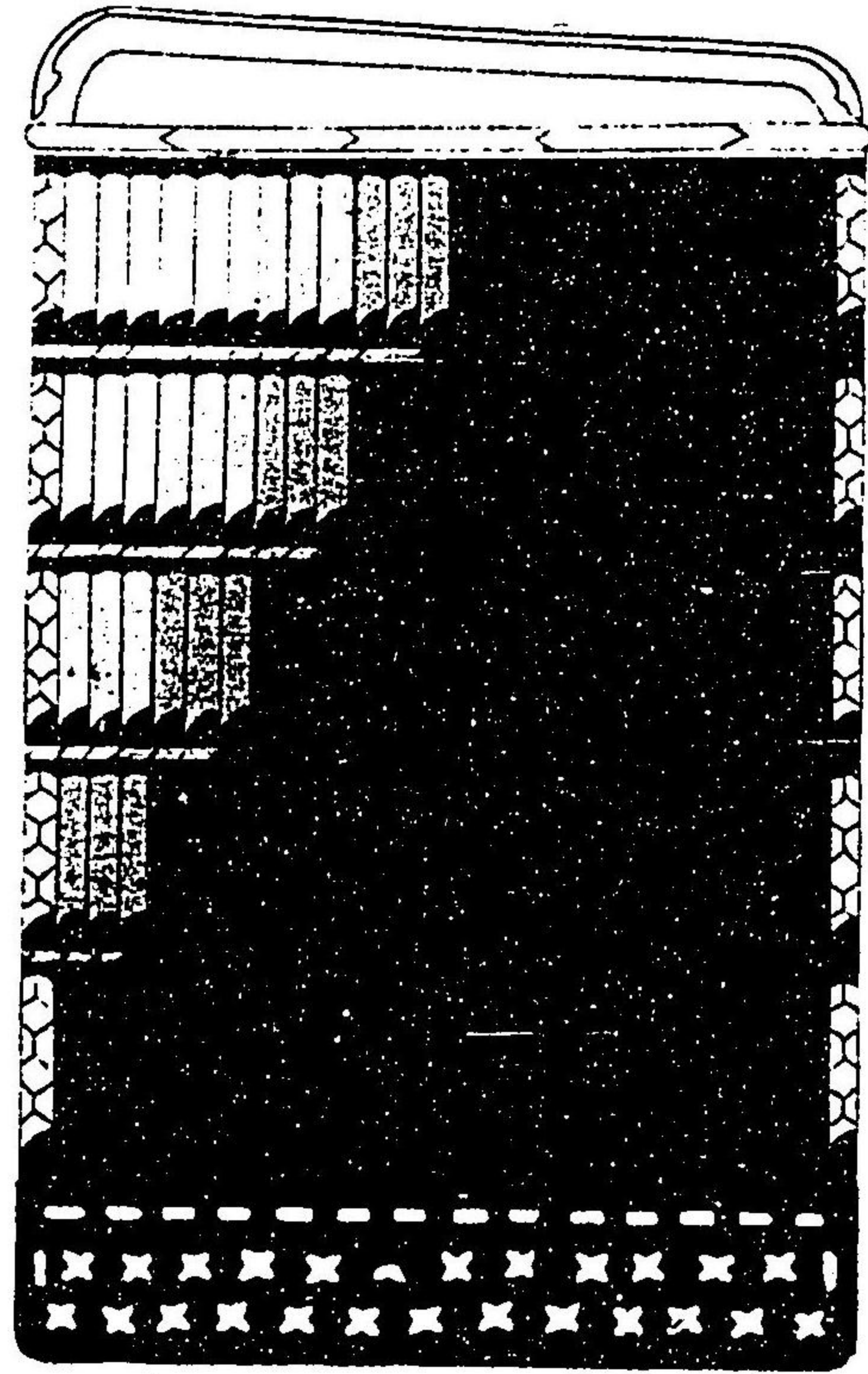
白糸肩赤威

此をそとれをわにもしよひひたるはあまー句句とせ  
ありと或る楯のみけひあまーとの雨沢あり是非  
をけか書によれば楯のこまあるなる候とせよとあは  
したるもあまなり  
一なるよへあまなり哉後三年の画小紅やしく下あし句は

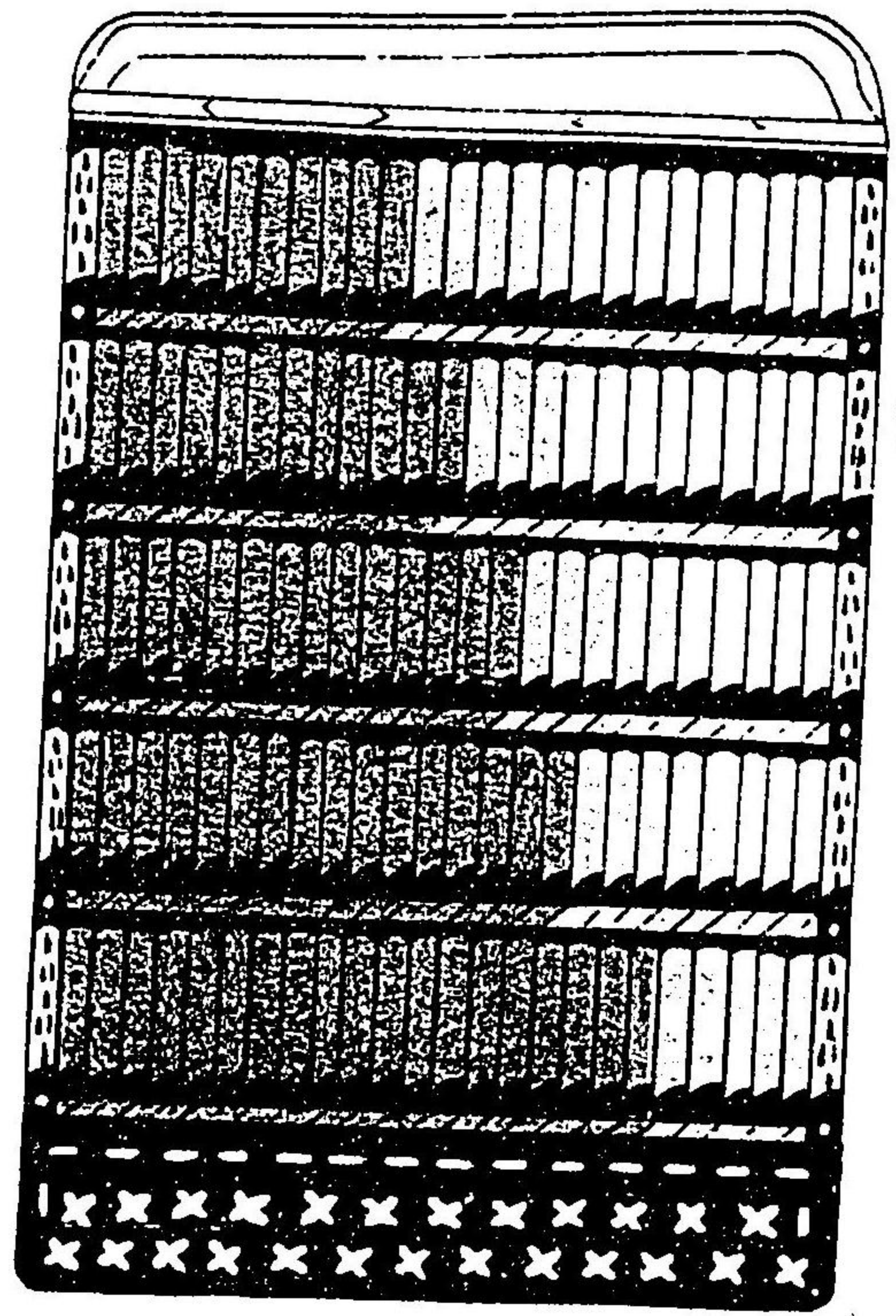




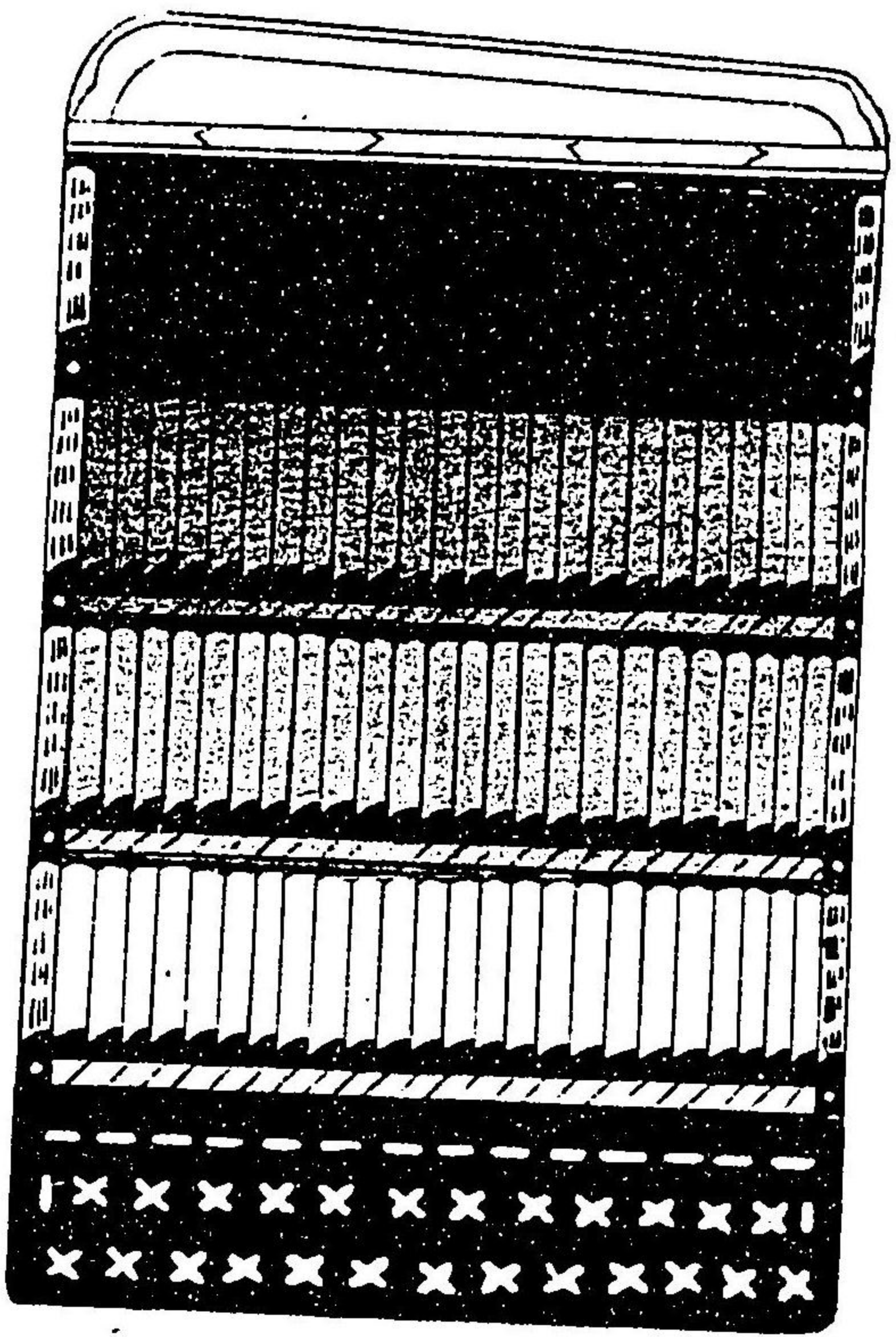
崩木句綴



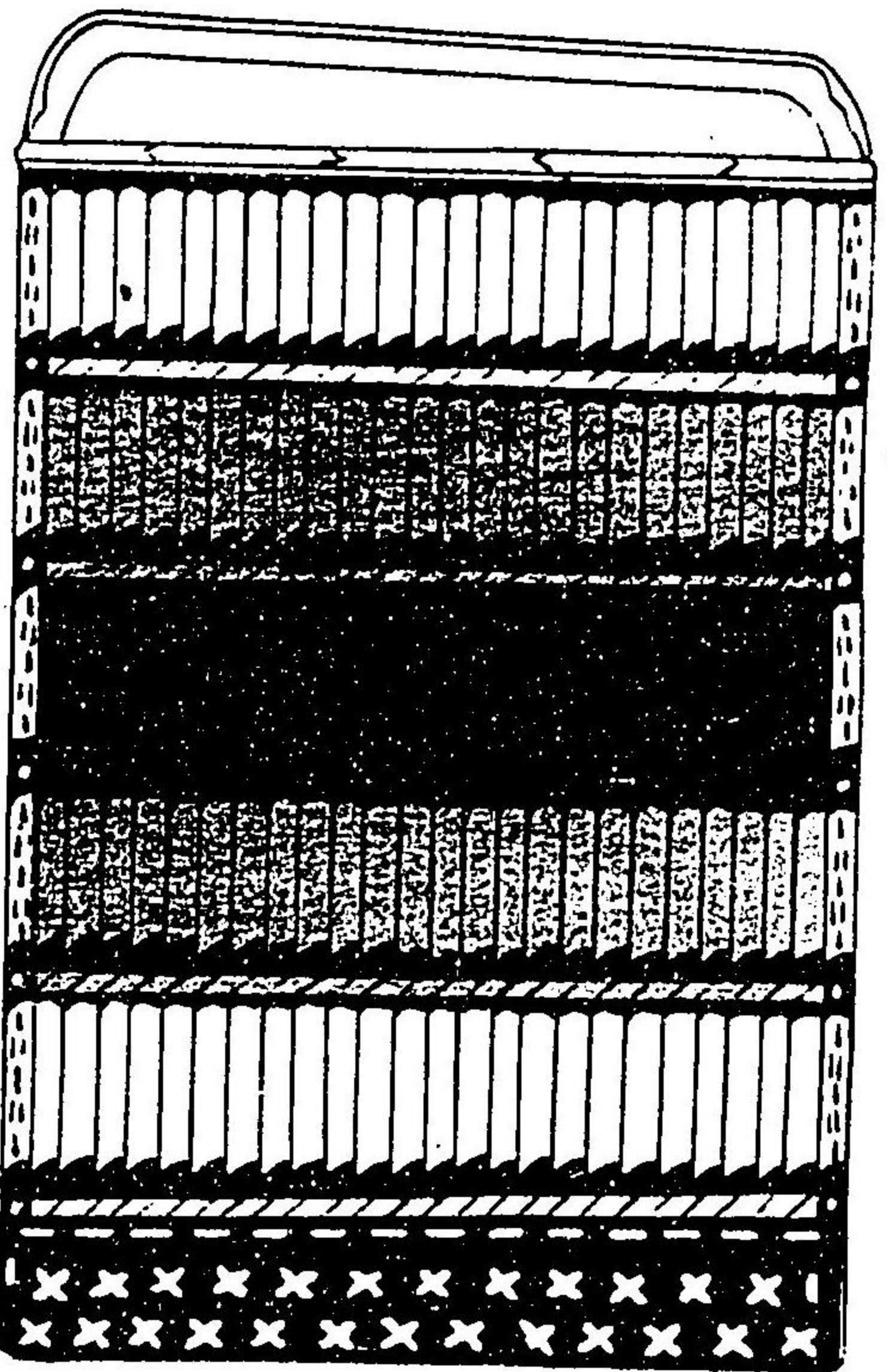
肩白赤威



肩白綴



紫句威 後三年



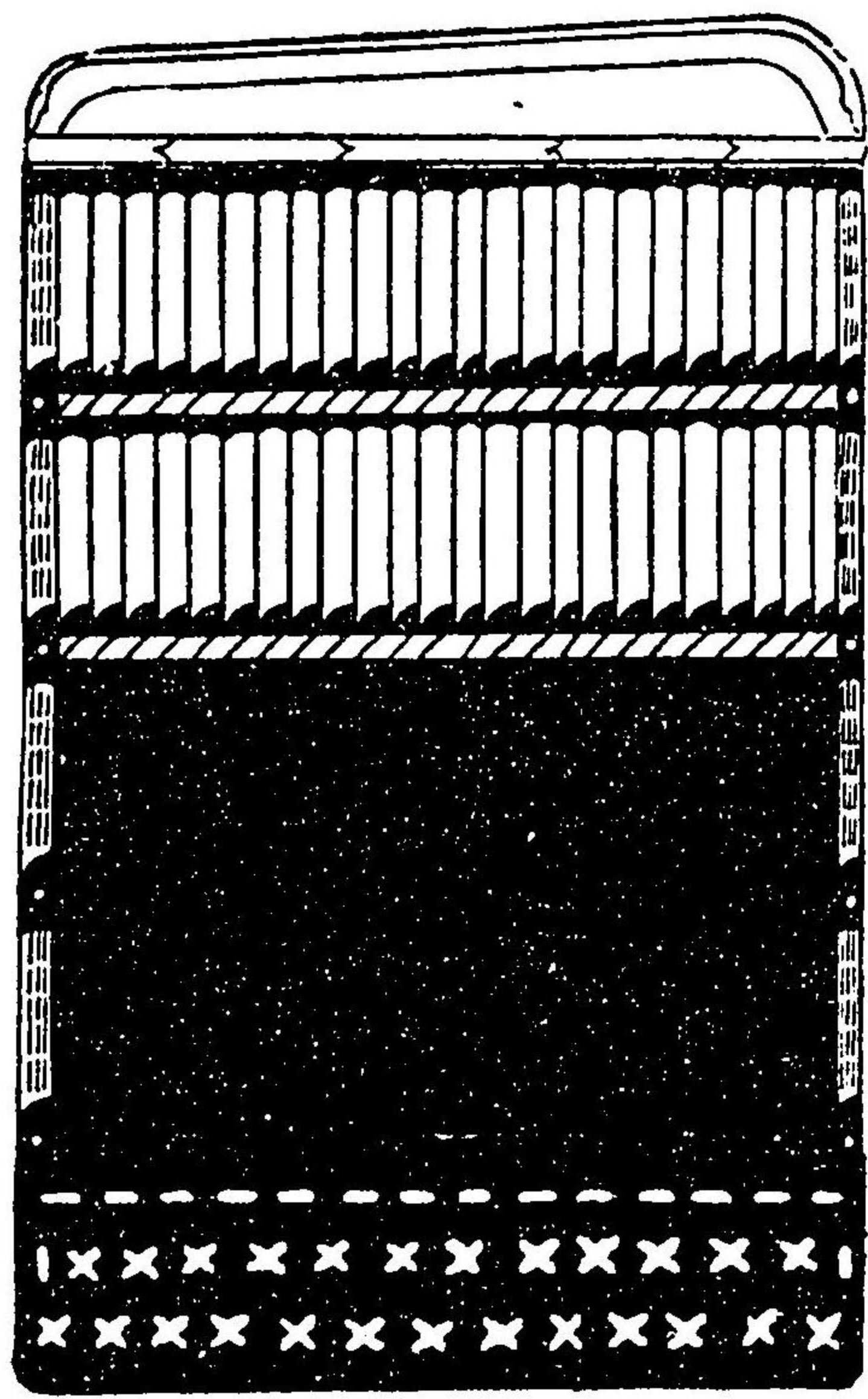
同二一祝

古き物のまじりにその名づゑぬとて其のいろその色  
 け肩白とすといふものかゝの如き類なほは黄  
 をさけの従もあまや

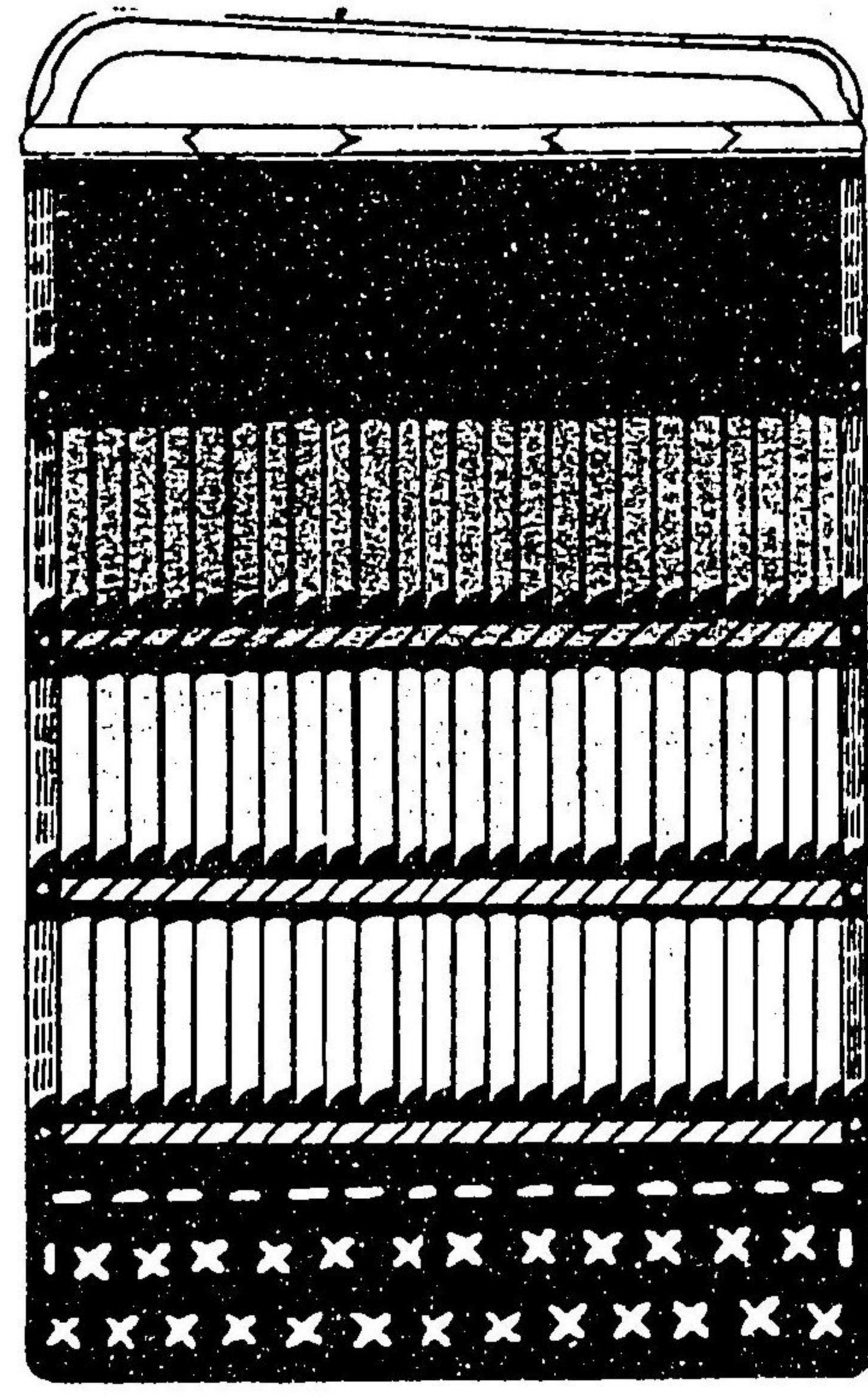
古きもの古きもの聞えぬとてそれと愛さざりては  
 まゝの如き文とされぬれはたかきくもあまや  
 しく目と出ぬ

句は正色より次第にうすきいろをとおし果は白  
 にもなる一香氣の消るまたくとせ  
 又よけひのうすきより下よりもよほをほほられとて  
 残るすくすくといふものいたし目の毛をおとししる  
 ともおまじりてはたかきくもあまや  
 たかきくもあまや

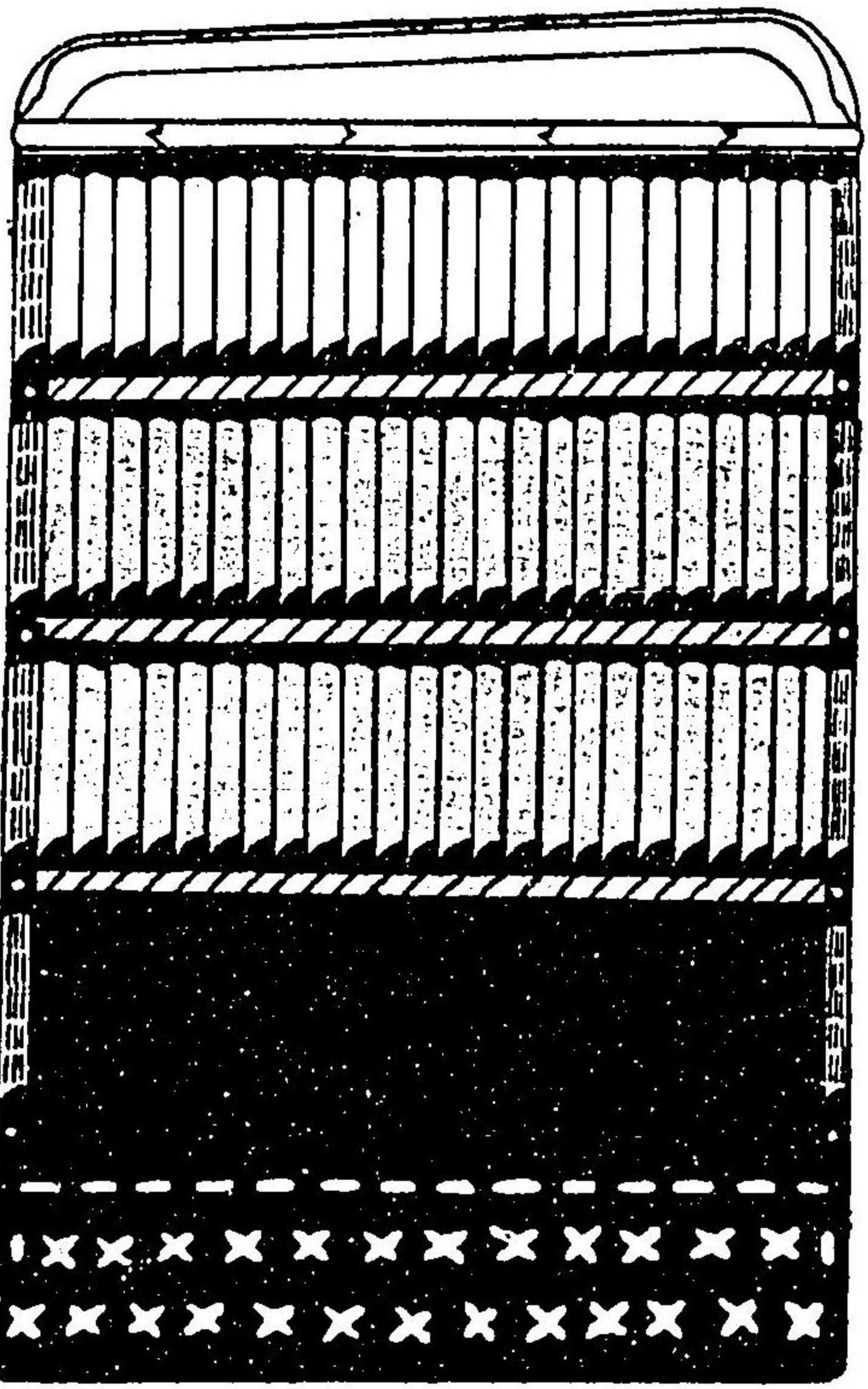




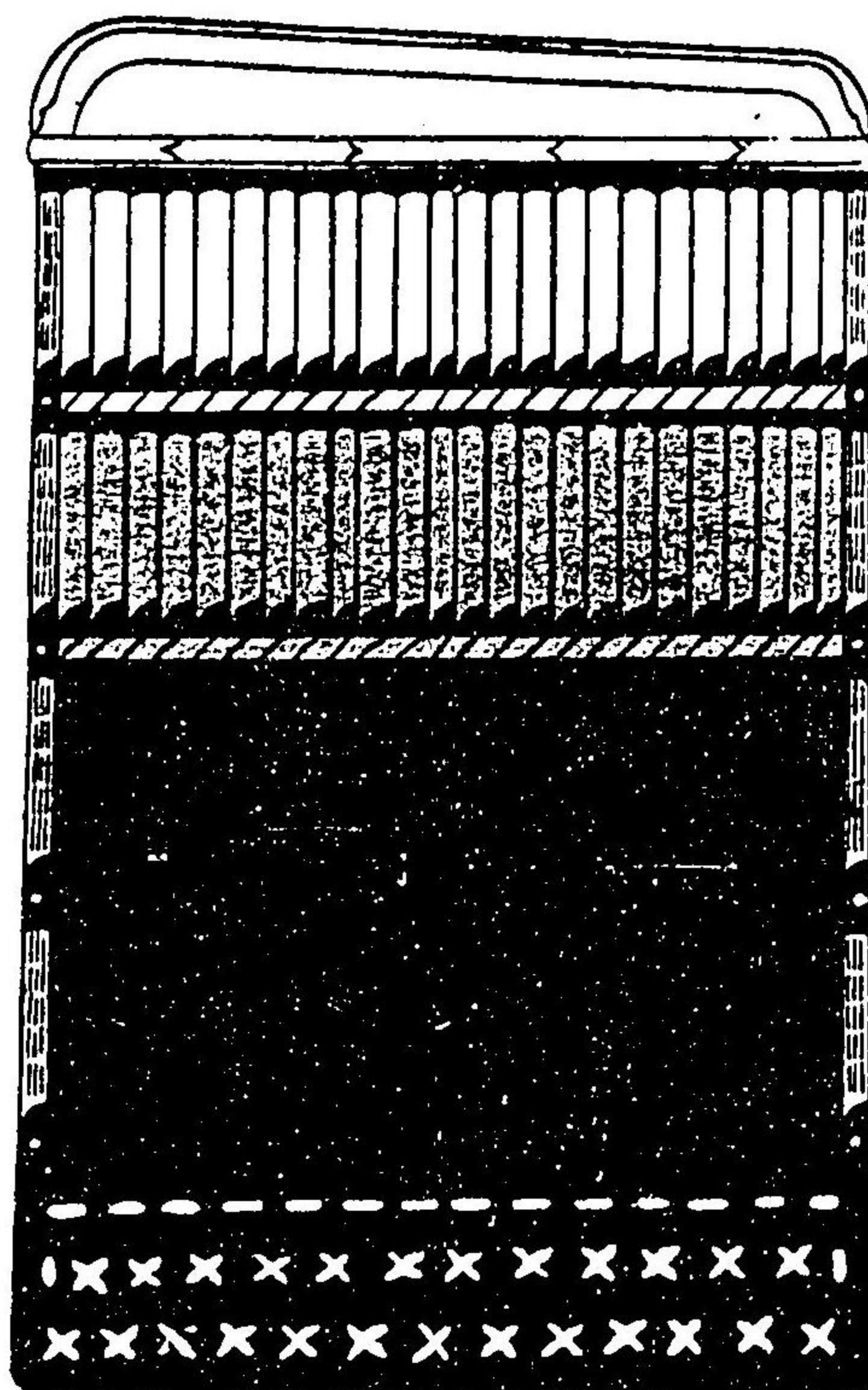
同上同



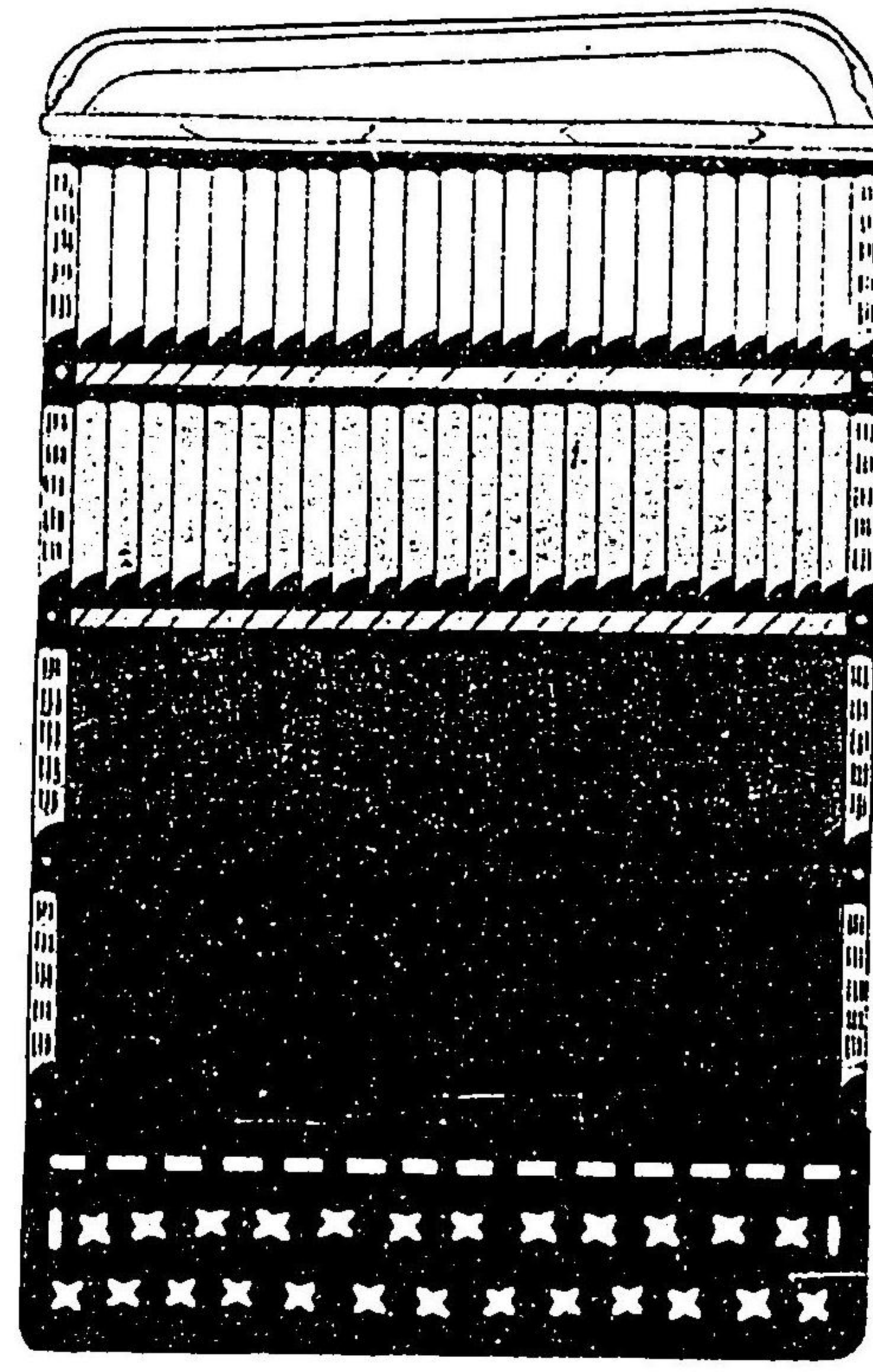
同上同



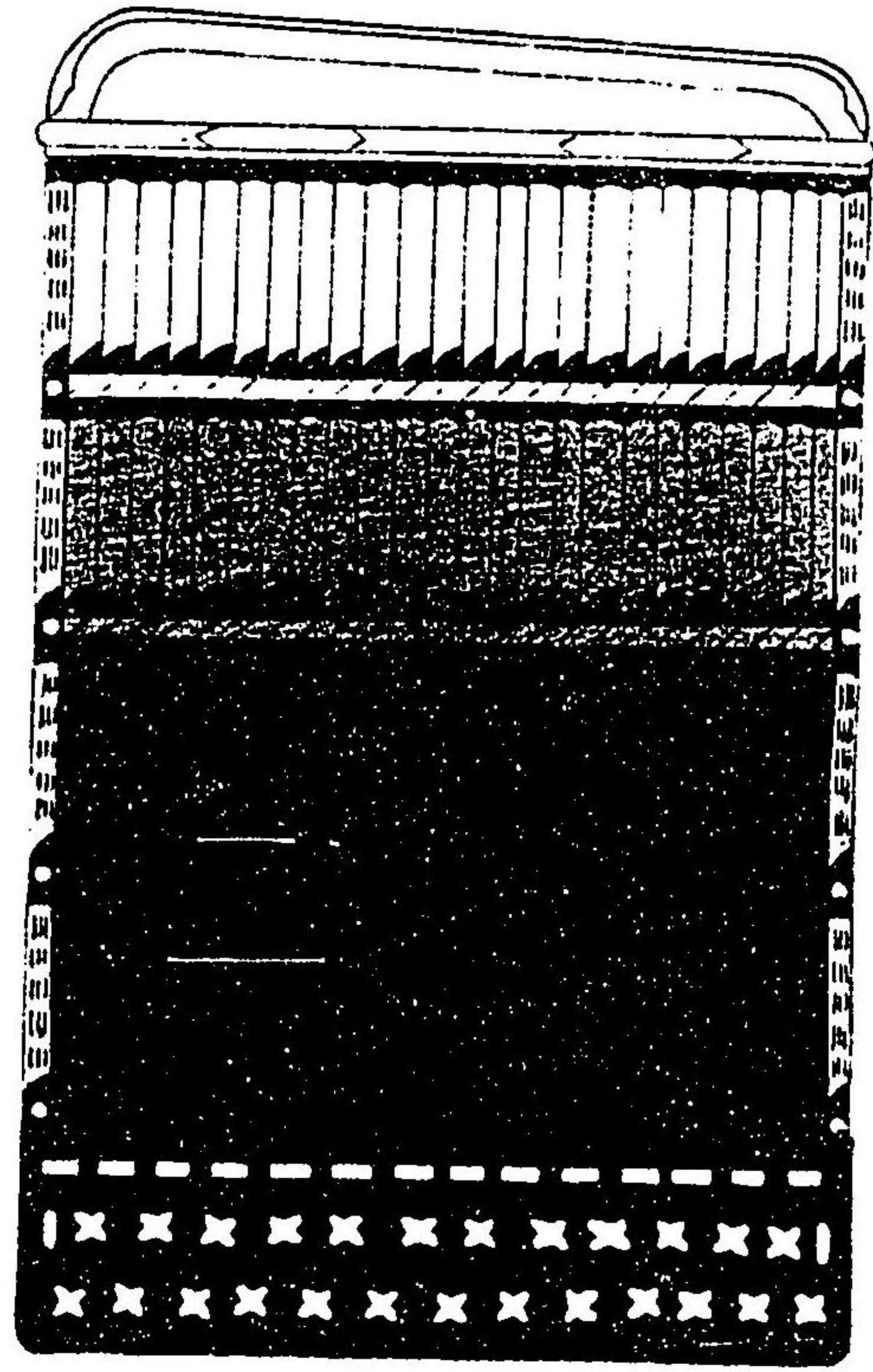
同上同



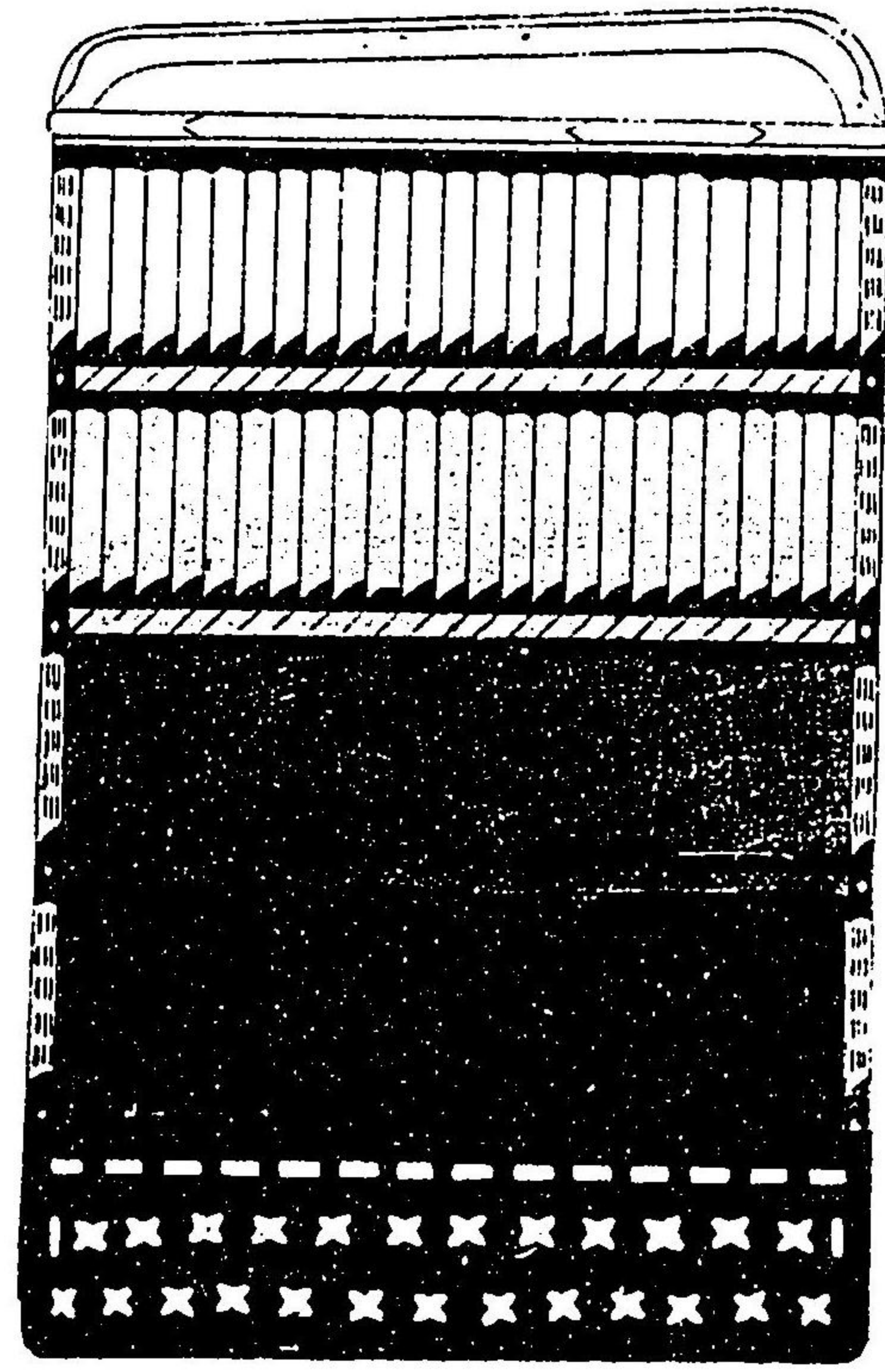
同上同



同上  
園光大師繪



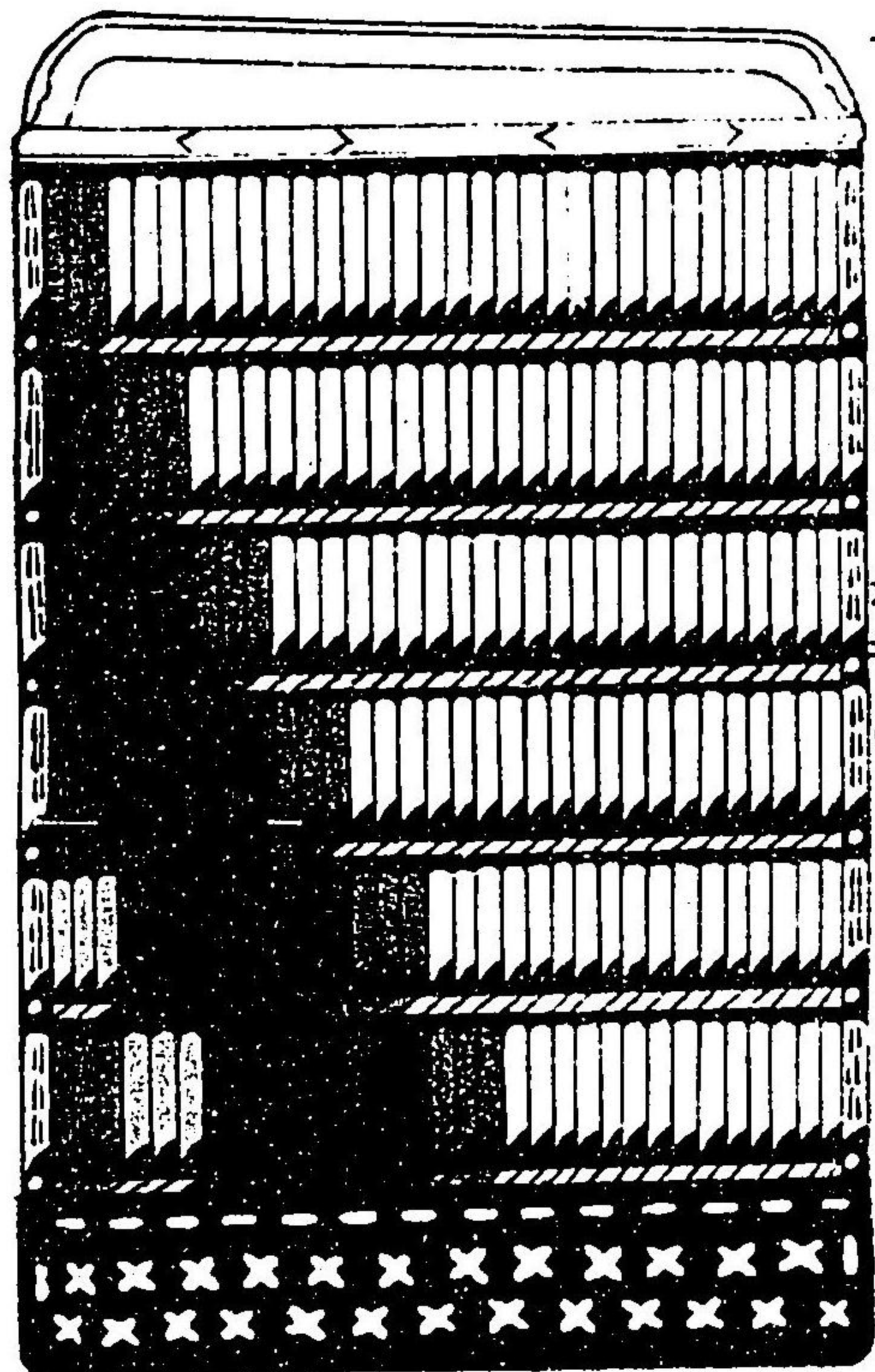
色いろのなま威い



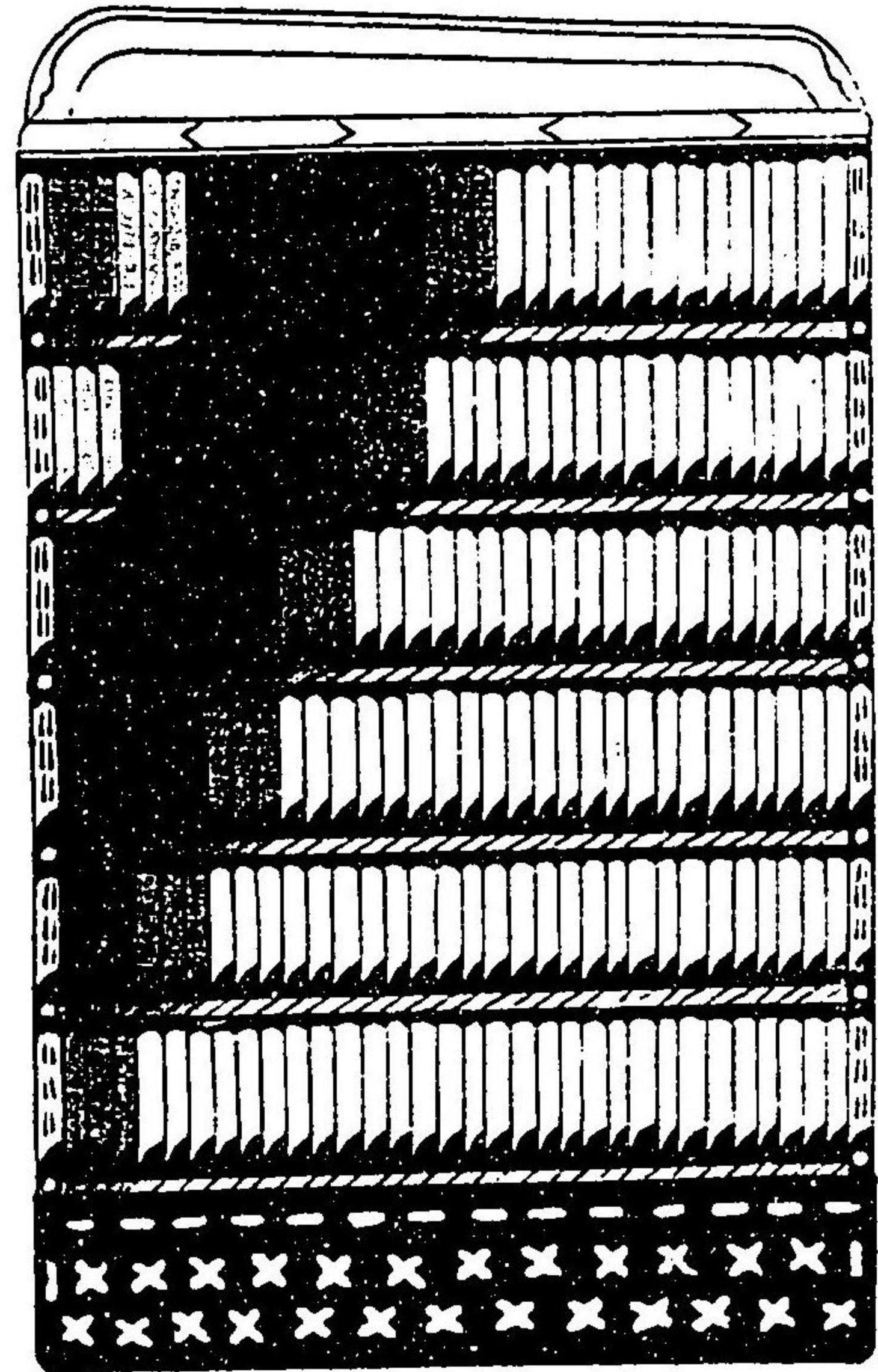
同上  
後三年

前よりかくく句名に下又在寄るもの存し  
云ふれが古画よりくくる威亦くくものり  
物

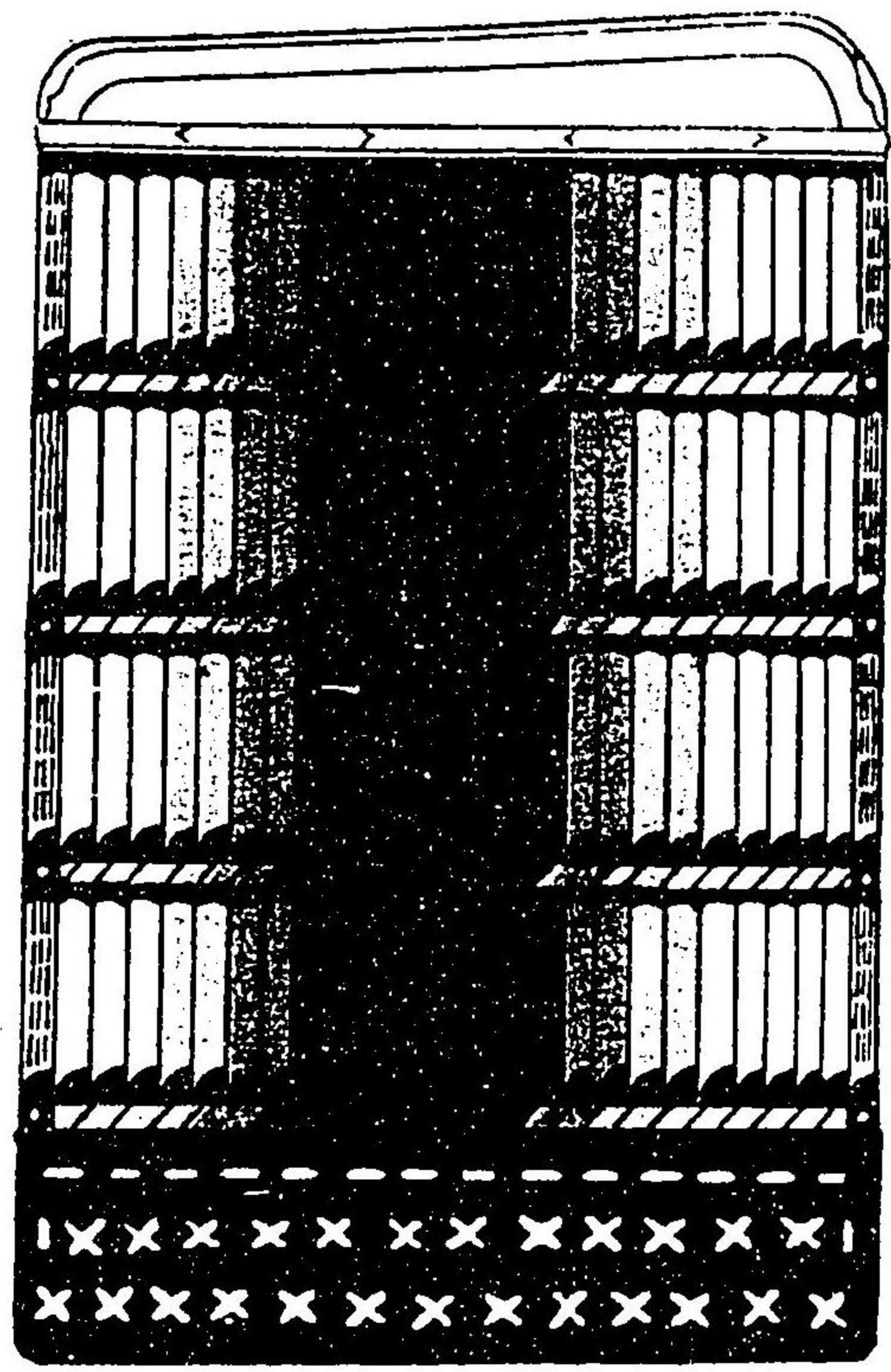




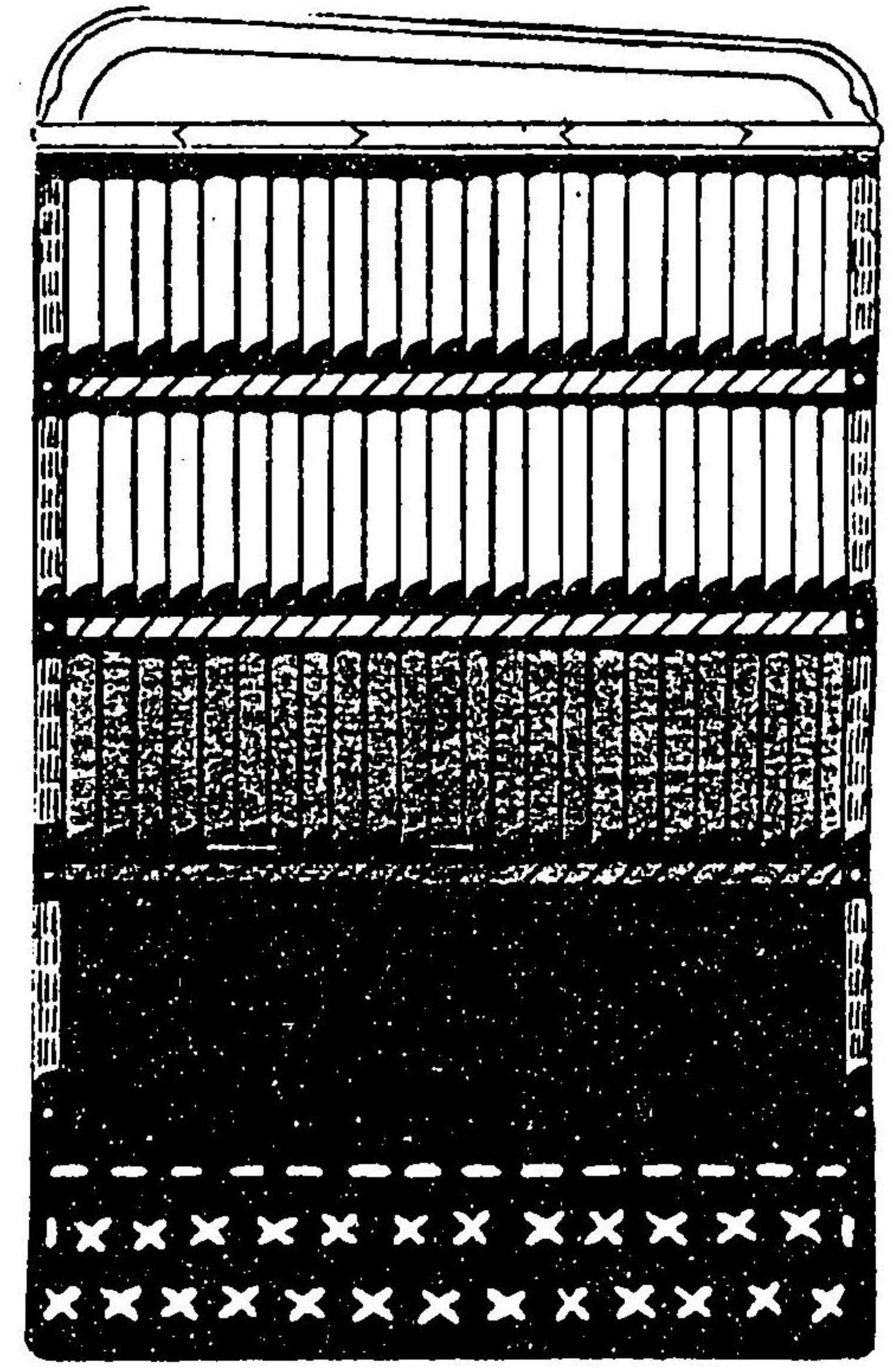
同一  
同種草摺の前板の妻あり  
左に相附ル



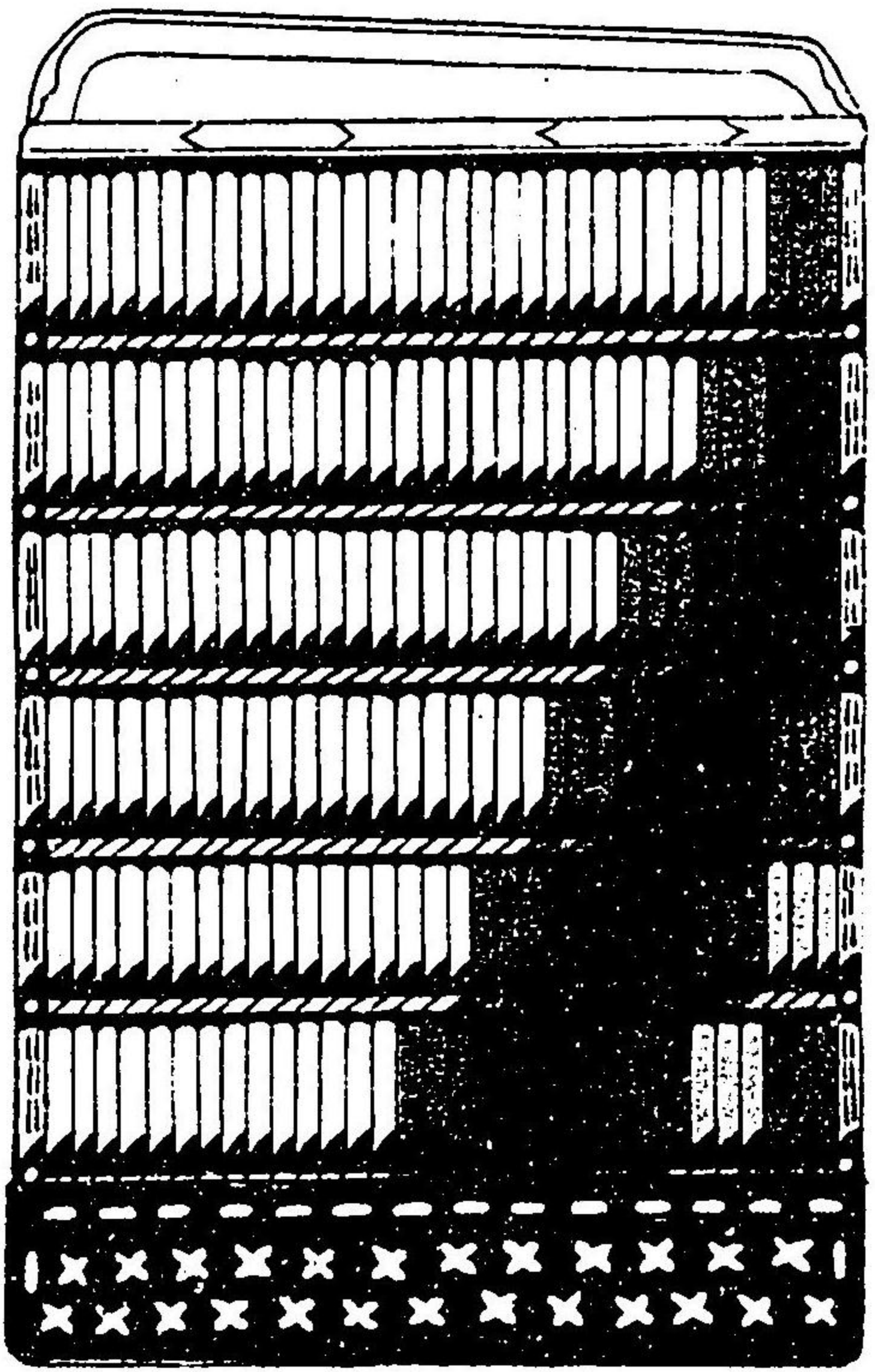
肩輿色絨  
山城鞍馬寺所藏  
白糸威之袖



同一  
一説

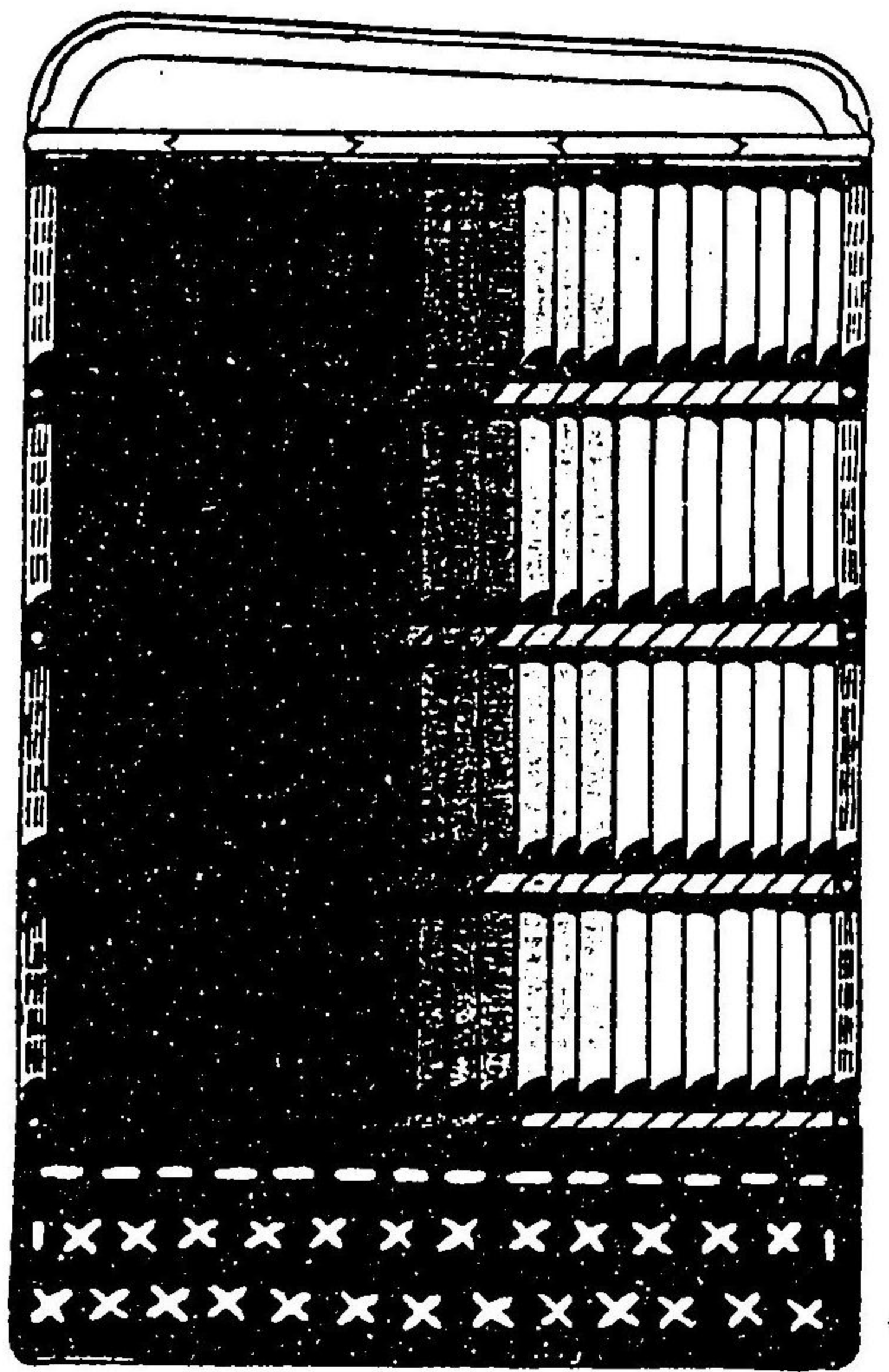


同一  
大須磨



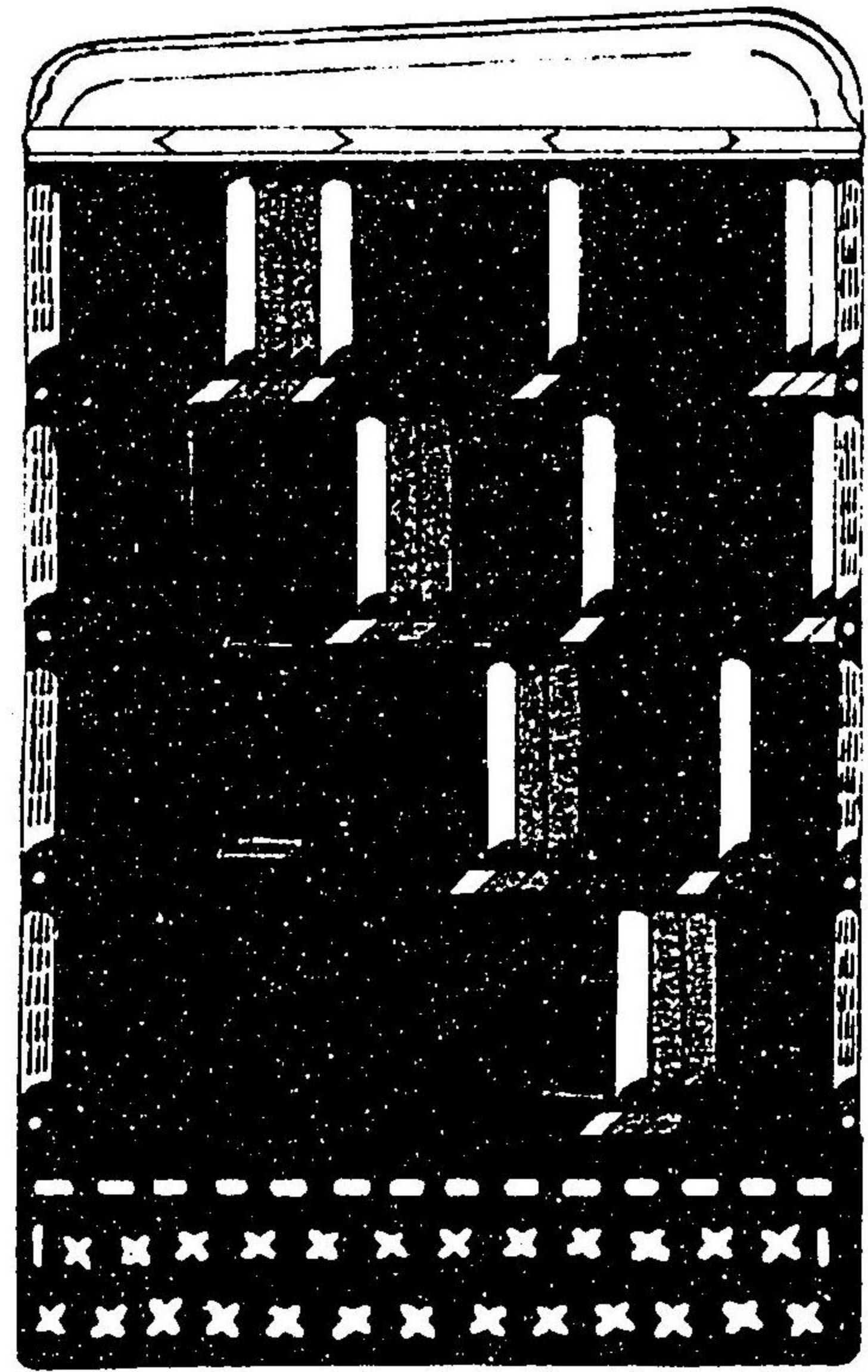
同一  
同藏二領の内一領の板板  
脚異あり依て爰に出す

此名目古書に見えしとて古物又古画と  
之けきばあつてこれ出するなり

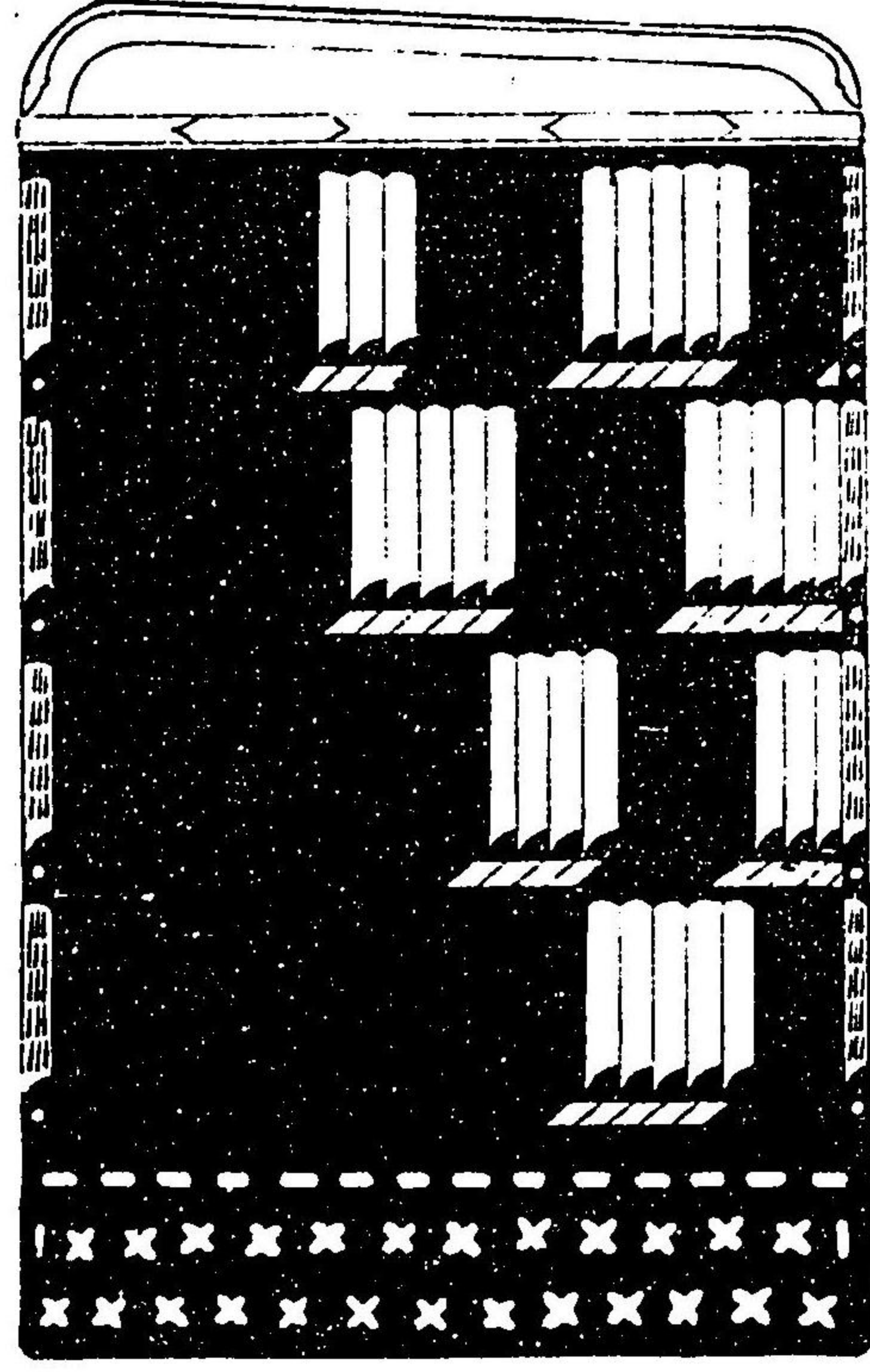


同一  
或家平法画

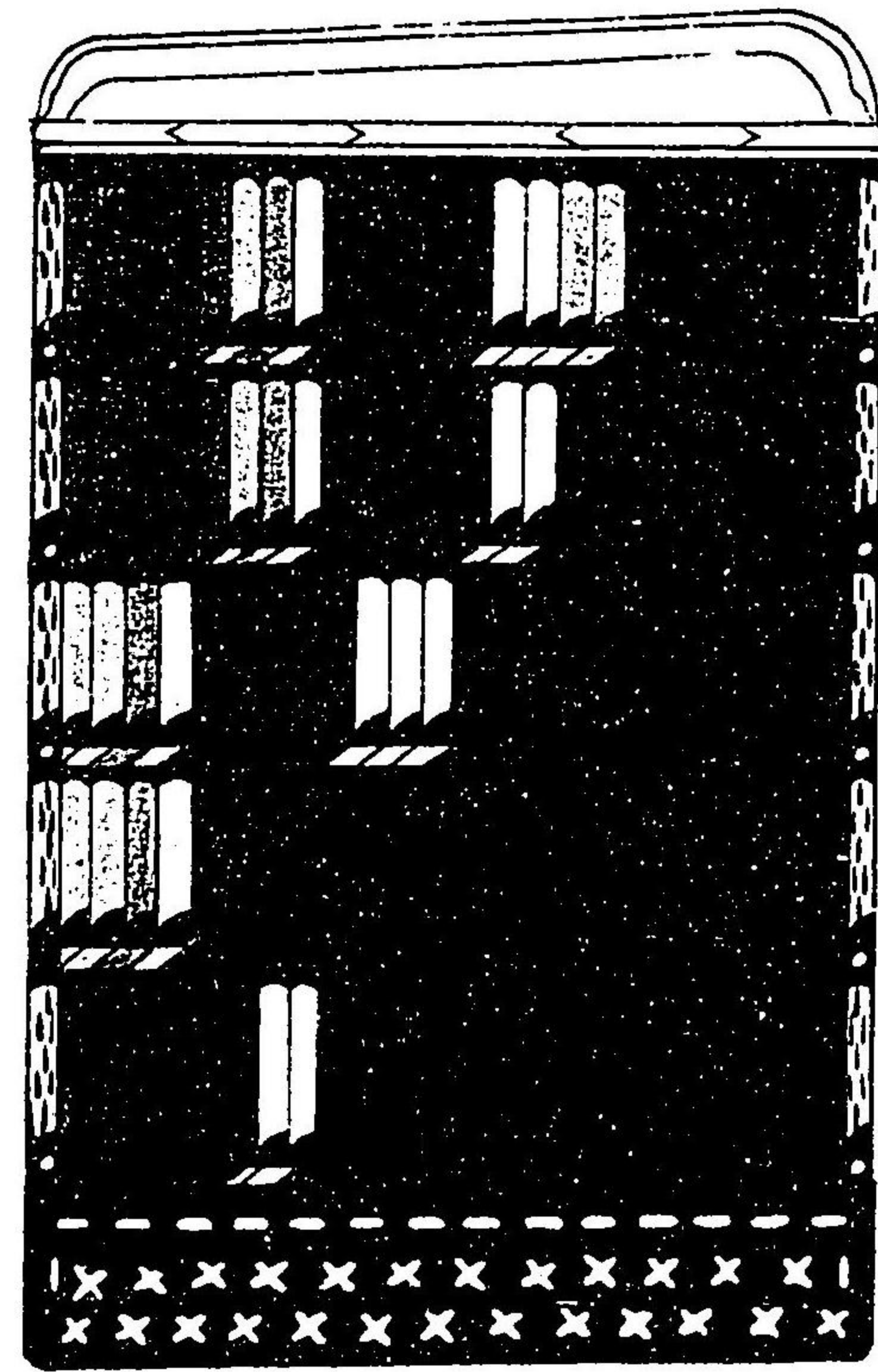




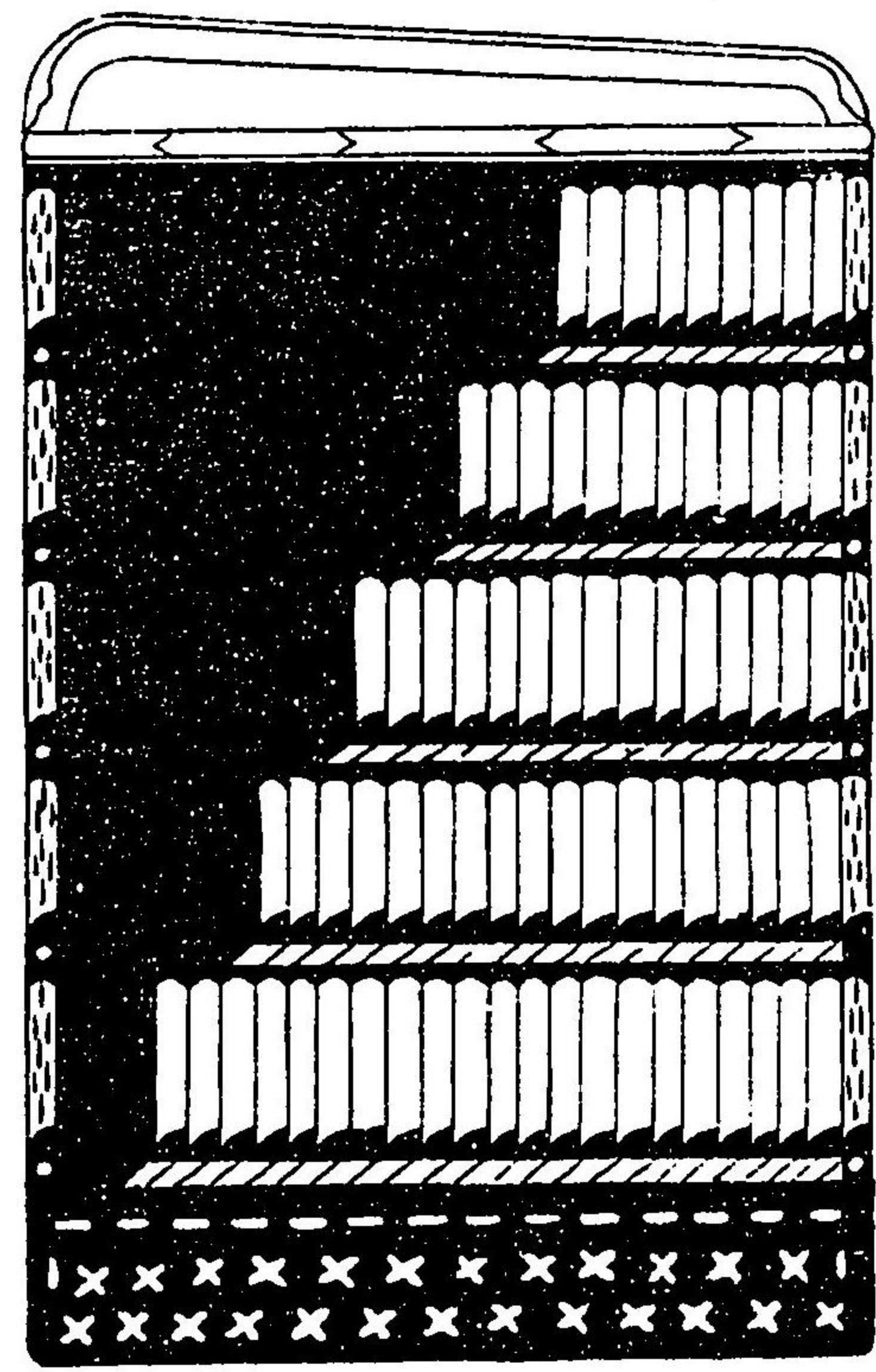
同上同



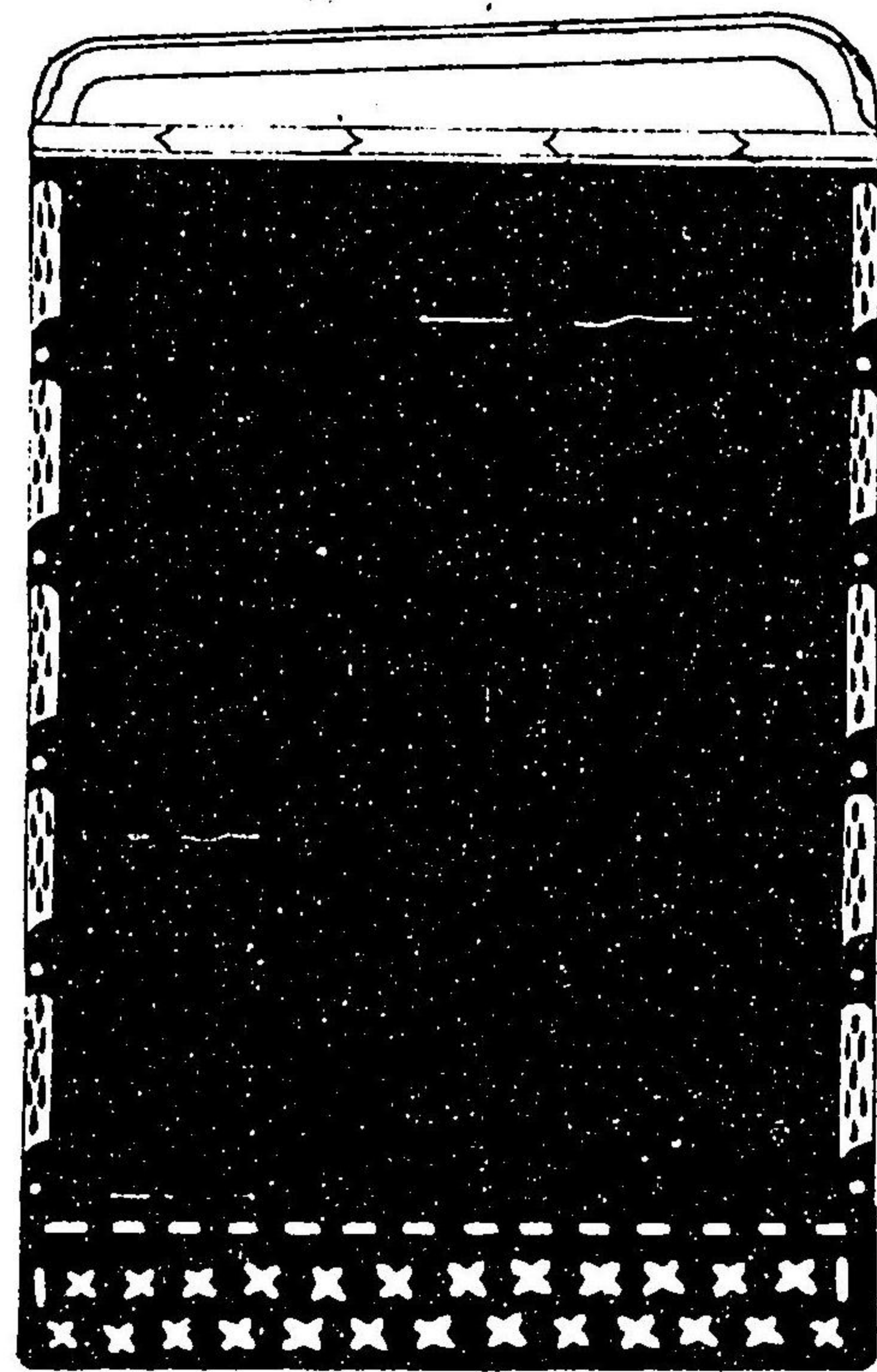
肩異色絨 後三年



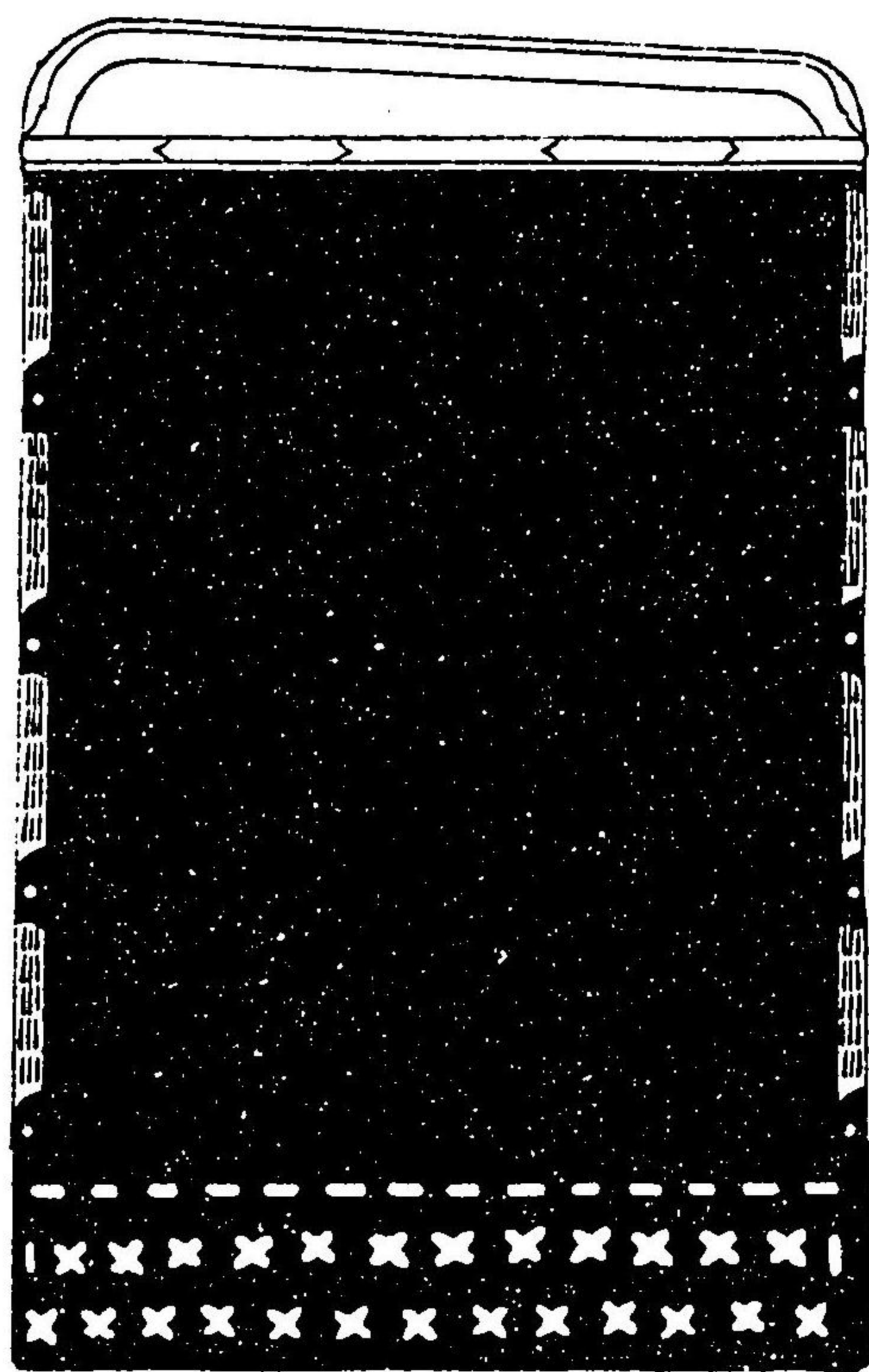
同上 春日社蔵古書



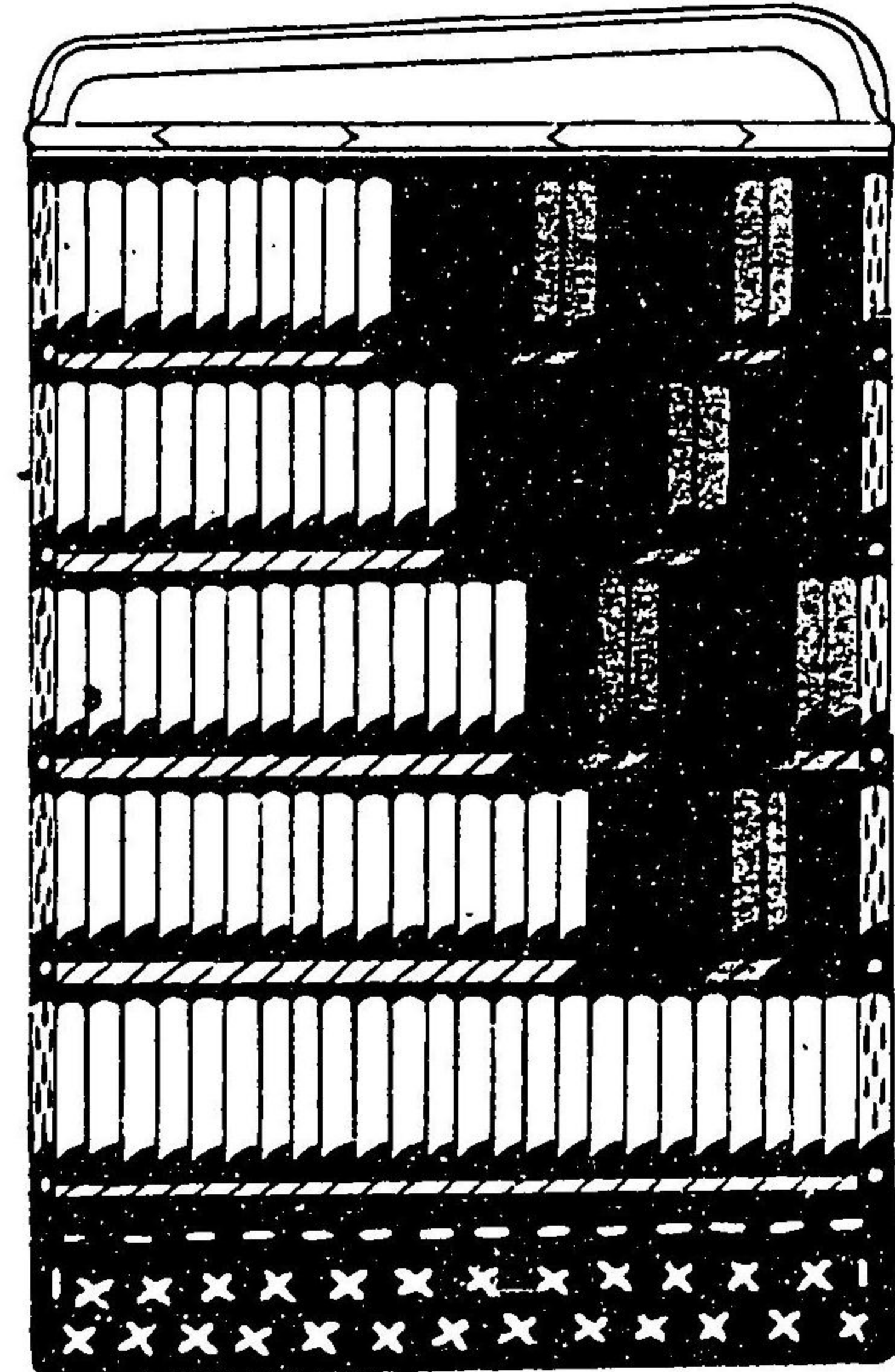
同上 同蔵



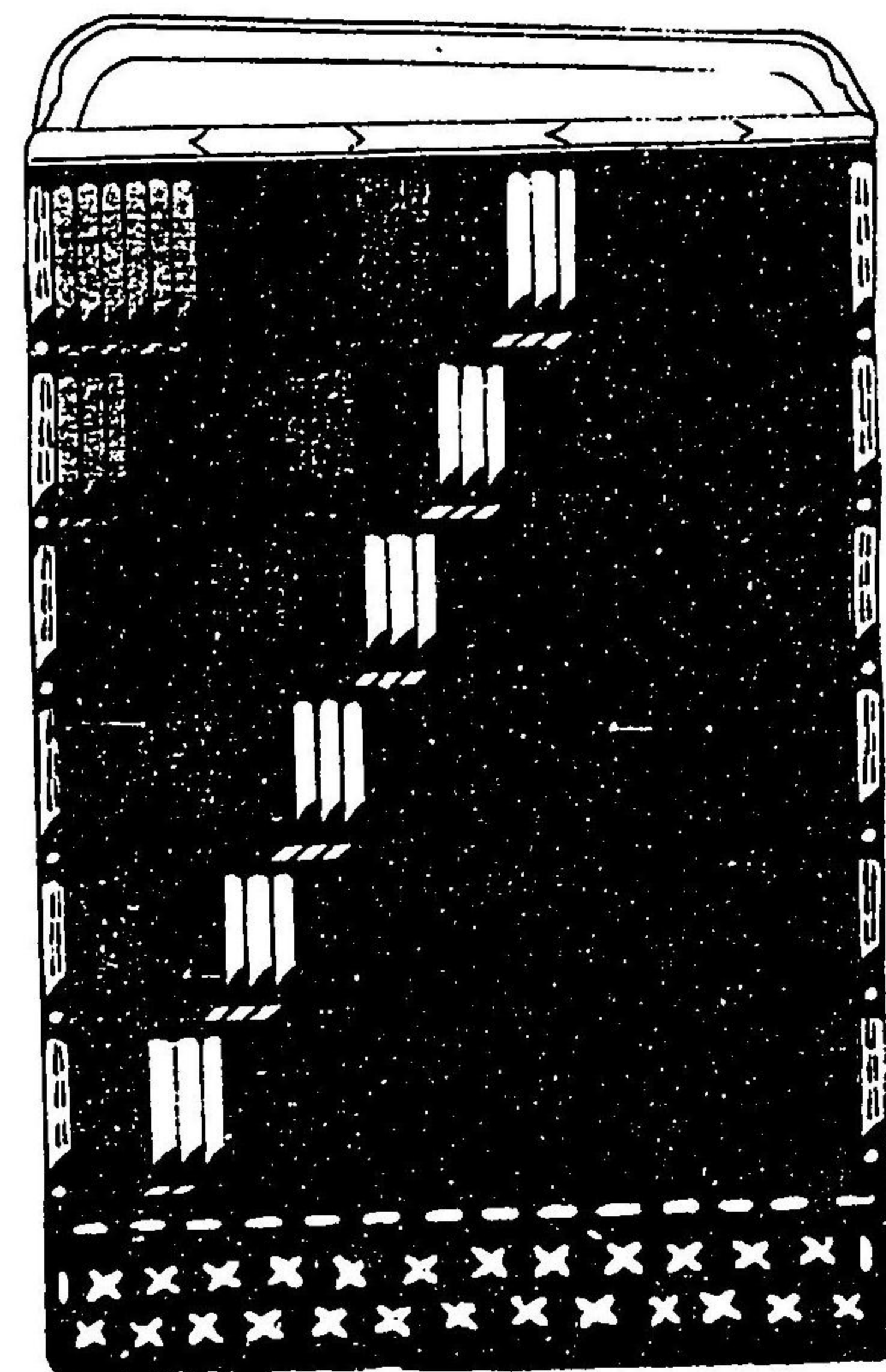
同上 蒙古



同上同

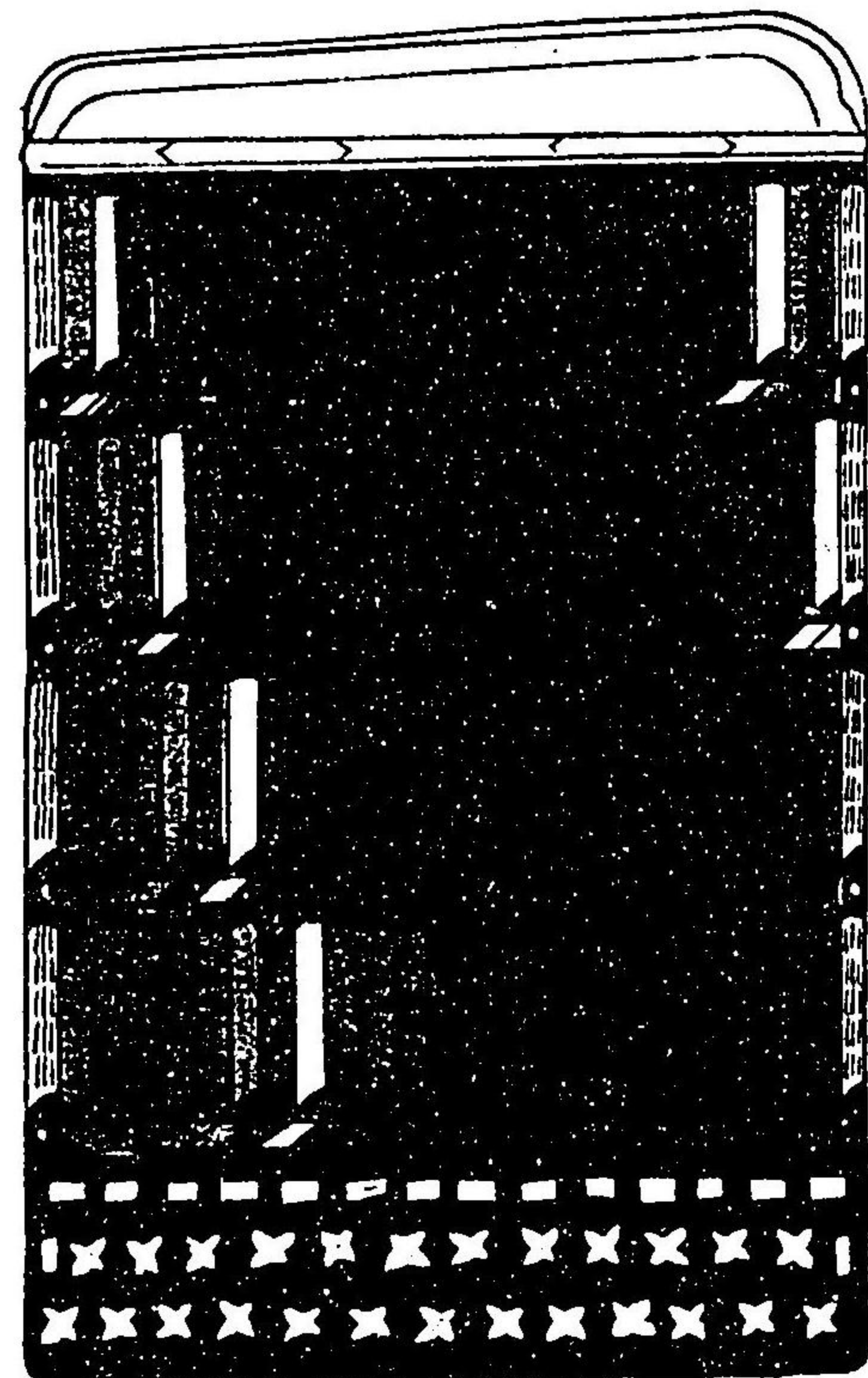


同上 清古

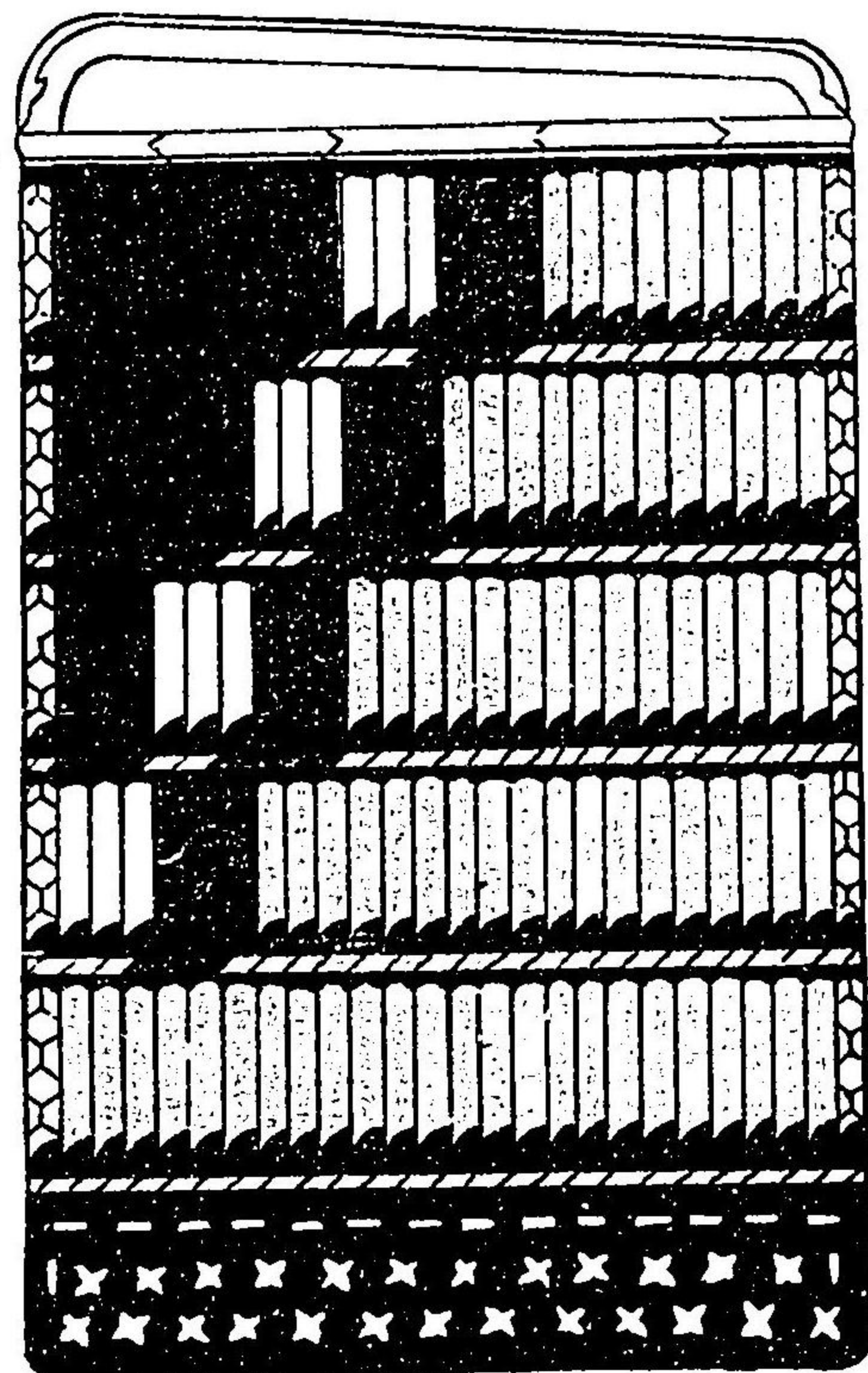


同上 豫州三島社蔵古書





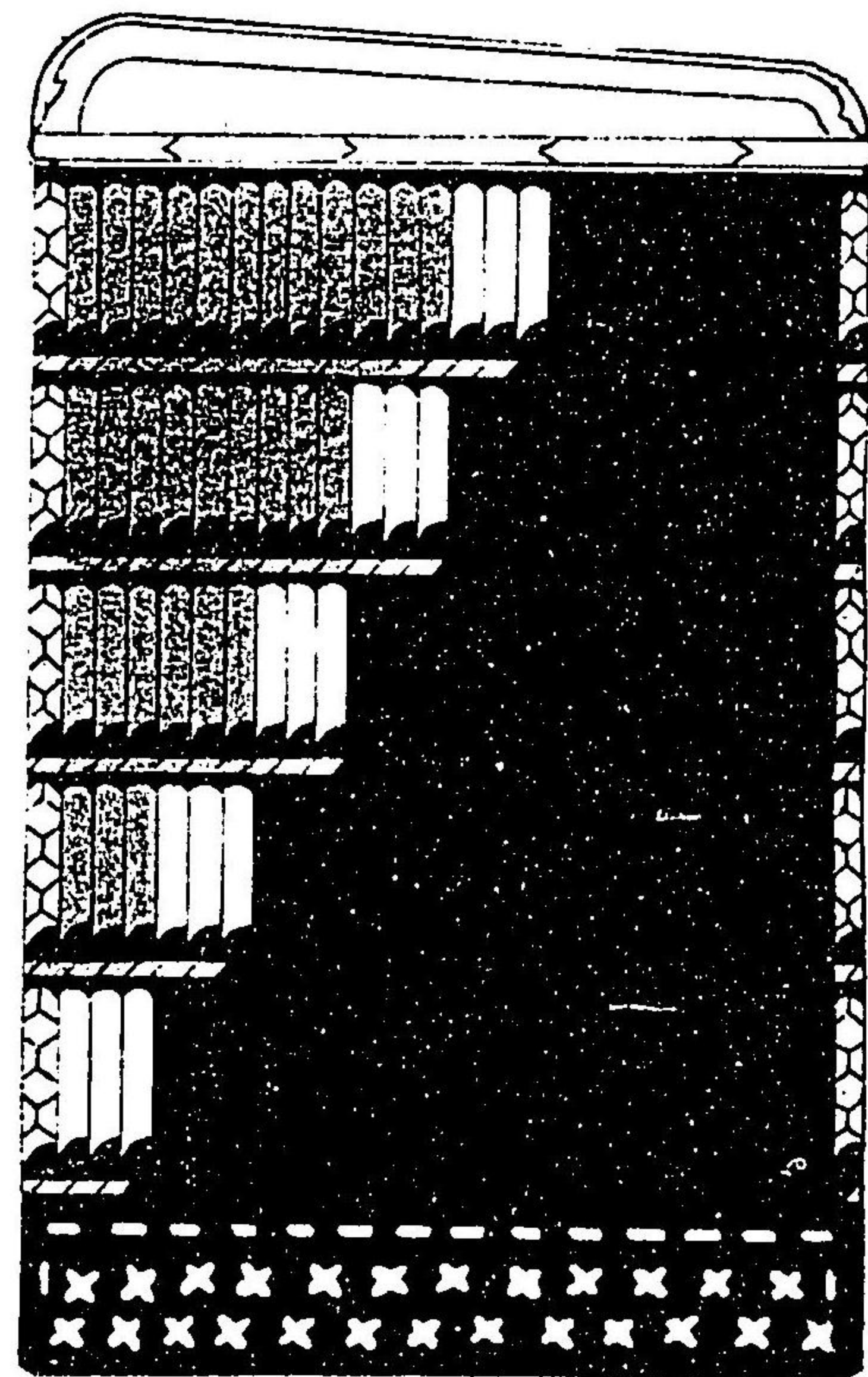
妻肩勾絨 後三年



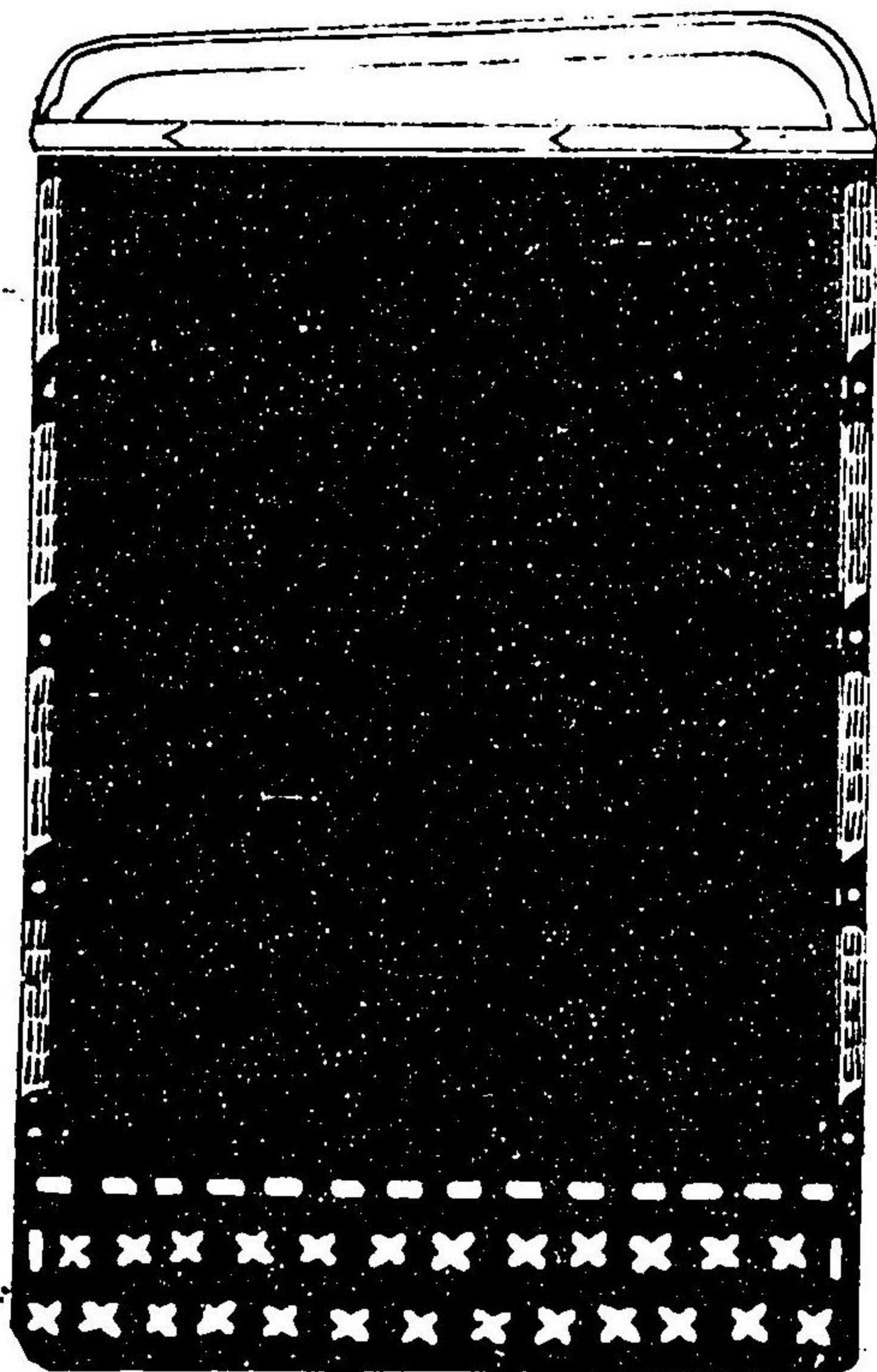
同上 蒙古



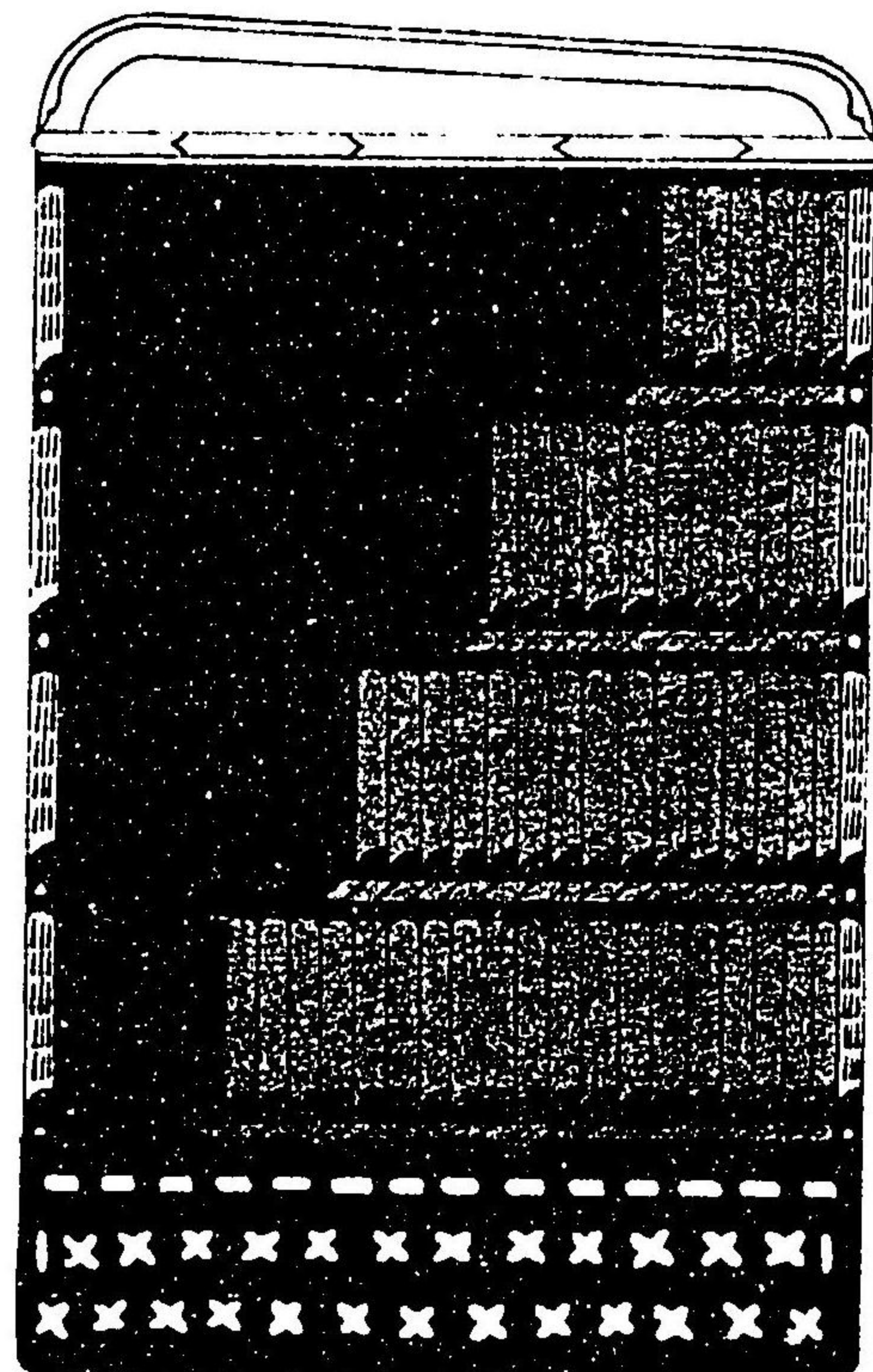
同上 同



同上 倭大納言



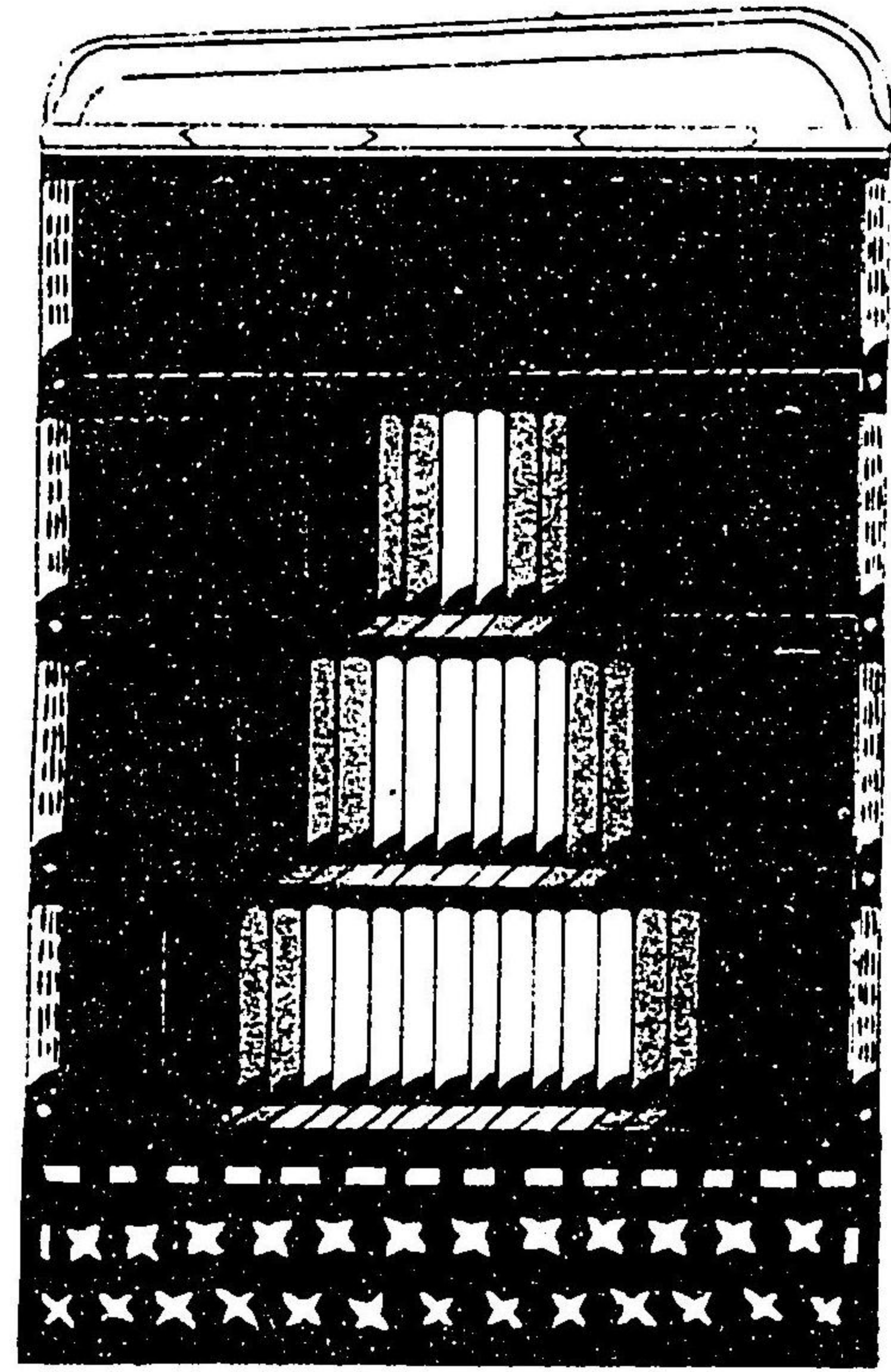
同上 同



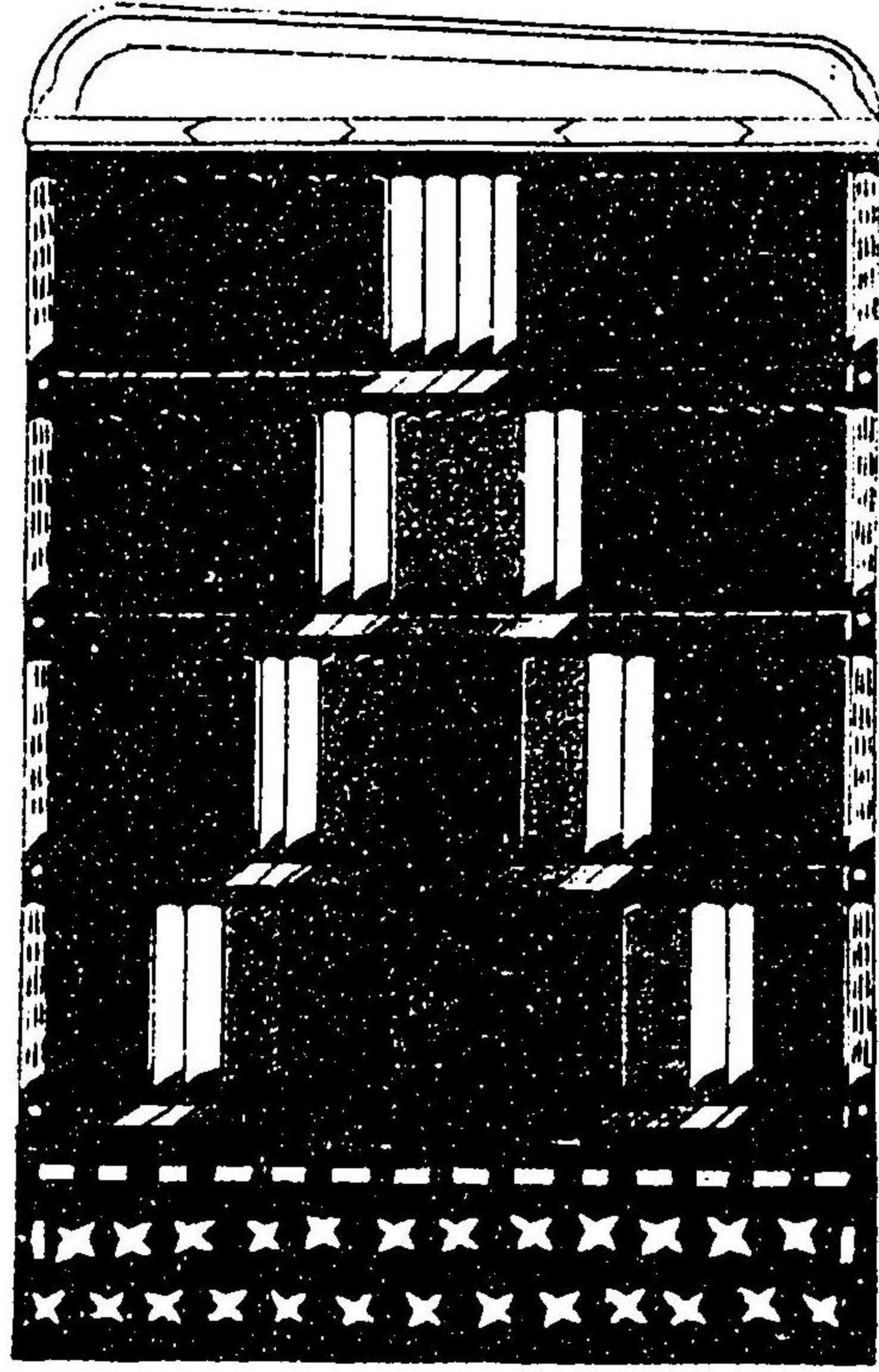
同上 前九年

此名も古くは聞えざれども古画に見えしゆゑ爰に  
 出たりしもの系りを妻肩を互に勾とてし  
 もありし哉  
 又互に威と云べき哉五音おとと誤りたりし  
 ともやえり

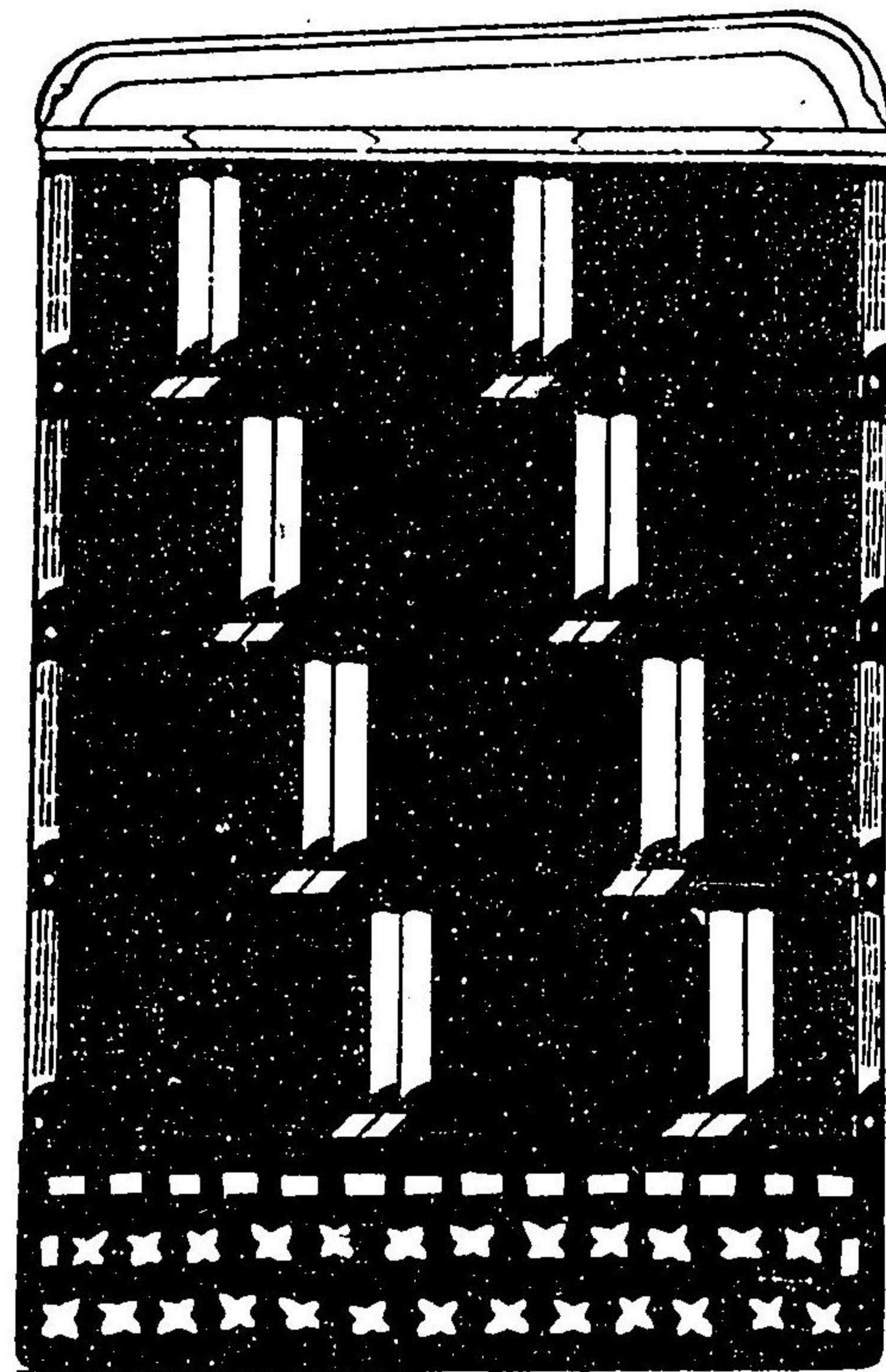




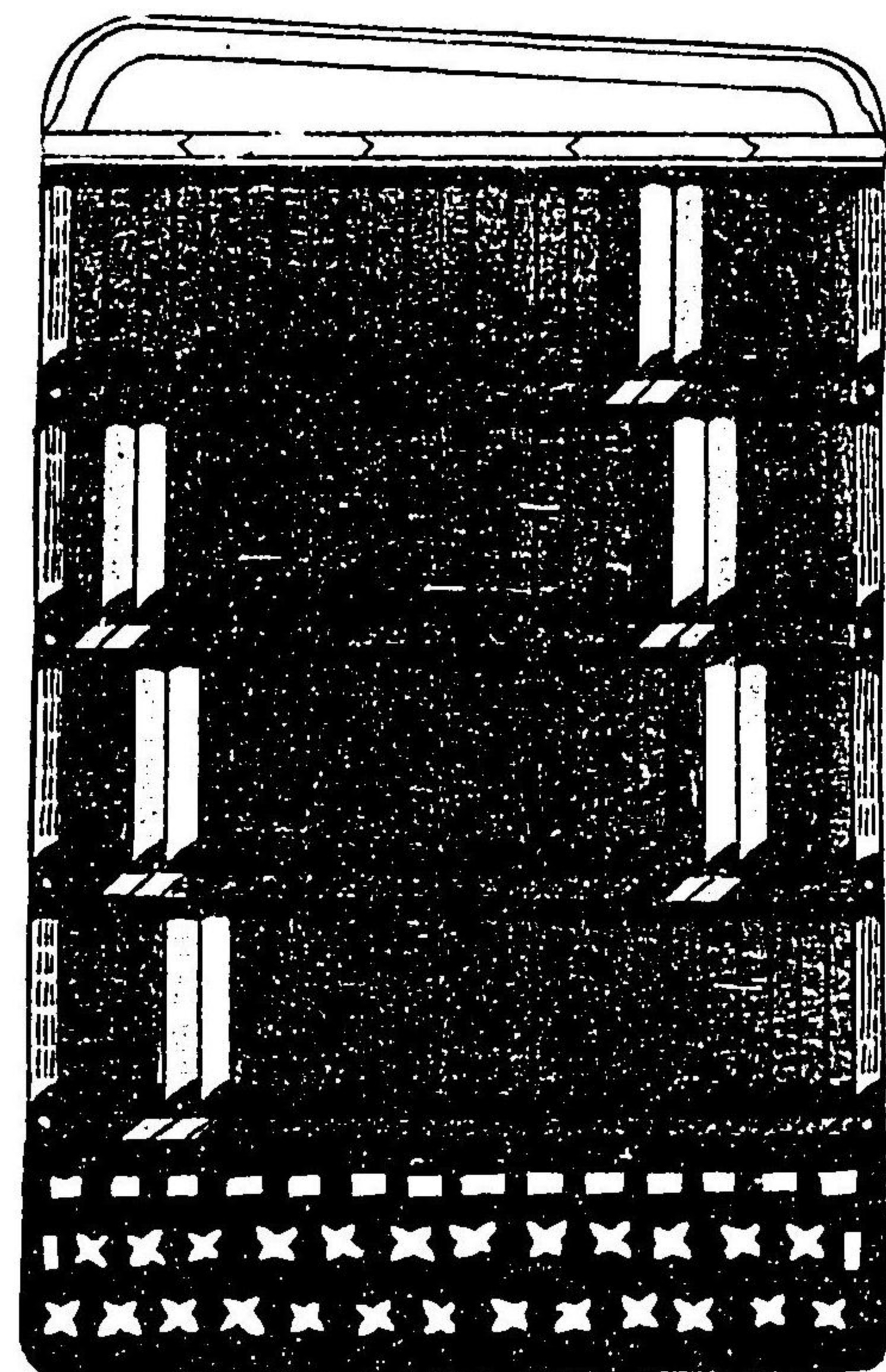
同上同



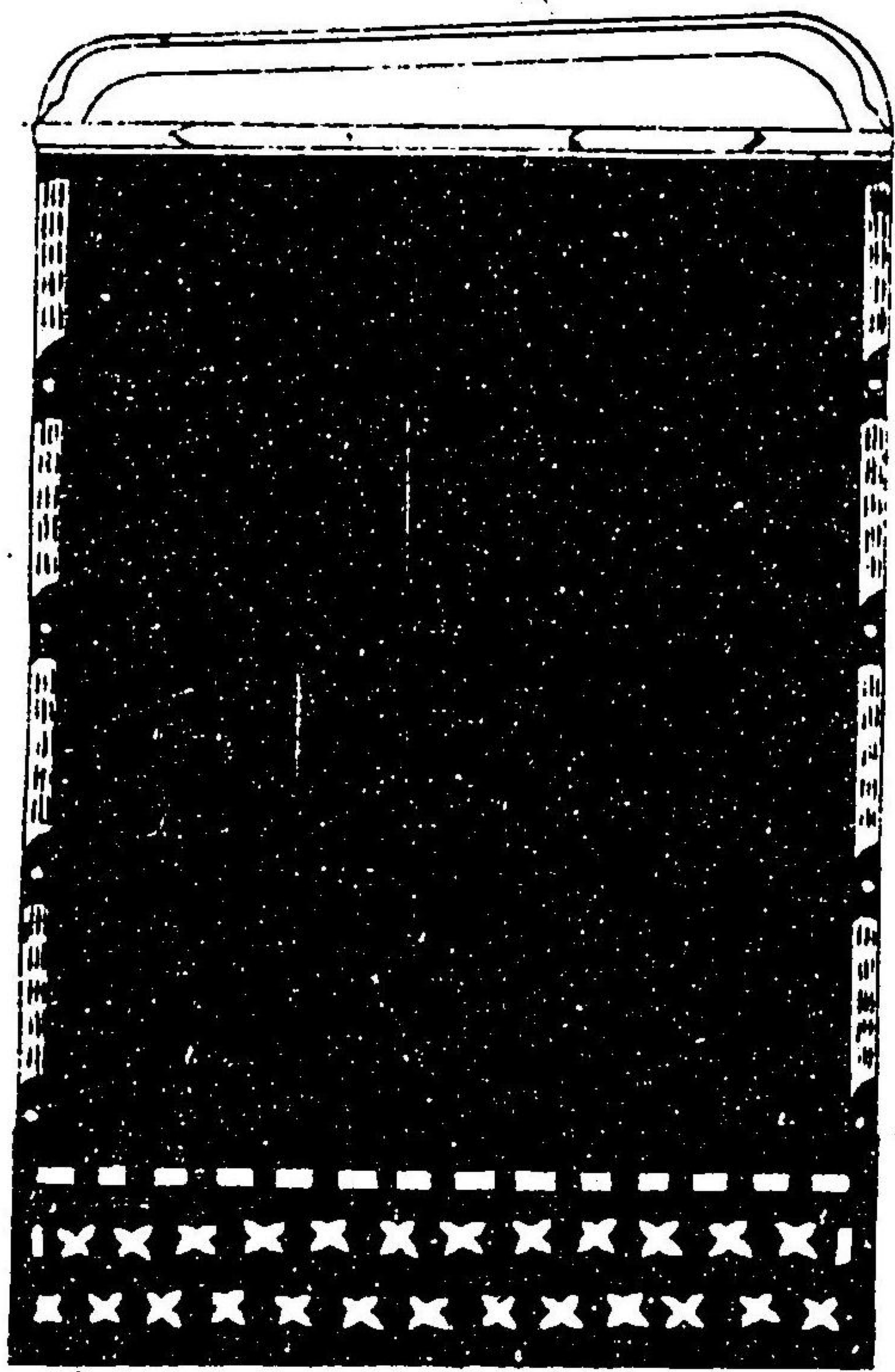
澤瀉城 後三年



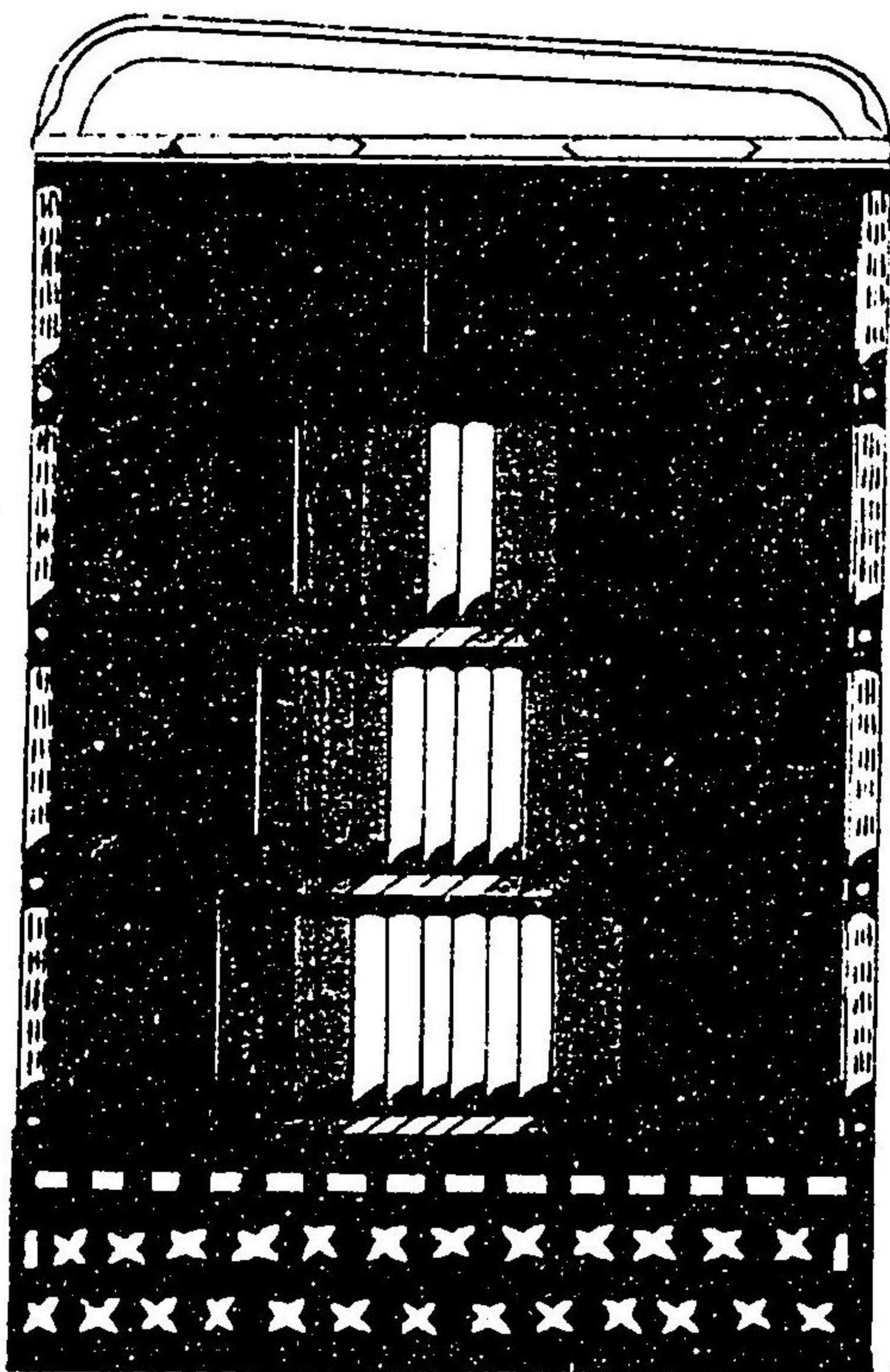
同上蒙古



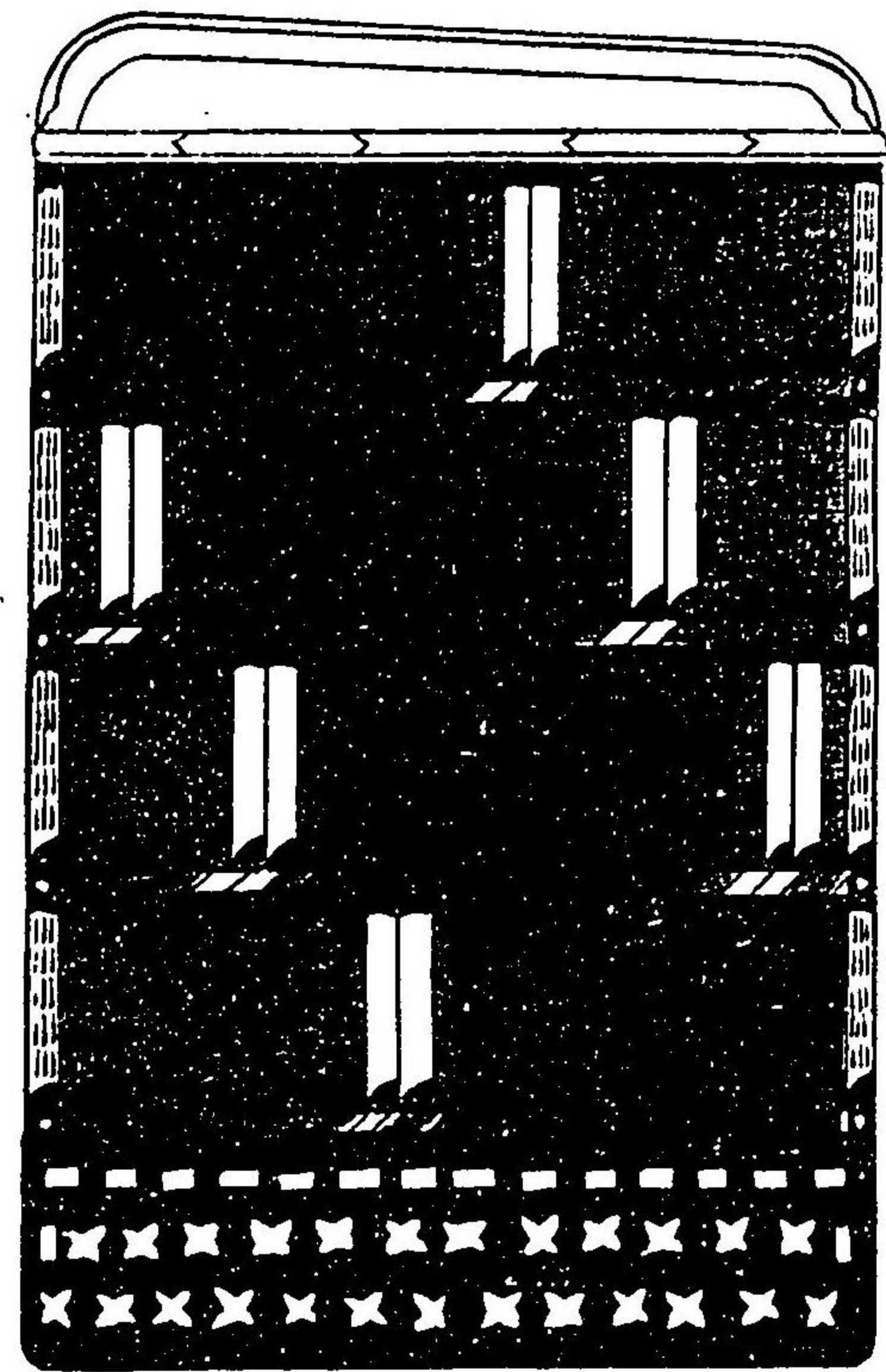
同上春日



同上蒙古

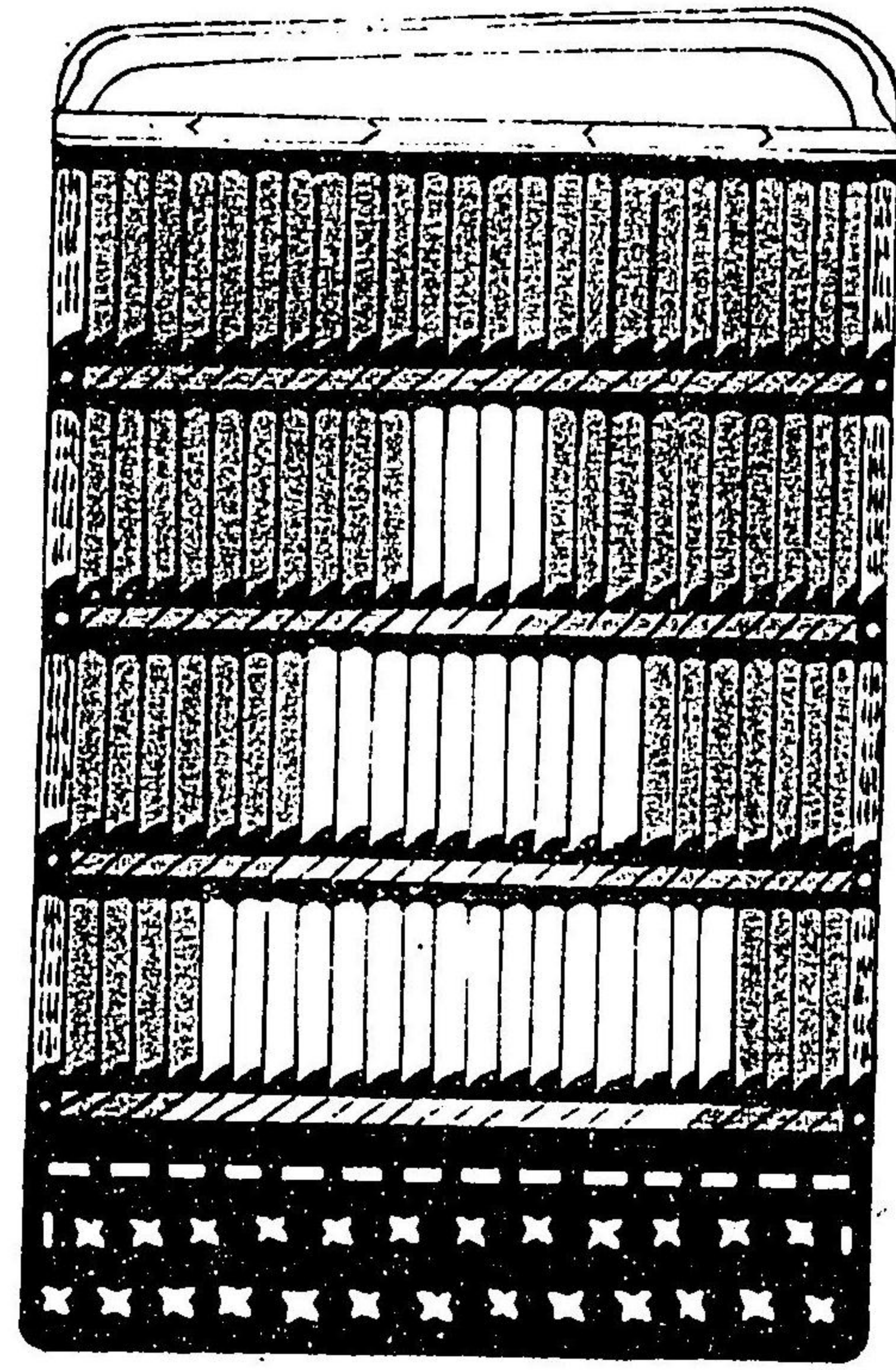


同上春日

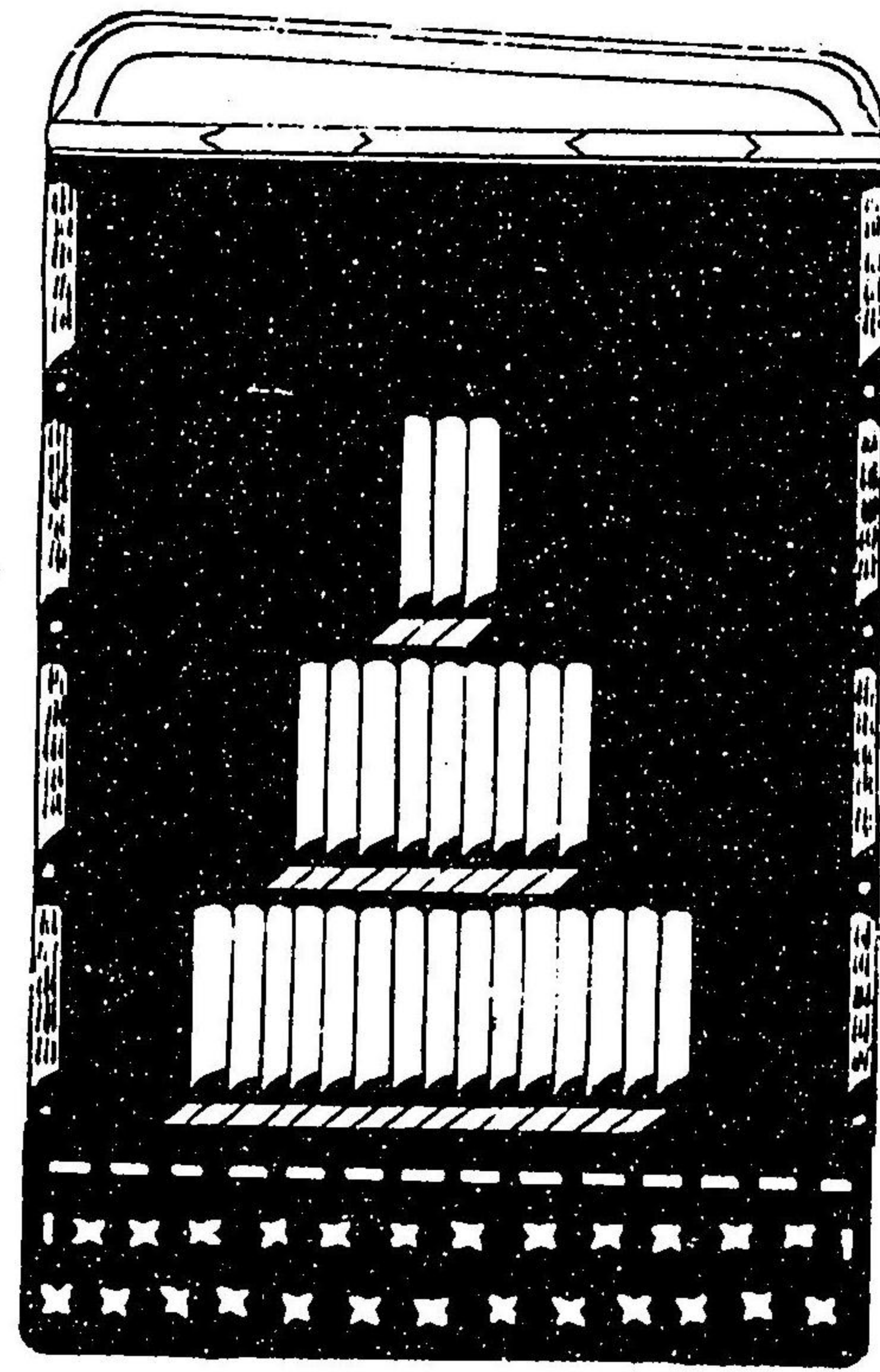


同上同年

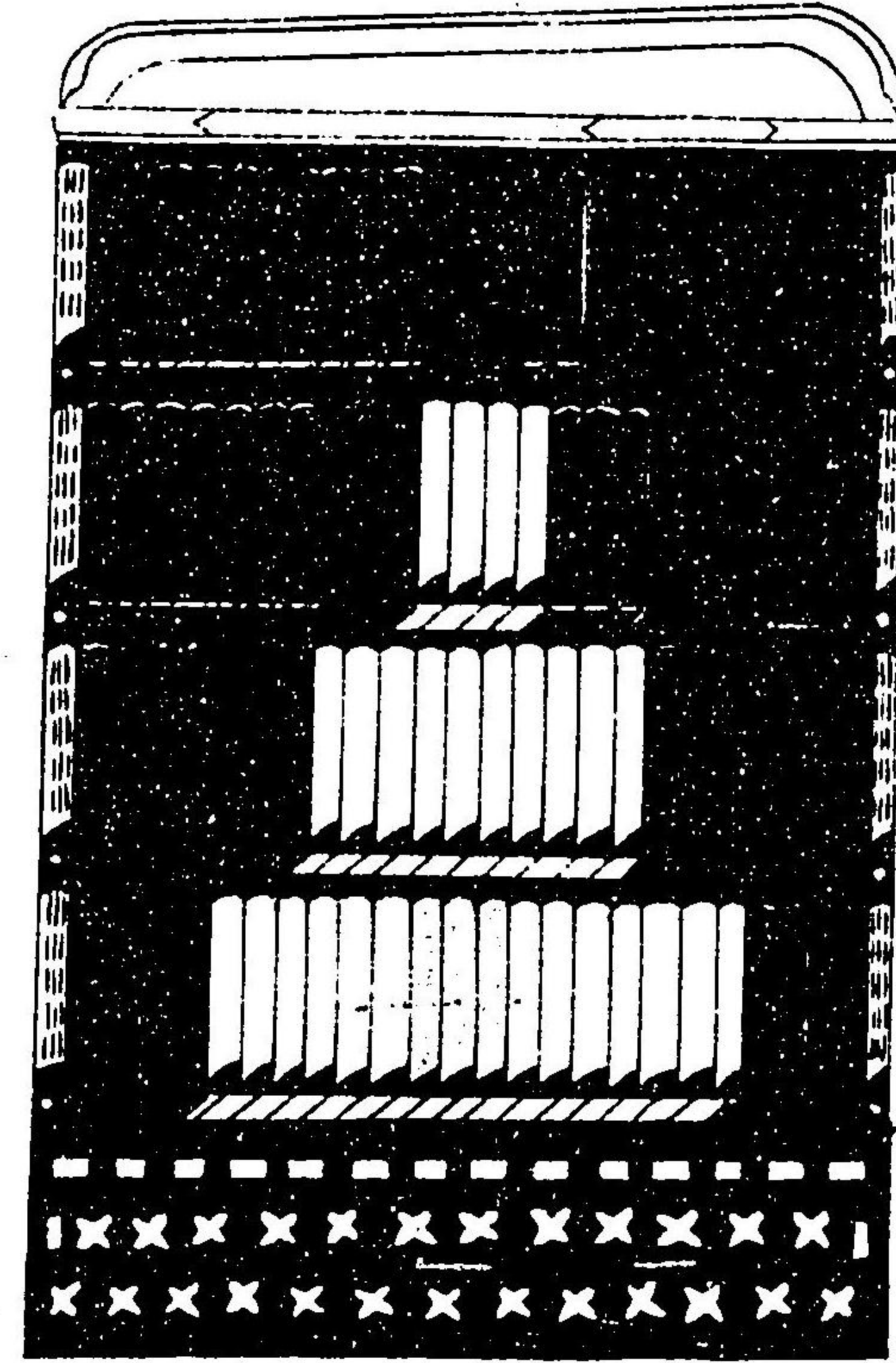




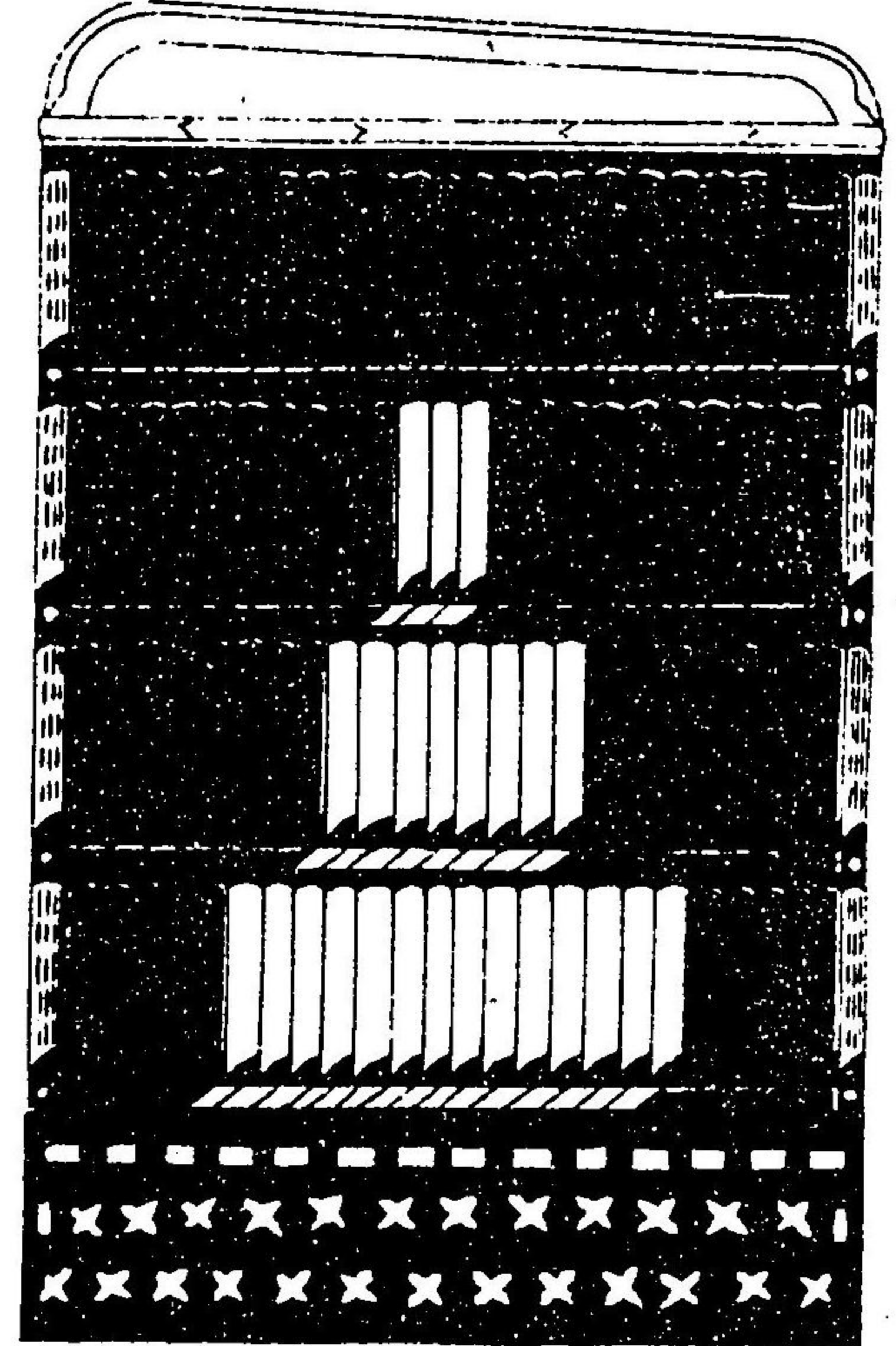
同上同



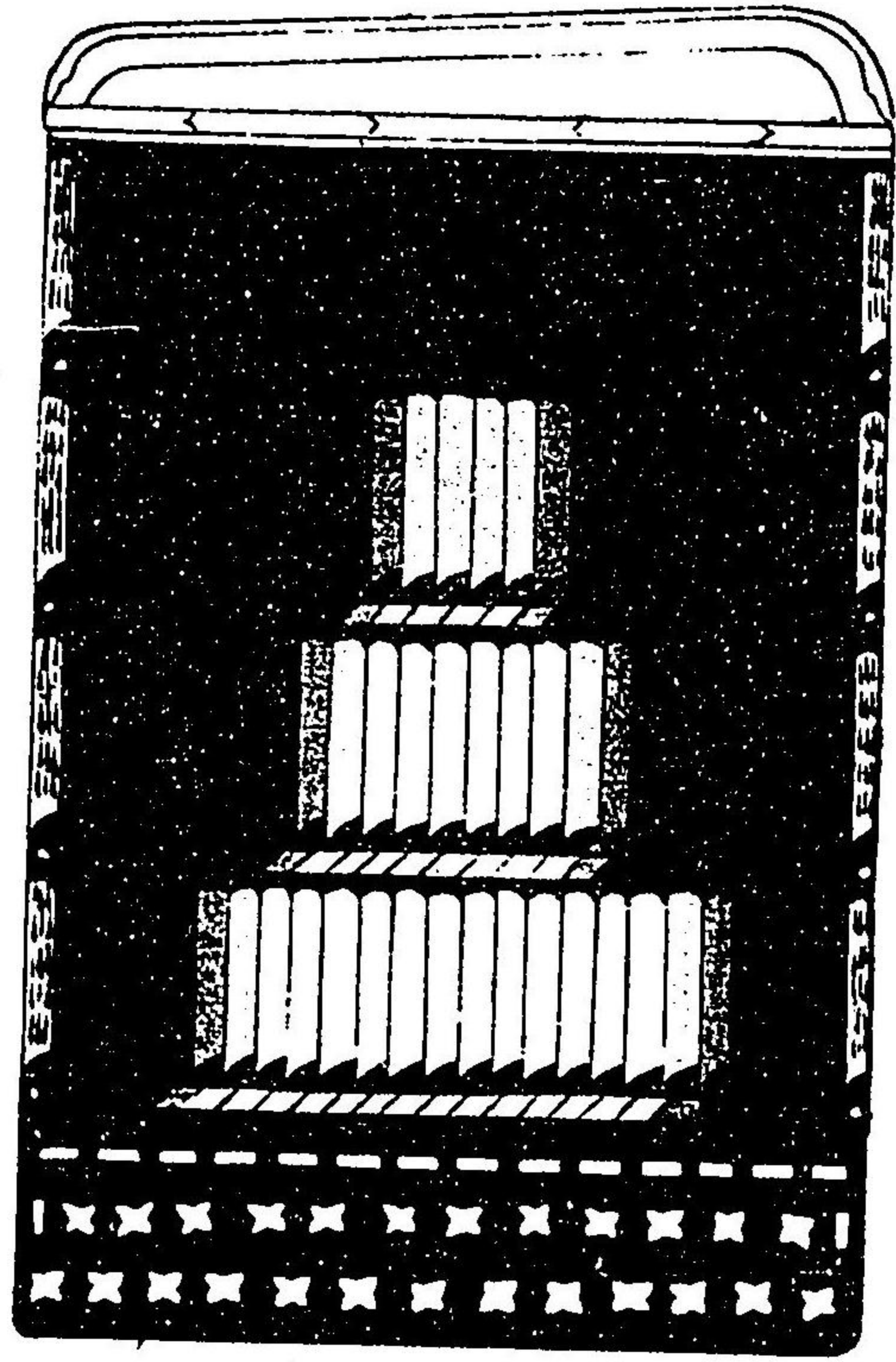
同上同



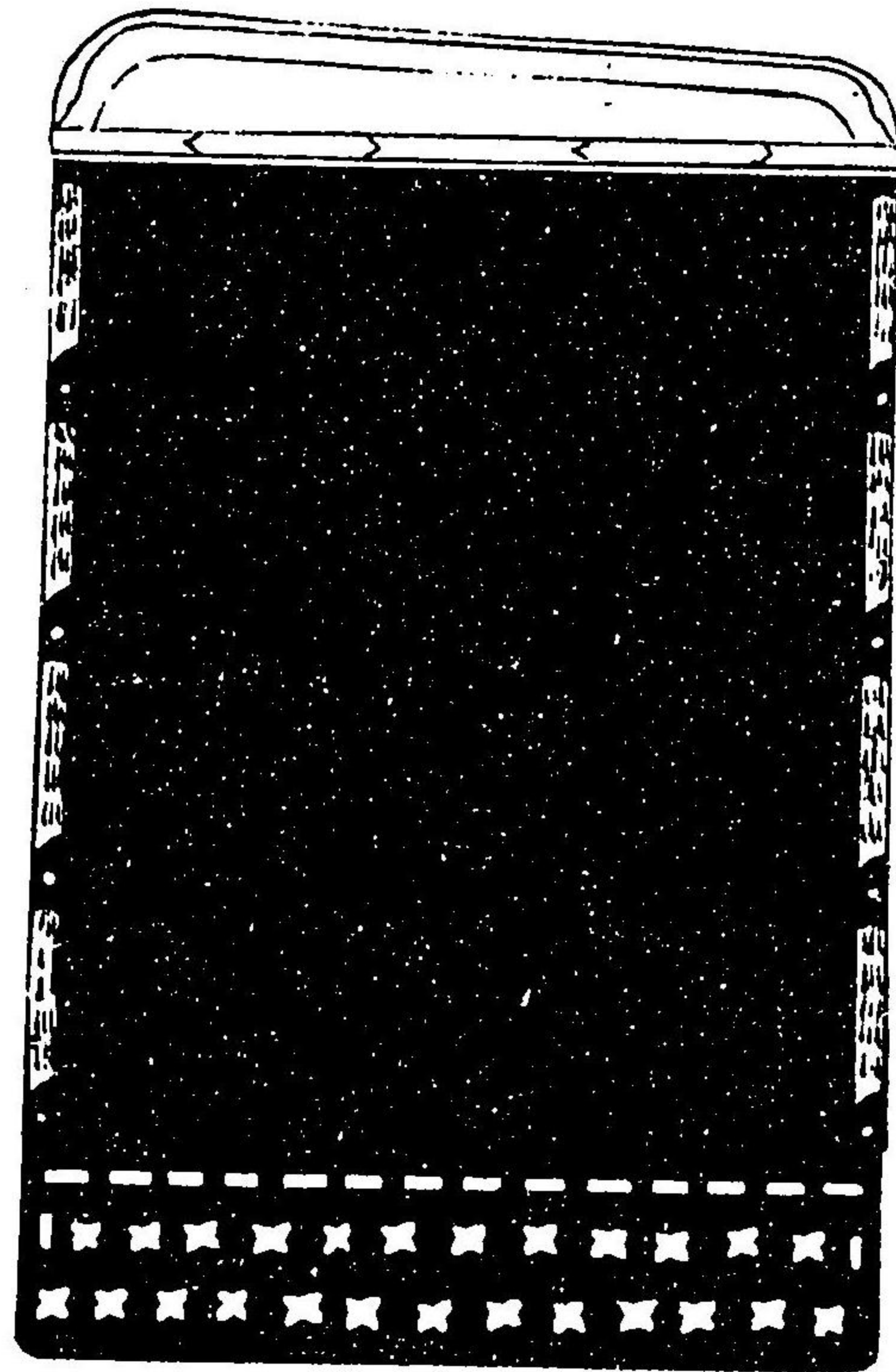
同上  
春日社藏古程



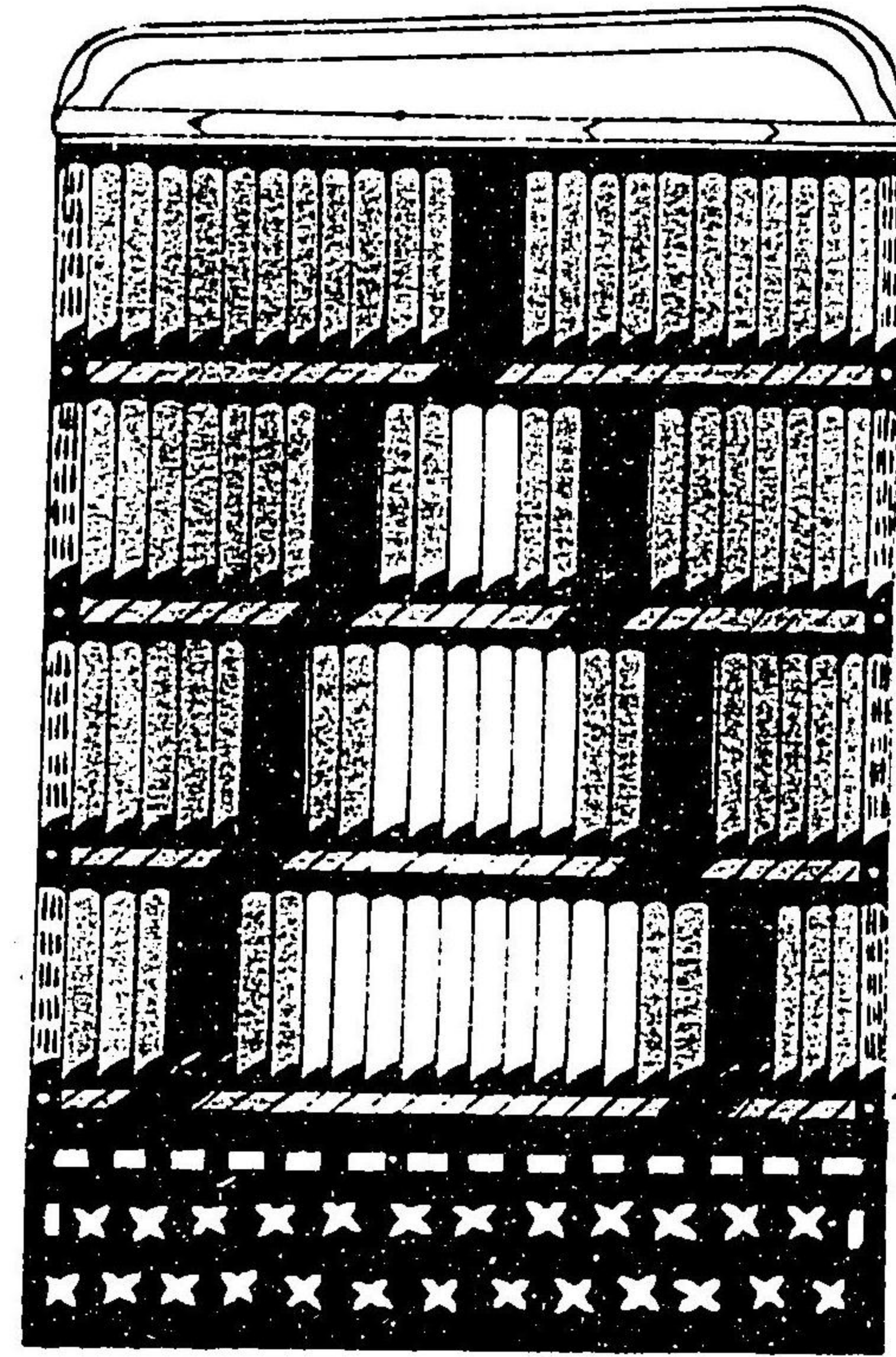
同上  
或家平治画



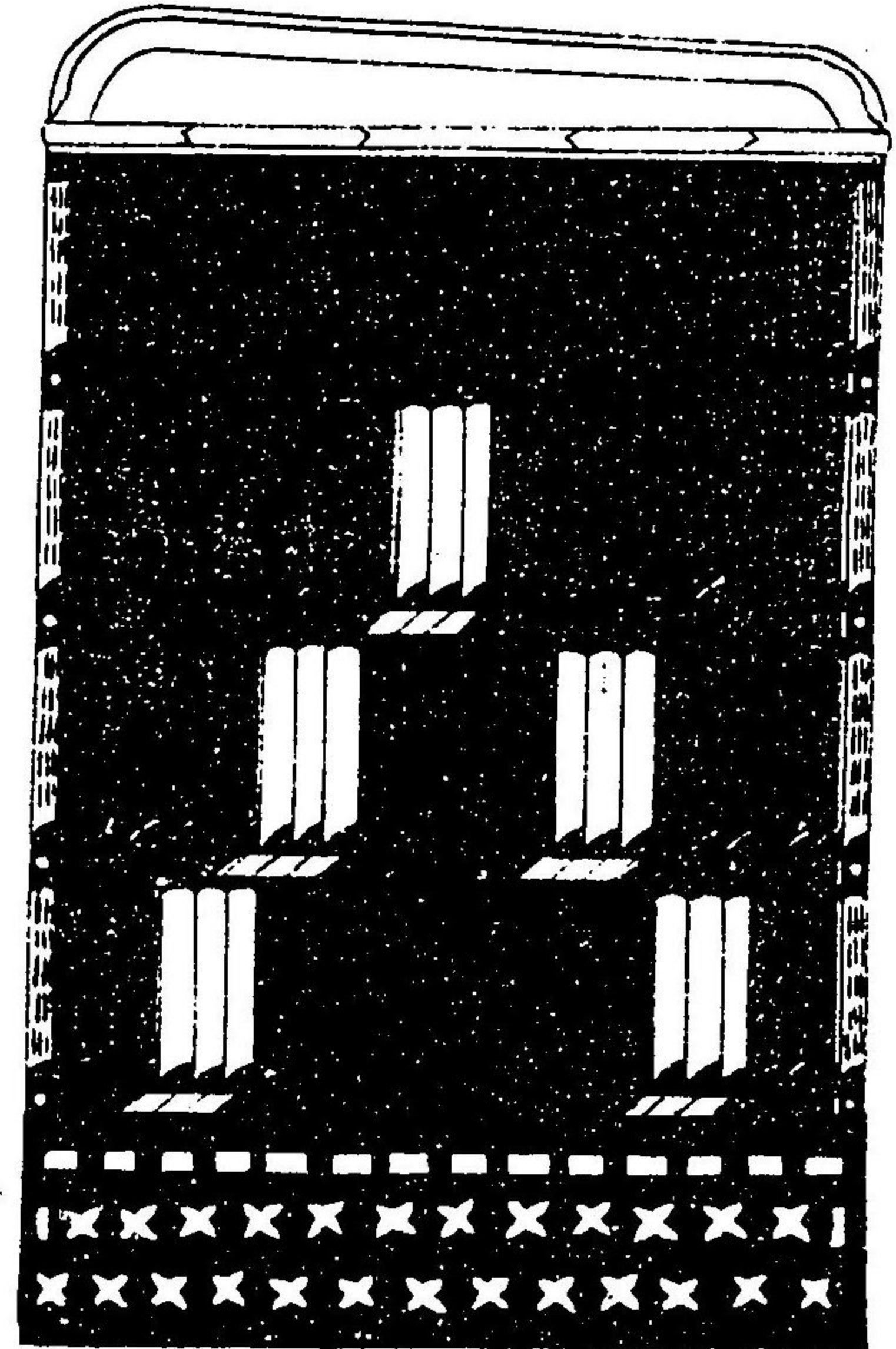
同上  
或家平治画



同上  
保元平治

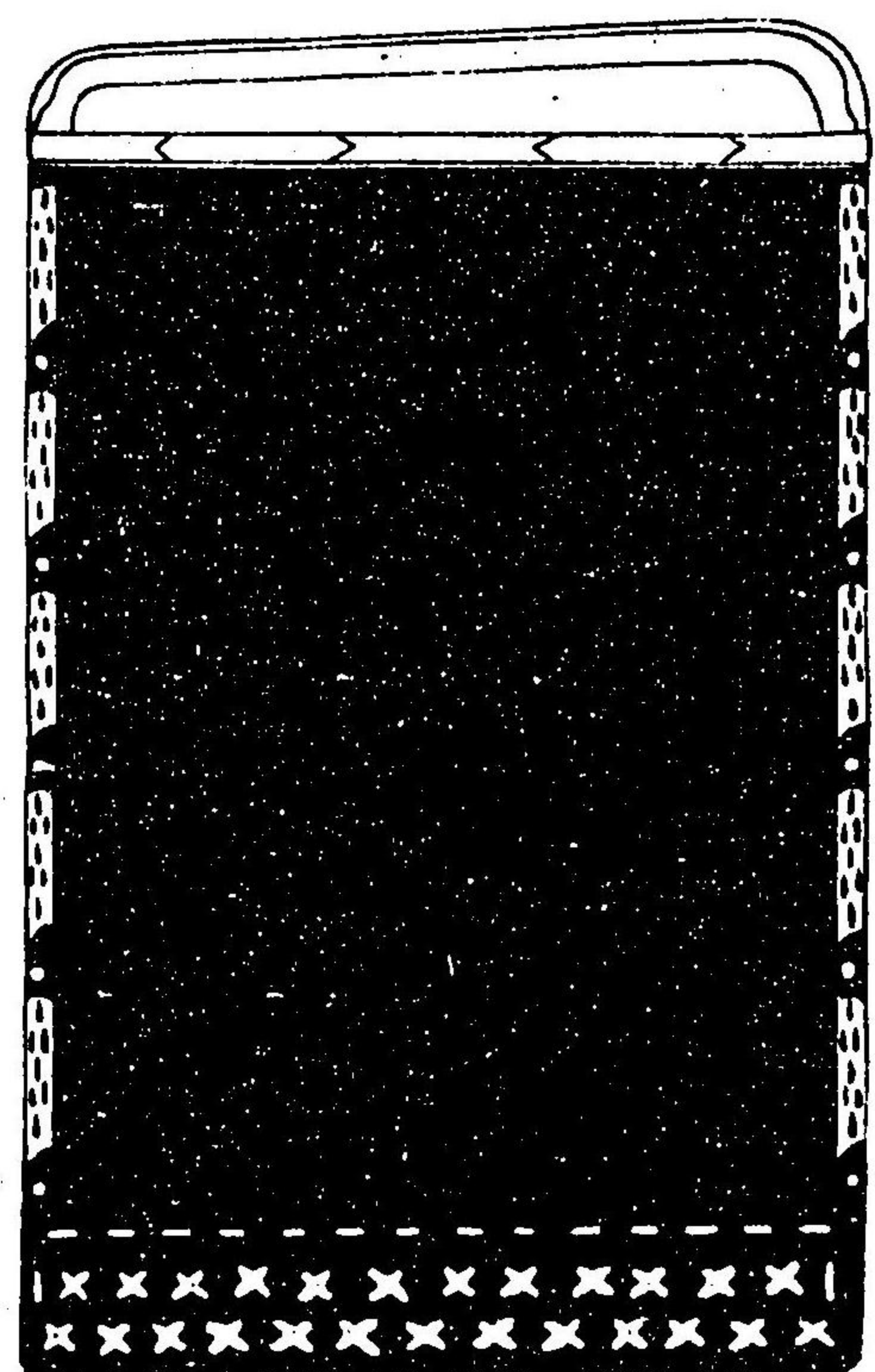


同上  
同光

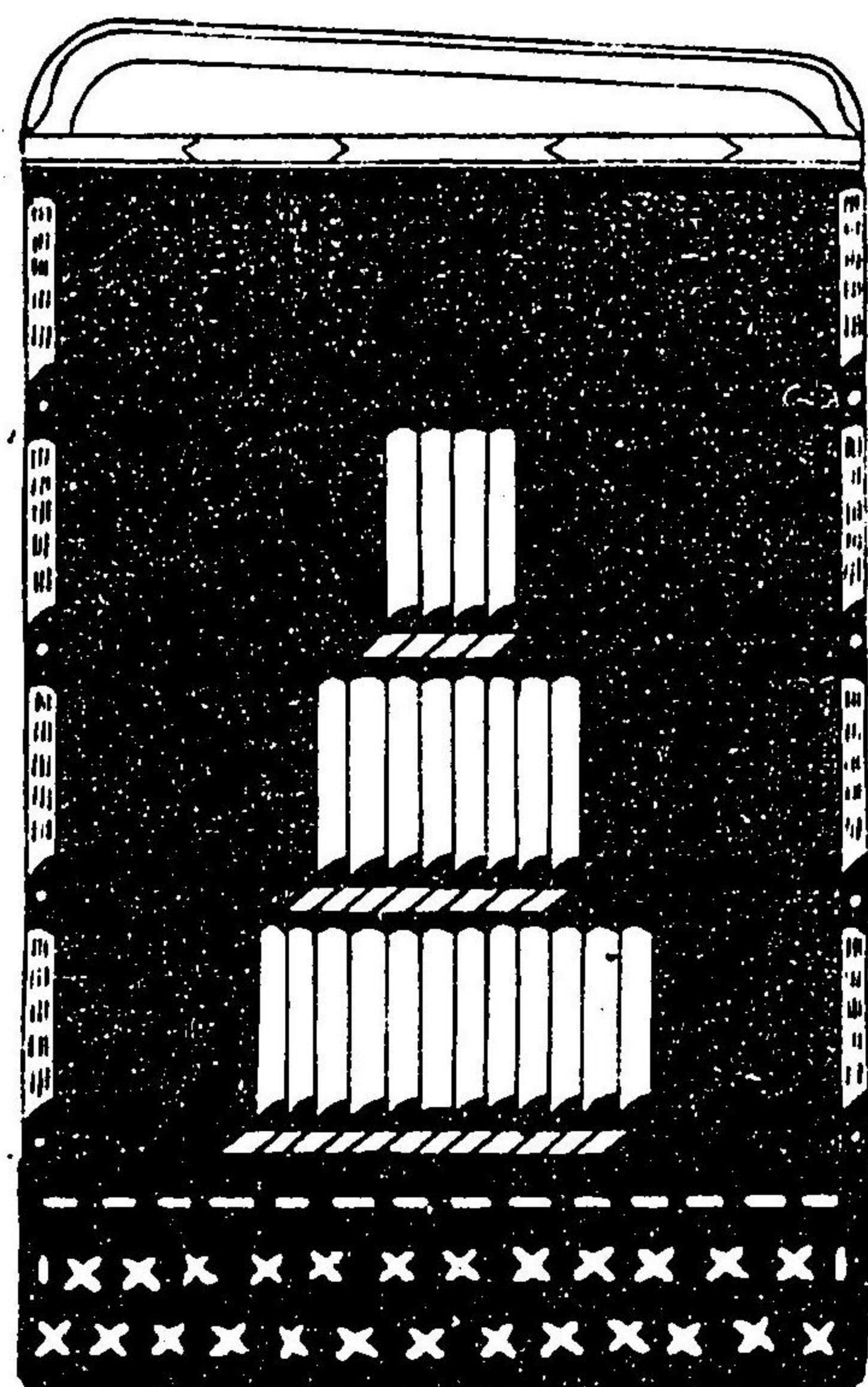


同上同

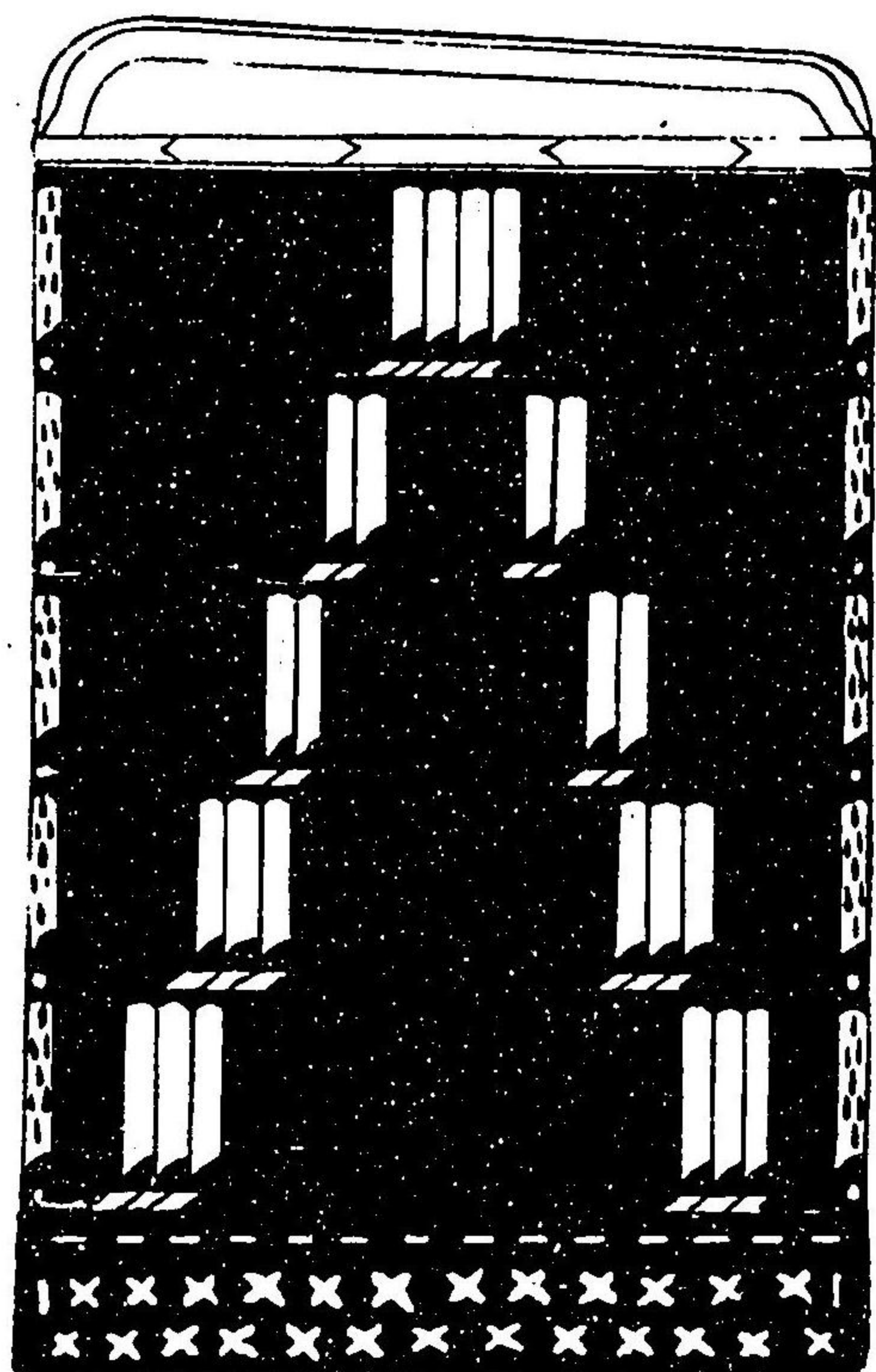




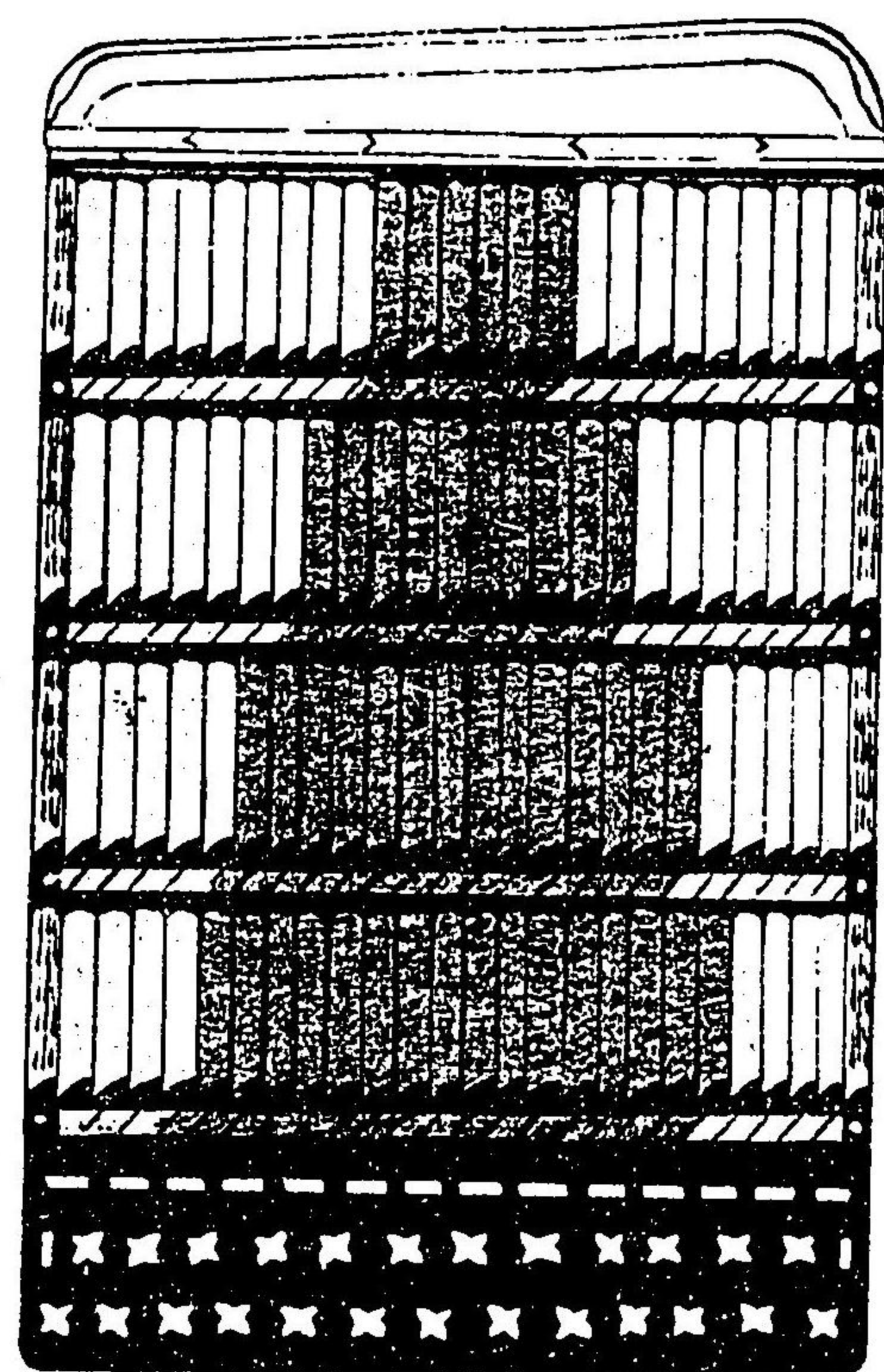
同上同



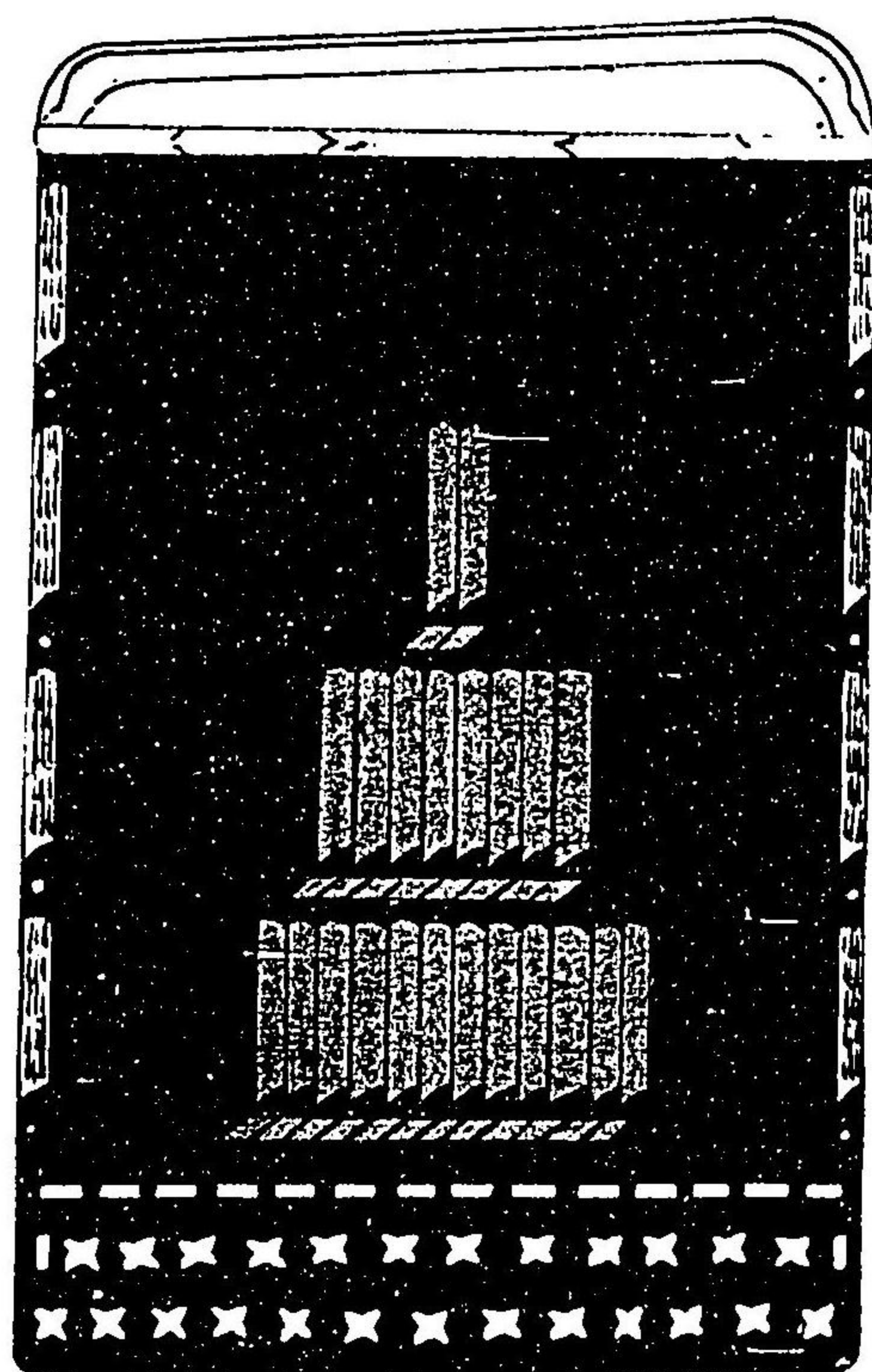
同上 土佐光信画平治



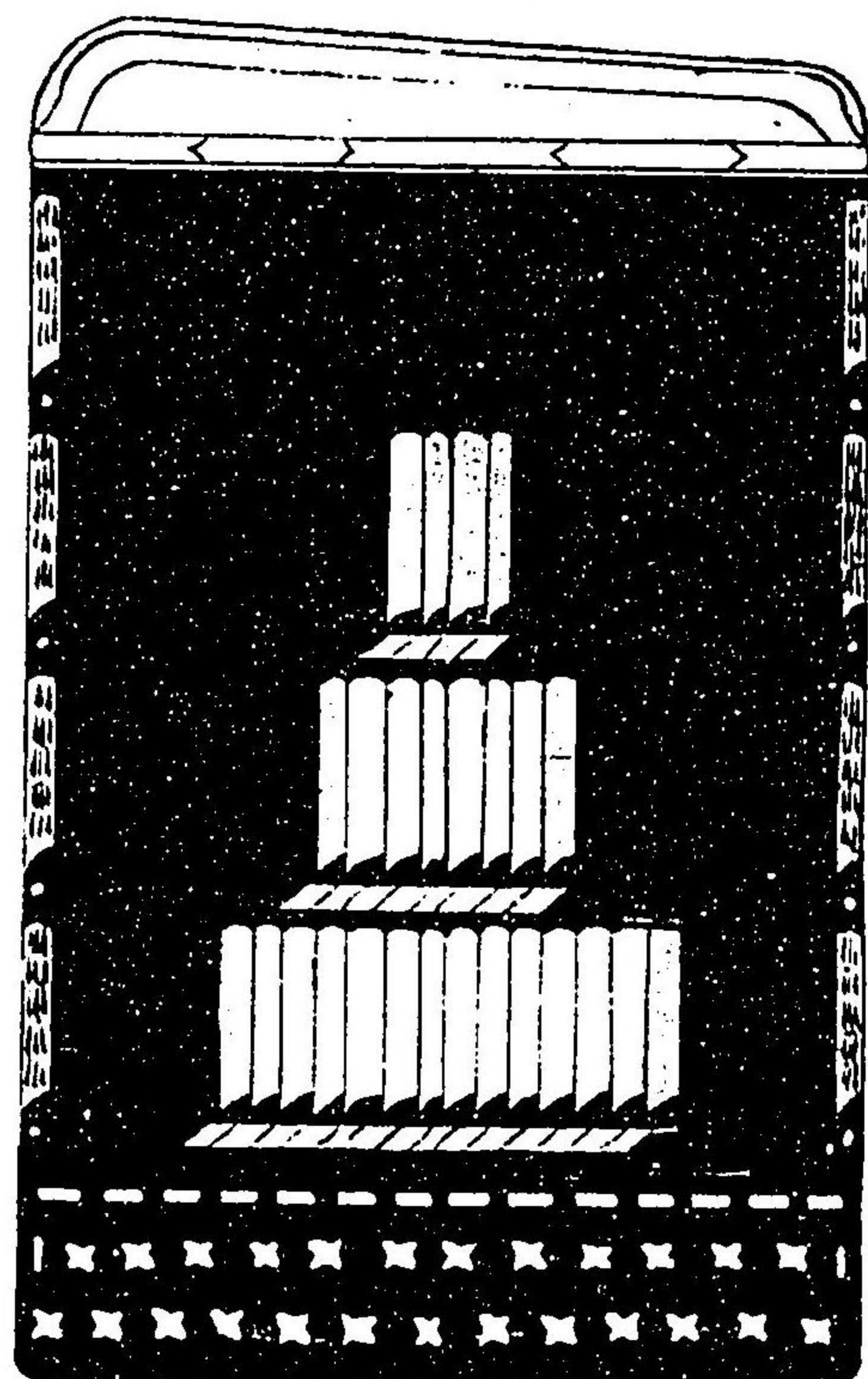
同上 蒙古



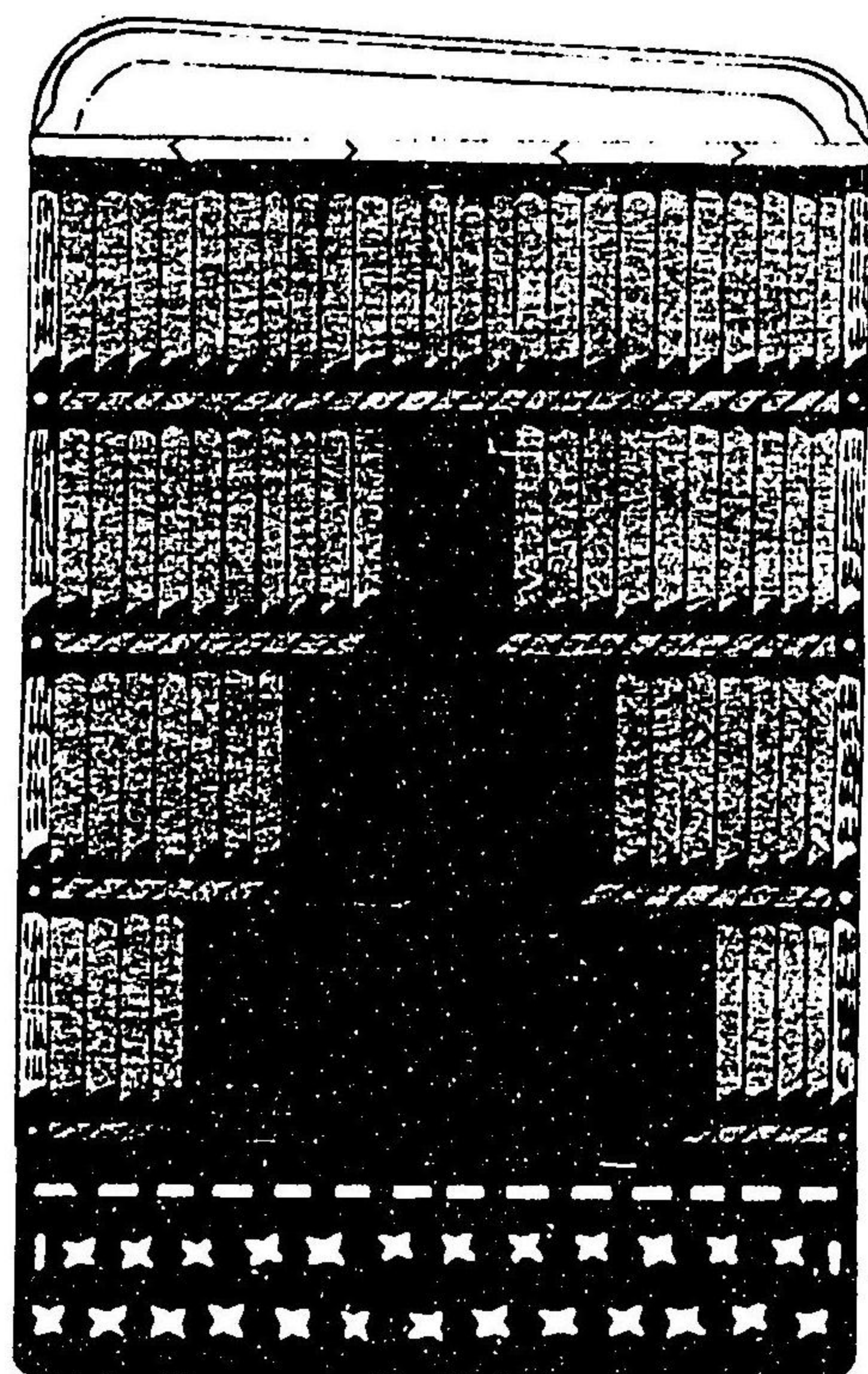
同上 後三年



同上同

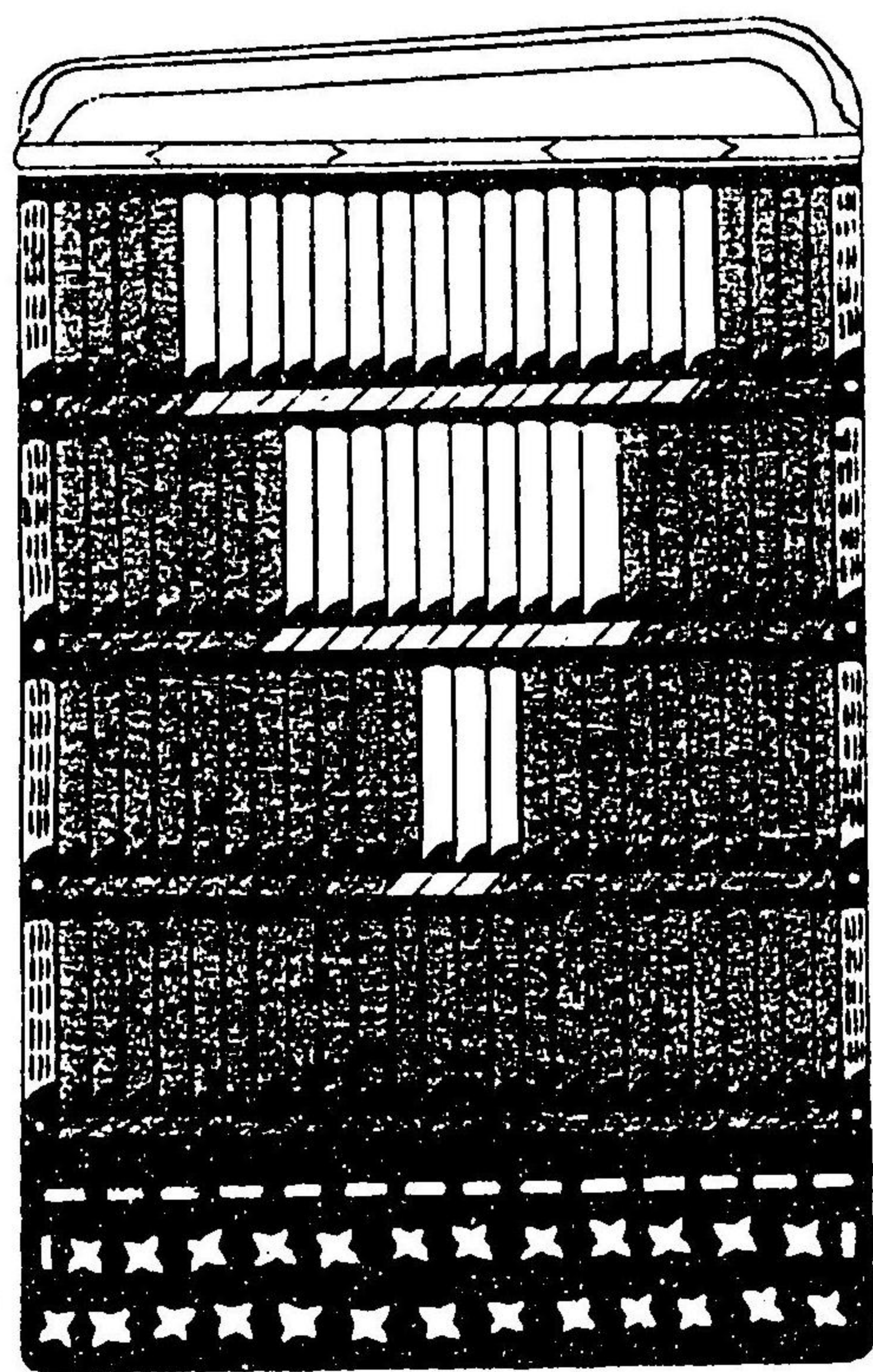


同上同

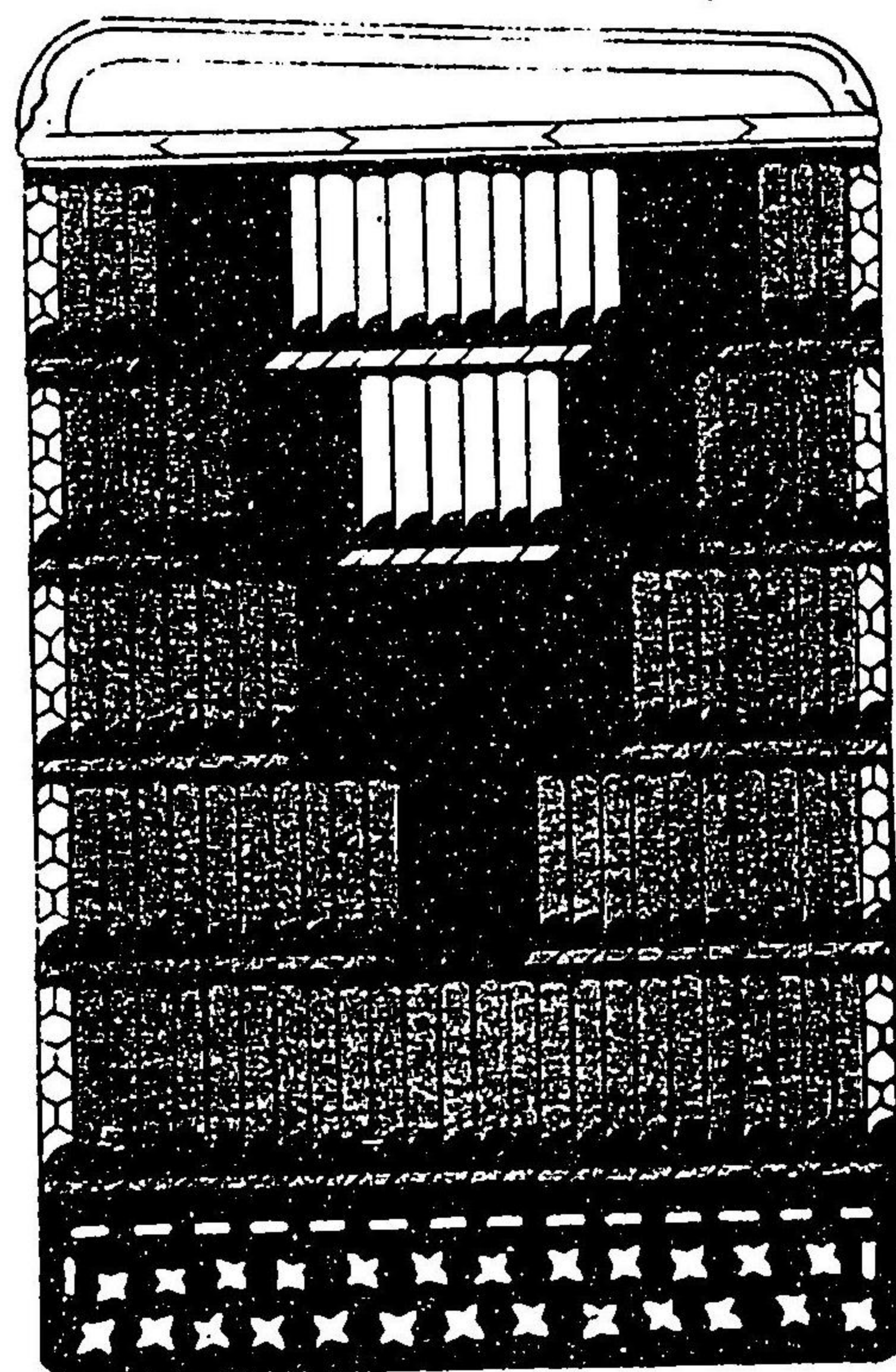


同上 保元平治

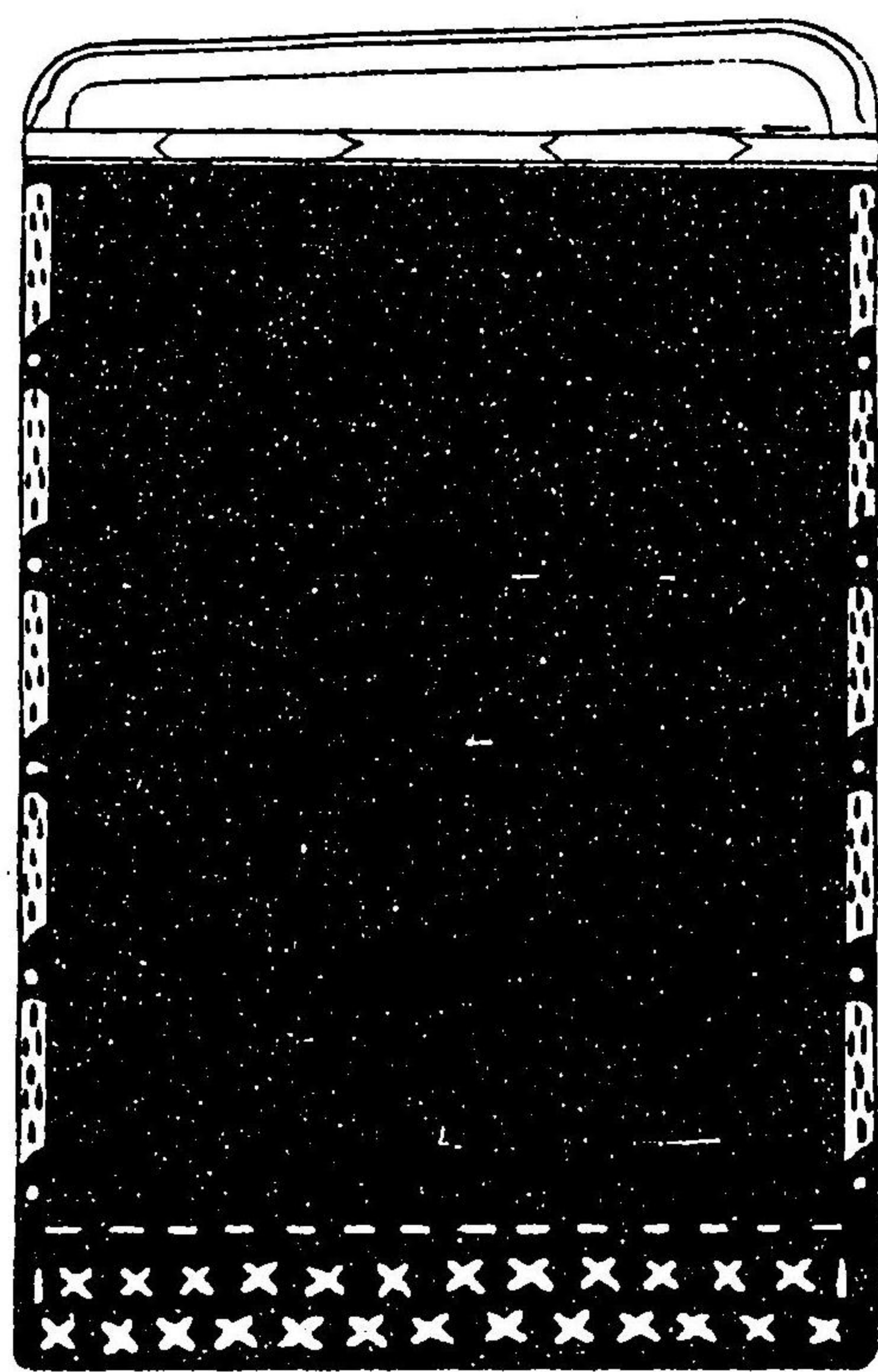




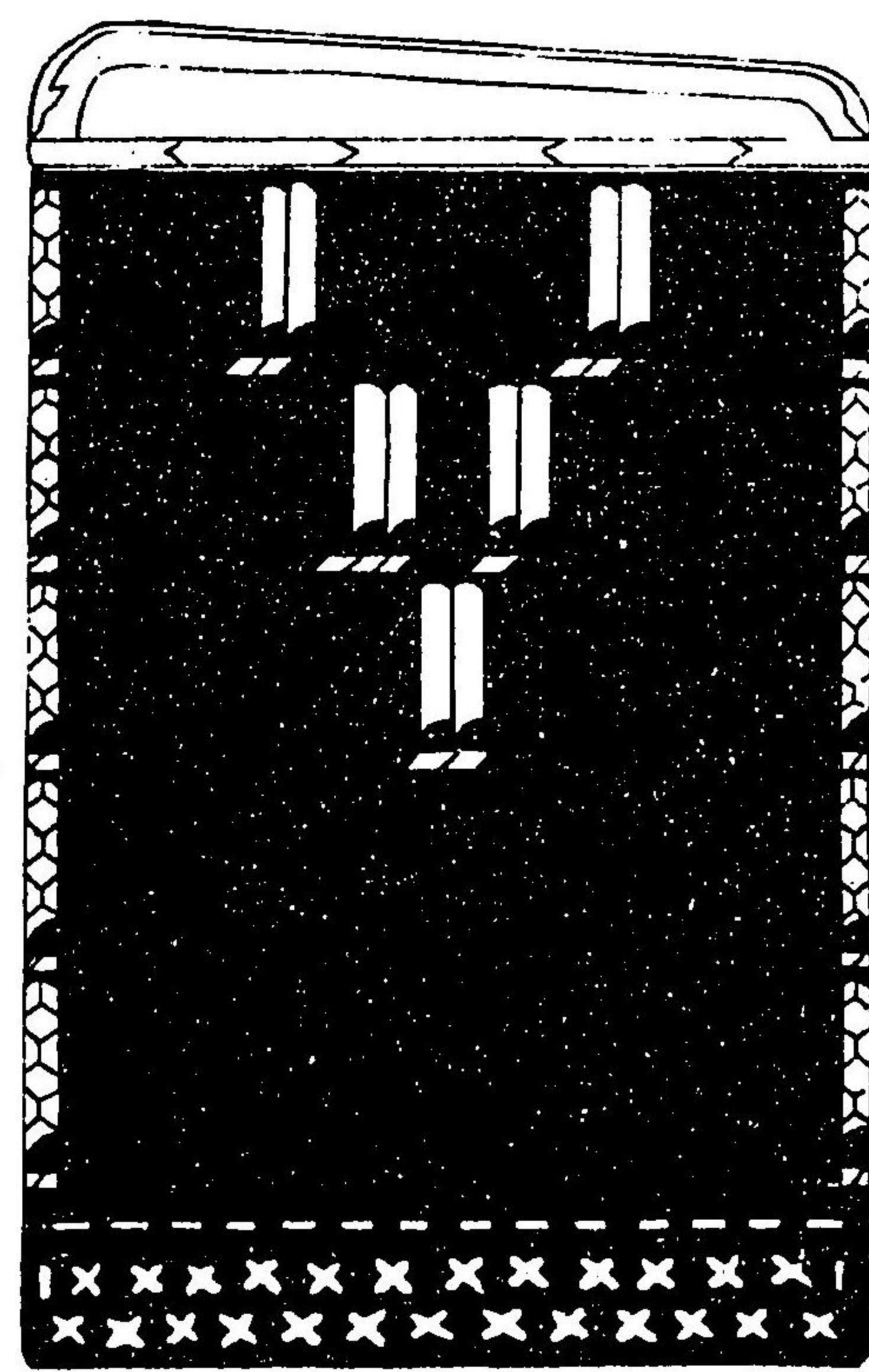
同上  
保元平治  
十界



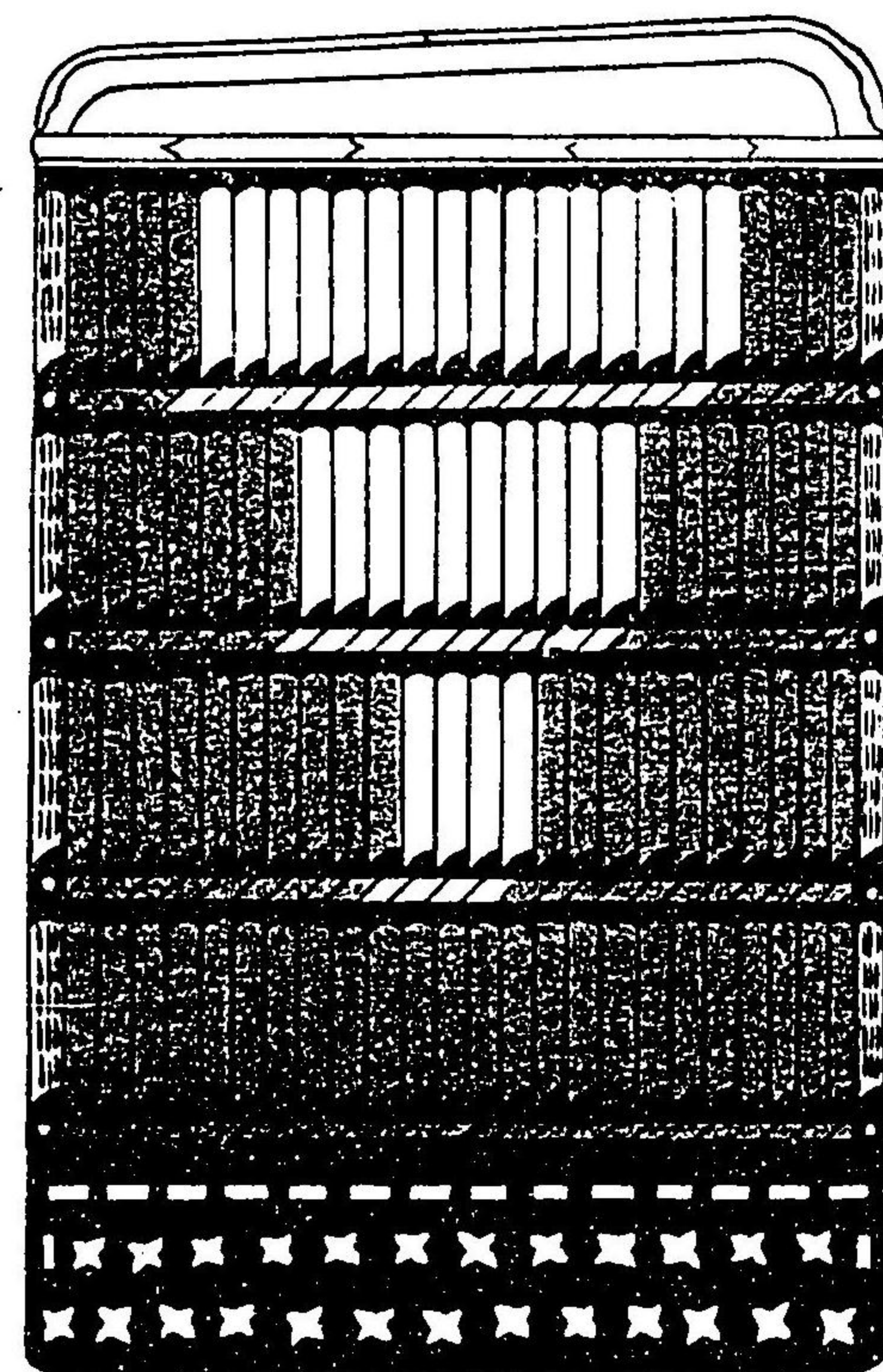
同上  
四



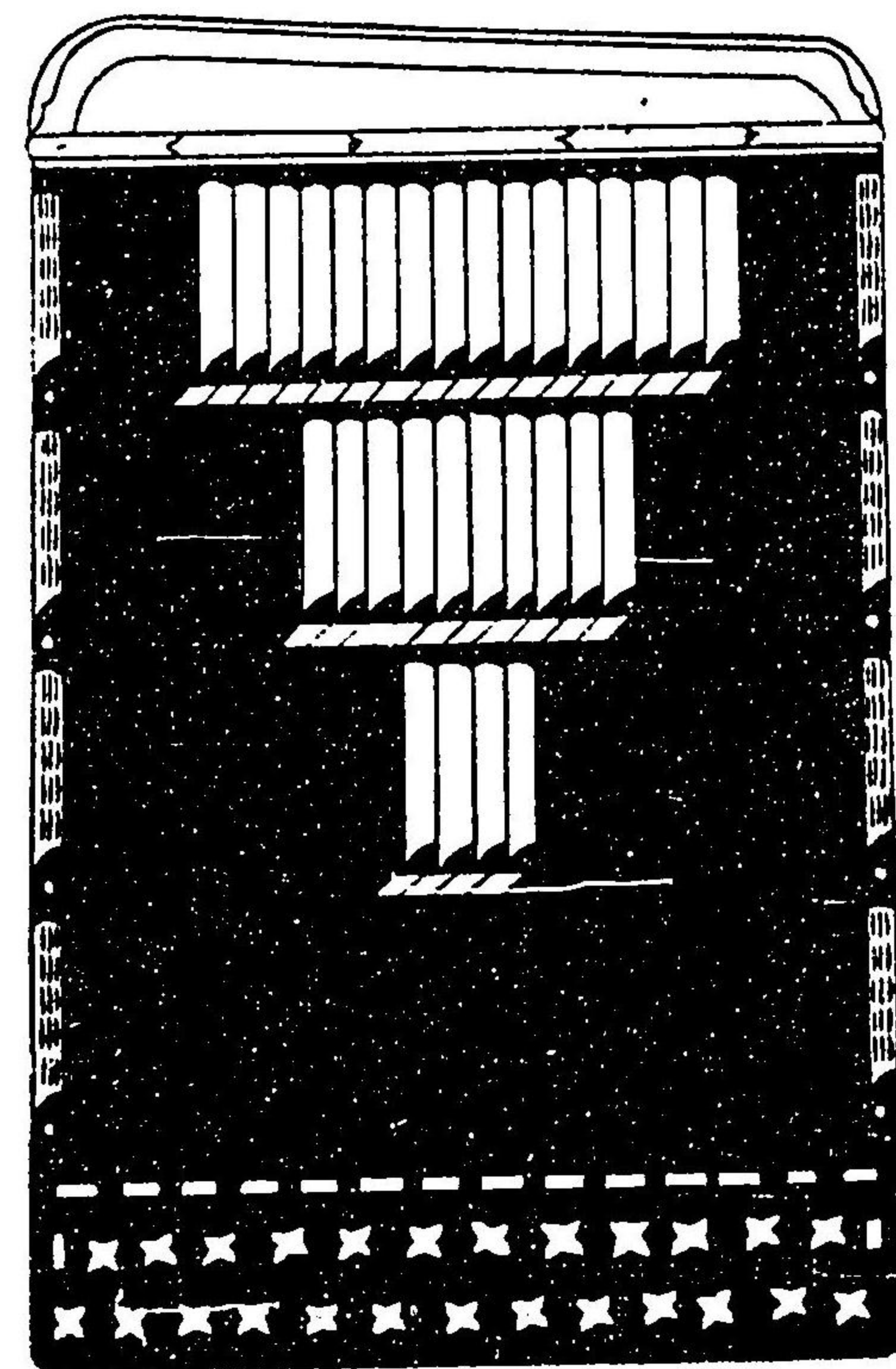
同上  
同



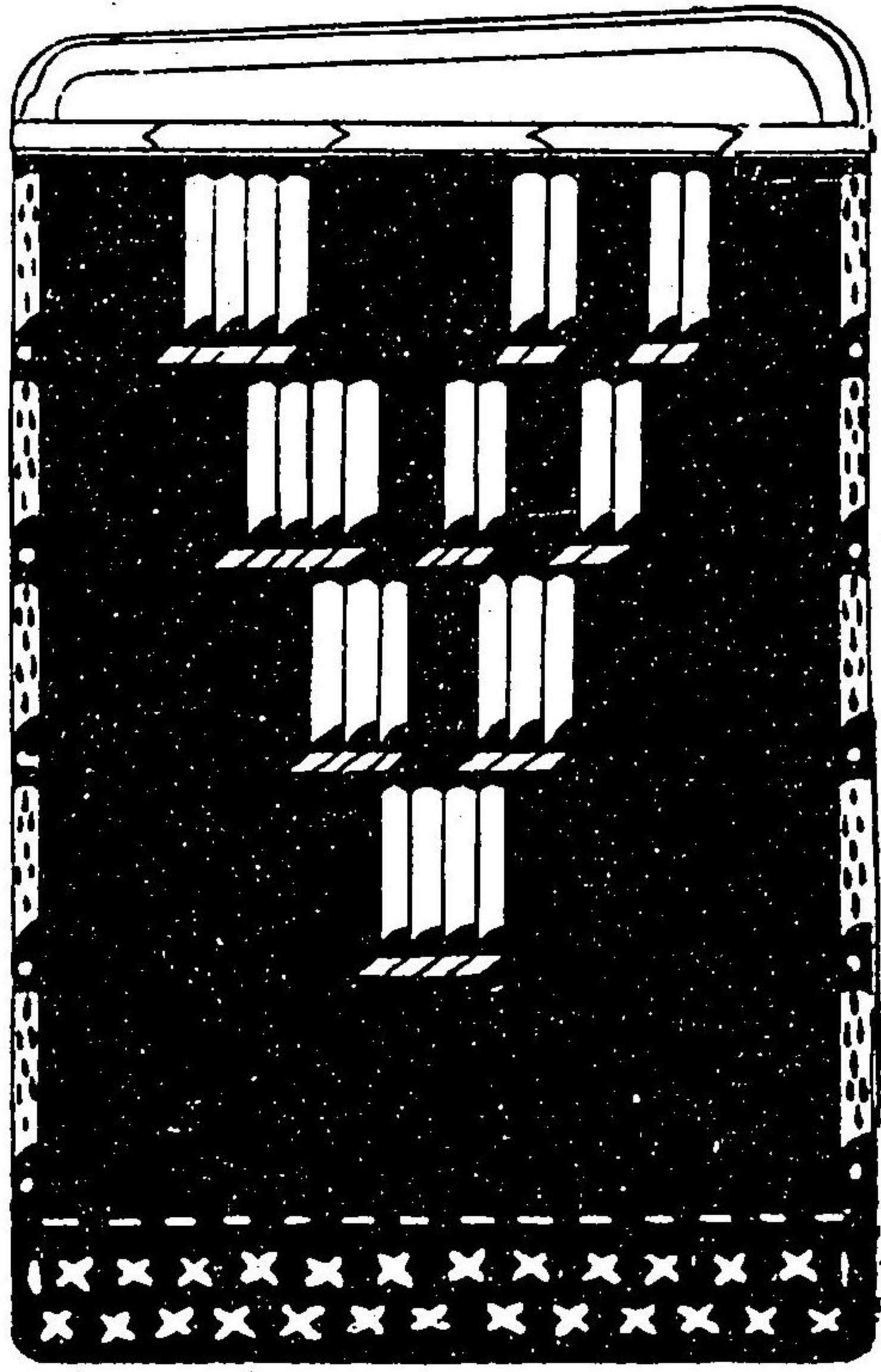
同上  
逆剪草絨、蒙古



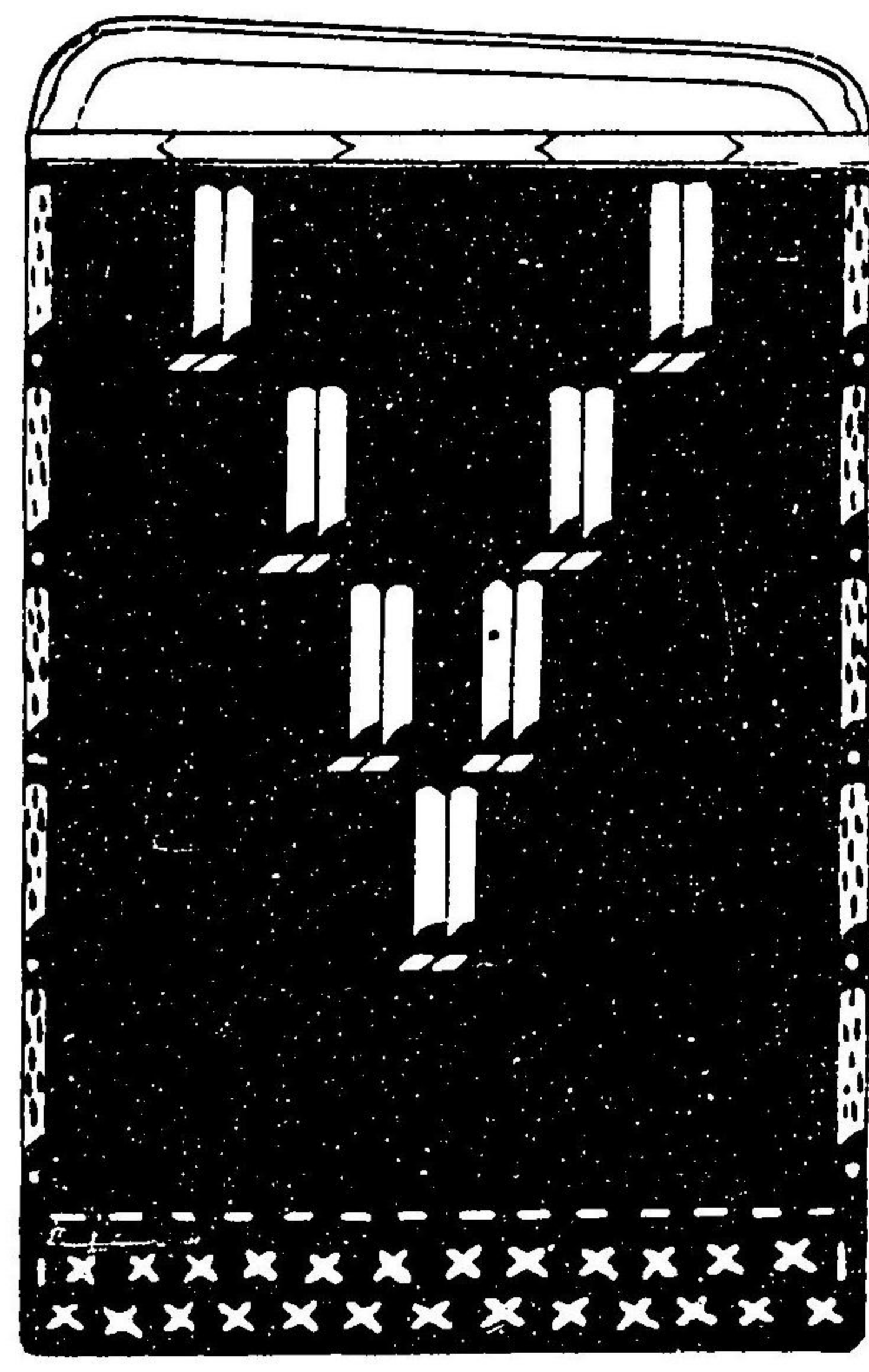
同上  
保元平治



同上  
圓光

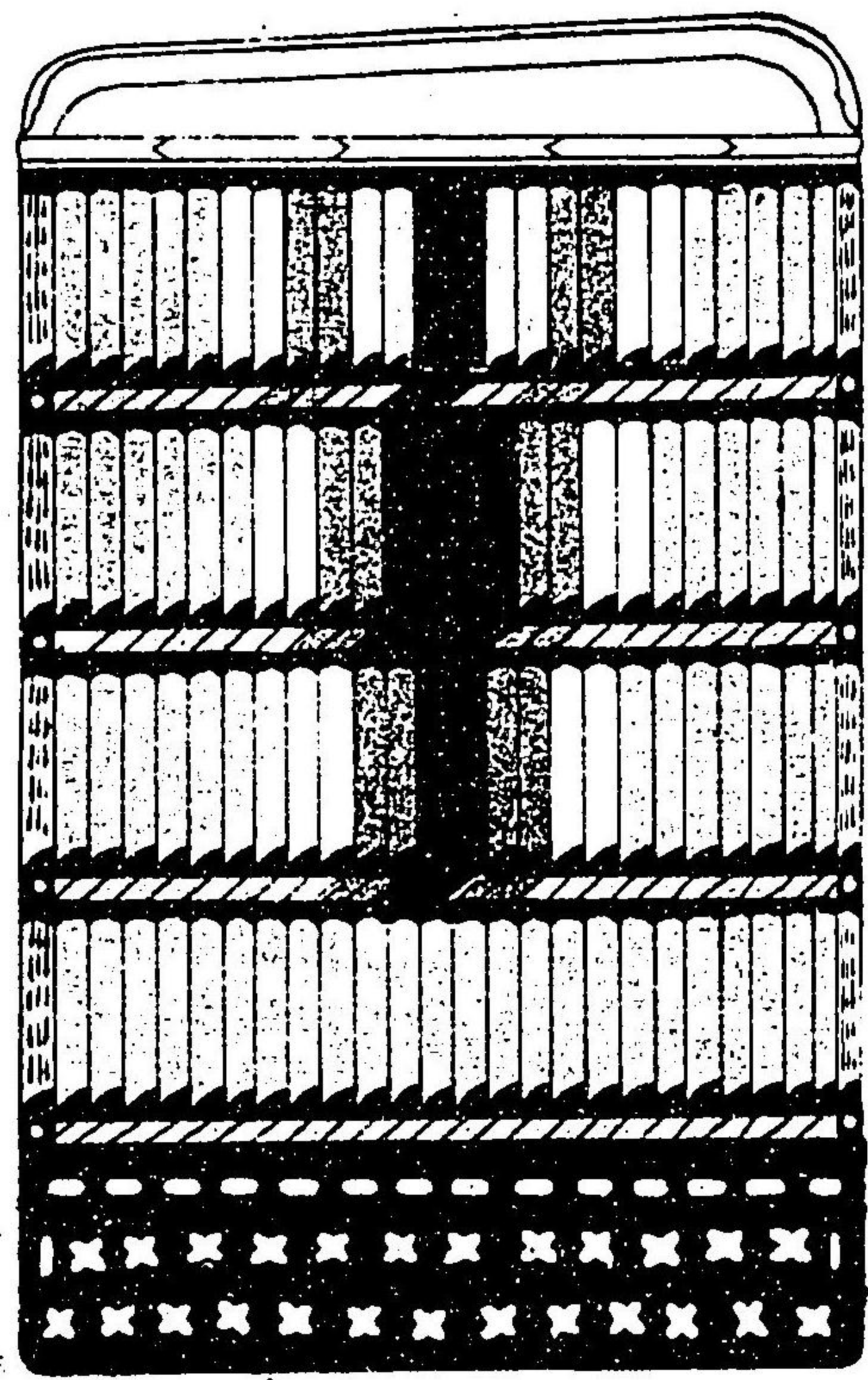


同上  
同

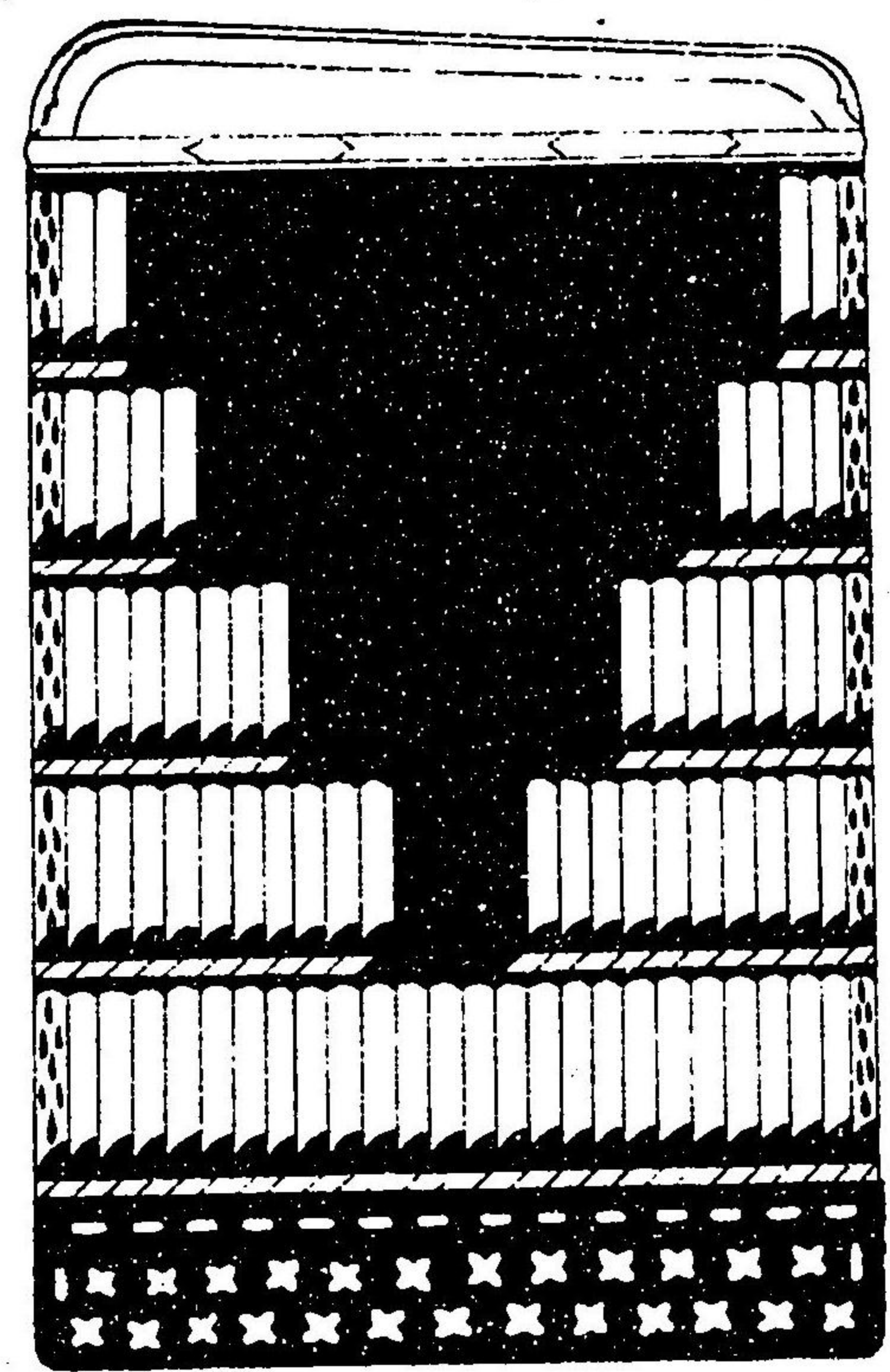


同上  
同

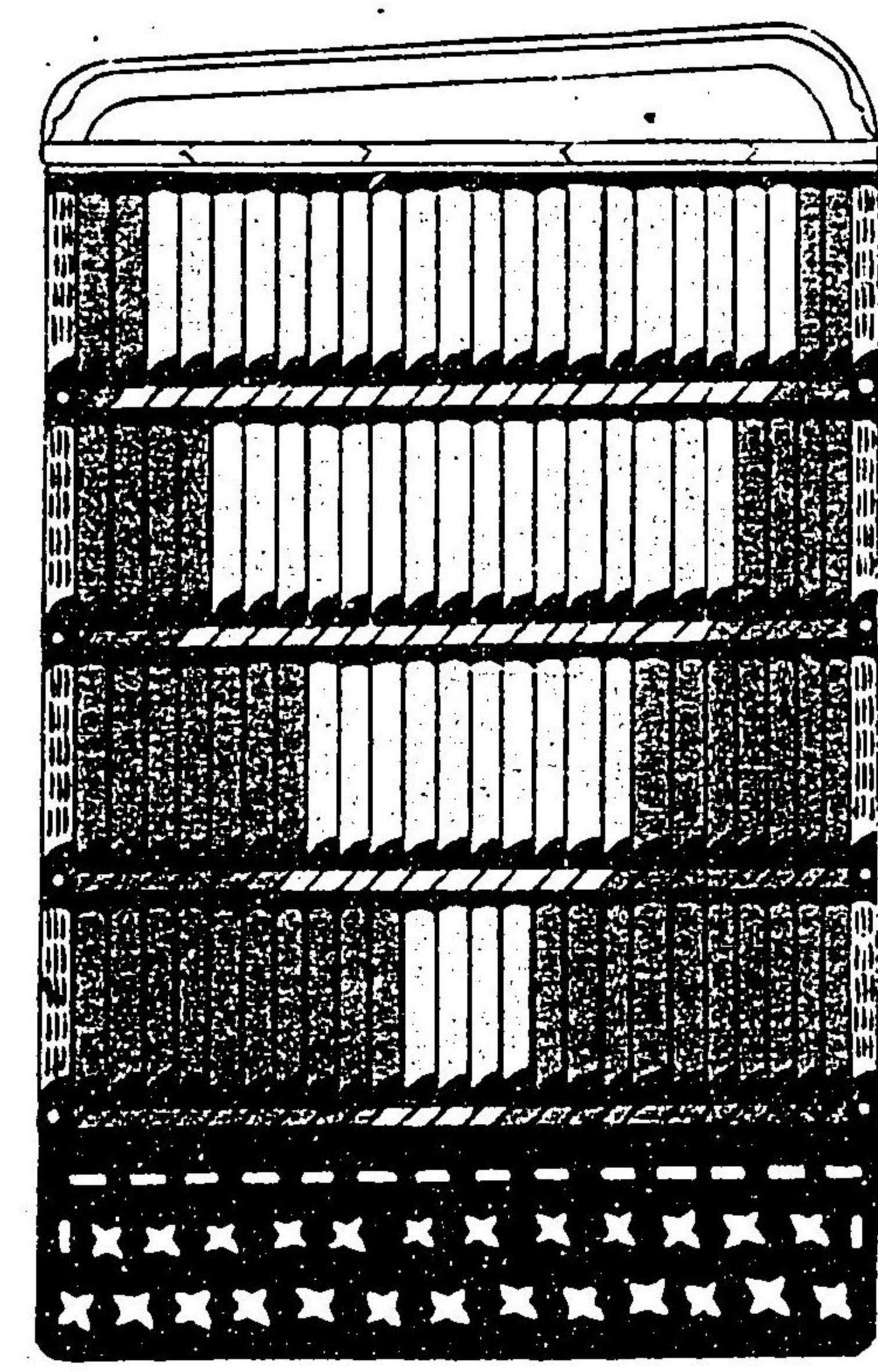




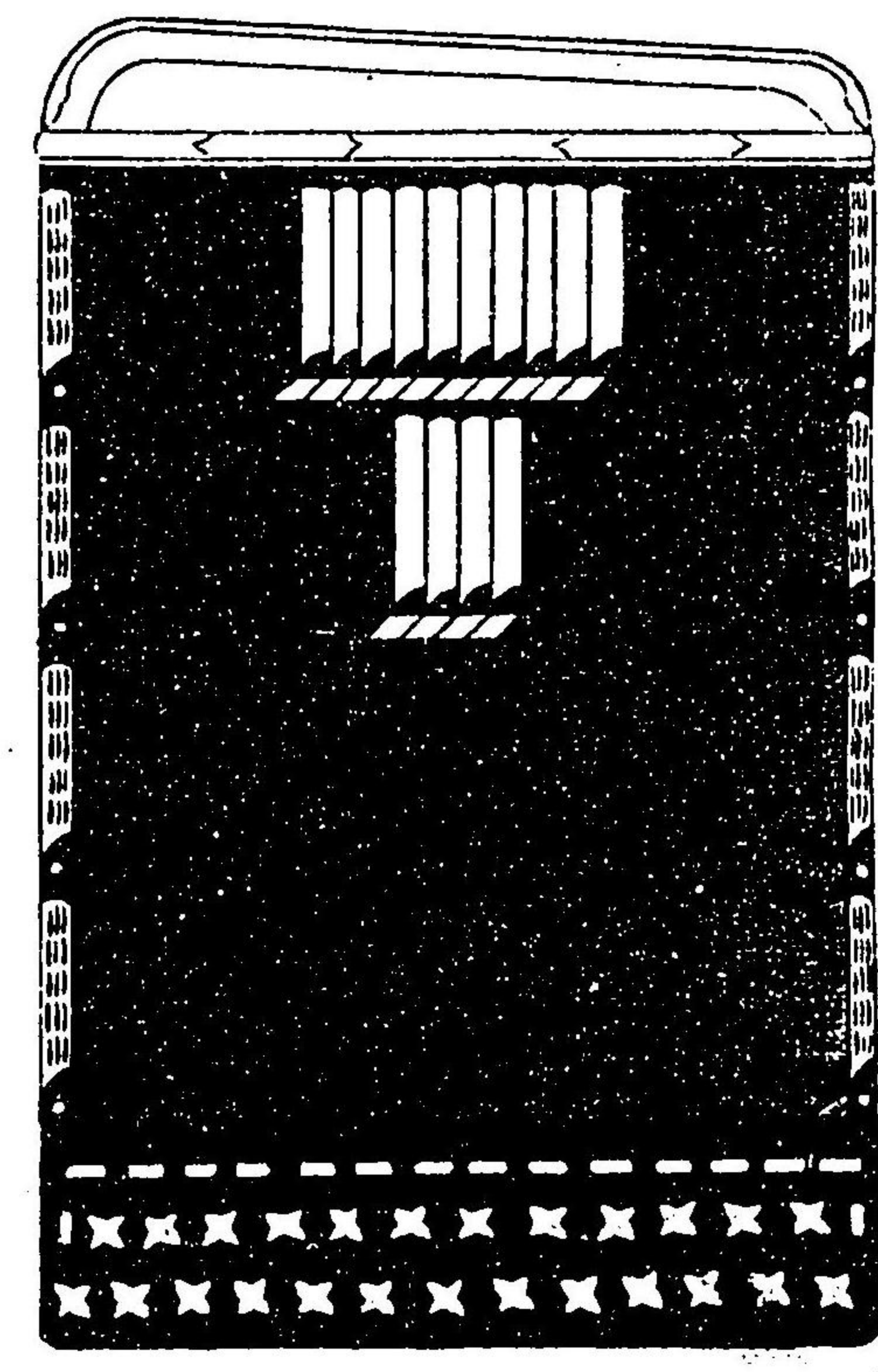
同上春日



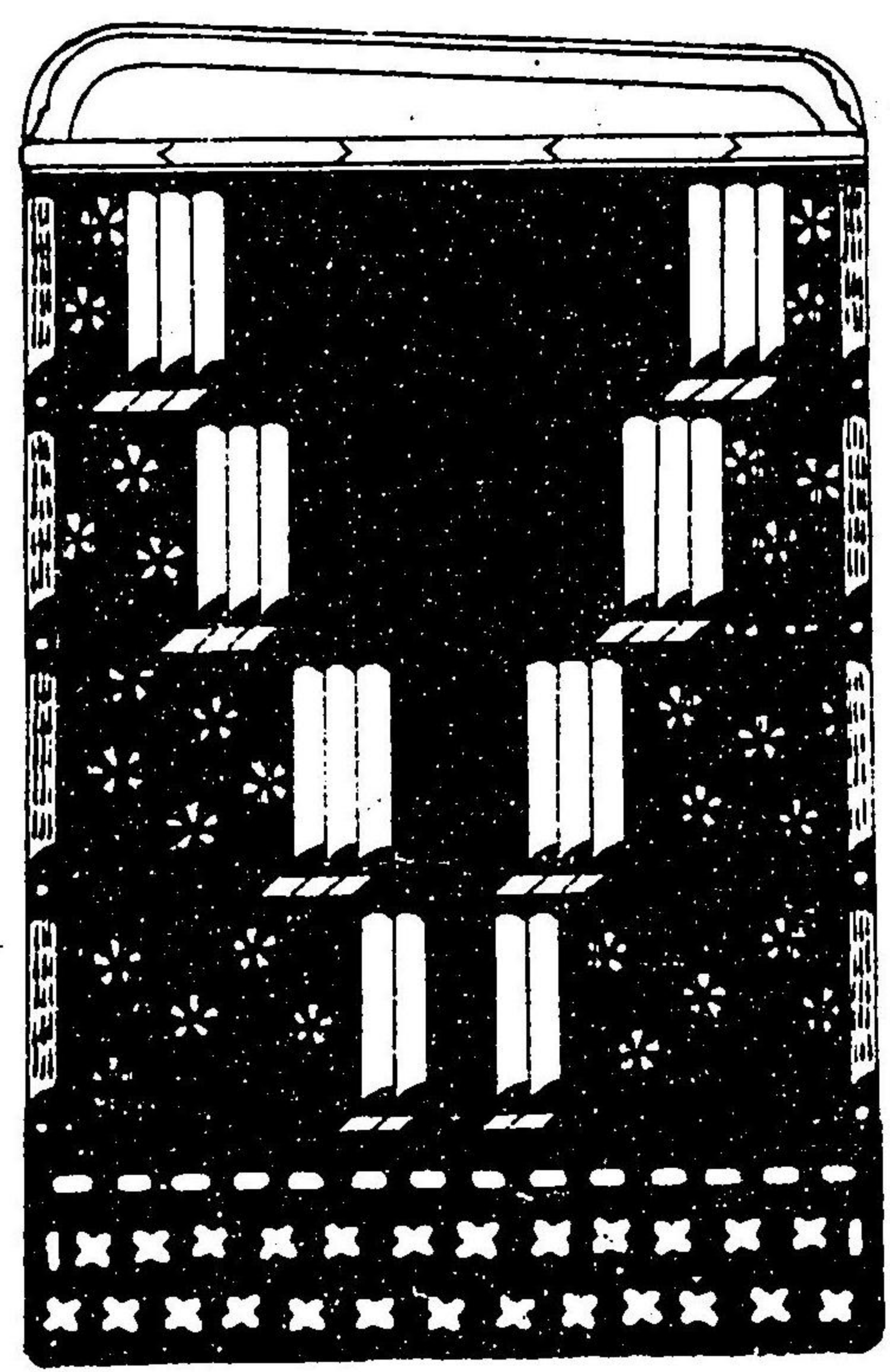
同上同



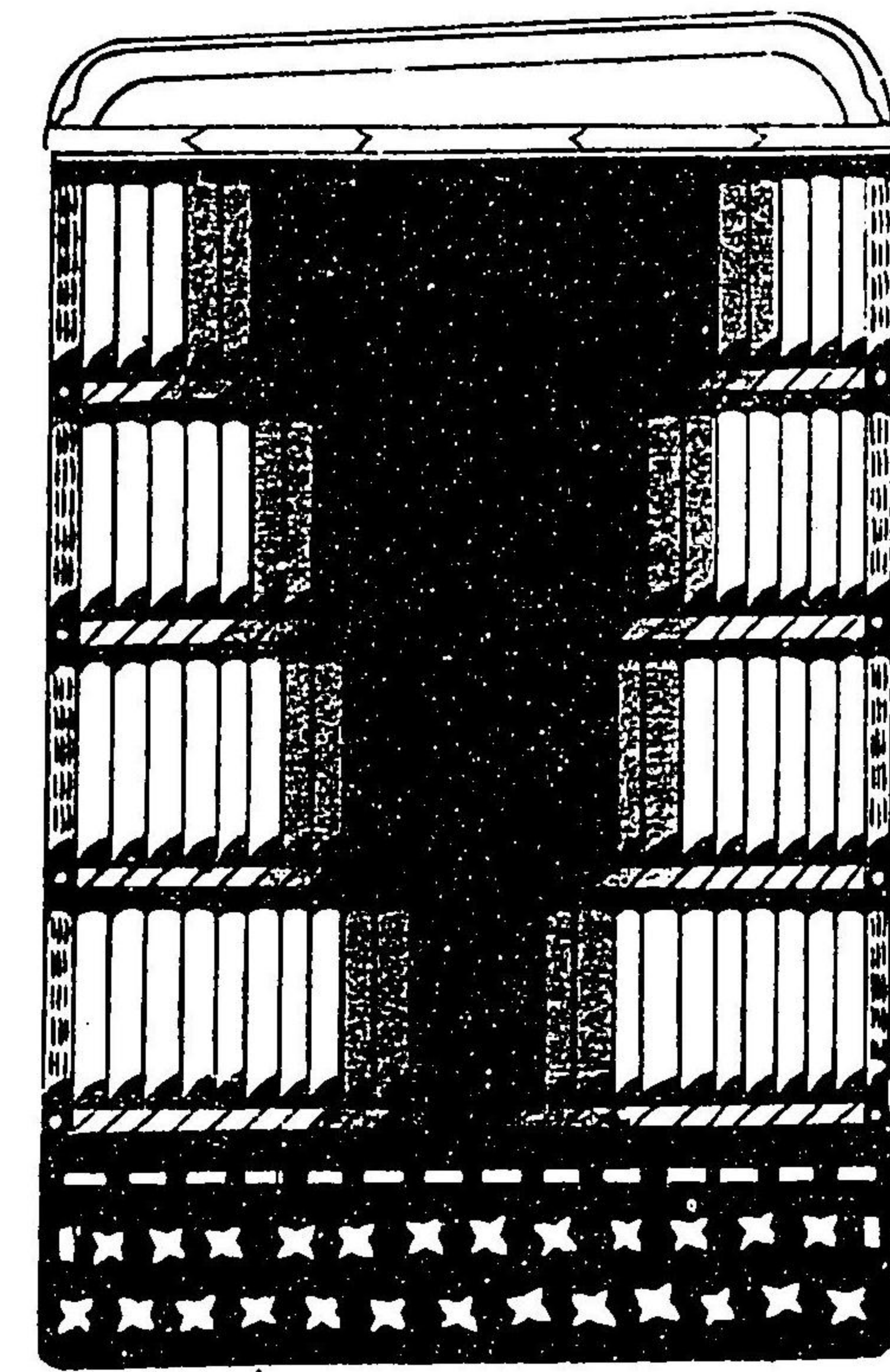
同上保元平治



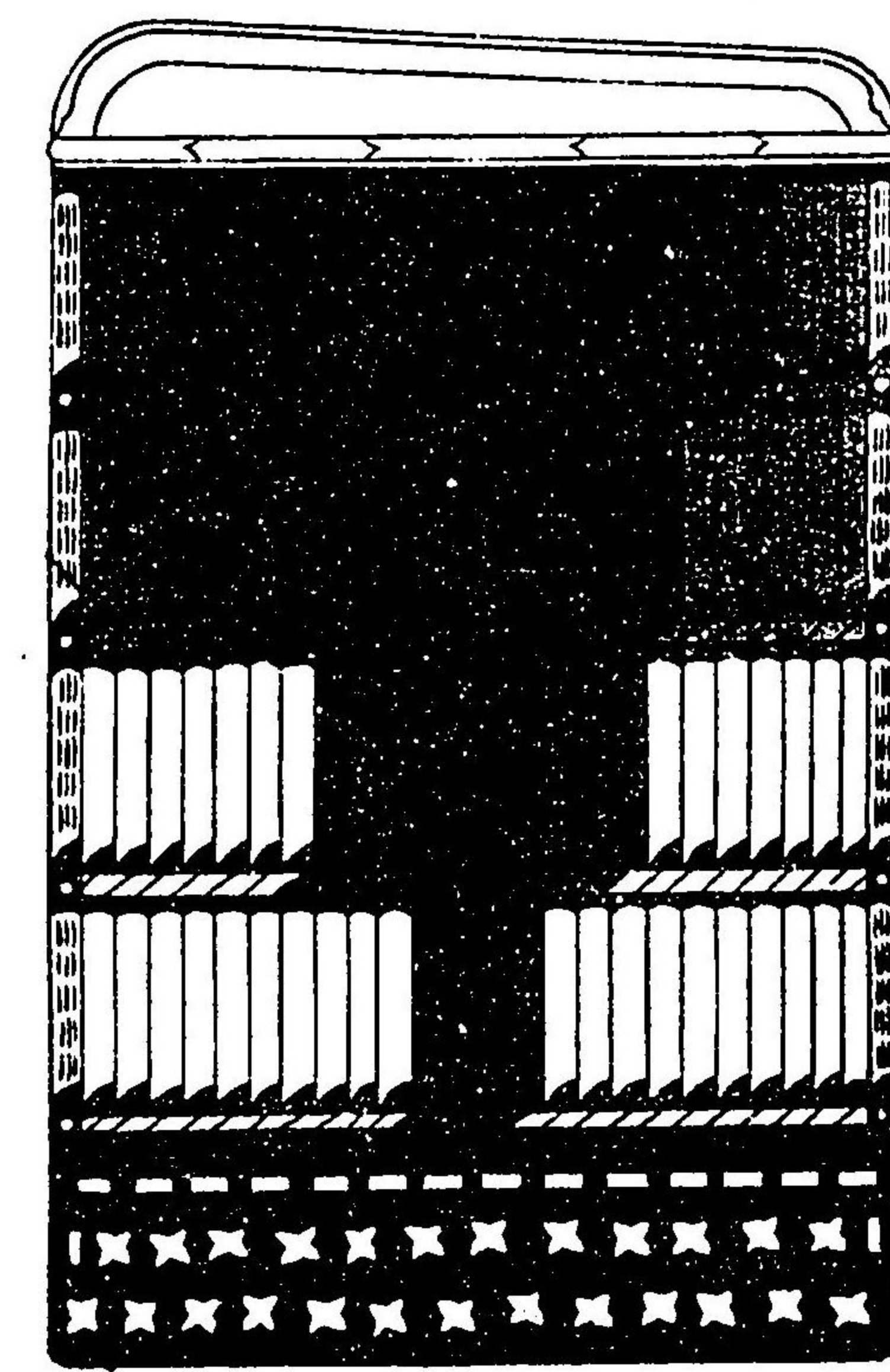
同上春日



同上同



同上後三年



同上後三年



鎧色一覽上卷終

明治三十四年二月十五日印刷  
同 年二月十五日發行

校正者 川 寄 千 虎

編輯者 今 泉 定 介

發行者 林 縫 之 助

發行所 吉 川 半

彫刻者 木 邨 德 太 郎

印刷者 松 井 三 次 郎

印刷者 藤 浪 銀 藏

東京市京橋區鈴木町十二番地  
東京市京橋區南傳馬町壹十二番地

東京市本所區横網町一丁目十一番地

南葛飾郡向島寺島村千九百八十五番地

192  
55



